

第 2 回

琴浦町人権・同和教育に関する意識調査
報 告 書

平成26年（2014年）8月調査

琴 浦 町

目 次

1. 調査の概要.....	1
2. 調査票.....	4
3. 調査結果と分析・考察.....	17
質問1 あなたは「人権」ということについて、どのようなイメージ（印象、感想）を持っていますか。 【1-1】重要である。.....	18
【1-2】わかりやすい。.....	21
【1-3】自分に関係が深い。.....	25
○質問1-1と質問6-1（研修等への参加回数）との関連.....	29
○質問1-2と質問6-1（研修等への参加回数）との関連.....	32
○質問1-3と質問6-1（研修等への参加回数）との関連.....	35
質問2 あなたの人権は守られていると思いますか。.....	39
○質問2と質問6-1（研修等への参加回数）との関連.....	43
質問3 現在、日常生活の中で、あなたが悩みや不安、疑問を感じているのは、どのようなことについてですか。.....	46
質問4 あなたは、現在どのような人権問題があると思いますか。.....	53
質問5-1 結婚のときに身元調査することを、あなたはどう思いますか。.....	63
○質問5-1と質問6-1（研修等への参加回数）との関連.....	66
質問5-2 「当然である」「やむをえない」と答えた方にその理由をおたずねします。あなたの考えに近いものを選んでください。.....	67
質問6-1 あなたは過去5年間に、人権・同和教育の講演会や研修会に参加されたことがありますか。.....	69
質問6-2 質問6-1で1～3を選ばれた方におたずねします。あなたが参加された講演会・研修会を主催していたのはどこですか。.....	72
質問6-3 質問6-1で1～3を選ばれた方におたずねします。あなたが講演会・研修会などに参加されたのは、どういうことからですか。.....	77
質問6-4 質問6-1で1～3を選ばれた方におたずねします。参加されてどのような感想を持たれましたか。.....	83
○質問6-4と質問6-3（研修等への参加動機）との関連.....	90
質問6-5 質問6-1で4を選ばれた方におたずねします。参加されなかったのはなぜですか。.....	92

質問7	あなたは、人権や人権問題への理解を深めるために、どのような学習方法や啓発活動が有効だと思いますか。.....	94
質問8	あなたは、被差別部落や部落問題のことを知っていますか。.....	100
質問9	あなたが、被差別部落や部落問題について初めて知ったのは、いつ頃ですか。.....	102
質問10	あなたが、被差別部落や部落問題について初めて知ったのは、どのようにしてですか。.....	105
質問11-1	あなたは、過去5年間で部落問題に関する差別的な発言や行動を、直接見聞きしたことがありますか。.....	108
	○質問11と質問6-1（研修等への参加回数）との関連.....	111
質問11-2	質問11-1で1を選ばれた方におたずねします。その見聞きした差別的な発言や行動は、次のうちどれですか。.....	112
質問11-3	質問11-2で1を選ばれた方におたずねします。その時、あなたはどうしましたか。.....	115
質問12	今後、あなたの周りや親しい人の間で、部落問題に関する差別的な発言や行動を直接見聞きした場合、あなたはどのように思いますか。.....	117
	○質問12と質問6-1（研修等への参加回数）との関連.....	123
	○質問12と質問6-3（研修等への参加動機）との関連.....	124
	○質問12と質問6-4（研修等へ参加した感想）との関連.....	125
質問13	あなたは、部落問題をどんなときに気にしますか。.....	127
質問14	部落差別の現状についてあなたはどのように考えていますか。.....	133
	○質問14と質問6-1（研修等への参加回数）との関連.....	143
	○質問14と質問6-4（研修等へ参加した感想）との関連.....	144
	○質問14と質問13（部落問題をどんなときに気にするか）との関連.....	145
質問15	あなたは、部落問題を解決するために、どのようなことが必要だと思いますか。...	147
	○質問15と質問6-1（研修等への参加回数）との関連.....	157
	○質問15と質問6-4（研修等へ参加した感想）との関連.....	158
質問16	あなたは、人権が尊重される社会を実現するためには、行政の施策としてどのようなことが必要だと思いますか。.....	160
	○質問16と質問6-1（研修等への参加回数）との関連.....	170
	○質問16と質問6-4（研修等へ参加した感想）との関連.....	171
質問17	人権・同和教育に関して、ご意見ご感想があればお聞かせください。.....	174
4. 現状の評価と今後の課題		181
	琴浦町における人権意識の現状と課題 一盛 真（鳥取大学）.....	188

1. 調査の概要

1. 調査の概要

(1) 調査目的

これまでの人権・同和教育の取り組みの成果と課題を明らかにし、今後のより効果的な人権・同和教育の推進を図る。

(2) 実施主体 琴浦町

(3) 調査期間 平成26年(2014年)8月1日～20日

(4) 調査対象

- ① 住民基本台帳から無作為抽出した20歳以上の町民1,800人。
- ② 「20歳代」、「30歳代」、「40歳代」、「50歳代」、「60歳代」、「70歳以上」の各年代で男女各150人を抽出。

(5) 調査方法

- ① 調査対象者に調査票を郵送し、調査票の回収は返信用封筒にて郵送。
- ② 調査票の提出は無記名とした。

(6) 調査票回収率

- ① 43.1%〔調査票回収数776人／調査票配布数(対象者数)1,800人〕

(7) 調査結果の集計

①集計方法について

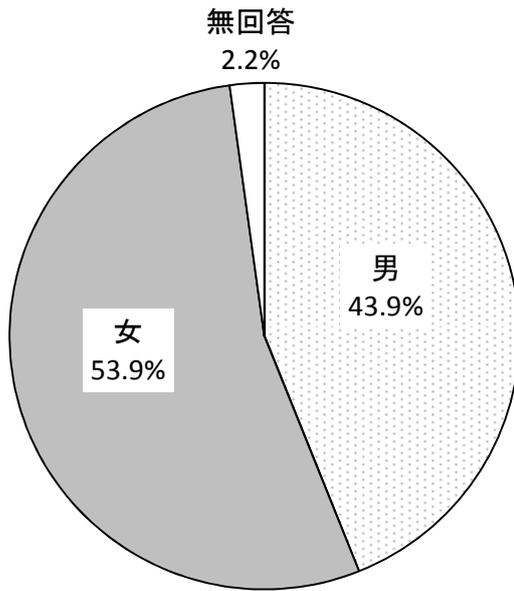
- ア. 集計は、「全体」の他、「年代別」、「男女別」、「年代男女別」、「職業別」の属性別の集計を行っている。本報告書には、集計結果は特徴的なものなど一部の質問について掲載している。
- イ. 質問ごとの集計及びクロス集計を行った。両集計結果とも、回答数と百分率(%)を記載している。なお、百分率の数値は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示した。そのため、合計が1(100%)にならない項目がある。
- ウ. 百分率は、各質問における回答対象者総数に対する各選択肢の回答数の割合を示している。複数回答(1人の回答対象者に2つ以上の回答を求める)の質問においても同じであり、複数回答の場合の百分率の合計は100%を超える。
年代別等の属性別の集計については、属性ごとの回答対象者総数を基準に割合を示している。

②無効・無回答について

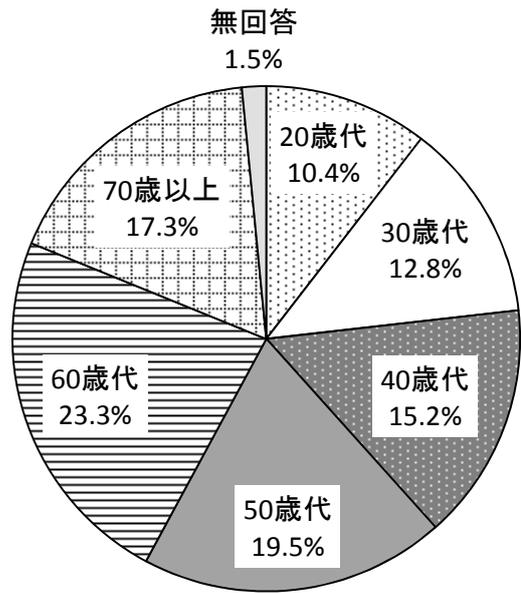
- ア. 指定数を超えて回答をしている場合は、無効とした。
(例) 1つ選択する項目で、複数丸を記載されている場合は、無回答としている。
- イ. 関連する質問(基となる質問とその関連質問)に関して、関連質問の回答対象者でない人が回答している場合は、関連質問の回答は無効とした。
(例) 質問5-1(基となる質問)と、質問5-2(関連する質問)の場合。
○質問5-1で「1」または「2」と回答→質問5-2回答(回答対象者)
○質問5-1で「3」または「4」と回答→質問5-2に回答する必要なし
⇒ 質問5-2にも回答している場合は無効。

【回答者の属性】

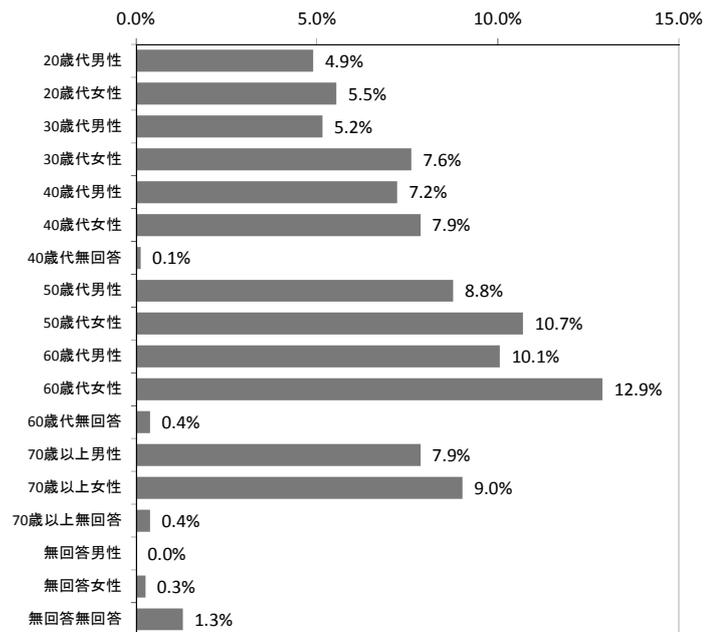
○男女別



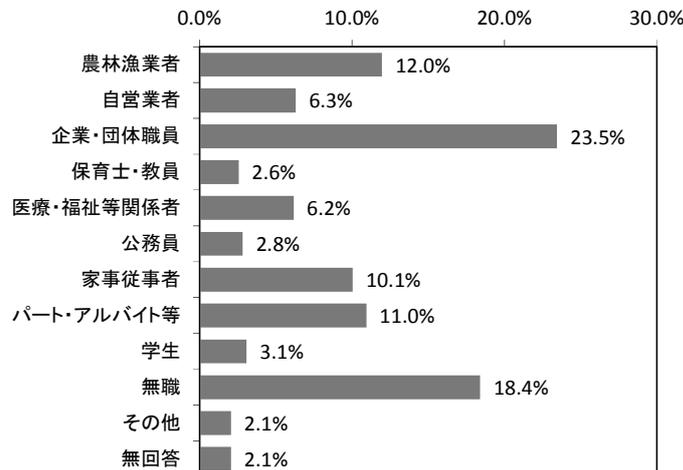
○年代別



○年代男女別



○職業別



2. 調 査 票

琴浦町人権・同和教育に関する意識調査票

平成26年8月1日
琴 浦 町

ご記入にあたってのお願い

- この調査は無記名ですので、お名前を記入していただく必要はありません。
- 封筒のあて名の方、ご本人がお答えください。
- 質問の回答は、当てはまる選択肢の番号を○で囲んでください。
また、選択肢の「その他」に○をされた方は、()の中に具体的な内容を記入してください。
- ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、
8月20日(水)までに、郵便ポストへ投函してください。(切手は不要です)
- この調査について、ご不明な点などがありましたら、下記までご連絡ください。

【問い合わせ先】

〒689-2303 琴浦町大字徳万 266-5
琴浦町教育委員会事務局 人権・同和教育課
電 話 52-1162
ファックス 52-1122

《このアンケートの**文 章**を**読む**ことが**むずかしい方へ**》

かぞく した かた だいどく こた
ご家族や親しい方などに代読してもらって、お答えいただいてもかまいません。

質問4 あなたは、現在どのような人権問題があると思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 部落問題に関する事
- 2 女性に関する事
- 3 障がいのある人に関する事
- 4 子どもに関する事
- 5 高齢者に関する事
- 6 在日韓国・朝鮮人に関する事
- 7 日本で暮らす外国人(在日韓国・朝鮮人以外)に関する事
- 8 病気にかかっている人やその家族に関する事
- 9 刑を終えて出所した人に関する事
- 10 犯罪被害者やその家族、加害者の家族に関する事
- 11 性同一性障がい者や同性愛者等の性的マイノリティ(少数者)に関する事
- 12 経済的に生活が困難な人に関する事
- 13 アイヌの人々に関する事
- 14 東日本大震災による被災者に関する事
- 15 1～14以外の人権問題に関する事

(具体的に：)

- 16 差別や偏見が存在しているとは思わない
- 17 わからない

質問5-1 結婚のときに身元調査することを、あなたはどう思いますか。(〇は1つ)

- | | |
|----------|----------|
| 1 当然である | 2 やむをえない |
| 3 すべきでない | 4 わからない |

質問5-2 「当然である」「やむをえない」と答えた方にその理由をおたずねします。あなたの考えに近いものを選んでください。(〇は1つ)

- 1 常識であるから
- 2 本人に重要な関連があるから
- 3 おかしいと思うが、周りがしているから
- 4 その他()

2 教育・啓発活動について

質問6-1 あなたは過去5年間に、人権・同和教育の講演会や研修会に参加されたことがありますか。(○は1つ)

- | | | | |
|---|-----------|---|-----------|
| 1 | 10回以上参加した | 2 | 5～9回参加した |
| 3 | 1～4回参加した | 4 | 参加したことがない |

- 質問6-1で1～3を選ばれた方は、質問6-2、6-3、6-4にお答えいただき、質問7に進んでください。
- 質問6-1で4を選ばれた方は、質問6-5にお答えいただき、質問7に進んでください。

質問6-2 質問6-1で1～3を選ばれた方におたずねします。あなたが参加された講演会・研修会を主催していたのはどこですか。(○はいくつでも)

- 1 町、町教育委員会、町及び地区人権・同和教育推進研究協議会が主催したもの
〔差別をなくする町民のつどい、部落懇談会（小地域懇談会）、人権・同和教育講座など〕
- 2 県、県人権教育推進協議会などが主催したもの
〔人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会など〕
- 3 町内会、自治会、女性部などの地域の団体が主催したもの
- 4 企業や職場が主催したもの
- 5 社会教育関係団体、運動団体が主催したもの
〔男女共同参画推進会議、部落解放同盟、高齢者クラブ連合会、青年団などが主催した研修会〕
- 6 学校や保育園、こども園、PTAが主催したもの
- 7 その他 ()

質問6-3 質問6-1で1～3を選ばれた方におたずねします。あなたが講演会・研修会などに参加されたのは、ということからですか。(〇はいくつでも)

- 1 人権・同和教育を通して、正しい理解を持ちたいと思ったから
- 2 自分の問題として学習したいから
- 3 講師やテーマに興味があったから
- 4 知人などに誘われたから
- 5 P T Aの研修だったから
- 6 職場の研修だったから
- 7 町内会などの役員になっていたから
- 8 参加割り当て(動員)だったから
- 9 他の行事や研修の中に組み込まれていたから
- 10 その他 ()

質問6-4 質問6-1で1～3を選ばれた方におたずねします。参加されてどのような感想を持たれましたか。(〇はいくつでも)

- 1 差別や人権侵害をなくすために、自分も何かしなければならなかった
- 2 差別や人権侵害の実態がよくわかった
- 3 もっといろいろな人権問題について学習を深めたいと思った
- 4 人権問題は日常の生活や仕事と深く関わっていることに気づいた
- 5 話がきれいごとすぎると思った
- 6 話が難しかったり、極端であったりして、理解しにくかった
- 7 毎回同じような話でつまらないと思った
- 8 そうはいっても差別はやはりなくならないと思った
- 9 その他 ()

質問6-5 質問6-1で4を選ばれた方におたずねします。参加されなかったのはなぜですか。
(○は1つ)

- 1 仕事のため都合がつかなかったから
- 2 家事や育児で忙しかったから
- 3 健康上の理由があったから
- 4 講演会や研修会があることを知らなかったから
- 5 講演会や研修会があることは知っていたが、自分には関係ないと思ったから
- 6 その他 ()

質問7 あなたは、人権や人権問題への理解を深めるために、どのような学習方法や啓発活動が有効だと思いますか。(○はいくつでも)

- 1 体験的参加型学習(ワークショップ)
- 2 現地研修(フィールドワーク)
- 3 当事者との交流会や懇談会
- 4 居住地域での部落懇談会(小地域懇談会)
- 5 少人数での連続講座(指導者養成など)
- 6 講演会
- 7 映画やビデオ(DVD)の上映
- 8 パネルなどの展示会
- 9 広報紙・パンフレット・ポスターの作成
- 10 テレビなどのマスメディアの利用
- 11 ホームページ・メールマガジンなどのインターネット上の広報
- 12 特にない
- 13 その他 ()

3 部落問題について

質問8 あなたは、被差別部落や部落問題のことを知っていますか。(○は1つ)

- 1 知っている 2 知らない

- 質問8で1を選ばれた方は、質問9に進んでください。
- 質問8で2を選ばれた方は、質問16へ進んでください。

質問9 あなたが、被差別部落や部落問題について初めて知ったのは、いつ頃ですか。
(○は1つ)

- 1 小学校に入る前
2 小学生の頃
3 中学生の頃
4 高校生(15歳～18歳)の頃
5 19歳以降
6 おぼえていない

質問10 あなたが、被差別部落や部落問題について初めて知ったのは、どのようにしてですか。
(○は1つ)

- 1 父母や家族から聞いた
2 近所の人から聞いた
3 学校の友だちから聞いた
4 職場の人から聞いた
5 学校の授業で教わった
6 講演会や研修会などで聞いた
7 県や市町村の広報紙で読んだ
8 テレビ・新聞・本などで知った
9 おぼえていない
10 その他 ()

質問11-1 あなたは、過去5年間で部落問題に関する差別的な発言や行動を、直接見聞きしたことがありますか。(○は1つ)

- 1 ある 2 ない

- 質問 1 1 - 1 で 1 を選ばれた方は、質問 1 1 - 2、1 1 - 3 にお答えいただき、質問 1 2 に進んでください。
- 質問 1 1 - 1 で 2 を選ばれた方は、質問 1 2 に進んでください。

質問 1 1 - 2 質問 1 1 - 1 で 1 を選ばれた方におたずねします。その見聞きした差別的な発言や行動は、次のうちどれですか。(〇はいくつでも)

- 1 地域や職場、学校、家庭内などでの差別的な言動
- 2 建物などへの差別落書き
- 3 インターネット上での差別的な表現など
- 4 雑誌等での差別的な記事
- 5 その他 ()

質問 1 1 - 3 質問 1 1 - 2 で 1 を選ばれた方におたずねします。
その時、あなたはどうしましたか。(〇は 1 つ)

- 1 差別に気づき、間違っていることを説明した
- 2 差別に気づき、間違いを説明したかったが、できなかった
- 3 差別に気づいたが、どうしたらよいかわからず、何もできなかった
- 4 差別に気づいたが、当人の問題であると思い、そのままにした
- 5 その時は差別と認識せず、見過ごした
- 6 その他 ()

質問 1 2 今後、あなたの周りや親しい人の間で、部落問題に関する差別的な発言や行動を直接見聞きした場合、あなたはどのように思いますか。(〇は 1 つ)

- 1 誰に対しても、その人の考え(間違い)を正すよう努力する
- 2 一応間違いを指摘するが、あまり深入りしないようにする
- 3 そのときは何もしないが、後で身近な人に相談する
- 4 そのときは何もしないが、後で関係機関に相談する
- 5 相手によって、どうするか考える
- 6 気まずくなるといやなので、何もしない
- 7 その他 ()

質問 1 3 あなたは、部落問題をどんなときに気にしますか。(○はいくつでも)

- 1 結婚を考えるとき
- 2 就労・雇用するとき
- 3 土地や家などの財産を購入するとき
- 4 職場や学校でつきあいをするとき
- 5 隣近所でつきあいをするとき
- 6 町内会、自治会、PTA、女性部などの団体に活動するとき
- 7 友だちづきあいをするとき
- 8 気にしない
- 9 その他 ()

質問 1 4 部落差別の現状についてあなたはどのように考えていますか。(○は1つ)

A : 被差別部落の生活環境 B : 就労面や教育面 C : 被差別部落の人々に対する差別意識

- 1 A・Bの格差もCも解消されている
- 2 A・Bの格差は解消されたが、Cは解消されていない
- 3 Aはおおむね改善されたが、Bの格差やCは解消されていない
- 4 多くの分野で格差や差別意識が現存している
- 5 もともと格差や差別は存在しない
- 6 わからない
- 7 その他 ()

質問 1 5 あなたは、部落問題を解決するために、どのようなことが必要だと思えますか。(○はいくつでも)

- 1 差別意識をなくし人権を大切にする教育・啓発活動を推進する
- 2 相談体制を充実する
- 3 被差別部落の人々に対する支援を充実する
- 4 差別禁止など差別をなくすために必要な法律等を整備する
- 5 被差別部落の人々自身が、差別されないようにする
- 6 そっとしておけば、差別は自然になくなる
- 7 部落問題は解決しており、特に必要ない
- 8 わからない
- 9 その他 ()

4 その他

質問 16 あなたは、人権が尊重される社会を実現するためには、行政の施策としてどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 町民の人権意識を高めるために啓発活動などを積極的に推進する
- 2 学校において人権・同和教育を充実する
- 3 人権が侵害された人や社会的に弱い立場にある人のための相談体制を充実する
- 4 社会にみられる不合理な格差を解消するための施策を充実する
- 5 企業・NPOなどの団体による人権尊重に向けた取り組みを支援する
- 6 公務員など公的機関に勤める職員に対して、人権意識を高める研修を充実する
- 7 人権侵害を行った人などに対し法的な規制をする
- 8 人権が侵害された人の救済・支援を充実するための法整備を促進する
- 9 人権は十分に尊重されており、新たな取り組みは必要ない
- 10 わからない
- 11 その他 ()

質問 17 人権・同和教育に関して、ご意見ご感想があればお聞かせください。

平成26年8月1日

各 位

琴浦町長 山 下 一 郎
(公 印 省 略)

人権・同和教育に関する意識調査について (お願い)

日ごろから、町行政の運営にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、琴浦町では人権が尊重される住みよい町を実現するために、部落差別をはじめあらゆる差別をなくする施策の推進に努めています。

このたび、町民の皆様のお考えをお聞きし、より効果的に人権・同和教育を進めていく上での資料とするため、「人権・同和教育に関する意識調査」を行うこととしました。

そのため、20歳以上の町民の中から1,800人の方を無作為に選び、あなたへこの調査のご協力をお願いすることになりました。

この調査は人権全般についてと、本町の重要な人権課題のひとつであります部落問題についてお聞きします。多くのことをお聞きしますが、回答された方の個人情報については十分に配慮し、外部に漏らすことは絶対にありません。あなたの率直なご意見や思いをお聞かせください。

お忙しいところお手数をかけ恐縮ですが、調査へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

●ご記入いただいた意識調査票は、同封の返信用封筒に入れて、
8月20日(水)までに郵便ポストへ投函してください。
(切手を貼る必要はありません)

3. 調査結果と分析・考察

1 人権全般について

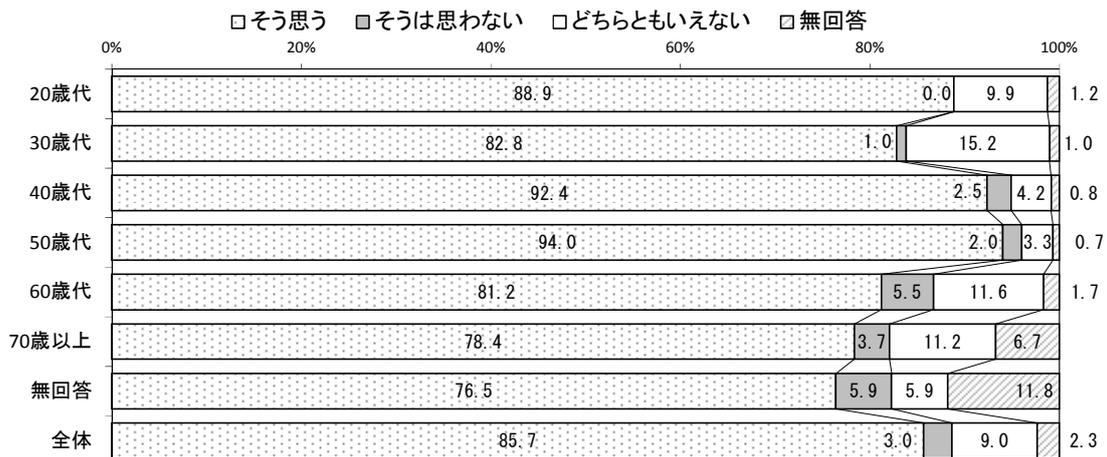
質問1 あなたは「人権」ということについて、どのようなイメージ（印象、感想）を持っていますか。
（それぞれ〇は1つ）

【1-1】重要である。

- 1 そう思う
- 2 そうは思わない
- 3 どちらともいえない

質問1-1		1. そう思う		2. そうは思わない		3. どちらとも いえない		無回答		全体
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
20歳代	男性	34	89.5	0	0.0	4	10.5	0	0.0	38
	女性	38	88.4	0	0.0	4	9.3	1	2.3	43
	計	72	88.9	0	0.0	8	9.9	1	1.2	81
30歳代	男性	32	80.0	0	0.0	8	20.0	0	0.0	40
	女性	50	84.7	1	1.7	7	11.9	1	1.7	59
	計	82	82.8	1	1.0	15	15.2	1	1.0	99
40歳代	男性	54	96.4	0	0.0	2	3.6	0	0.0	56
	女性	54	88.5	3	4.9	3	4.9	1	1.6	61
	無回答	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1
	計	109	92.4	3	2.5	5	4.2	1	0.8	118
50歳代	男性	64	94.1	1	1.5	2	2.9	1	1.5	68
	女性	78	94.0	2	2.4	3	3.6	0	0.0	83
	計	142	94.0	3	2.0	5	3.3	1	0.7	151
60歳代	男性	64	82.1	6	7.7	6	7.7	2	2.6	78
	女性	81	81.0	4	4.0	14	14.0	1	1.0	100
	無回答	2	66.7	0	0.0	1	33.3	0	0.0	3
	計	147	81.2	10	5.5	21	11.6	3	1.7	181
70歳 以上	男性	49	80.3	1	1.6	8	13.1	3	4.9	61
	女性	53	75.7	4	5.7	7	10.0	6	8.6	70
	無回答	3	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3
	計	105	78.4	5	3.7	15	11.2	9	6.7	134
無回答	女性	1	50.0	0	0.0	1	50.0	0	0.0	2
	無回答	7	70.0	1	10.0	0	0.0	2	20.0	10
	計	8	66.7	1	8.3	1	8.3	2	16.7	12
全体	男性	297	87.1	8	2.3	30	8.8	6	1.8	341
	女性	355	84.9	14	3.3	39	9.3	10	2.4	418
	無回答	13	76.5	1	5.9	1	5.9	2	11.8	17
	計	665	85.7	23	3.0	70	9.0	18	2.3	776

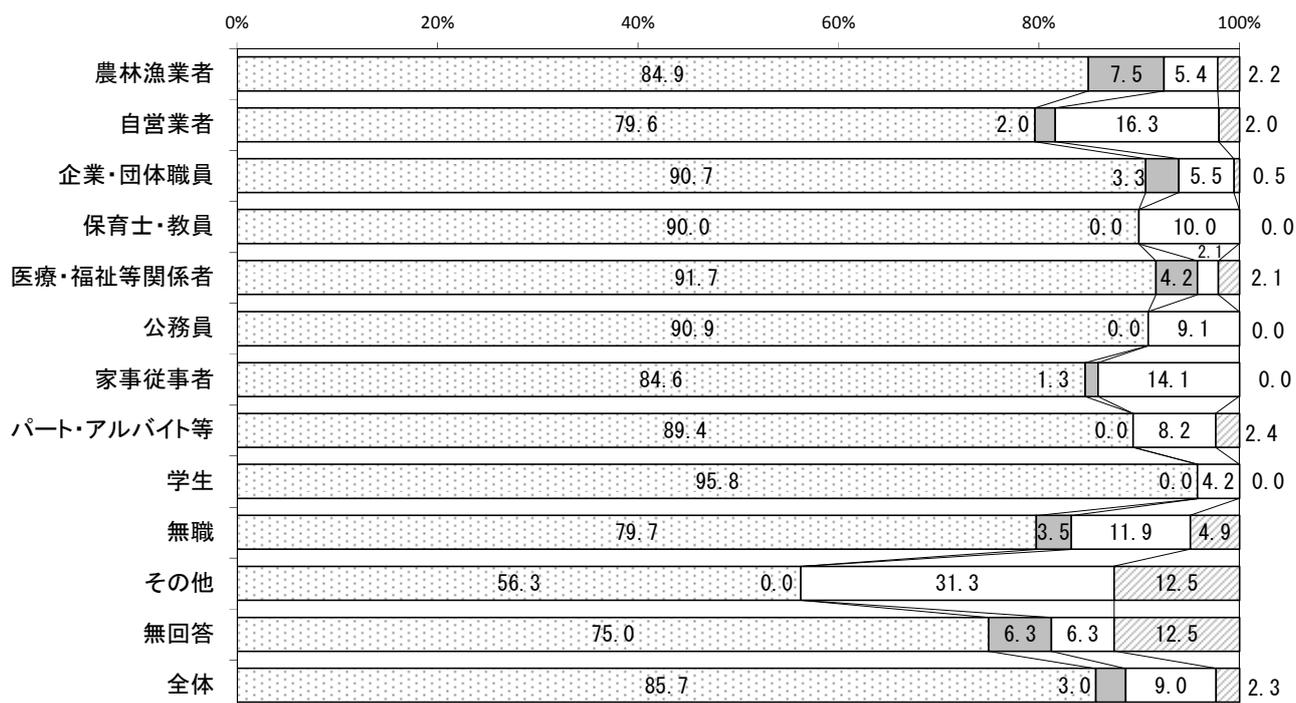
【年代別】



【職業別】

質問1-1 職業別	1. そう思う		2. そうは思わない		3. どちらとも いえない		無回答		全体
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
農林漁業者	79	84.9	7	7.5	5	5.4	2	2.2	93
自営業者	39	79.6	1	2.0	8	16.3	1	2.0	49
企業・団体職員	165	90.7	6	3.3	10	5.5	1	0.5	182
保育士・教員	18	90.0	0	0.0	2	10.0	0	0.0	20
医療・福祉等関係者	44	91.7	2	4.2	1	2.1	1	2.1	48
公務員	20	90.9	0	0.0	2	9.1	0	0.0	22
家事従事者	66	84.6	1	1.3	11	14.1	0	0.0	78
パート・アルバイト等	76	89.4	0	0.0	7	8.2	2	2.4	85
学生	23	95.8	0	0.0	1	4.2	0	0.0	24
無職	114	79.7	5	3.5	17	11.9	7	4.9	143
その他	9	56.3	0	0.0	5	31.3	2	12.5	16
無回答	12	75.0	1	6.3	1	6.3	2	12.5	16
全体	665	85.7	23	3.0	70	9.0	18	2.3	776

□ そう思う □ そうは思わない □ どちらともいえない □ 無回答

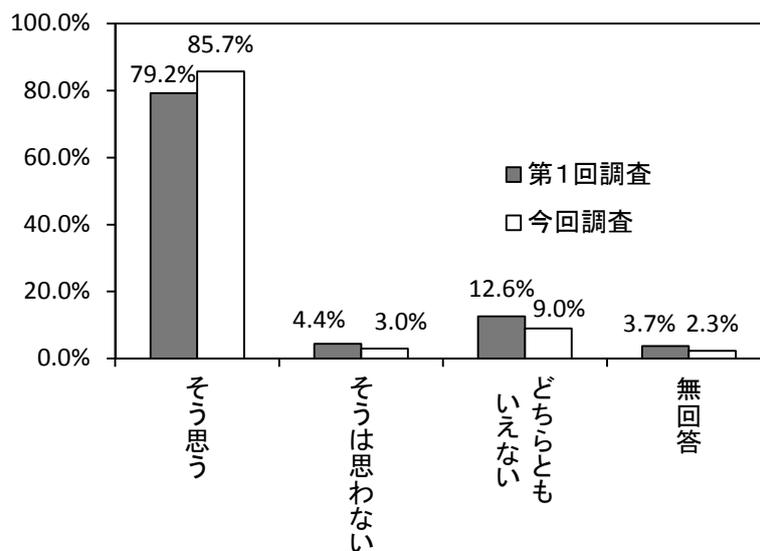


- 全体では、「そう思う」85.7%、「そうは思わない」3.0%、「どちらともいえない」9.0%で、およそ9割が人権を重要だと思っている。
- 年代別では、どの年代も「そう思う」が高く、特に40歳代と50歳代は90%を超えている。20歳代は「そうは思わない」が0.0%。30歳代は「どちらともいえない」が15.2%で比較的高い。
- 年代男女別では、どの年代の男女も「そう思う」が75%以上である。特に、40歳代男性と50歳代男

女は95%前後で非常に高い。また、20歳代男女と30歳代男性、40歳代男性は「そうは思わない」が0.0%だった。

- 職業等では、「そう思う」は学生の95.8%が最も高く、企業・団体職員、保育士・教員、医療・福祉等関係者、公務員も90%を超えている。「そうは思わない」は農林漁業者、「どちらともいえない」は自営業者、家事従事者が少し高い。

【前回調査との比較（全体）】



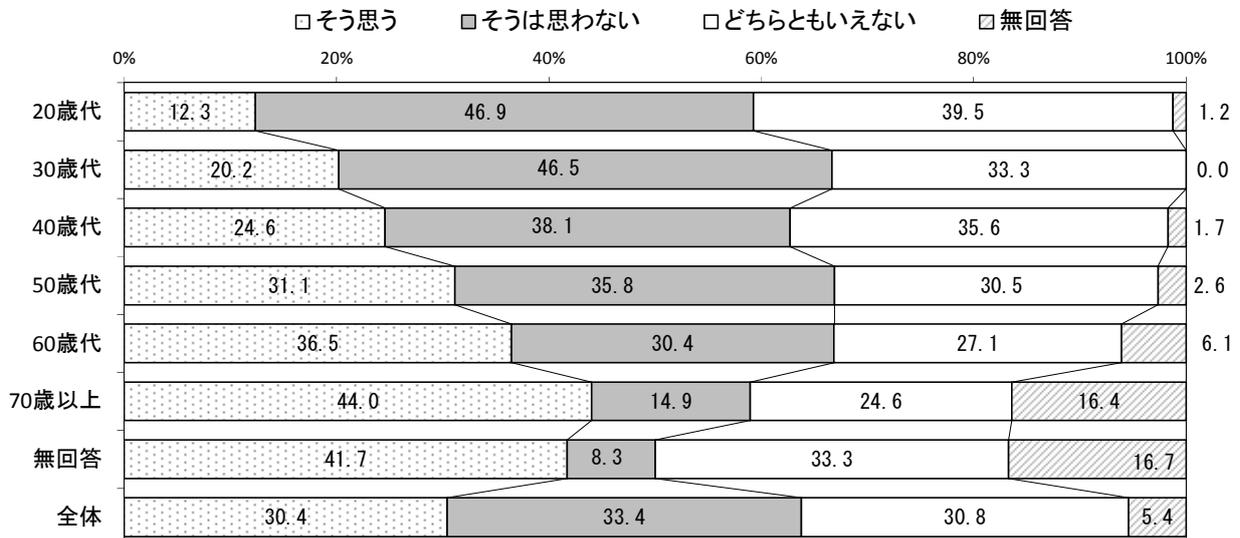
全体では、「そう思う」が6.5ポイント増加し、「そうは思わない」は1.4ポイント減少、「どちらともいえない」は3.6ポイント減少している。

【1-2】わかりやすい。

- 1 そう思う
- 2 そうは思わない
- 3 どちらともいえない

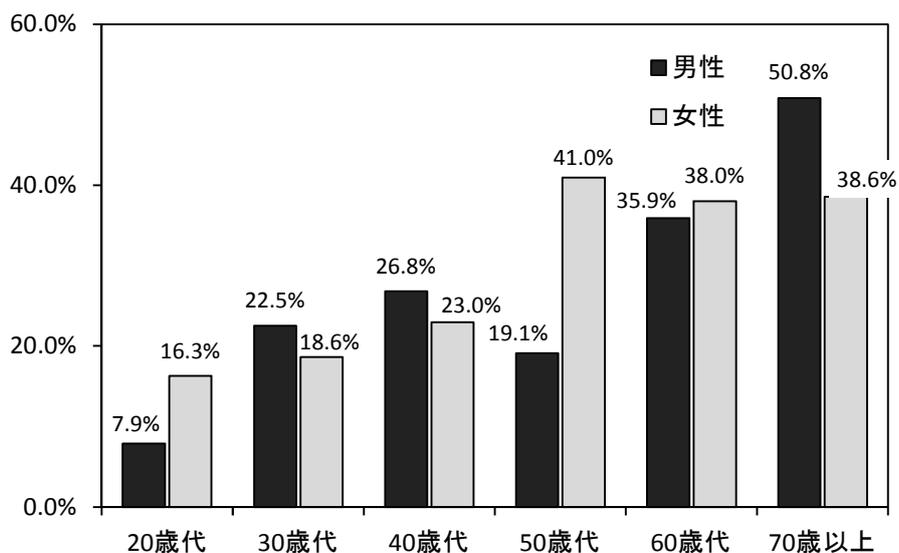
質問 1 - 2		1. そう思う		2. そうは思わない		3. どちらとも いえない		無回答		全体
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
20歳代	男性	3	7.9	22	57.9	13	34.2	0	0.0	38
	女性	7	16.3	16	37.2	19	44.2	1	2.3	43
	計	10	12.3	38	46.9	32	39.5	1	1.2	81
30歳代	男性	9	22.5	15	37.5	16	40.0	0	0.0	40
	女性	11	18.6	31	52.5	17	28.8	0	0.0	59
	計	20	20.2	46	46.5	33	33.3	0	0.0	99
40歳代	男性	15	26.8	22	39.3	18	32.1	1	1.8	56
	女性	14	23.0	22	36.1	24	39.3	1	1.6	61
	無回答	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	1
	計	29	24.6	45	38.1	42	35.6	2	1.7	118
50歳代	男性	13	19.1	28	41.2	26	38.2	1	1.5	68
	女性	34	41.0	26	31.3	20	24.1	3	3.6	83
	計	47	31.1	54	35.8	46	30.5	4	2.6	151
60歳代	男性	28	35.9	32	41.0	13	16.7	5	6.4	78
	女性	38	38.0	22	22.0	34	34.0	6	6.0	100
	無回答	0	0.0	1	33.3	2	66.7	0	0.0	3
	計	66	36.5	55	30.4	49	27.1	11	6.1	181
70歳 以上	男性	31	50.8	8	13.1	14	23.0	8	13.1	61
	女性	27	38.6	11	15.7	18	25.7	14	20.0	70
	無回答	1	33.3	1	33.3	1	33.3	0	0.0	3
	計	59	44.0	20	14.9	33	24.6	22	16.4	134
無回答	女性	0	0.0	0	0.0	2	100.0	0	0.0	2
	無回答	5	50.0	1	10.0	2	20.0	2	20.0	10
	計	5	41.7	1	8.3	4	33.3	2	16.7	12
全体	男性	99	29.0	127	37.2	100	29.3	15	4.4	341
	女性	131	31.3	128	30.6	134	32.1	25	6.0	418
	無回答	6	35.3	4	23.5	5	29.4	2	11.8	17
	計	236	30.4	259	33.4	239	30.8	42	5.4	776

【年代別】

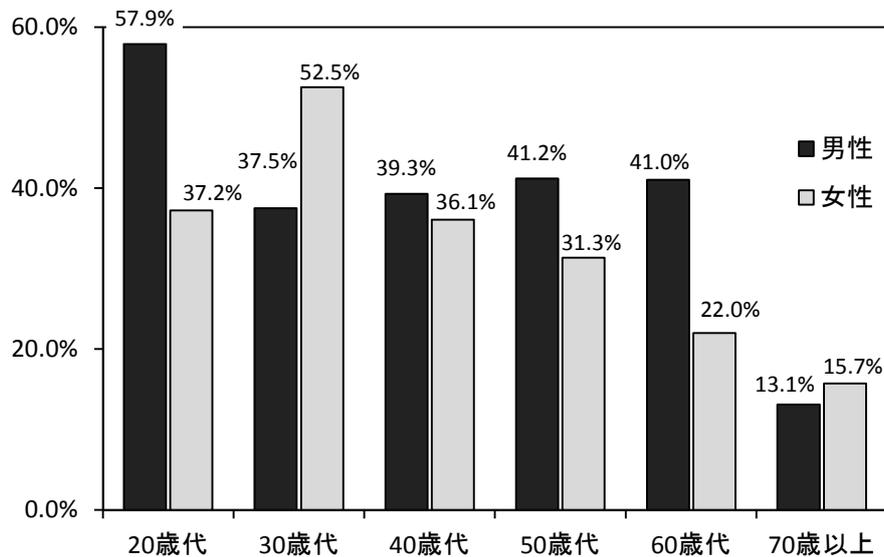


【選択肢・年代男女別】

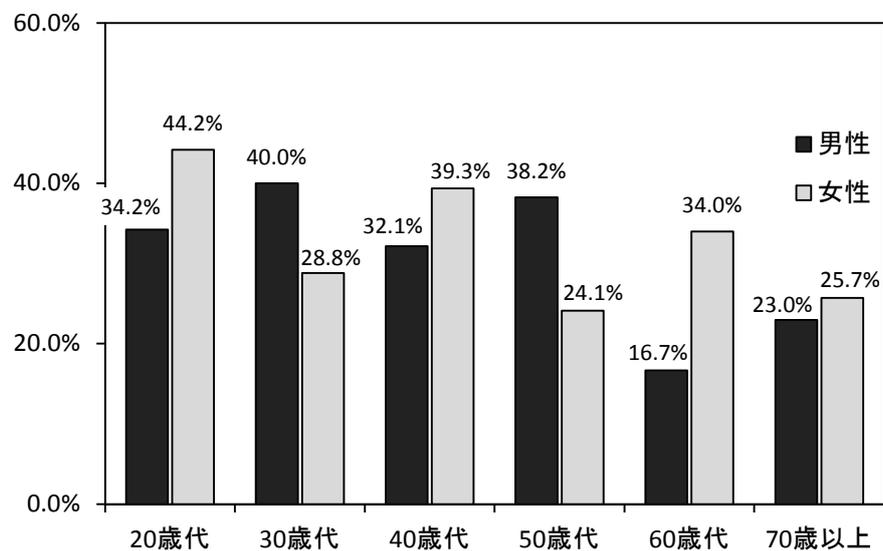
1. そう思う



2. そうは思わない

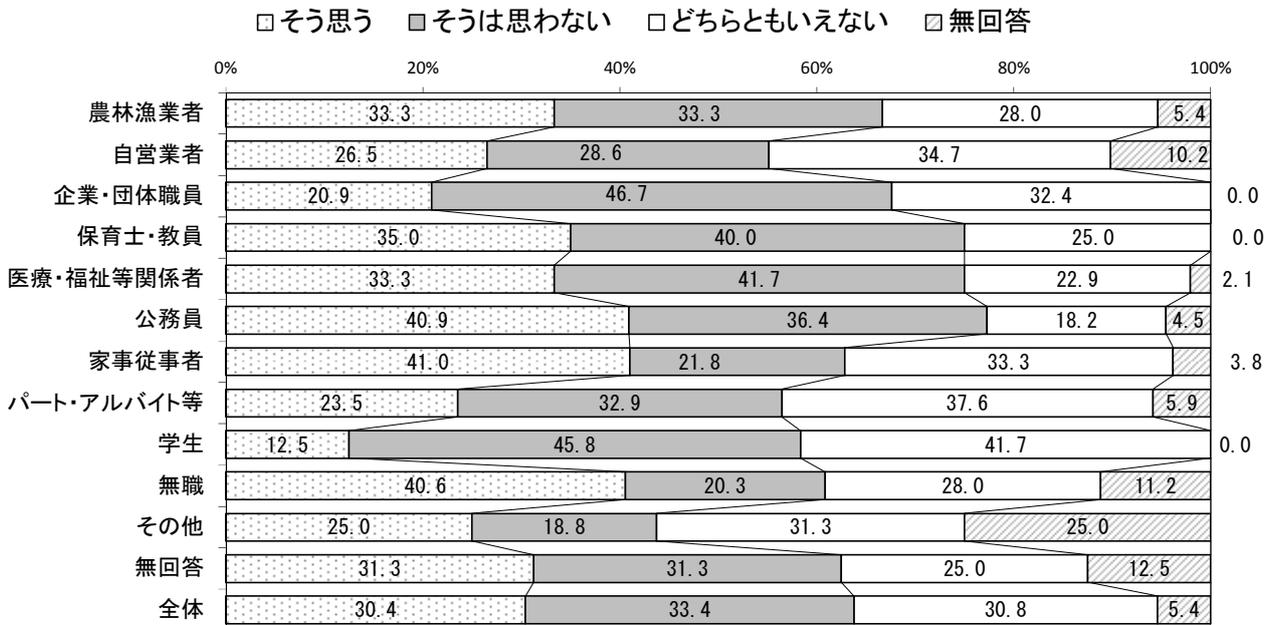


3. どちらともいえない



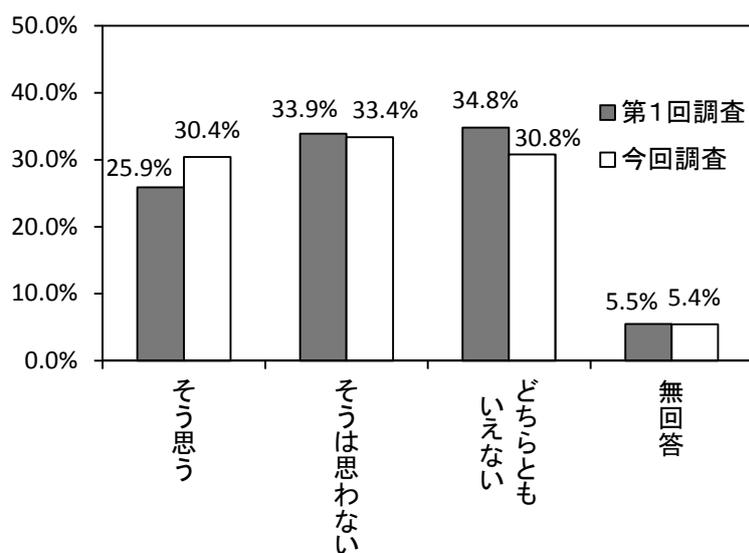
【職業別】

質問1-2 職業別	1. そう思う		2. そうは思わない		3. どちらとも いえない		無回答		全体
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
農林漁業者	31	33.3	31	33.3	26	28.0	5	5.4	93
自営業者	13	26.5	14	28.6	17	34.7	5	10.2	49
企業・団体職員	38	20.9	85	46.7	59	32.4	0	0.0	182
保育士・教員	7	35.0	8	40.0	5	25.0	0	0.0	20
医療・福祉等関係者	16	33.3	20	41.7	11	22.9	1	2.1	48
公務員	9	40.9	8	36.4	4	18.2	1	4.5	22
家事従事者	32	41.0	17	21.8	26	33.3	3	3.8	78
パート・アルバイト等	20	23.5	28	32.9	32	37.6	5	5.9	85
学生	3	12.5	11	45.8	10	41.7	0	0.0	24
無職	58	40.6	29	20.3	40	28.0	16	11.2	143
その他	4	25.0	3	18.8	5	31.3	4	25.0	16
無回答	5	31.3	5	31.3	4	25.0	2	12.5	16
全体	236	30.4	259	33.4	239	30.8	42	5.4	776



- 全体では、「そうは思わない」33.4%が最も高いが、「どちらともいえない」30.8%、「そう思う」30.4%で、ほぼ同じ割合になっている。
- 年代別では、年代が上がるにつれ「そう思う」が高くなり、「そうは思わない」が低くなる。
- 男女別では、「そうは思わない」は男性の方が6.4ポイント高い。
- 年代男女別では、20歳代男性の「そう思う」が7.9%と低く、最も高い70歳以上男性50.8%と42.9ポイントの差がある。逆に、「そうは思わない」は20歳代男性57.9%、30歳代女性52.5%が高く、70歳以上男性13.1%、同女性15.7%が低い。
- 職業等では、「そう思う」と「そうは思わない」で大きな差があるのは、家事従事者、無職、企業・団体職員、学生である。家事従事者と無職は「そう思う」が高く、企業・団体職員と学生は「そうは思わない」が高い。

【前回調査との比較（全体）】



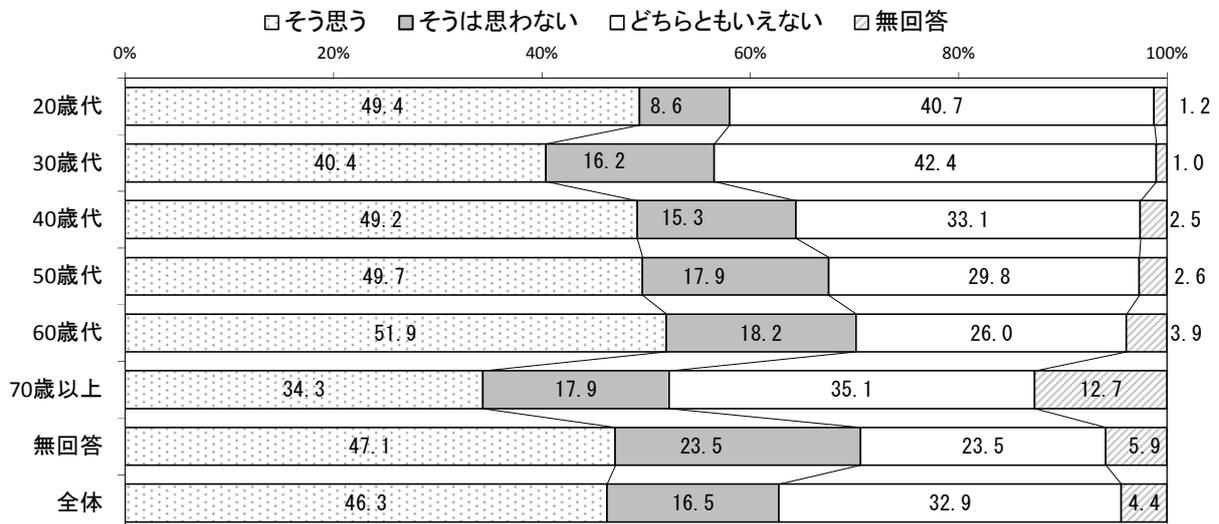
全体では、「そう思う」が4.5ポイント増加、「そうは思わない」が0.5ポイント減少、「どちらともいえない」が4.0ポイント減少しているが、大きな増減はみられない。

【1-3】 自分に関係が深い。

- 1 そう思う
- 2 そうは思わない
- 3 どちらともいえない

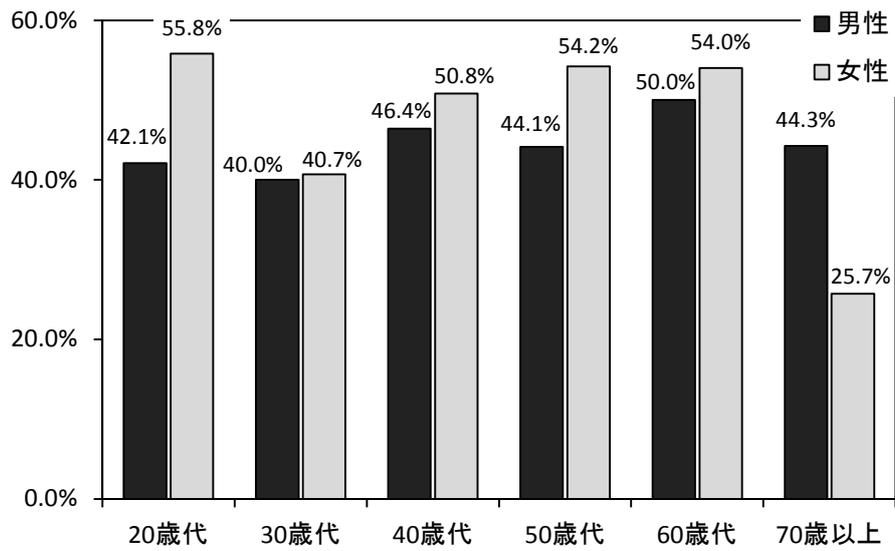
質問 1-3		1. そう思う		2. そうは思わない		3. どちらとも いえない		無回答		全体
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
20歳代	男性	16	42.1	2	5.3	20	52.6	0	0.0	38
	女性	24	55.8	5	11.6	13	30.2	1	2.3	43
	計	40	49.4	7	8.6	33	40.7	1	1.2	81
30歳代	男性	16	40.0	6	15.0	18	45.0	0	0.0	40
	女性	24	40.7	10	16.9	24	40.7	1	1.7	59
	計	40	40.4	16	16.2	42	42.4	1	1.0	99
40歳代	男性	26	46.4	7	12.5	22	39.3	1	1.8	56
	女性	31	50.8	11	18.0	17	27.9	2	3.3	61
	無回答	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1
	計	58	49.2	18	15.3	39	33.1	3	2.5	118
50歳代	男性	30	44.1	16	23.5	22	32.4	0	0.0	68
	女性	45	54.2	11	13.3	23	27.7	4	4.8	83
	計	75	49.7	27	17.9	45	29.8	4	2.6	151
60歳代	男性	39	50.0	17	21.8	20	25.6	2	2.6	78
	女性	54	54.0	15	15.0	26	26.0	5	5.0	100
	無回答	1	33.3	1	33.3	1	33.3	0	0.0	3
	計	94	51.9	33	18.2	47	26.0	7	3.9	181
70歳以上	男性	27	44.3	11	18.0	18	29.5	5	8.2	61
	女性	18	25.7	12	17.1	28	40.0	12	17.1	70
	無回答	1	33.3	1	33.3	1	33.3	0	0.0	3
	計	46	34.3	24	17.9	47	35.1	17	12.7	134
無回答	女性	1	50.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	2
	無回答	5	50.0	2	20.0	2	20.0	1	10.0	10
	計	6	50.0	3	25.0	2	16.7	1	8.3	12
全体	男性	154	45.2	59	17.3	120	35.2	8	2.3	341
	女性	197	47.1	65	15.6	131	31.3	25	6.0	418
	無回答	8	47.1	4	23.5	4	23.5	1	5.9	17
	計	359	46.3	128	16.5	255	32.9	34	4.4	776

【年代別】

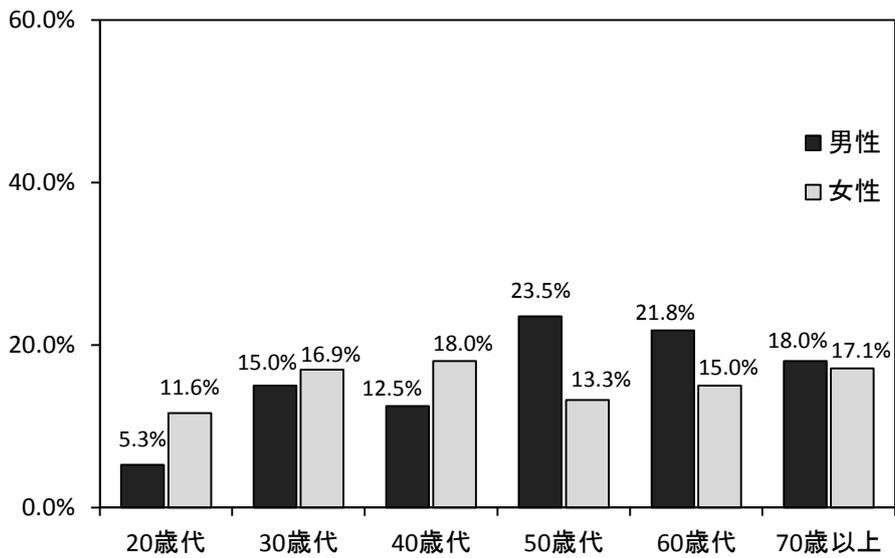


【選択肢・年代男女別】

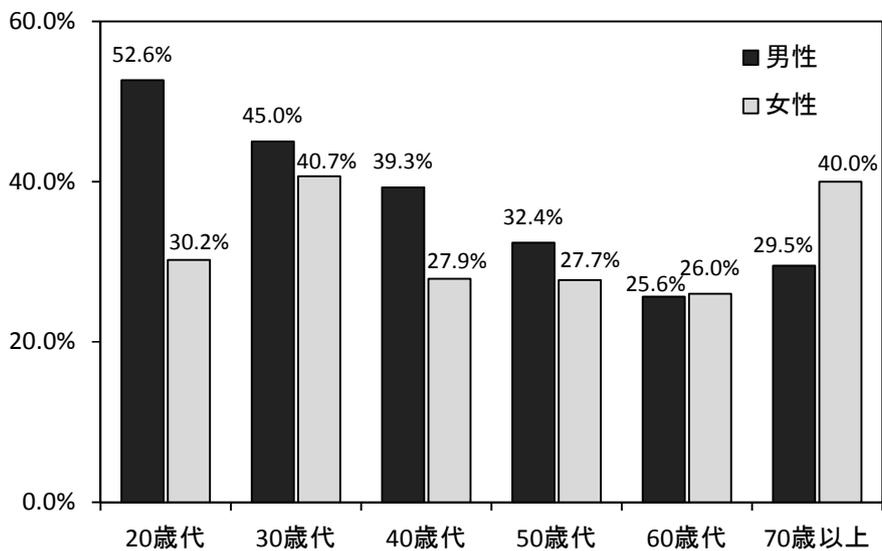
1. そう思う



2. そうは思わない

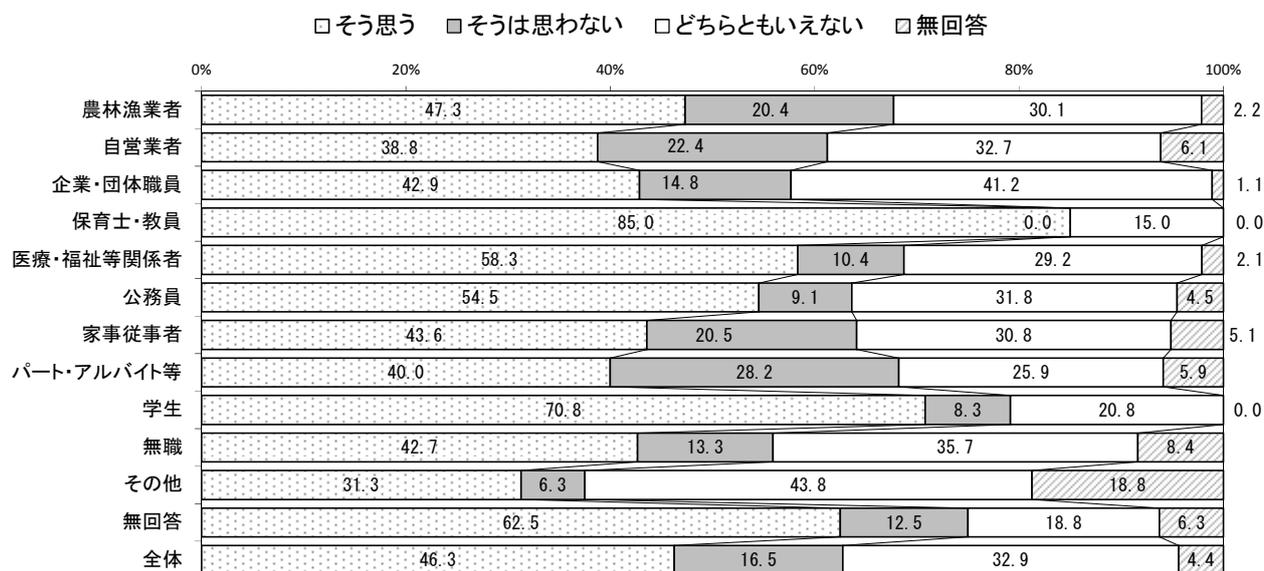


3. どちらともいえない



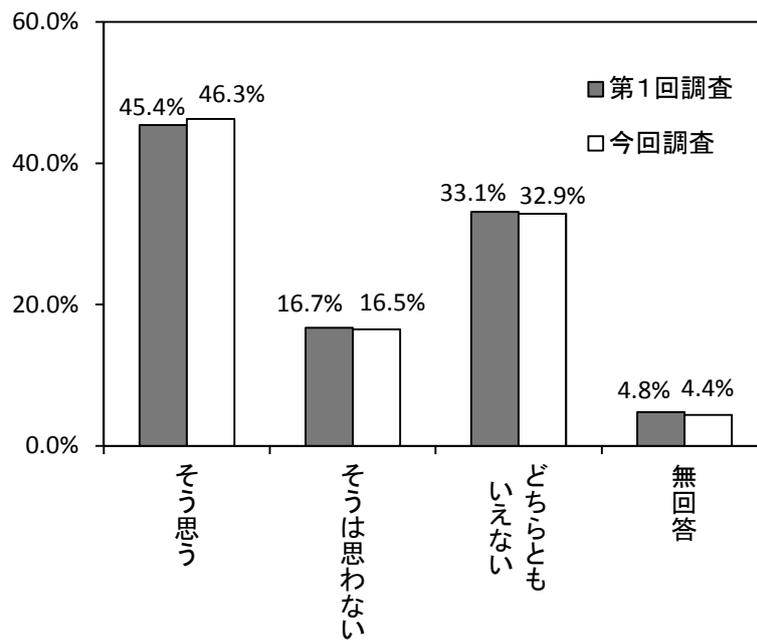
【職業別】

質問 1-3 職業別	1. そう思う		2. そうは思わない		3. どちらとも いえない		無回答		全体
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
農林漁業者	44	47.3	19	20.4	28	30.1	2	2.2	93
自営業者	19	38.8	11	22.4	16	32.7	3	6.1	49
企業・団体職員	78	42.9	27	14.8	75	41.2	2	1.1	182
保育士・教員	17	85.0	0	0.0	3	15.0	0	0.0	20
医療・福祉等関係者	28	58.3	5	10.4	14	29.2	1	2.1	48
公務員	12	54.5	2	9.1	7	31.8	1	4.5	22
家事従事者	34	43.6	16	20.5	24	30.8	4	5.1	78
パート・アルバイト等	34	40.0	24	28.2	22	25.9	5	5.9	85
学生	17	70.8	2	8.3	5	20.8	0	0.0	24
無職	61	42.7	19	13.3	51	35.7	12	8.4	143
その他	5	31.3	1	6.3	7	43.8	3	18.8	16
無回答	10	62.5	2	12.5	3	18.8	1	6.3	16
全体	359	46.3	128	16.5	255	32.9	34	4.4	776



- 全体では、「そう思う」46.3%、「どちらともいえない」32.9%、「そうは思わない」16.5%で、人権を「自分に関係が深い」と捉えている人は5割に満たない。
- 年代別では、「そう思う」は70歳以上34.3%が最も低く、30歳代も他の年代と比べると少し低い。20～30歳代は「どちらともいえない」が40%を超え、他の年代より少し高い。
- 年代男女別では、「そう思う」は20歳代女性55.8%が最も高く、最も低い70歳以上女性25.7%と30.1ポイントの差がある。また、20歳代～60歳代の女性の中では、30歳代女性が約10～15ポイント低い。20歳代男性は「そうは思わない」が5.3%と低いが、「どちらともいえない」が52.6%で他より高い。
- 職業等では、「そう思う」は保育士・教員85.0%が最も高く、次いで学生70.8%が高い。「そうは思わない」はパート・アルバイト等28.2%が最も高く、農林漁業者、自営業者、家事従事者がそれぞれ20%程度。「どちらともいえない」は企業・団体職員が41.2%で高い。

【前回調査との比較（全体）】



全体では、ほとんど変化はみられない。

【質問1-1（人権についてのイメージ「重要である」）と質問6-1（研修等への参加回数）の関連】

<全体>

質問1-1 \ 質問6-1	1. そう思う		2. そうは思わない		3. どちらとも いえない		無回答		全体
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
1. 10回以上	60	96.8	0	0.0	2	3.2	0	0.0	62
2. 5～9回	89	90.8	0	0.0	7	7.1	2	2.0	98
3. 1～4回	298	87.1	12	3.5	24	7.0	8	2.3	342
4. 参加したことがない	215	79.6	11	4.1	37	13.7	7	2.6	270
無回答	3	75.0	0	0.0	0	0.0	1	25.0	4

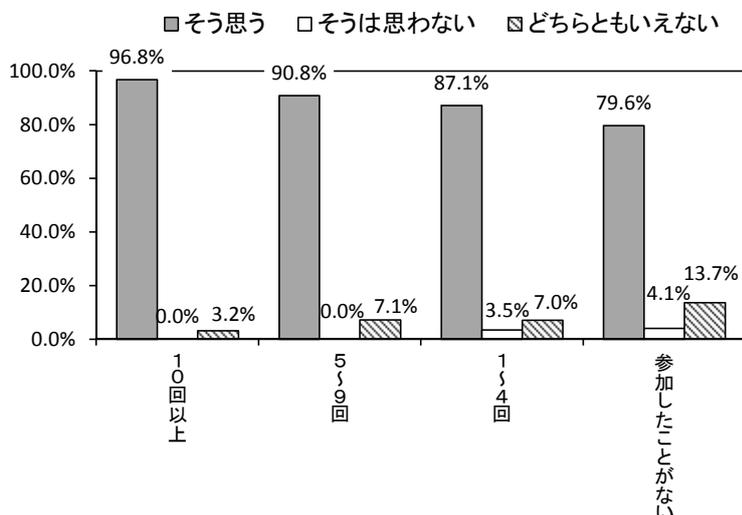
<年代別>

年代+質問1-1 \ 質問6-1	1. そう思う												6-1 回答者数		
	20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上			無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%		人数	%
1. 10回以上	5	8.1	9	14.5	17	27.4	12	19.4	14	22.6	3	4.8	0	0.0	62
2. 5～9回	3	3.1	10	10.2	16	16.3	18	18.4	25	25.5	15	15.3	2	2.0	98
3. 1～4回	28	8.2	26	7.6	49	14.3	77	22.5	71	20.8	44	12.9	3	0.9	342
4. 参加したことがない	36	13.3	37	13.7	27	10.0	35	13.0	36	13.3	41	15.2	3	1.1	270
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	25.0	2	50.0	0	0.0	4

年代+質問1-1 \ 質問6-1	2. そうは思わない												6-1 回答者数		
	20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上			無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%		人数	%
1. 10回以上	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	62
2. 5～9回	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	98
3. 1～4回	0	0.0	1	0.3	0	0.0	3	0.9	5	1.5	2	0.6	1	0.3	342
4. 参加したことがない	0	0.0	0	0.0	3	1.1	0	0.0	5	1.9	3	1.1	0	0.0	270
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4

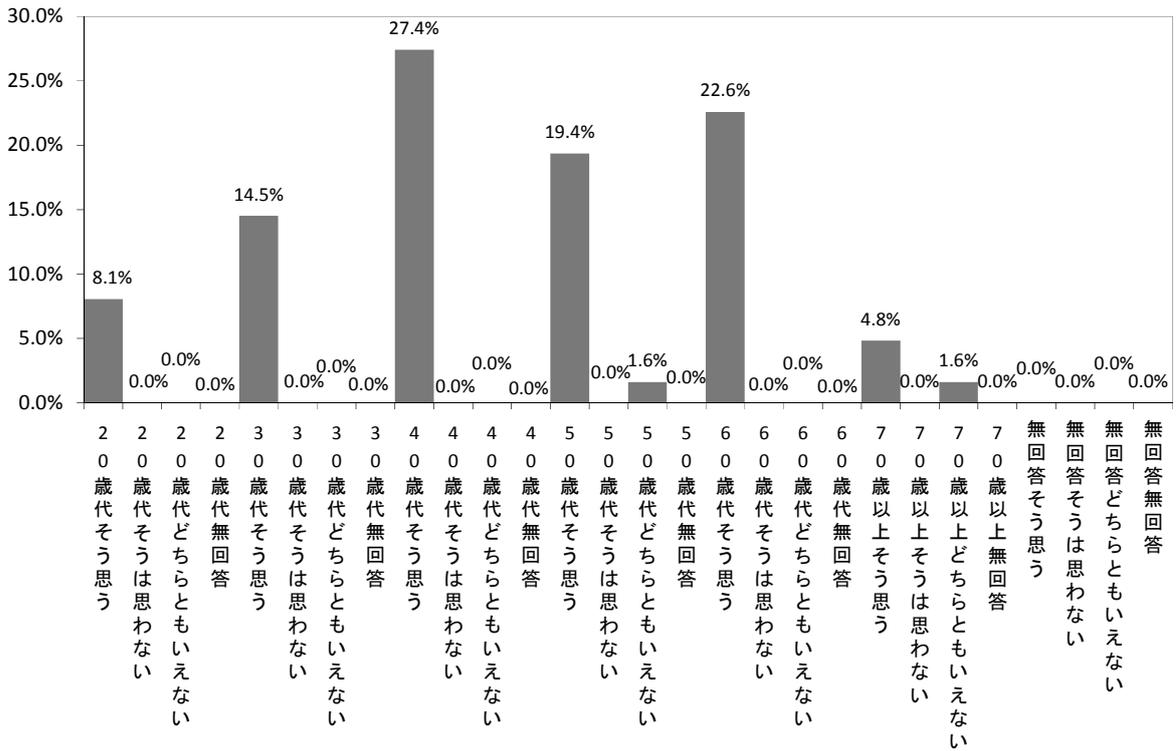
年代+質問1-1 \ 質問6-1	3. どちらともいえない												6-1 回答者数		
	20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上			無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%		人数	%
1. 10回以上	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	62
2. 5～9回	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.0	1	1.0	0	0.0	98
3. 1～4回	1	0.3	1	0.3	0	0.0	1	0.3	1	0.3	2	0.6	2	0.6	342
4. 参加したことがない	0	0.0	0	0.0	1	0.4	0	0.0	1	0.4	5	1.9	0	0.0	270
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	25.0	0	0.0	4

【全体】

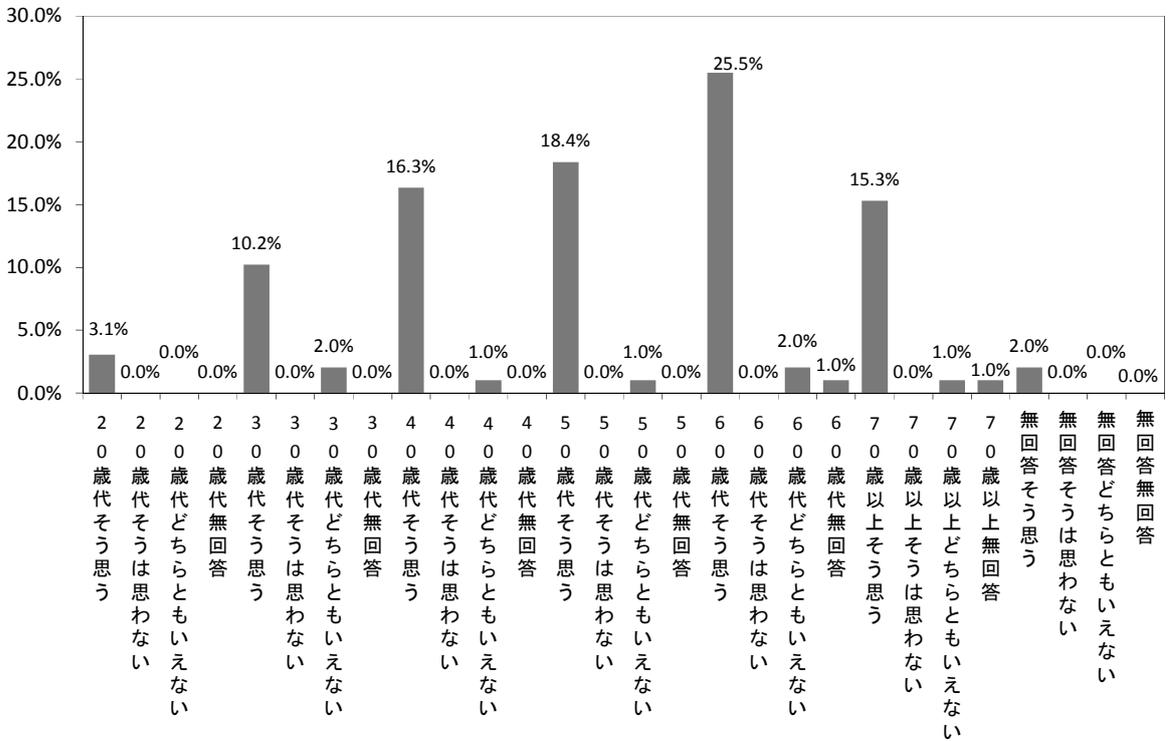


【年代別】

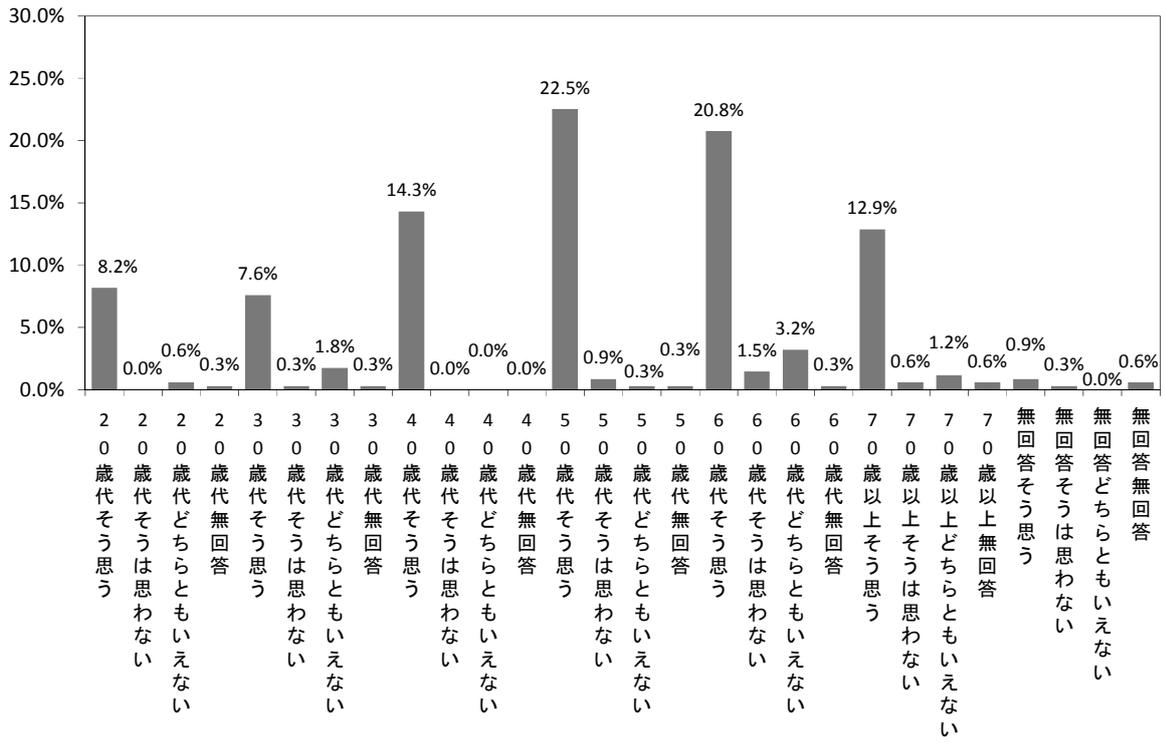
1. 10回以上



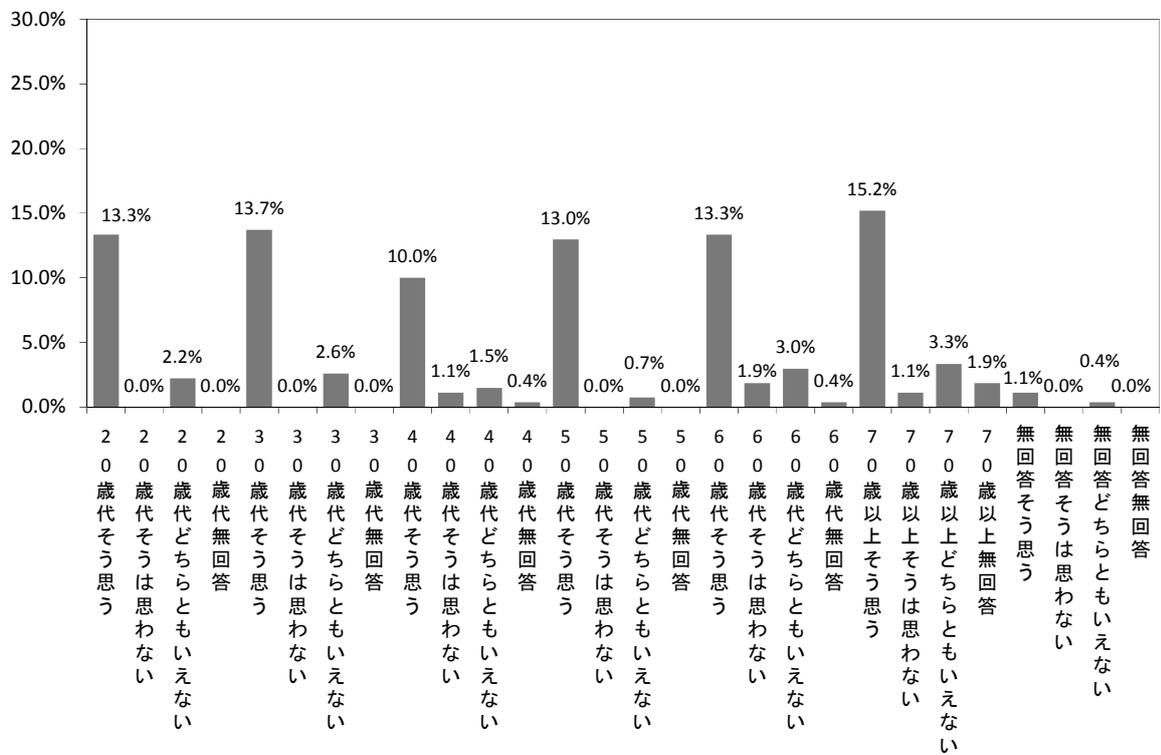
2. 5～9回



3. 1～4回



4. 参加したことがない



【質問1-2（人権についてのイメージ「わかりやすい」）と質問6-1（研修等への参加回数）の関連】

<全体>

質問1-2 \ 質問6-1	1. そう思う		2. そうは思わない		3. どちらとも いえない		無回答		全体
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
1. 10回以上	20	32.3	25	40.3	13	21.0	4	6.5	62
2. 5～9回	33	33.7	41	41.8	22	22.4	2	2.0	98
3. 1～4回	109	31.9	112	32.7	105	30.7	16	4.7	342
4. 参加したことがない	71	26.3	81	30.0	99	36.7	19	7.0	270
無回答	3	75.0	0	0.0	0	0.0	1	25.0	4

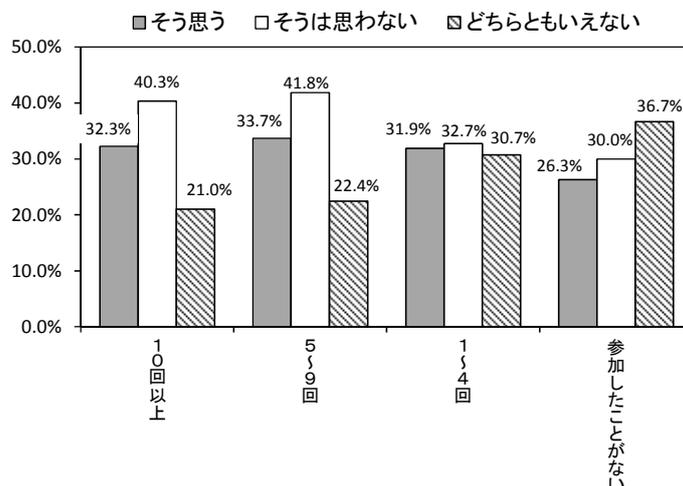
<年代別>

年代+質問1-2 \ 質問6-1	1. そう思う														6-1 回答 者数
	20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上		無回答		
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
1. 10回以上	2	3.2	2	3.2	2	3.2	7	11.3	5	8.1	2	3.2	0	0.0	62
2. 5～9回	1	1.0	1	1.0	7	7.1	4	4.1	12	12.2	6	6.1	2	2.0	98
3. 1～4回	4	1.2	4	1.2	16	4.7	27	7.9	31	9.1	25	7.3	2	0.6	342
4. 参加したことがない	3	1.1	13	4.8	4	1.5	9	3.3	17	6.3	24	8.9	1	0.4	270
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	25.0	2	50.0	0	0.0	4

年代+質問1-2 \ 質問6-1	2. そうは思わない														6-1 回答 者数
	20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上		無回答		
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
1. 10回以上	2	3.2	5	8.1	10	16.1	1	1.6	7	11.3	0	0.0	0	0.0	62
2. 5～9回	1	1.0	8	8.2	6	6.1	10	10.2	11	11.2	5	5.1	0	0.0	98
3. 1～4回	17	5.0	18	5.3	14	4.1	28	8.2	25	7.3	9	2.6	1	0.3	342
4. 参加したことがない	18	6.7	15	5.6	15	5.6	15	5.6	12	4.4	6	2.2	0	0.0	270
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4

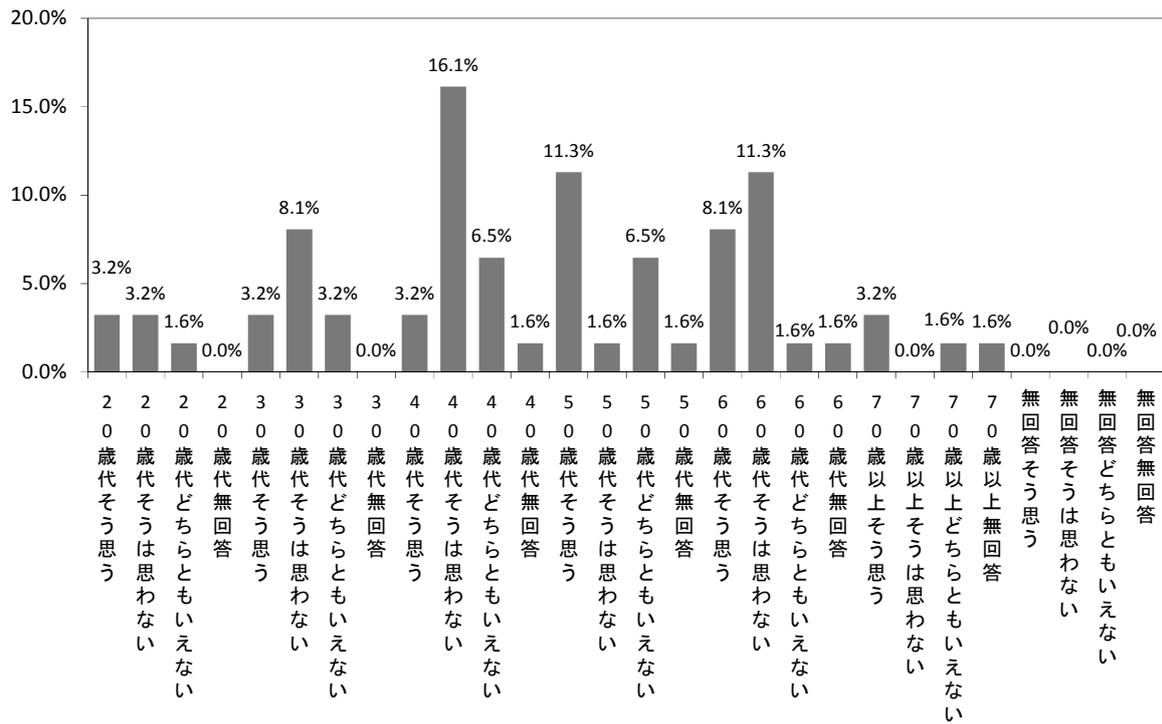
年代+質問1-2 \ 質問6-1	3. どちらとも いえない														6-1 回答 者数
	20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上		無回答		
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
1. 10回以上	1	1.6	2	3.2	4	6.5	4	6.5	1	1.6	1	1.6	0	0.0	62
2. 5～9回	1	1.0	3	3.1	4	4.1	5	5.1	4	4.1	5	5.1	0	0.0	98
3. 1～4回	9	2.6	12	3.5	19	5.6	26	7.6	26	7.6	11	3.2	2	0.6	342
4. 参加したことがない	21	7.8	16	5.9	15	5.6	11	4.1	18	6.7	16	5.9	2	0.7	270
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4

【全体】

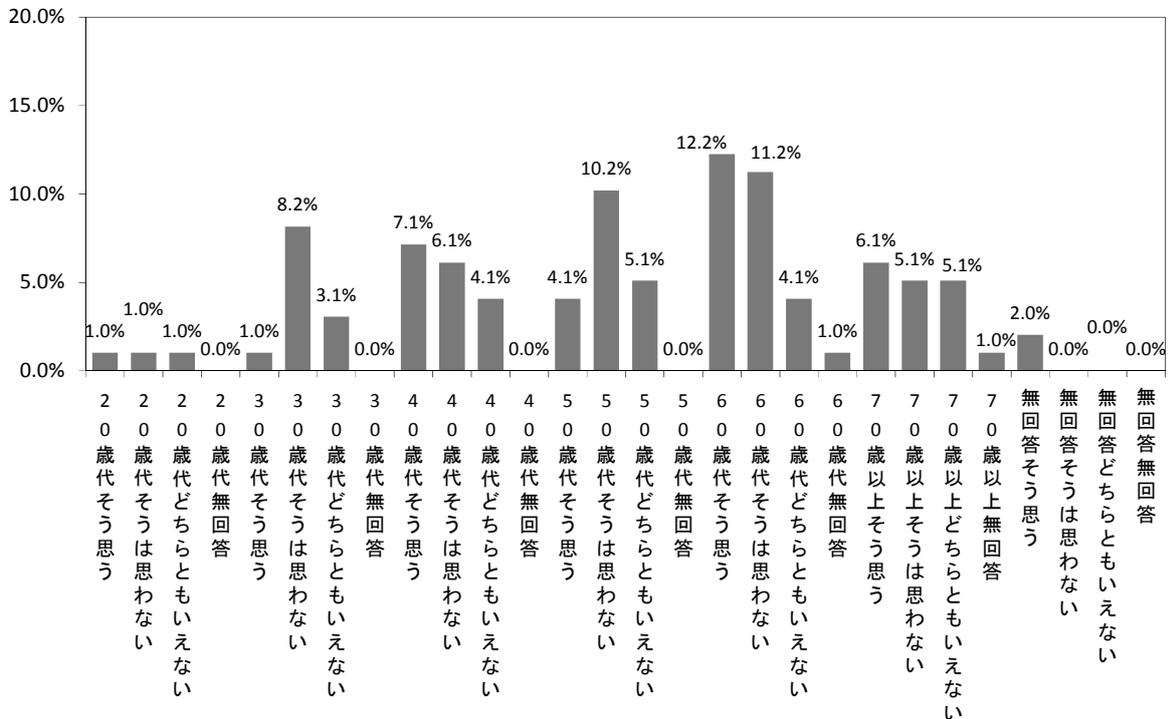


【年代別】

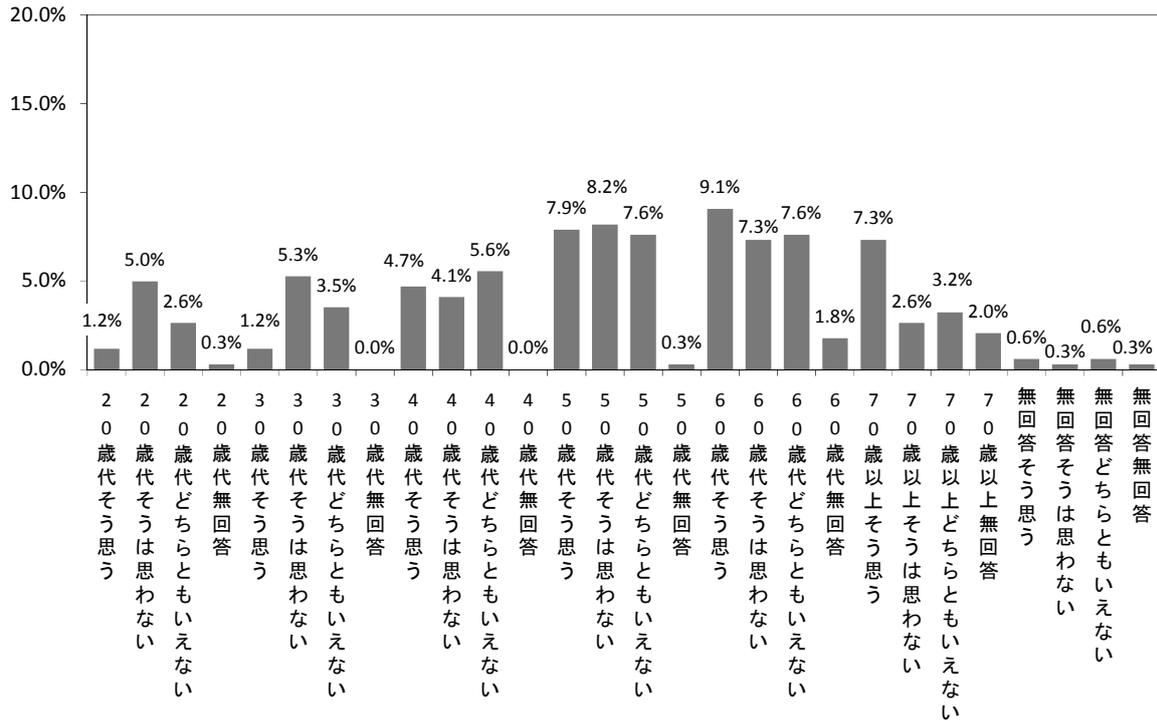
1. 10回以上



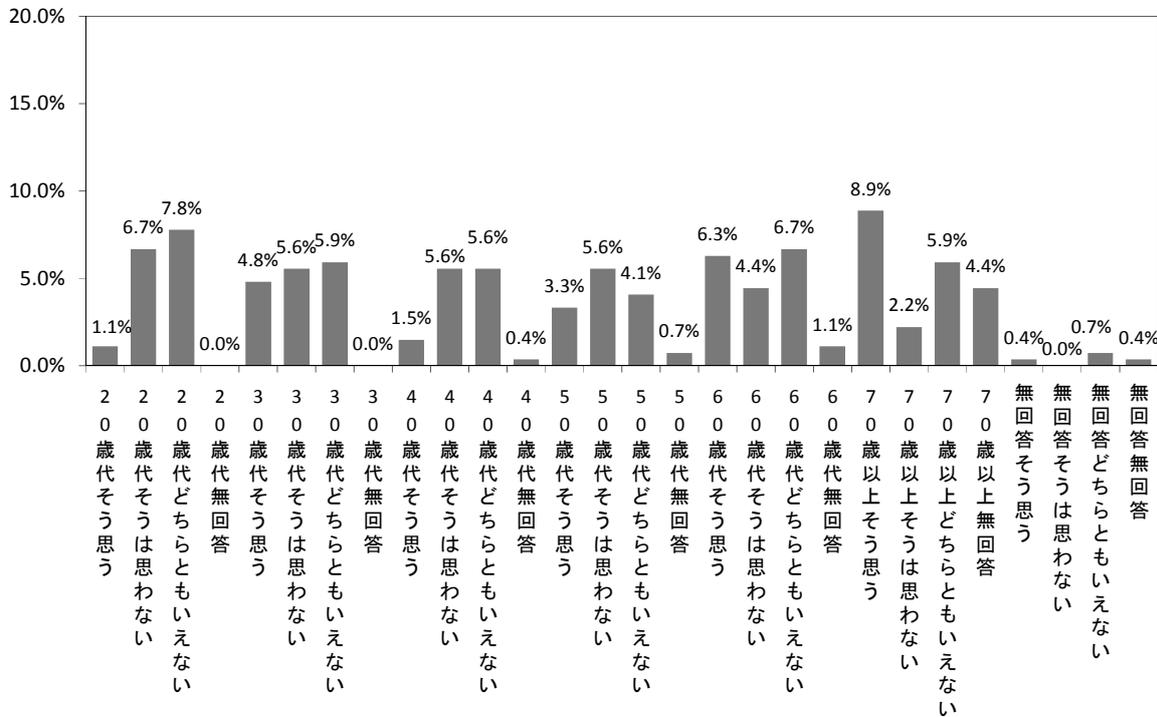
2. 5～9回



3. 1～4回



4. 参加したことがない



【質問1-3（人権についてのイメージ「自分に関係が深い」）と質問6-1（研修等への参加回数）の関連】

<全体>

質問1-3 質問6-1	1. そう思う		2. そうは思わない		3. どちらとも いえない		無回答		全体
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
1. 10回以上	44	71.0	5	8.1	10	16.1	3	4.8	62
2. 5～9回	58	59.2	12	12.2	24	24.5	4	4.1	98
3. 1～4回	160	46.8	60	17.5	111	32.5	11	3.2	342
4. 参加したことがない	95	35.2	51	18.9	109	40.4	15	5.6	270
無回答	2	50.0	0	0.0	1	25.0	1	25.0	4

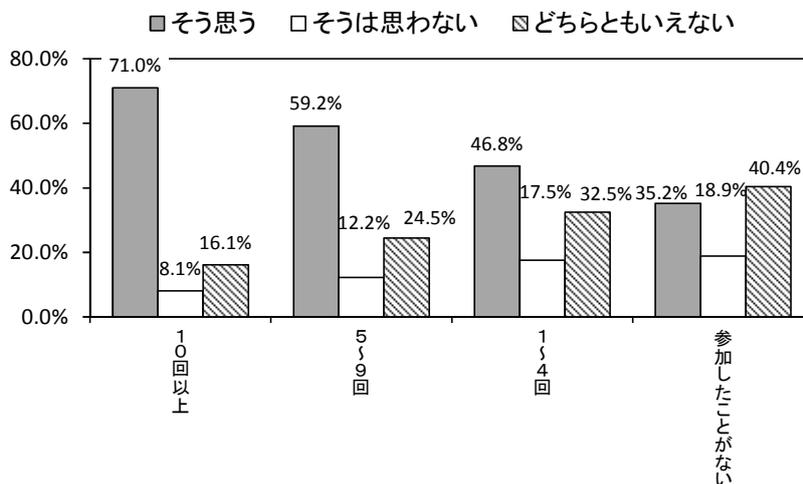
<年代別>

年代+質問1-3 質問6-1	1. そう思う														6-1 回答者数
	20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上		無回答		
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
1. 10回以上	5	8.1	7	11.3	11	17.7	8	12.9	11	17.7	2	3.2	0	0.0	62
2. 5～9回	3	3.1	6	6.1	11	11.2	10	10.2	17	17.3	10	10.2	1	1.0	98
3. 1～4回	18	5.3	14	4.1	25	7.3	38	11.1	47	13.7	15	4.4	3	0.9	342
4. 参加したことがない	14	5.2	13	4.8	11	4.1	19	7.0	18	6.7	18	6.7	2	0.7	270
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	25.0	1	25.0	0	0.0	4

年代+質問1-3 質問6-1	2. そうは思わない														6-1 回答者数
	20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上		無回答		
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
1. 10回以上	0	0.0	0	0.0	3	4.8	1	1.6	1	1.6	0	0.0	0	0.0	62
2. 5～9回	0	0.0	1	1.0	2	2.0	4	4.1	4	4.1	0	0.0	1	1.0	98
3. 1～4回	2	0.6	6	1.8	8	2.3	11	3.2	17	5.0	15	4.4	1	0.3	342
4. 参加したことがない	5	1.9	9	3.3	5	1.9	11	4.1	11	4.1	9	3.3	1	0.4	270
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4

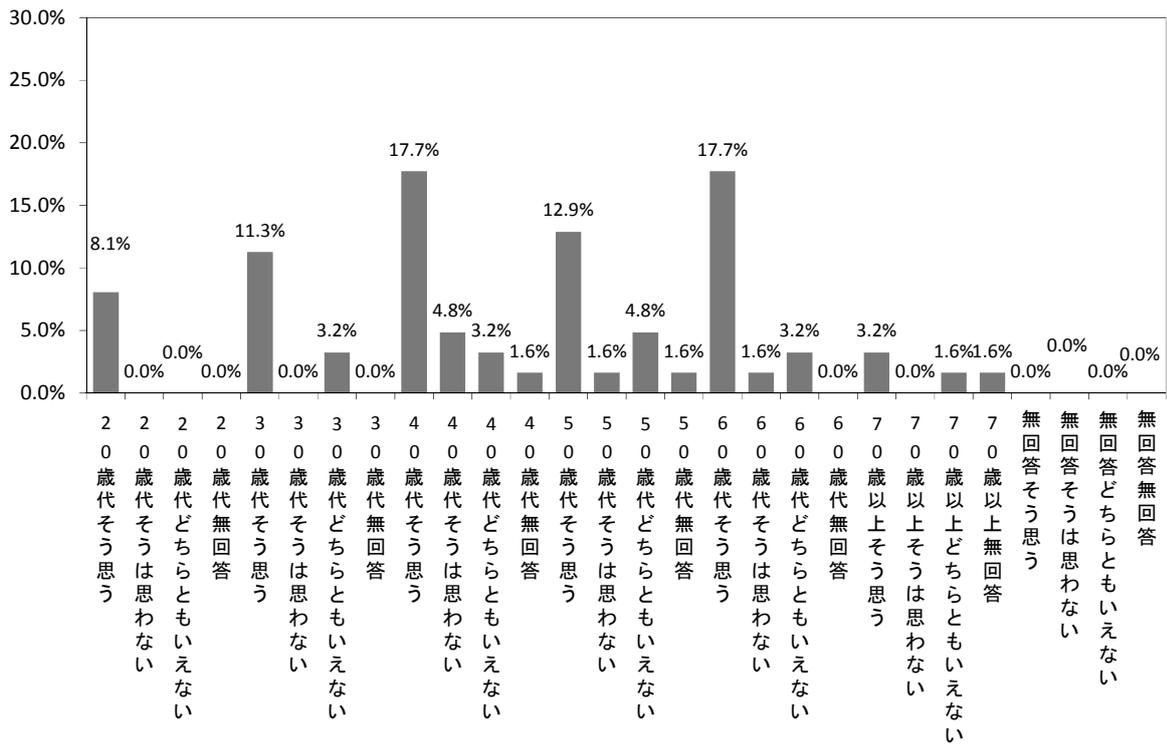
年代+質問1-3 質問6-1	3. どちらとも いえない														6-1 回答者数
	20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上		無回答		
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
1. 10回以上	0	0.0	2	3.2	2	3.2	3	4.8	2	3.2	1	1.6	0	0.0	62
2. 5～9回	0	0.0	5	5.1	4	4.1	5	5.1	6	6.1	4	4.1	0	0.0	98
3. 1～4回	10	2.9	13	3.8	16	4.7	32	9.4	21	6.1	17	5.0	2	0.6	342
4. 参加したことがない	23	8.5	22	8.1	17	6.3	5	1.9	18	6.7	24	8.9	0	0.0	270
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	25.0	0	0.0	4

【全体】

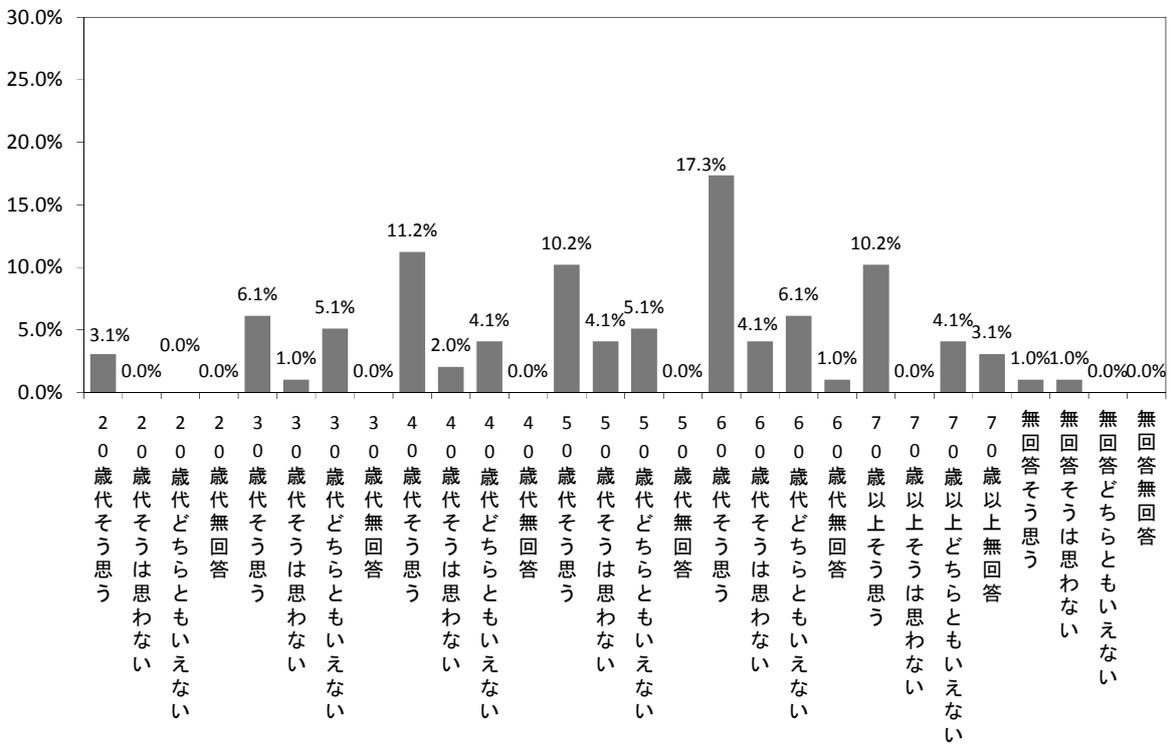


【年代別】

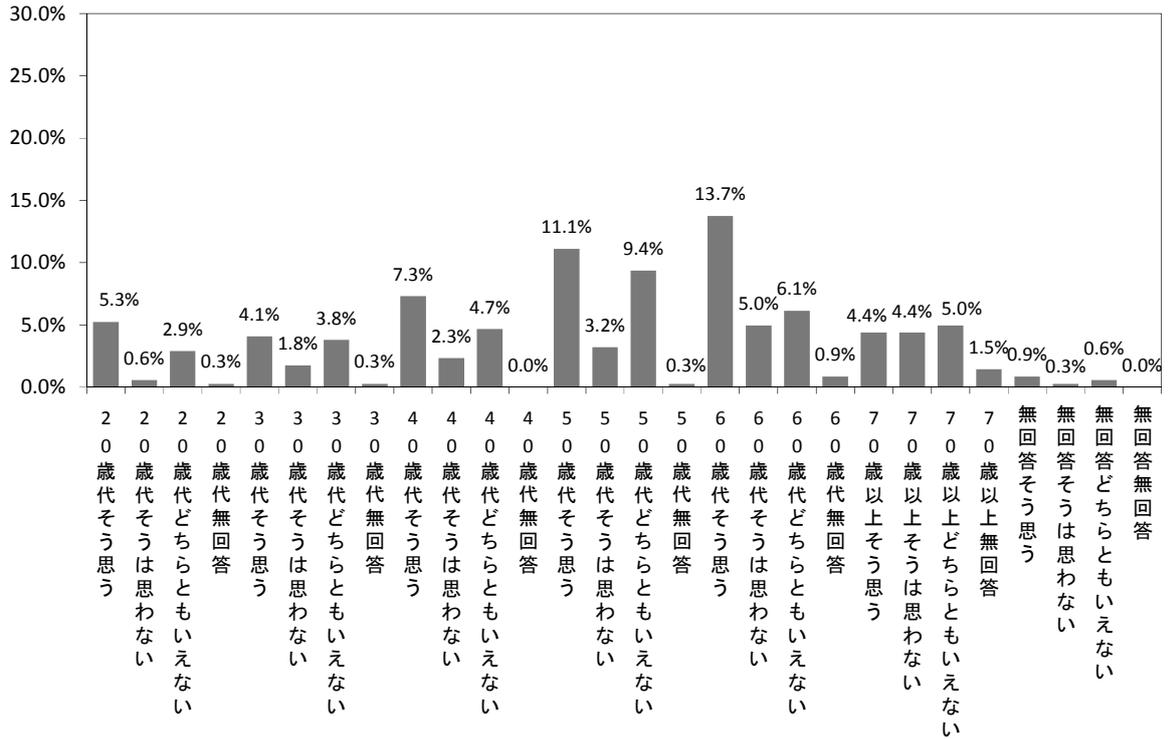
1. 10回以上



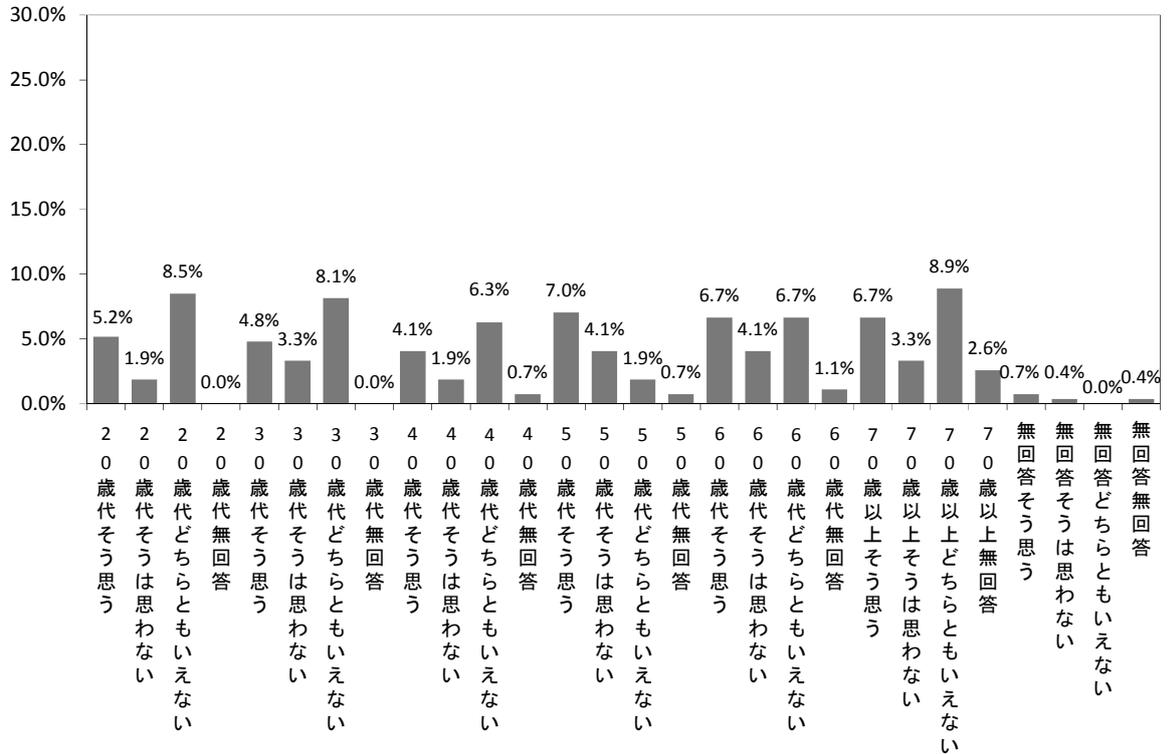
2. 5～9回



3. 1～4回



4. 参加したことがない



【質問1-1と質問6-1】

全体では、参加回数の増加に伴い「そう思う」の割合が高くなっている。研修等に5回以上参加している人は「そうは思わない」が0.0%である。

「そう思う」は、20歳代は「参加したことがない」、30歳代と40歳代は「10回以上」、50歳代は「1～4回」、60歳代と70歳以上は「5～9回」が多く、研修回数が多ければ「そう思う」が高くなるわけではない。

【質問1-2と質問6-1】

全体でみると、回数による差はあまりないが、研修等に5回以上参加している人の方が「そうは思わない」が高い。特に、40歳代で「10回以上」の人が高い。この層は「人権は重要である」と思っている人が最も多い。学べば学ぶほど人権の重要性を認識すると同時に、単純に理解できるものではないと自覚しているのではないか。

一方、70歳以上で「10回以上」の人は、「そうは思わない」が0.0%、また研修の参加回数が少なくなるにつれ「そう思う」が高くなっている。

【質問1-3と質問6-1】

全体でみると、参加回数の増加に伴い「そう思う」の割合が高くなり、「そうは思わない」と「どちらともいえない」の割合が低くなる。

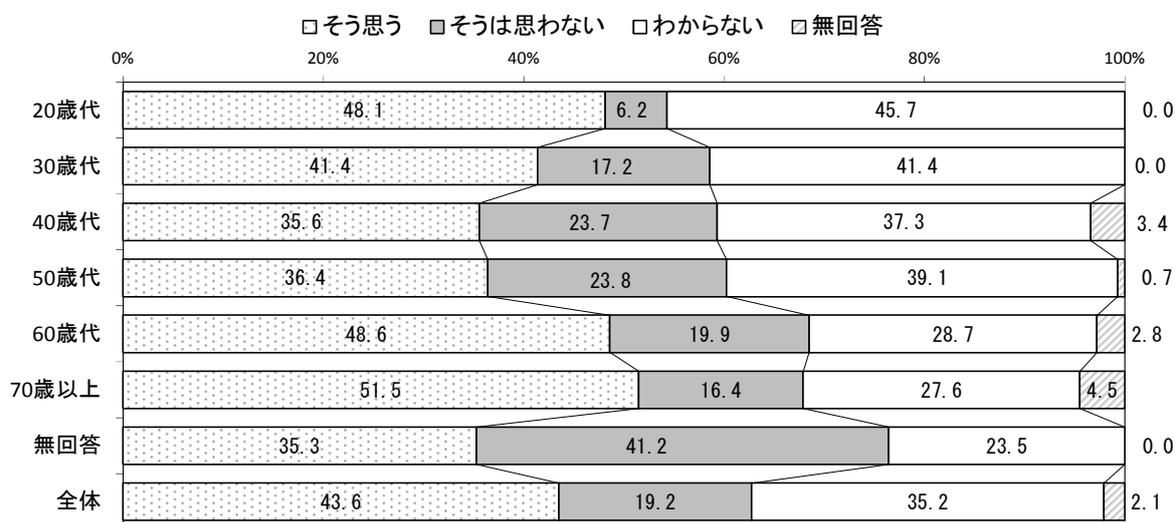
20歳代で5回以上参加している人は、「そうは思わない」と「どちらともいえない」が0.0%。また、70歳以上も5回以上参加している人は「そうは思わない」が0.0%である。概ね、どの年代も「どちらともいえない」は「参加したことがない」が高いが、50歳代のみ「1～4回」が高い。

質問2 あなたの人権は守られていると思いますか。(〇は1つ)

- 1 そう思う
- 2 そうは思わない
- 3 わからない

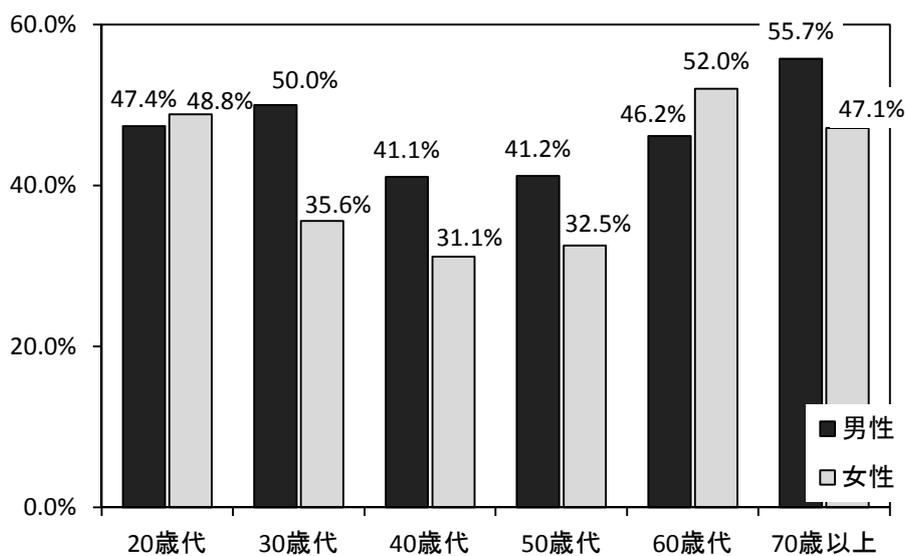
質問2		1. そう思う		2. そうは思わない		3. わからない		無回答		全体
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
20歳代	男性	18	47.4	4	10.5	16	42.1	0	0.0	38
	女性	21	48.8	1	2.3	21	48.8	0	0.0	43
	計	39	48.1	5	6.2	37	45.7	0	0.0	81
30歳代	男性	20	50.0	8	20.0	12	30.0	0	0.0	40
	女性	21	35.6	9	15.3	29	49.2	0	0.0	59
	計	41	41.4	17	17.2	41	41.4	0	0.0	99
40歳代	男性	23	41.1	11	19.6	20	35.7	2	3.6	56
	女性	19	31.1	16	26.2	24	39.3	2	3.3	61
	無回答	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	1
	計	42	35.6	28	23.7	44	37.3	4	3.4	118
50歳代	男性	28	41.2	17	25.0	23	33.8	0	0.0	68
	女性	27	32.5	19	22.9	36	43.4	1	1.2	83
	計	55	36.4	36	23.8	59	39.1	1	0.7	151
60歳代	男性	36	46.2	14	17.9	27	34.6	1	1.3	78
	女性	52	52.0	20	20.0	24	24.0	4	4.0	100
	無回答	0	0.0	2	66.7	1	33.3	0	0.0	3
	計	88	48.6	36	19.9	52	28.7	5	2.8	181
70歳以上	男性	34	55.7	12	19.7	14	23.0	1	1.6	61
	女性	33	47.1	10	14.3	22	31.4	5	7.1	70
	無回答	2	66.7	0	0.0	1	33.3	0	0.0	3
	計	69	51.5	22	16.4	37	27.6	6	4.5	134
無回答	女性	0	0.0	1	50.0	1	50.0	0	0.0	2
	無回答	4	40.0	4	40.0	2	20.0	0	0.0	10
	計	4	33.3	5	41.7	3	25.0	0	0.0	12
全体	男性	159	46.6	66	19.4	112	32.8	4	1.2	341
	女性	173	41.4	76	18.2	157	37.6	12	2.9	418
	無回答	6	35.3	7	41.2	4	23.5	0	0.0	17
	計	338	43.6	149	19.2	273	35.2	16	2.1	776

【年代別】

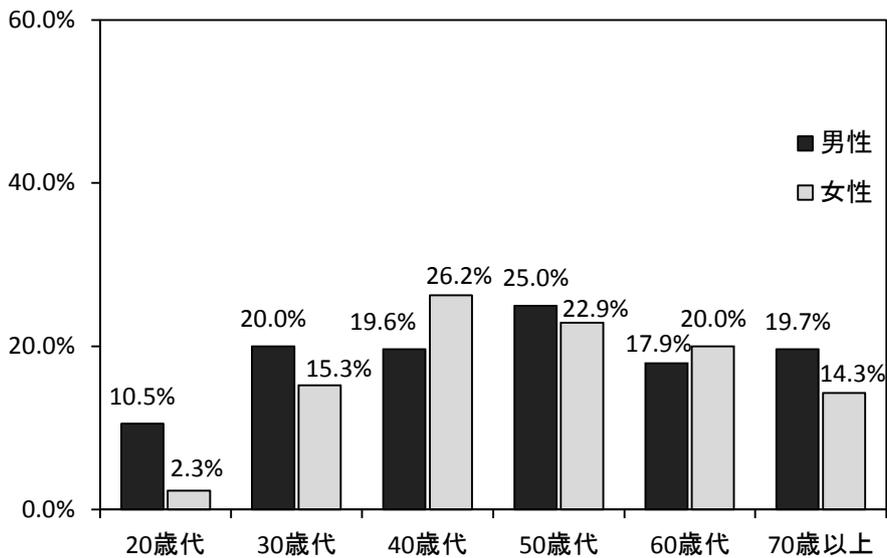


【選択肢・年代男女別】

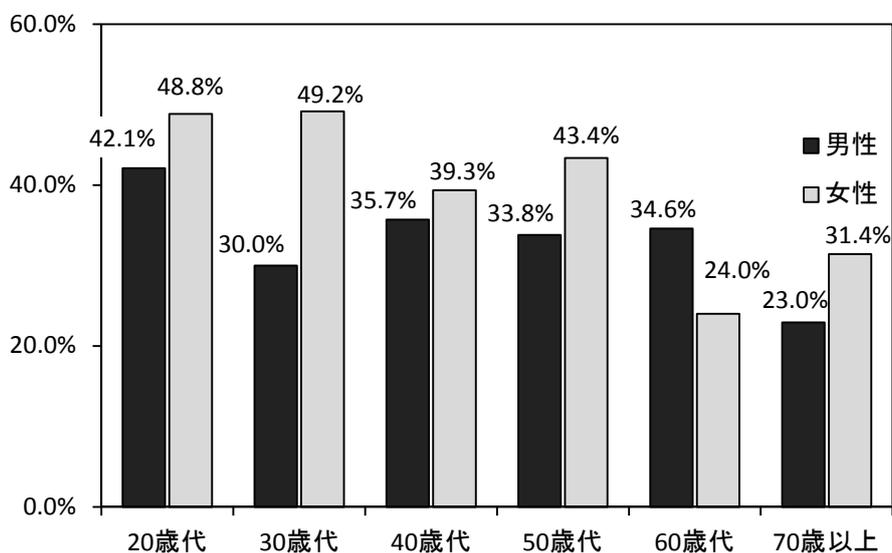
1. そう思う



2. そうは思わない

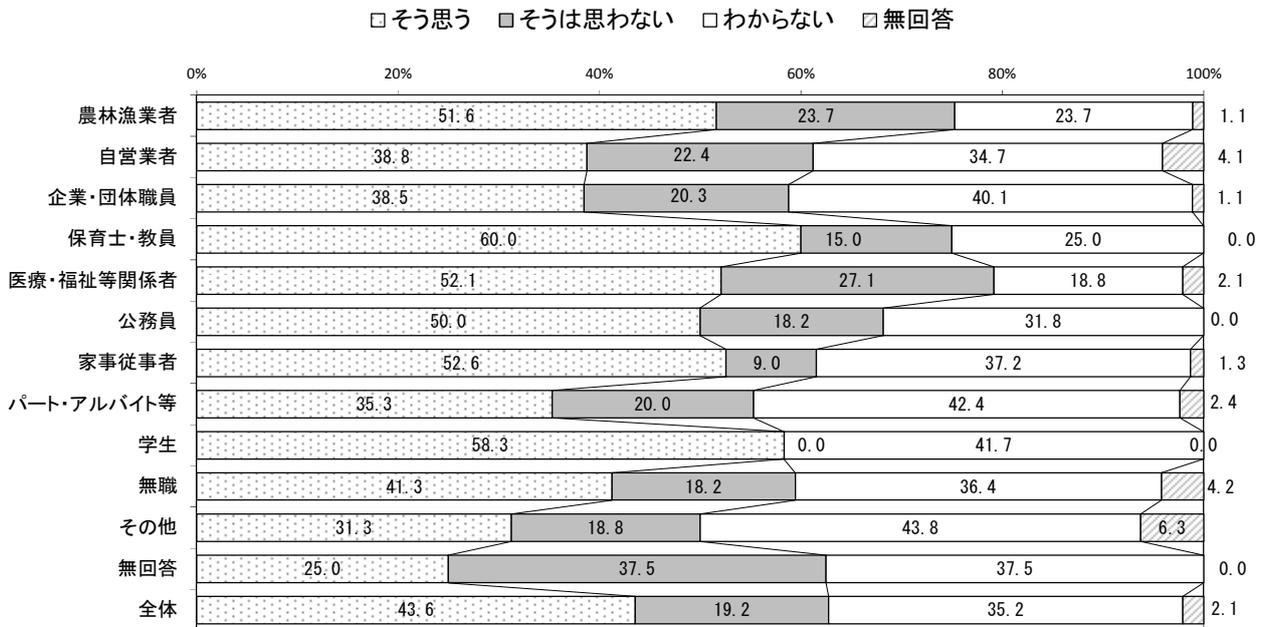


3. わからない



【職業別】

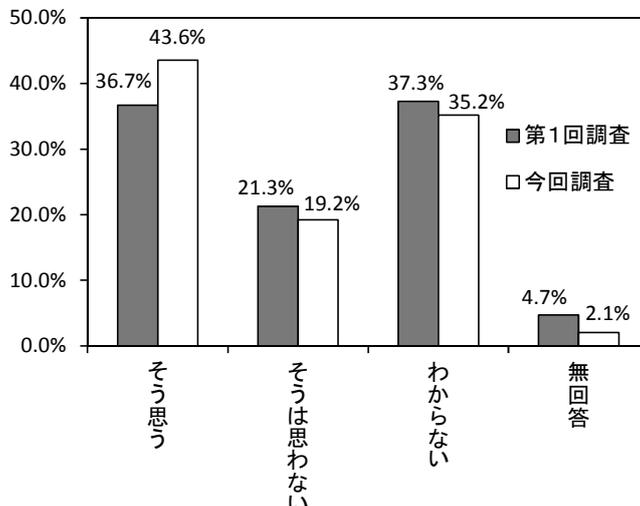
質問2 職業別	1. そう思う		2. そうは思わない		3. わからない		無回答		全体
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
農林漁業者	48	51.6	22	23.7	22	23.7	1	1.1	93
自営業者	19	38.8	11	22.4	17	34.7	2	4.1	49
企業・団体職員	70	38.5	37	20.3	73	40.1	2	1.1	182
保育士・教員	12	60.0	3	15.0	5	25.0	0	0.0	20
医療・福祉等関係者	25	52.1	13	27.1	9	18.8	1	2.1	48
公務員	11	50.0	4	18.2	7	31.8	0	0.0	22
家事従事者	41	52.6	7	9.0	29	37.2	1	1.3	78
パート・アルバイト等	30	35.3	17	20.0	36	42.4	2	2.4	85
学生	14	58.3	0	0.0	10	41.7	0	0.0	24
無職	59	41.3	26	18.2	52	36.4	6	4.2	143
その他	5	31.3	3	18.8	7	43.8	1	6.3	16
無回答	4	25.0	6	37.5	6	37.5	0	0.0	16
全体	338	43.6	149	19.2	273	35.2	16	2.1	776



- 全体では、「そう思う」43.6%が最も高い。次いで「わからない」35.2%、「そうは思わない」19.2%で、「自分の人権は守られている」と思っている割合が高い。
- 年代別では、どの年代も「そうは思わない」が低い。特に20歳代6.2%が最も低い。「そう思う」は70歳以上51.5%が最も高く、60歳代と20歳代も50%近い。
- 男女別では、「そう思う」は男性の方が、「わからない」は女性の方が、それぞれ5ポイント程度高い。
- 年代男女別では、次のような傾向、特徴がみられる。
 - ・ 「そう思う」は、70歳以上男性55.7%が最も高く、40歳代女性31.1%が最も低い。
 - ・ 「そうは思わない」は、40歳代女性26.2%が最も高く、20歳代女性2.3%が最も低い。
 - ・ 「わからない」は、20歳代女性と30歳代女性が50%近くで高い。
 - ・ 30歳代男女で差がみられる。「そう思う」は男性50.0%、女性35.6%で14.4ポイントの差。「わからない」は女性49.2%、男性30.0%で19.2ポイントの差がある。

- 職業等では、「そう思う」は保育士・教員 60.0%、学生 58.3%が高い。パート・アルバイト等、自営業者、企業・団体職員は低い。「そうは思わない」は医療・福祉等関係者 27.1%が最も高く、学生 0.0%が最も低い。「わからない」は学生、パート・アルバイト等、企業・団体職員が 40%を超える。

【前回調査との比較（全体）】



【前回調査との比較（年代男女別）】

経年比較 性別＋年代		1. そう思う		2. そうは 思わない		3. わからない		無回答	
		前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回
20歳代	男性	36.2%	47.4%	9.6%	10.5%	51.1%	42.1%	3.2%	0.0%
	女性	38.0%	48.8%	15.7%	2.3%	44.4%	48.8%	1.9%	0.0%
30歳代	男性	35.7%	50.0%	21.4%	20.0%	40.2%	30.0%	2.7%	0.0%
	女性	32.3%	35.6%	19.5%	15.3%	46.6%	49.2%	1.5%	0.0%
40歳代	男性	34.5%	41.1%	25.9%	19.6%	34.5%	35.7%	5.2%	3.6%
	女性	37.6%	31.1%	20.8%	26.2%	39.6%	39.3%	2.0%	3.3%
50歳代	男性	33.6%	41.2%	25.6%	25.0%	36.8%	33.8%	4.0%	0.0%
	女性	28.7%	32.5%	30.0%	22.9%	37.3%	43.4%	4.0%	1.2%
60歳代	男性	39.7%	46.2%	22.2%	17.9%	31.7%	34.6%	6.3%	1.3%
	女性	34.0%	52.0%	30.7%	20.0%	29.3%	24.0%	6.0%	4.0%
70歳以上	男性	58.6%	55.7%	9.0%	19.7%	27.0%	23.0%	5.4%	1.6%
	女性	39.0%	47.1%	17.1%	14.3%	36.6%	31.4%	7.3%	7.1%
無回答		7.1%	40.0%	21.4%	40.0%	7.1%	20.0%	64.3%	0.0%
全体		36.7%	43.6%	21.3%	19.2%	37.3%	35.2%	4.7%	2.1%

全体では、「そう思う」が 6.9 ポイント増加、「そうは思わない」、「わからない」がそれぞれ 2.1 ポイント減少した。また、前回調査では「わからない」が最も高かったが、今回調査では「そう思う」が最も高い。年代男女別でみると、「そう思う」が 70 歳以上男性と 40 歳代女性以外はいずれも増加している。特に、60 歳代女性は 18.0 ポイント、30 歳代男性は 14.3 ポイント、20 歳代男性は 11.2 ポイント、20 歳代女性は 10.8 ポイントと、大幅に増加している。

【質問2（自分の人権は守られていると思うか）と質問6-1（研修等への参加回数）の関連】

<全体>

質問6-1 \ 質問2	1. そう思う		2. そうは思わない		3. わからない		無回答		全体
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
1. 10回以上	23	37.1	21	33.9	17	27.4	1	1.6	62
2. 5～9回	49	50.0	23	23.5	24	24.5	2	2.0	98
3. 1～4回	149	43.6	61	17.8	127	37.1	5	1.5	342
4. 参加したことがない	114	42.2	44	16.3	105	38.9	7	2.6	270
無回答	3	75.0	0	0.0	0	0.0	1	25.0	4

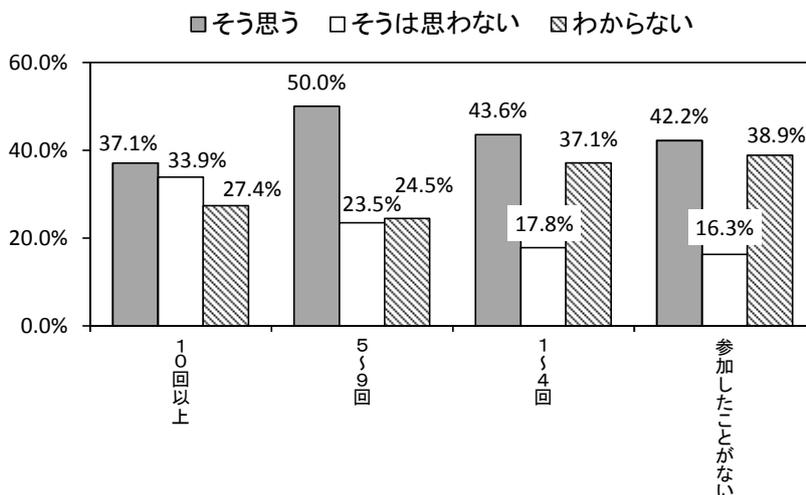
<年代別>

質問6-1 \ 年代+質問2	1. そう思う														6-1 回答者数
	20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上		無回答		
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
1. 10回以上	2	3.2	3	4.8	4	6.5	6	9.7	7	11.3	1	1.6	0	0.0	62
2. 5～9回	2	2.0	8	8.2	5	5.1	13	13.3	11	11.2	9	9.2	1	1.0	98
3. 1～4回	14	4.1	13	3.8	20	5.8	26	7.6	45	13.2	29	8.5	2	0.6	342
4. 参加したことがない	21	7.8	17	6.3	13	4.8	10	3.7	24	8.9	28	10.4	1	0.4	270
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	25.0	2	50.0	0	0.0	4

質問6-1 \ 年代+質問2	2. そうは思わない														6-1 回答者数
	20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上		無回答		
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
1. 10回以上	0	0.0	3	4.8	7	11.3	4	6.5	5	8.1	2	3.2	0	0.0	62
2. 5～9回	0	0.0	2	2.0	6	6.1	2	2.0	10	10.2	2	2.0	1	1.0	98
3. 1～4回	2	0.6	5	1.5	9	2.6	18	5.3	14	4.1	9	2.6	4	1.2	342
4. 参加したことがない	3	1.1	7	2.6	6	2.2	12	4.4	7	2.6	9	3.3	0	0.0	270
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4

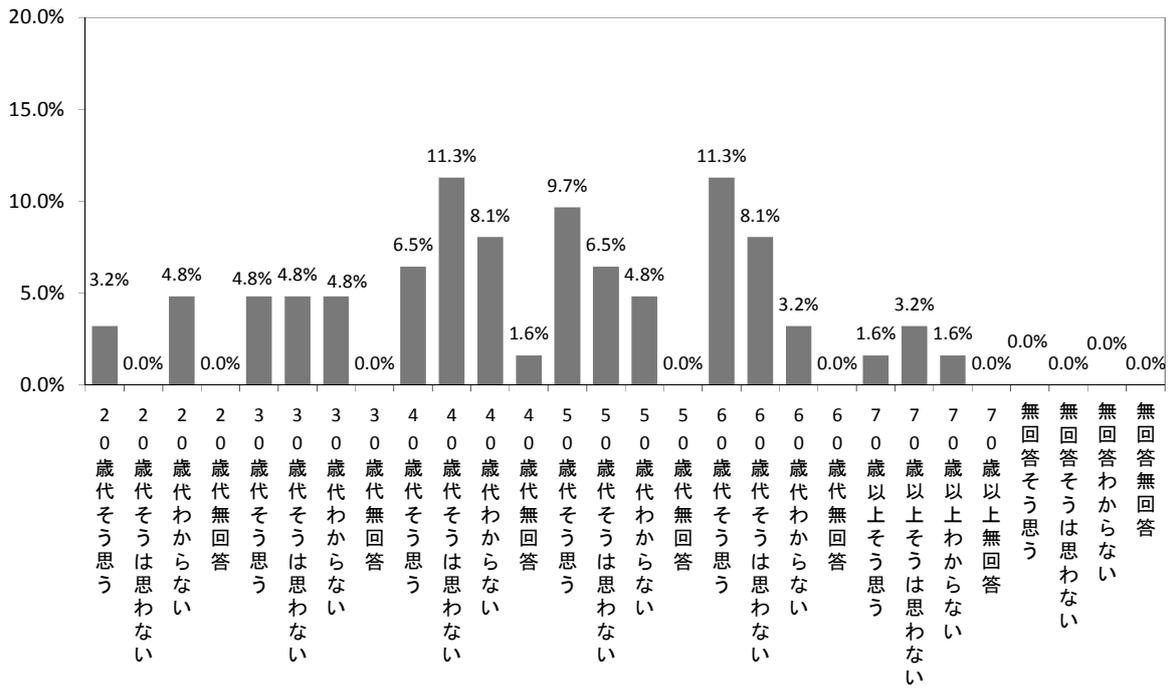
質問6-1 \ 年代+質問2	3. わからない														6-1 回答者数
	20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上		無回答		
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
1. 10回以上	3	4.8	3	4.8	5	8.1	3	4.8	2	3.2	1	1.6	0	0.0	62
2. 5～9回	1	1.0	2	2.0	6	6.1	4	4.1	6	6.1	5	5.1	0	0.0	98
3. 1～4回	15	4.4	16	4.7	20	5.8	37	10.8	26	7.6	13	3.8	0	0.0	342
4. 参加したことがない	18	6.7	20	7.4	13	4.8	15	5.6	18	6.7	18	6.7	3	1.1	270
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4

【全体】

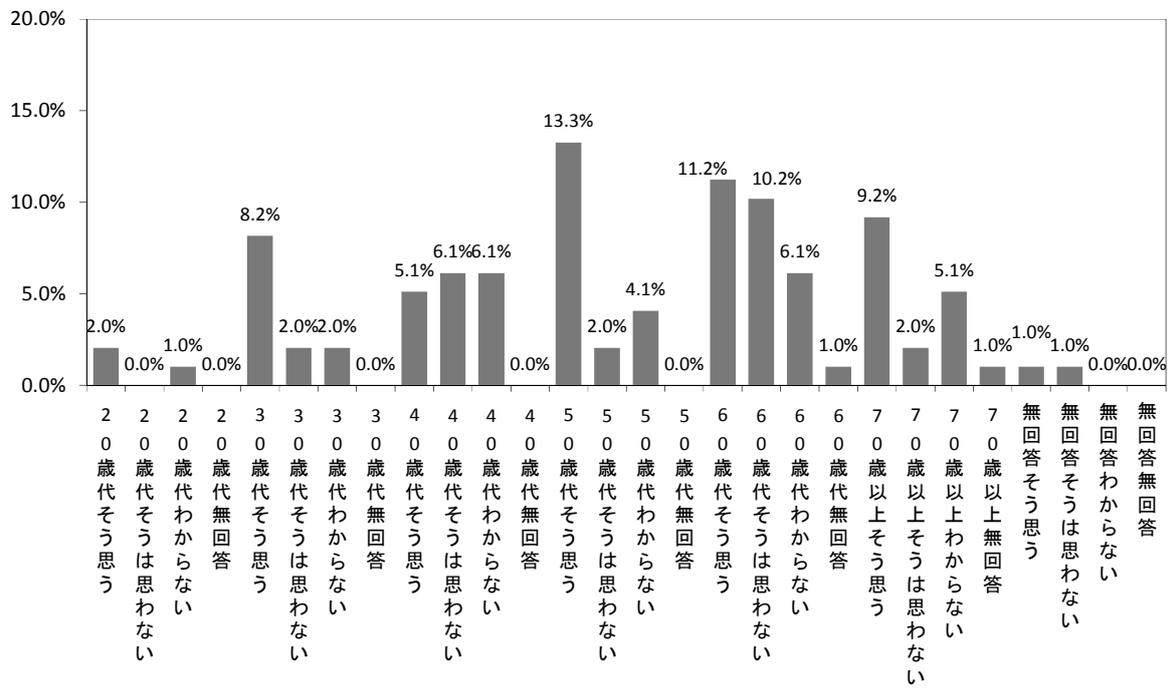


【年代別】

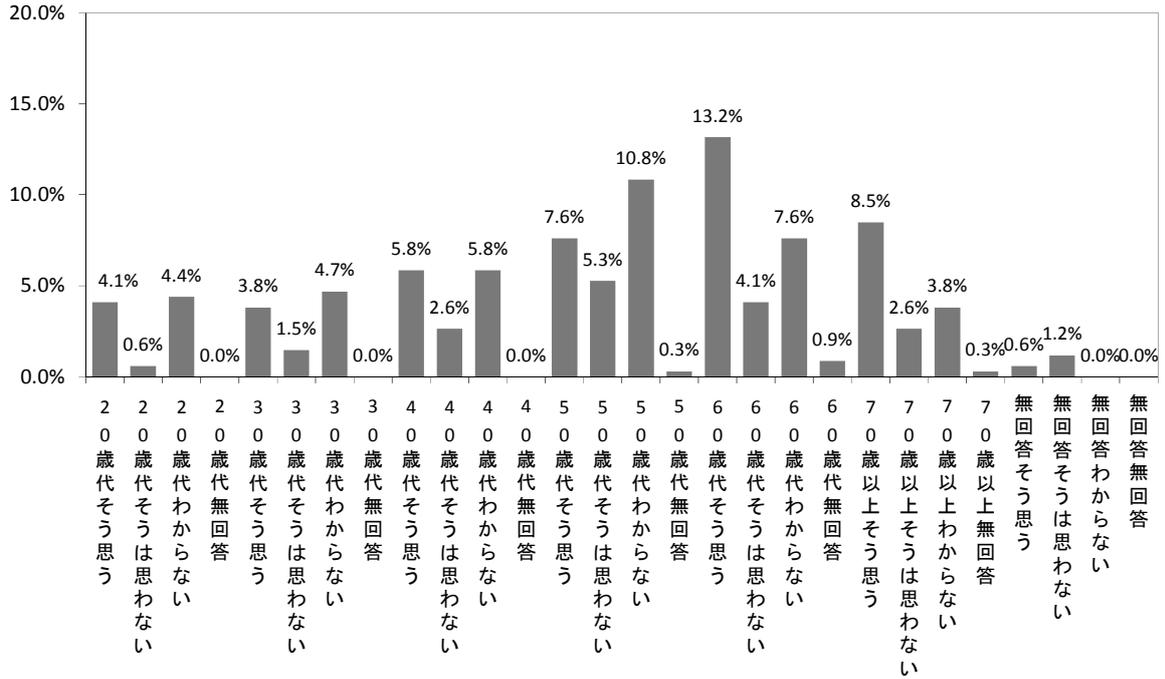
1. 10回以上



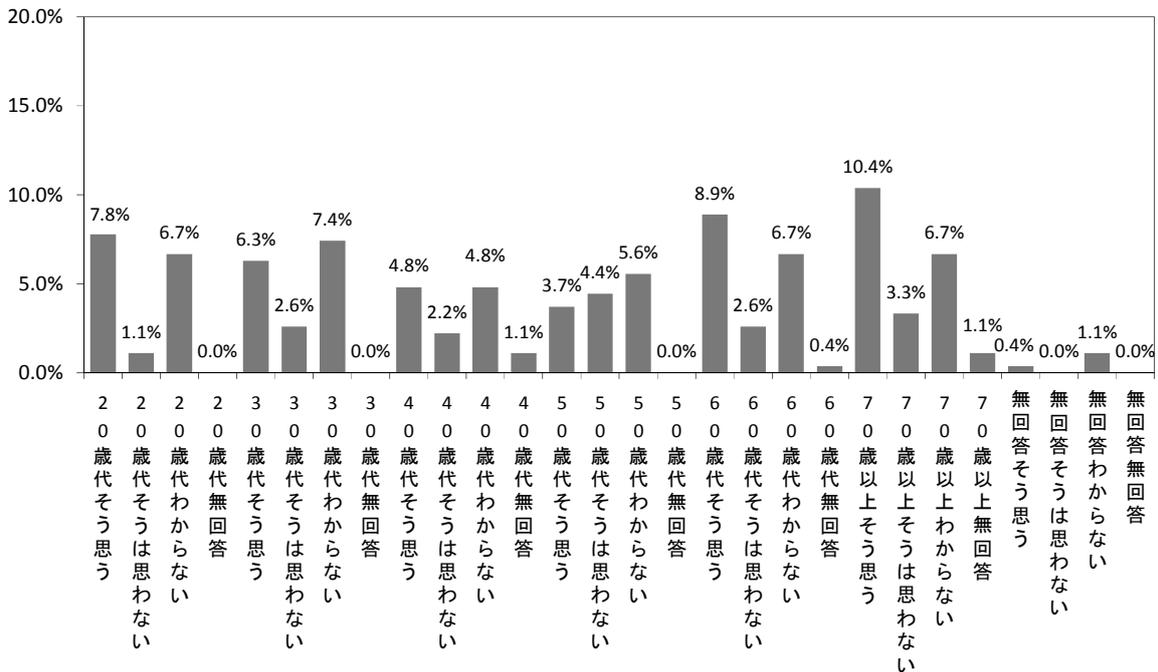
2. 5～9回



3. 1～4回



4. 参加したことがない

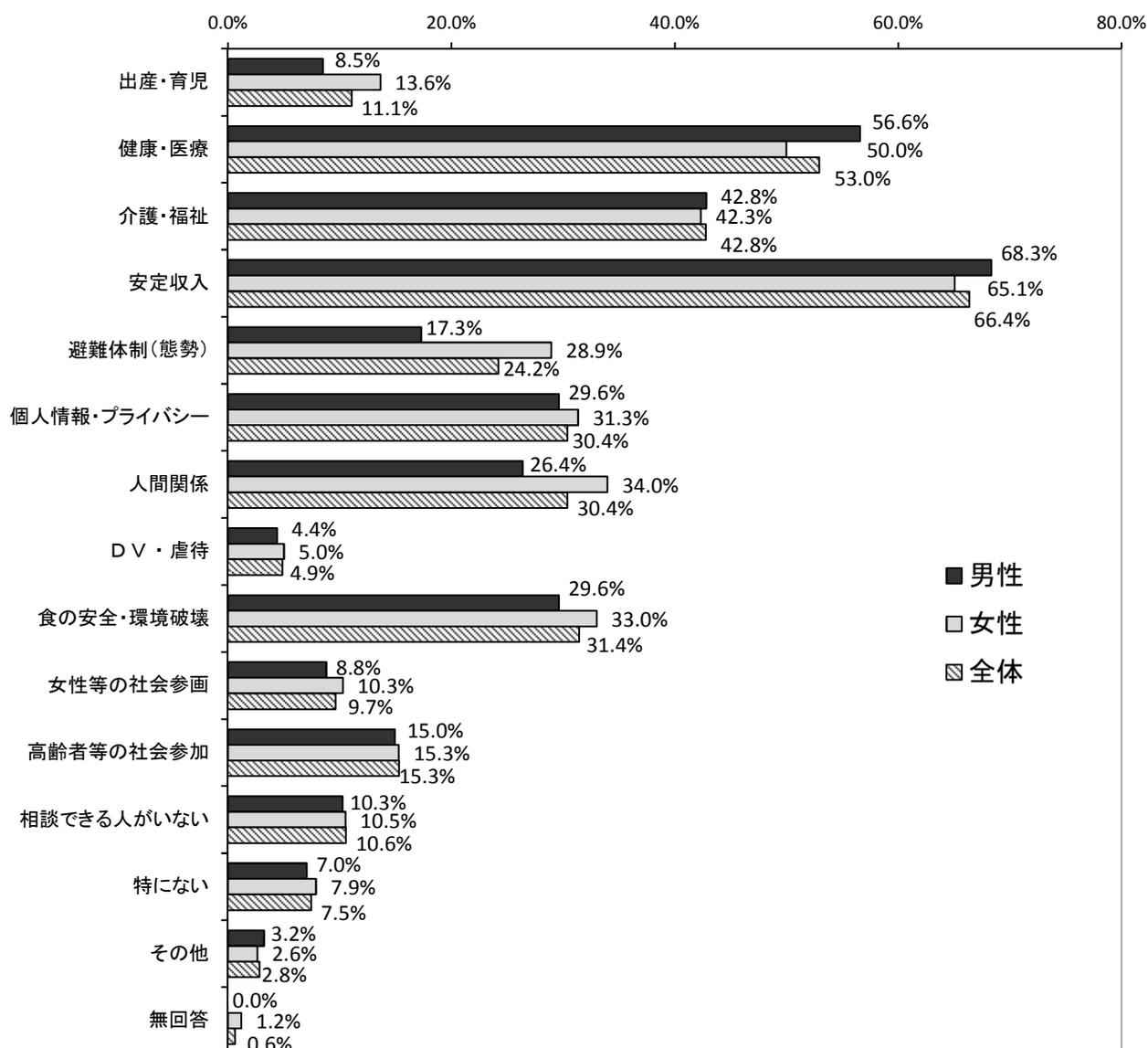


【質問2と質問6-1】

全体では、参加回数が増えるほど「そうは思わない」が高くなっている。しかし、どの参加回数であっても「そう思う」の割合が一番高い。

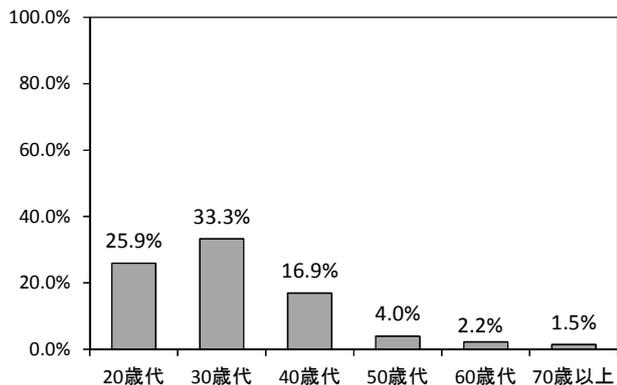
質問3 現在、日常生活の中で、あなたが悩みや不安、疑問を感じているのは、どのようなことについてですか。(〇はいくつでも)

- 1 出産や子育てに関すること
- 2 自分や家族の健康と医療に関すること
- 3 家族の介護や福祉に関すること
- 4 今後も仕事や年金などによる安定した収入が得られるか
- 5 災害などの緊急時における避難体制（態勢）
- 6 個人情報の漏洩やプライバシーの侵害に関すること
- 7 学校、職場、地域での人間関係
- 8 家庭や隣近所におけるDVや虐待
- 9 食の安全や環境破壊に関すること
- 10 地域や職場において、女性や障がいのある人、在住外国人などの参画が進んでいないこと
- 11 高齢者や障がいのある人などの社会参加に関すること
- 12 身近に悩みや困りごとを相談できる人がいない
- 13 特にない
- 14 その他

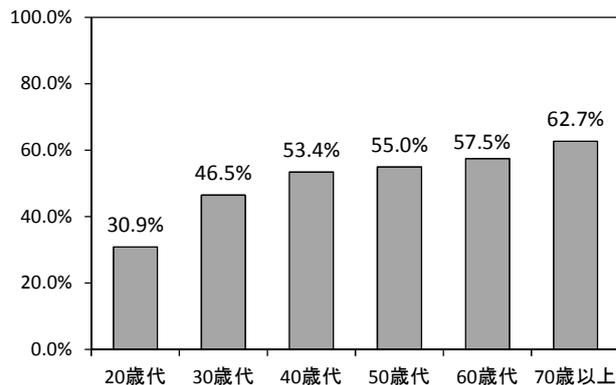


【選択肢・年代別】

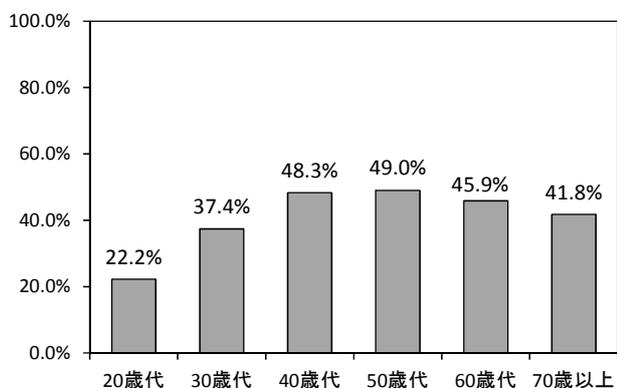
1. 出産・育児



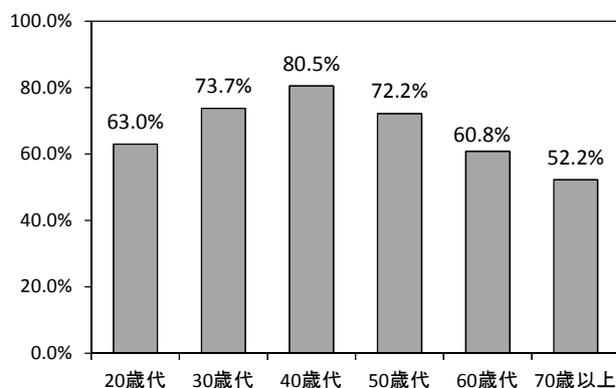
2. 健康・医療



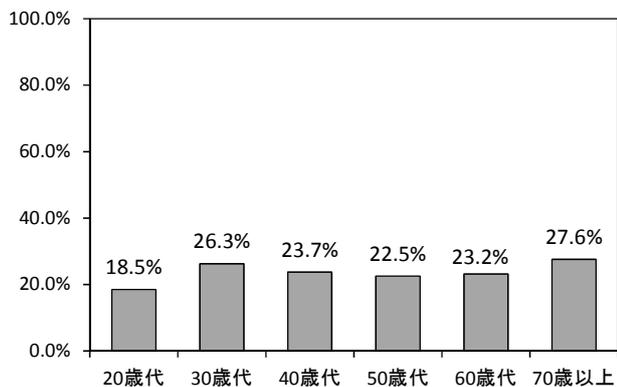
3. 介護・福祉



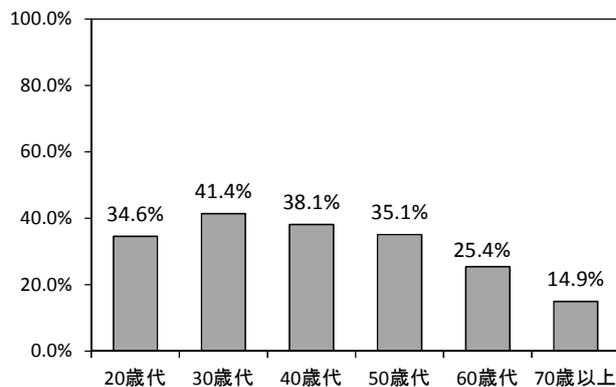
4. 安定収入



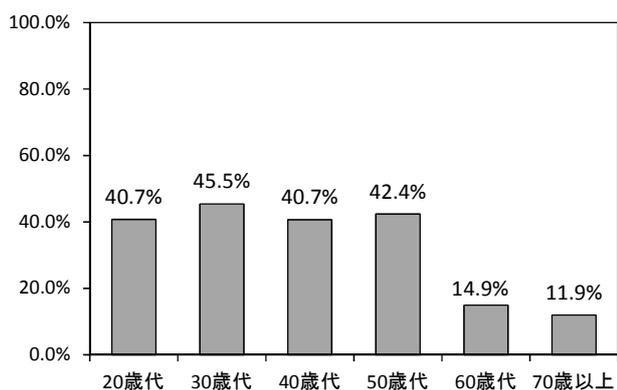
5. 避難体制（態勢）



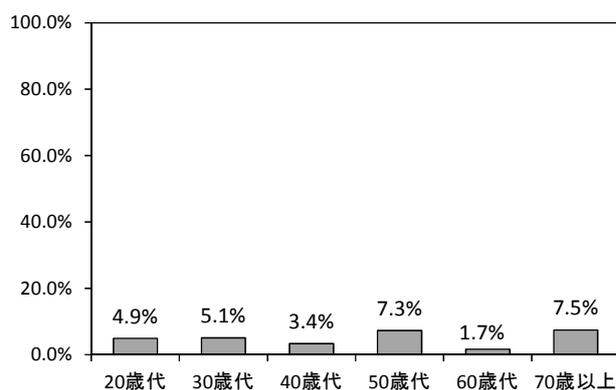
6. 個人情報・プライバシー



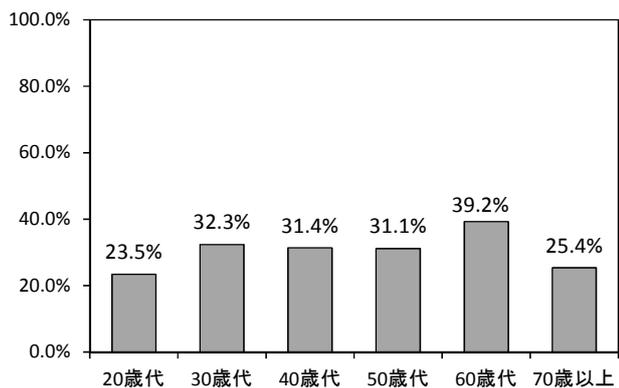
7. 人間関係



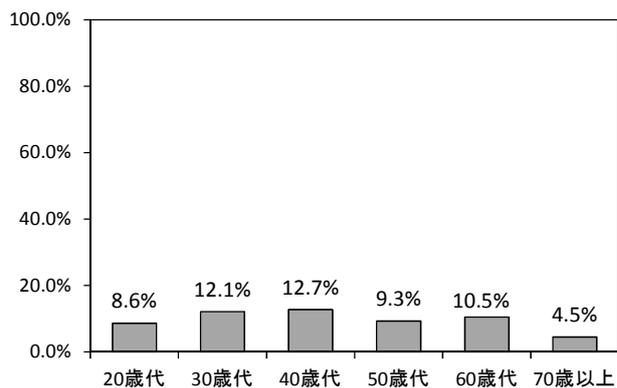
8. DV・虐待



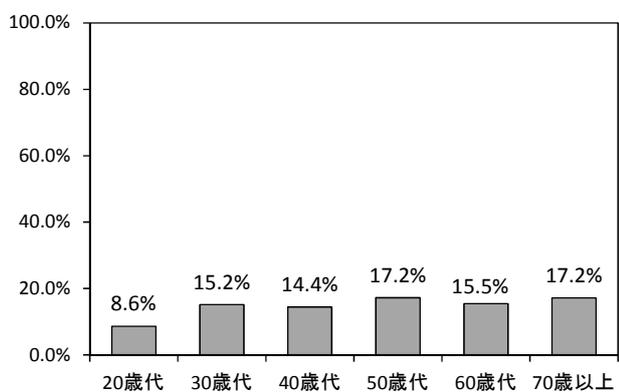
9. 食の安全・環境破壊



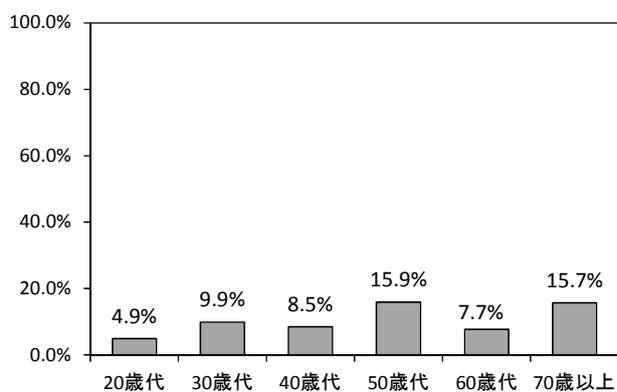
10. 女性等の社会参画



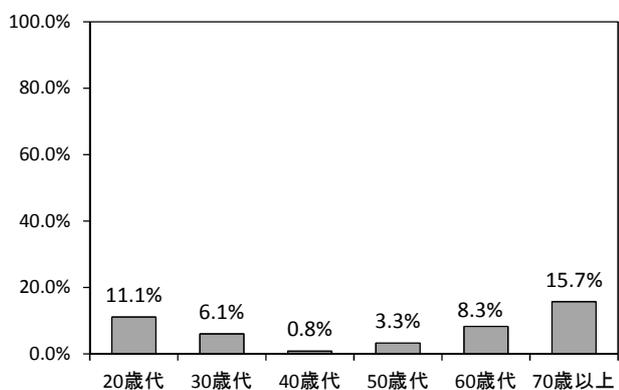
11. 高齢者等の社会参加



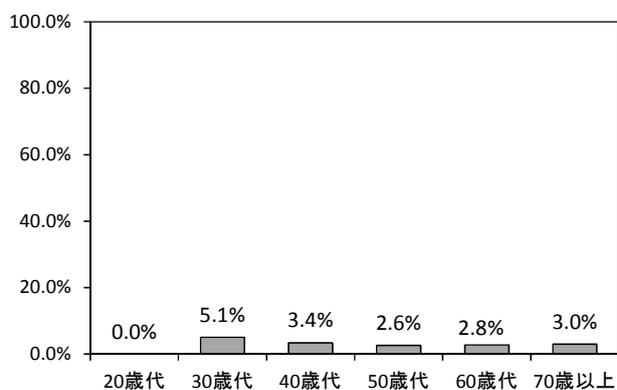
12. 相談できる人がいない



13. 特にない

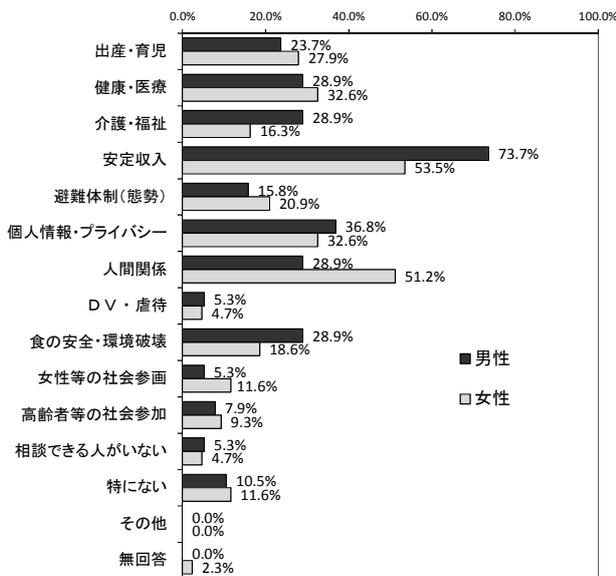


14. その他

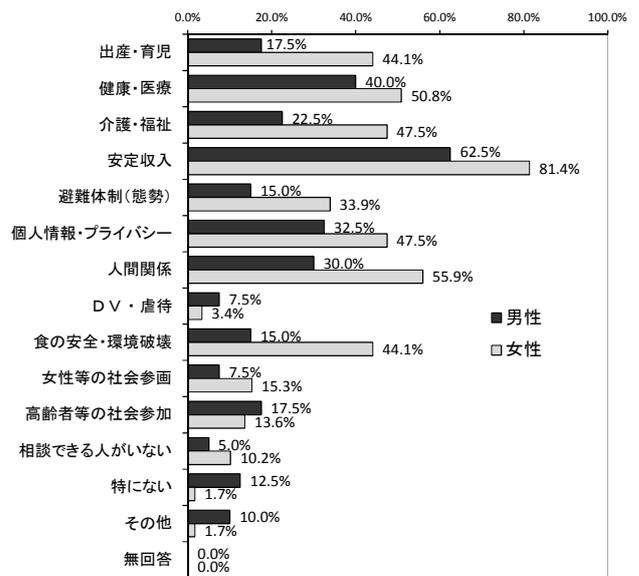


【年代男女別】

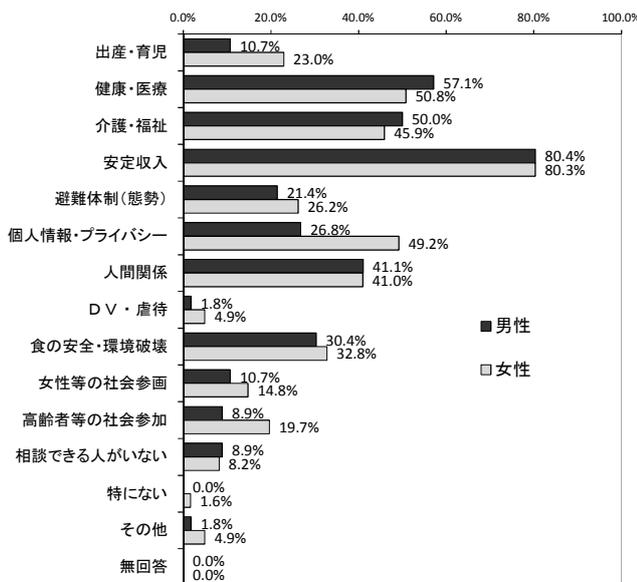
20歳代



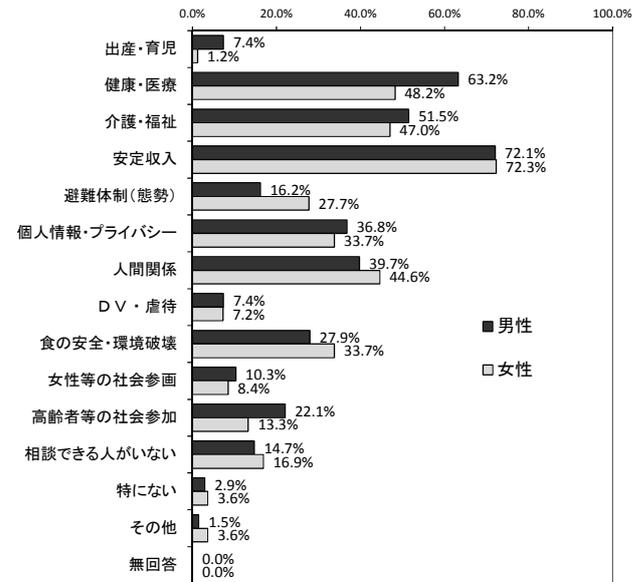
30歳代



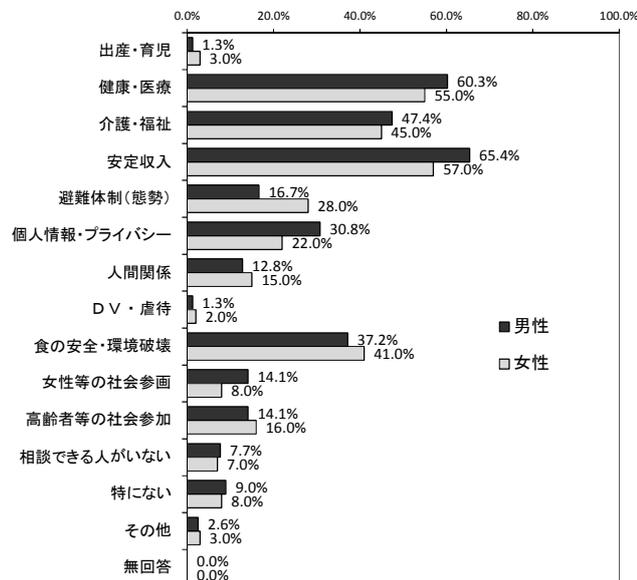
40歳代



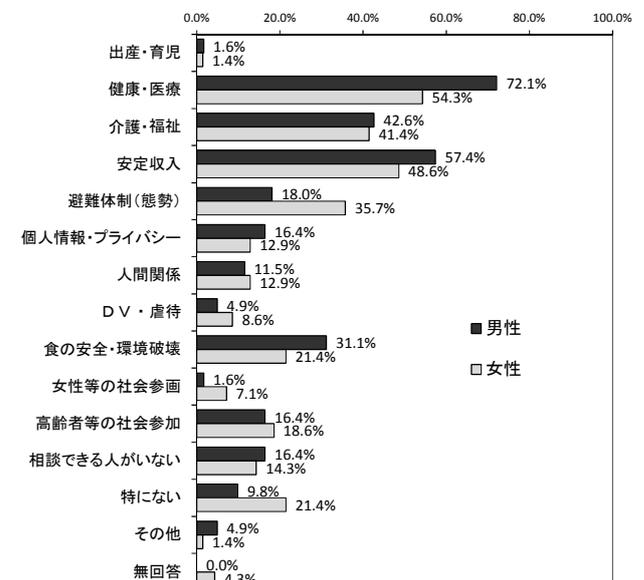
50歳代



60歳代

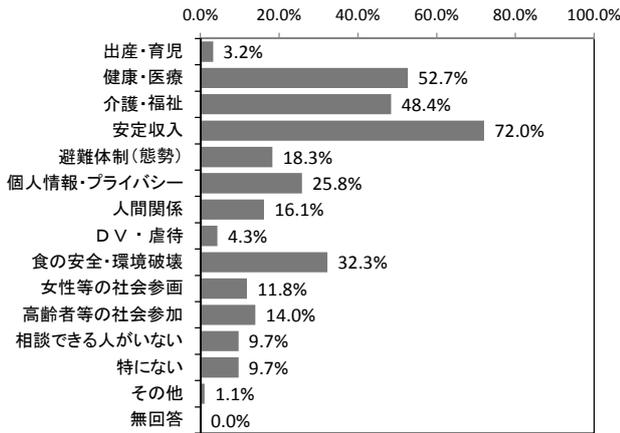


70歳以上

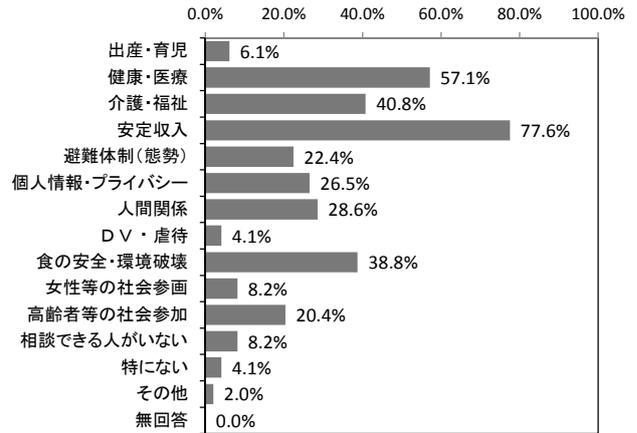


【職業別】

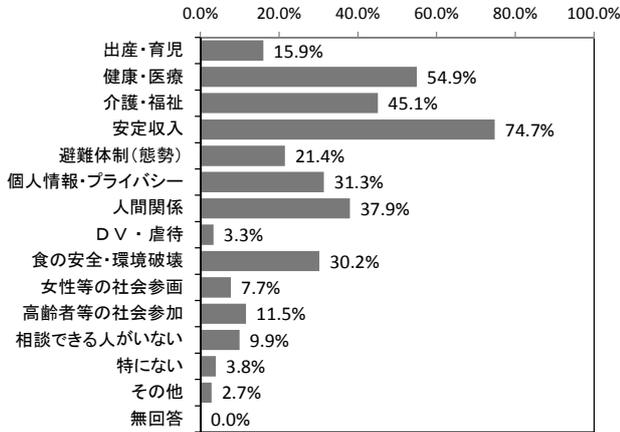
農林漁業者



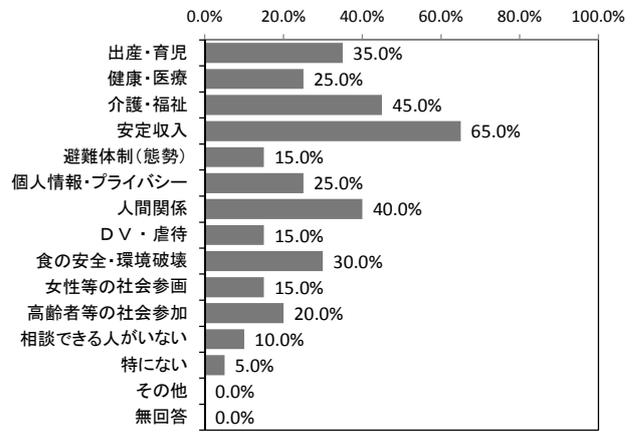
自営業者



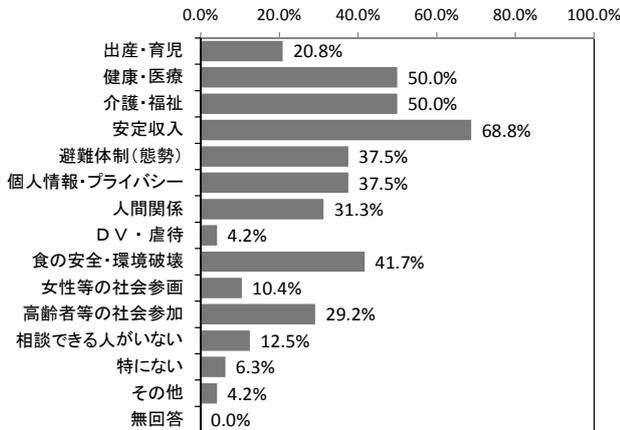
企業・団体職員



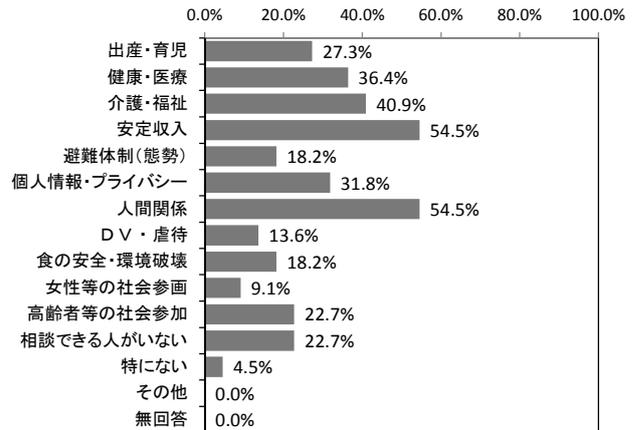
保育士・教員



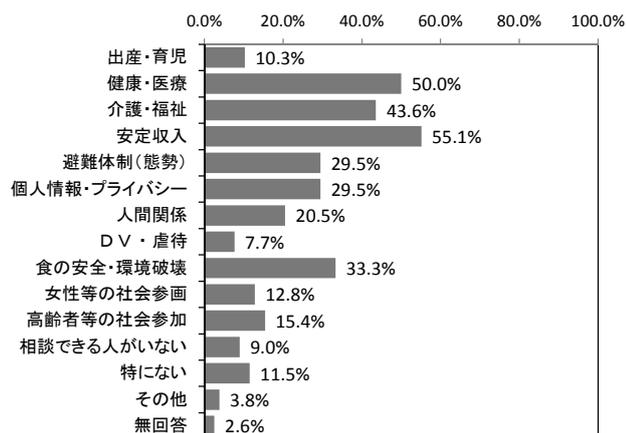
医療・福祉等関係者



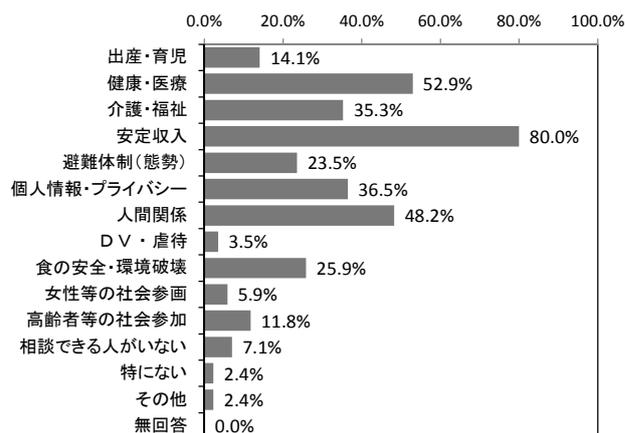
公務員



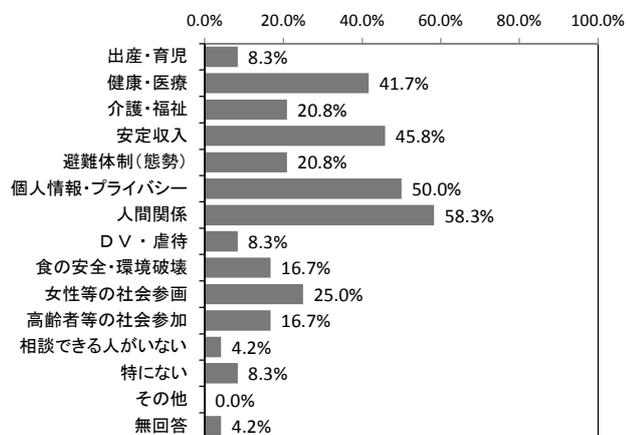
家事従事者



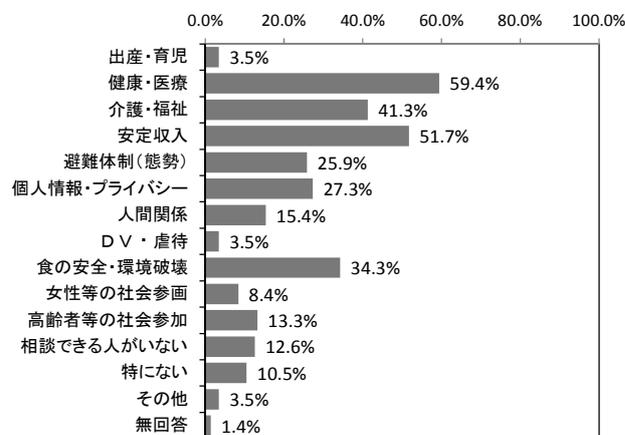
パート・アルバイト等



学生



無職



- 全体では、「安定収入」66.4%が最も高く、次いで「健康・医療」53.0%、「介護・福祉」42.8%と続く。「食の安全・環境破壊」、「人間関係」、「個人情報・プライバシー」がそれぞれ30%程度。「DV・虐待」、「女性等の社会参画」は低い。
- 年代別では、どの年代も「安定収入」が高く、40歳代を頂点とした山型になっている。年代が高くなるにつれ「健康・医療」の割合が高くなり、「介護・福祉」は40歳代～60歳代が同程度である。20歳代～50歳代は「人間関係」が約40%～45%だが、60歳以上になると15%以下と低くなる。
- 男女別では、特に大きな差はみられないが、5ポイント以上差が開いたものとして、「避難体制(態勢)」、「人間関係」、「出産・育児」は女性の方が高く、「健康・医療」は男性の方が高い。
- 年代男女別では、次のような傾向、特徴がみられる。
 - ・ 20歳代は男女とも「安定収入」が最も高いが、女性は「人間関係」が同じくらい高い。男女で大きな差があるのは、「安定収入」(20.2ポイント)、「介護・福祉」(12.6ポイント)、「食の安全・環境破壊」(10.3ポイント)で、いずれも男性の方が高い。「人間関係」は女性の方が22.3ポイント高い。
 - ・ 30歳代は男女とも「安定収入」が最も高いが、男女でいくつも大きな差がみられる。特に大きな差があるのは、「食の安全・環境破壊」(29.1ポイント)、「出産・育児」(26.6ポイント)、「人間関係」(25.9ポイント)、「介護・福祉」(25.0ポイント)、「安定収入」(18.9ポイント)、「避難体制(態勢)」(18.9ポイント)、「個人情報・プライバシー」(15.0ポイント)、「健康・医療」(10.8ポイント)で、

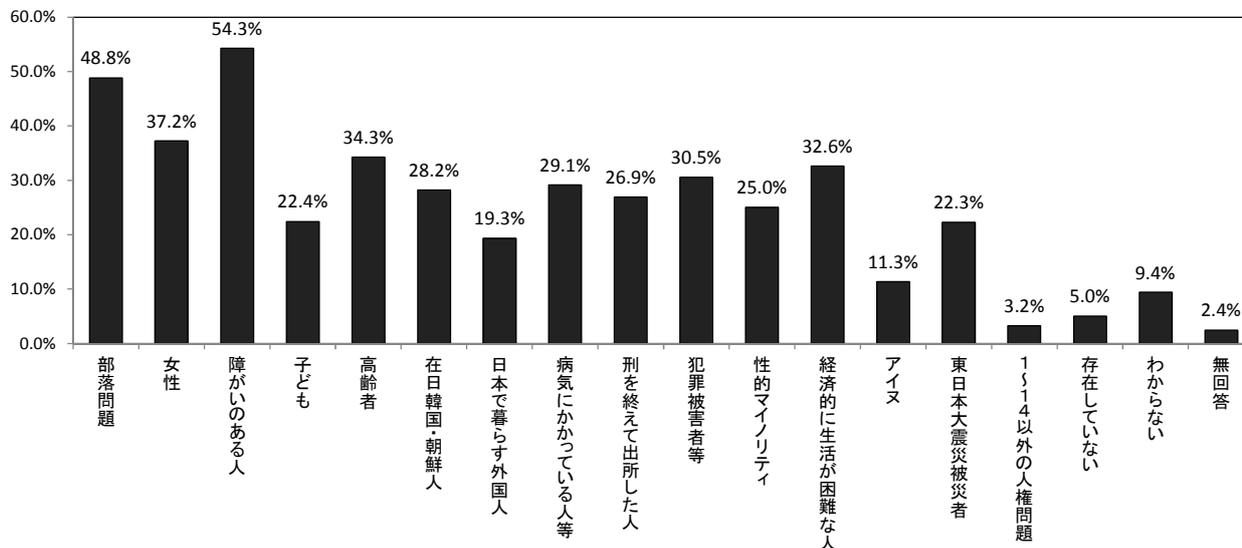
いずれも女性の方が高い。

- ・ 40歳代は男女とも「安定収入」がほぼ同じ割合で最も高い。男女で大きな差があるのは、「個人情報・プライバシー」(22.4ポイント)、「出産・育児」(12.3ポイント)、「高齢者等の社会参加」(10.8ポイント)で、いずれも女性の方が高い。
 - ・ 50歳代は男女とも「安定収入」がほぼ同じ割合で最も高い。「健康・医療」は男性の方が15.0ポイント高く、「避難体制(態勢)」は女性の方が11.5ポイント高い。
 - ・ 60歳代は男女とも「安定収入」が最も高いが、男女とも2番目に高い「健康・医療」とあまり差はない。「避難体制(態勢)」は女性の方が11.3ポイント高い。
 - ・ 70歳以上は男女とも「健康・医療」が最も高いが、男性の方が17.8ポイント高い。「食の安全・環境破壊」は男性の方が9.7ポイント高く、「避難体制(態勢)」は17.7ポイント、「特になし」は11.6ポイント、いずれも女性の方が高い。
- 職業等では、「安定収入」はパート・アルバイト等80.2%が最も高く、自営業者77.1%、企業・団体職員74.7%、農林漁業者72.0%と続く。「健康・医療」は無職59.4%が最も高く、公務員と学生以外は50%以上だった。「介護・福祉」は医療・福祉等関係者50.0%が最も高く、パート・アルバイト等と学生以外は約40%~50%の間である。その他「個人情報・プライバシー」は学生50.0%、「人間関係」は学生58.3%、公務員54.5%が他の職業等よりも高い。

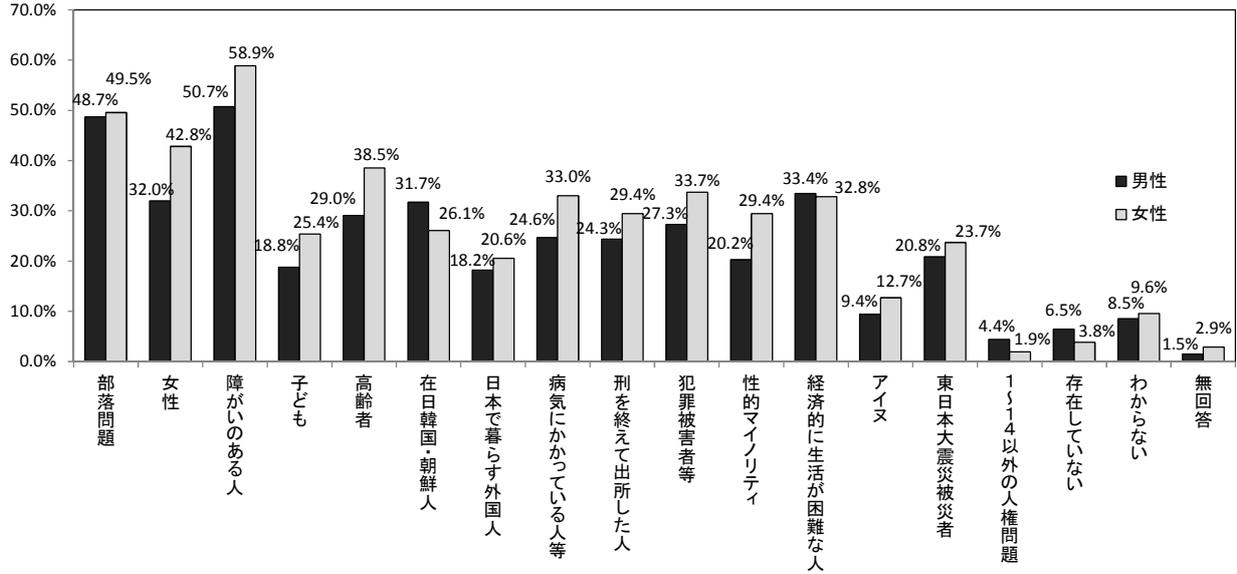
質問4 あなたは、現在どのような人権問題があると思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 部落問題に関する事
- 2 女性に関する事
- 3 障がいのある人に関する事
- 4 子どもに関する事
- 5 高齢者に関する事
- 6 在日韓国・朝鮮人に関する事
- 7 日本で暮らす外国人（在日韓国・朝鮮人以外）に関する事
- 8 病気にかかっている人やその家族に関する事
- 9 刑を終えて出所した人に関する事
- 10 犯罪被害者やその家族、加害者の家族に関する事
- 11 性同一性障がい者や同性愛者等の性的マイノリティ（少数者）に関する事
- 12 経済的に生活が困難な人に関する事
- 13 アイヌの人々に関する事
- 14 東日本大震災による被災者に関する事
- 15 1～14以外の人権問題に関する事（具体的に：)
- 16 差別や偏見が存在しているとは思わない
- 17 わからない

【全体】

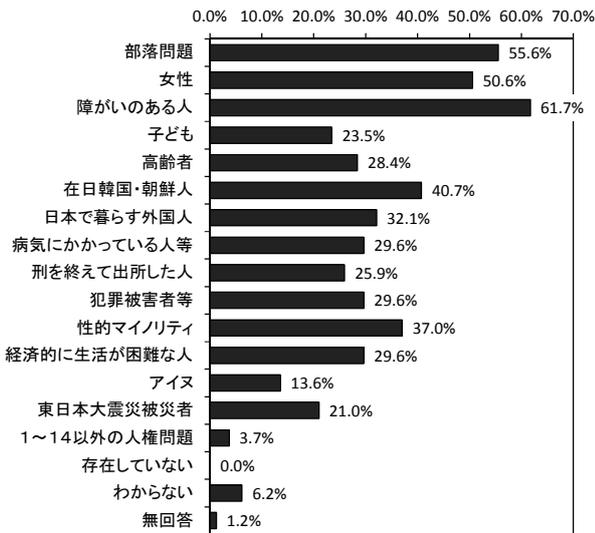


【男女別】

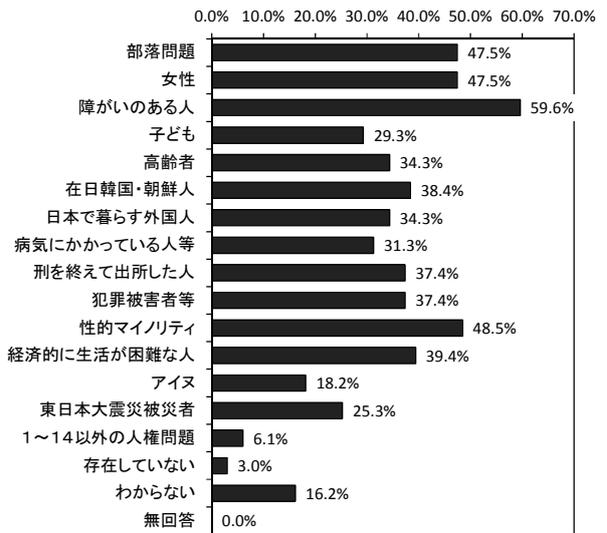


【年代別】

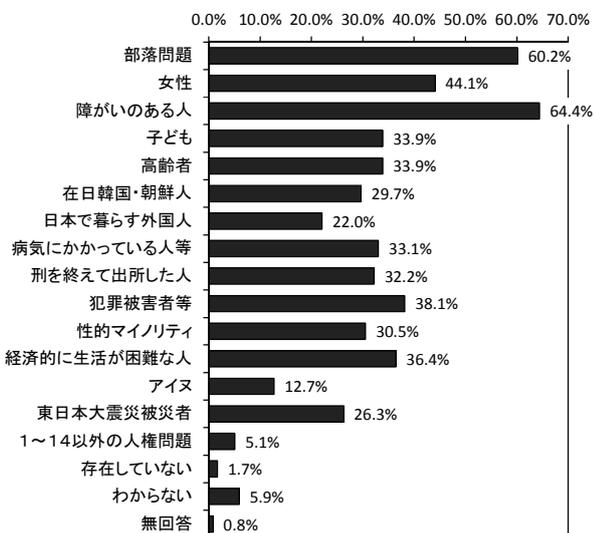
20歳代



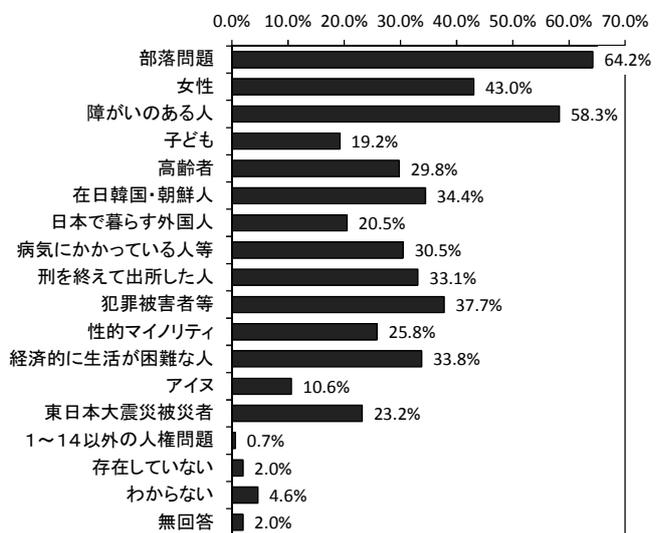
30歳代



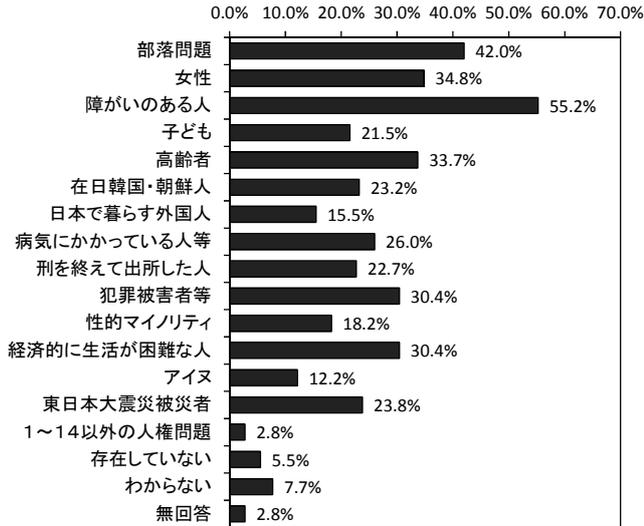
40歳代



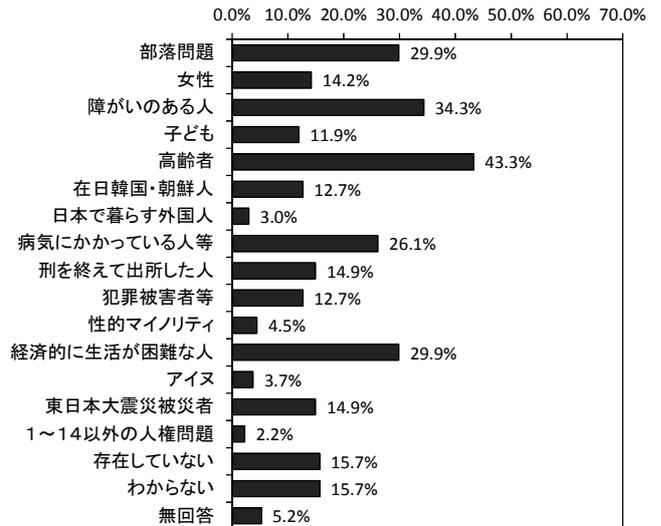
50歳代



60歳代

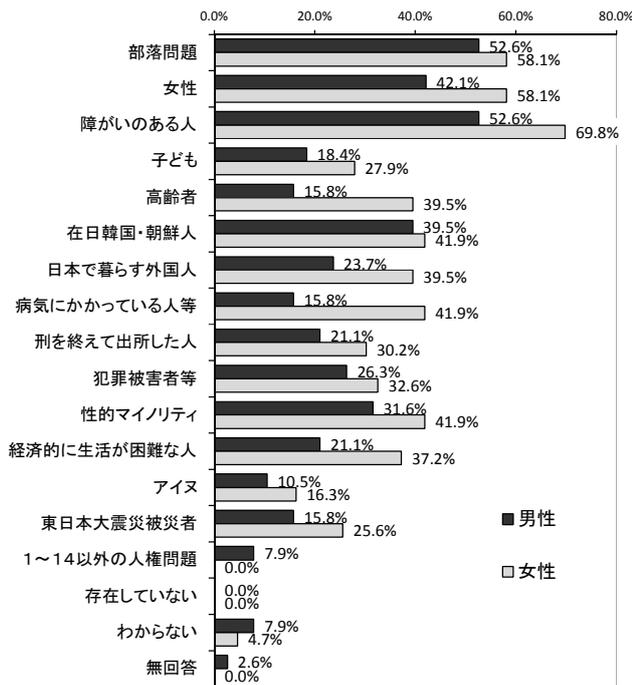


70歳以上

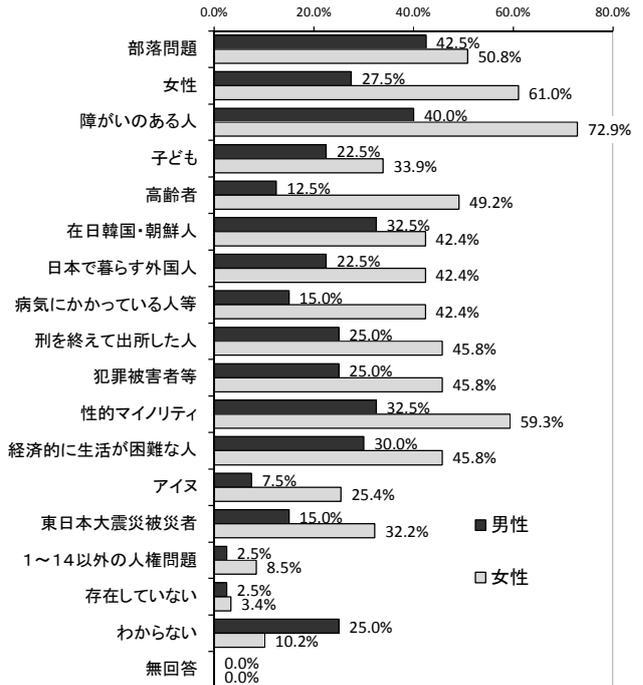


【年代男女別】

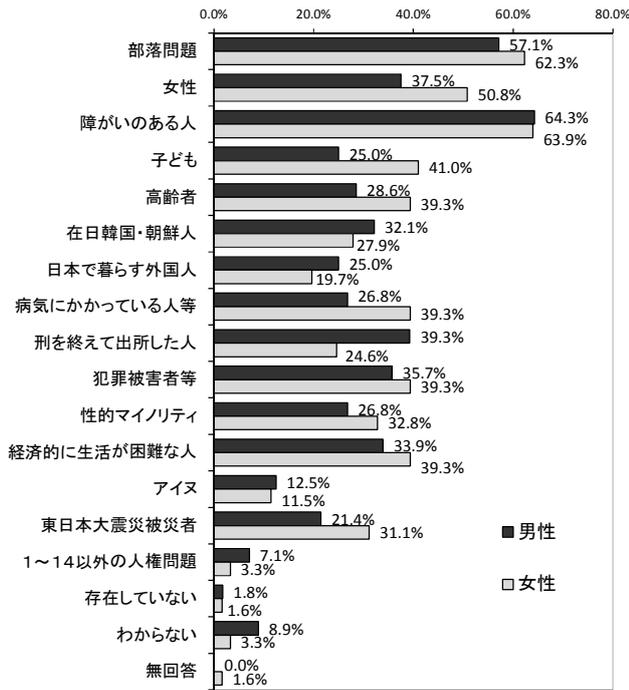
20歳代



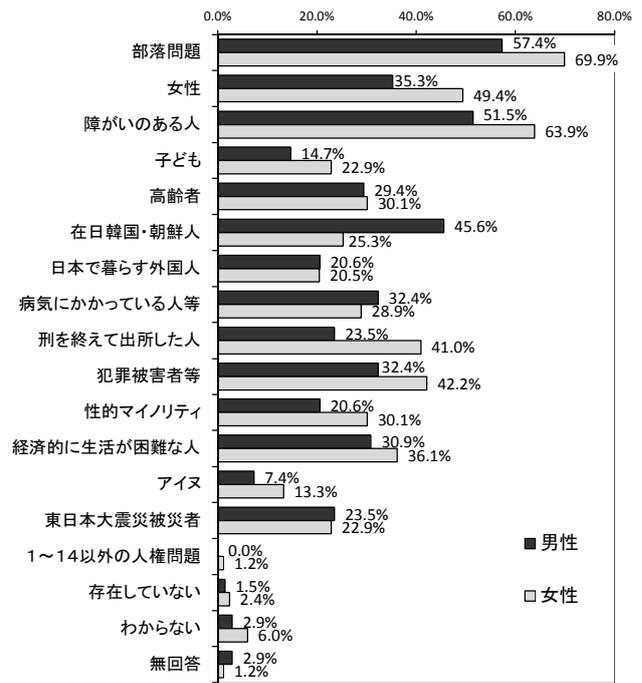
30歳代



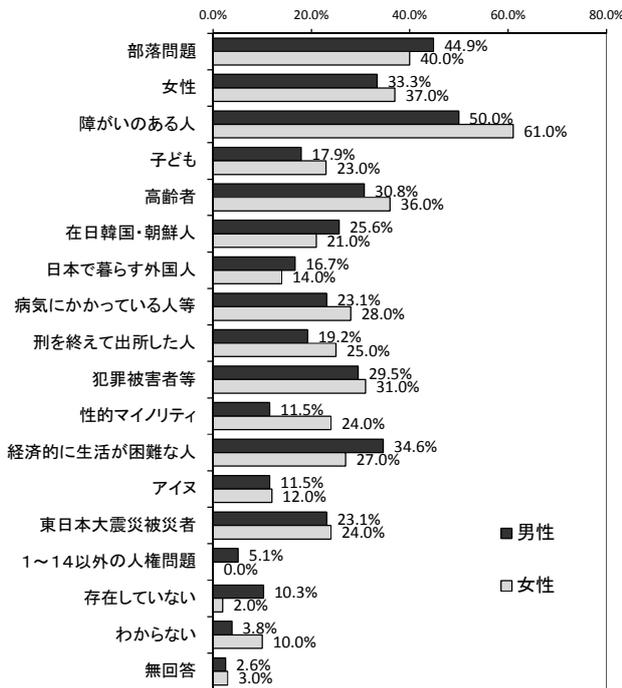
40歳代



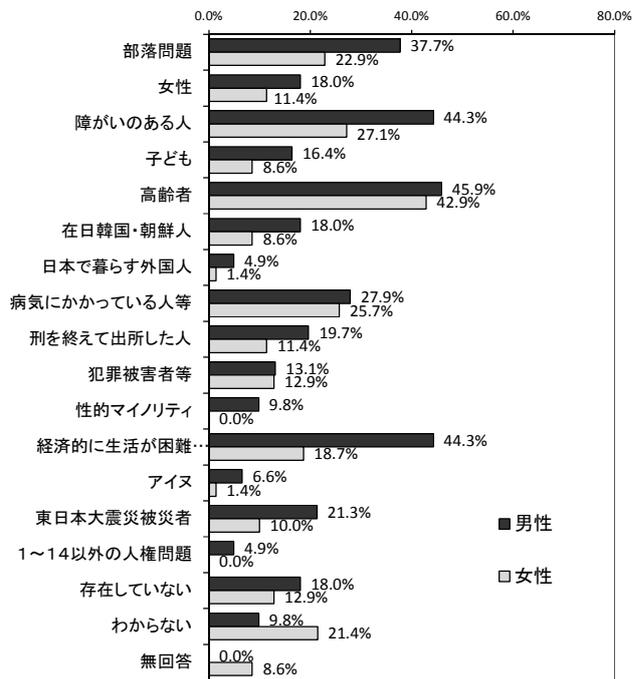
50歳代



60歳代

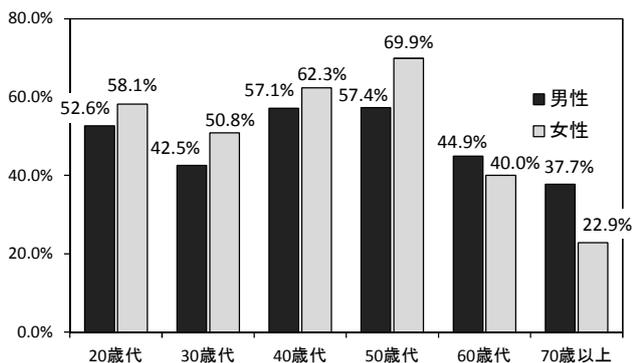


70歳以上

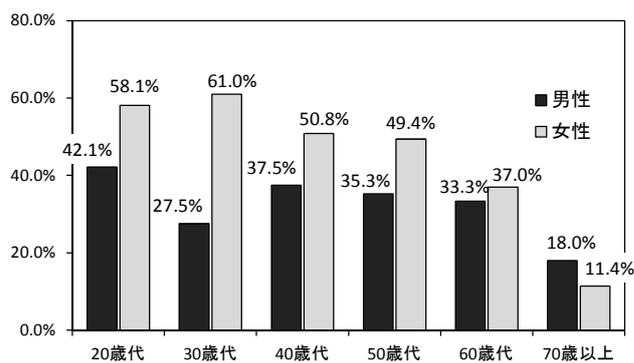


【選択肢・年代男女別】

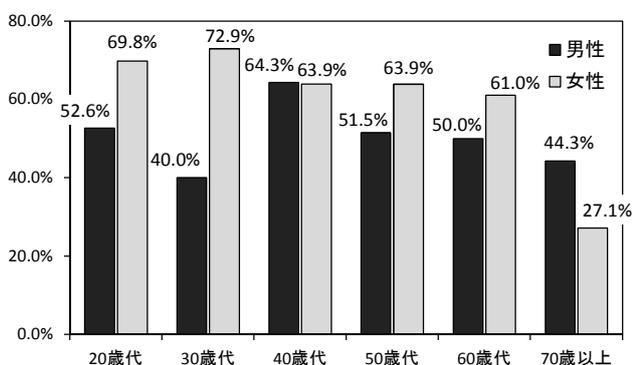
1. 部落問題



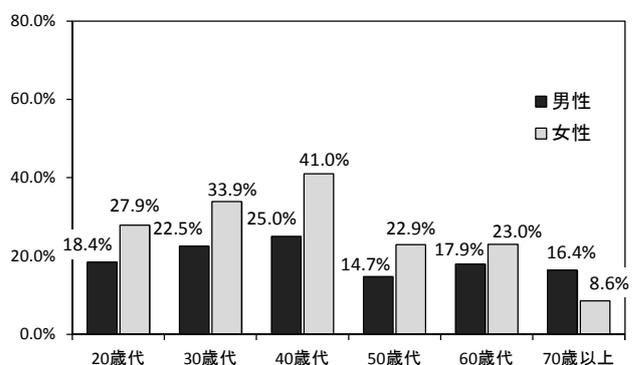
2. 女性



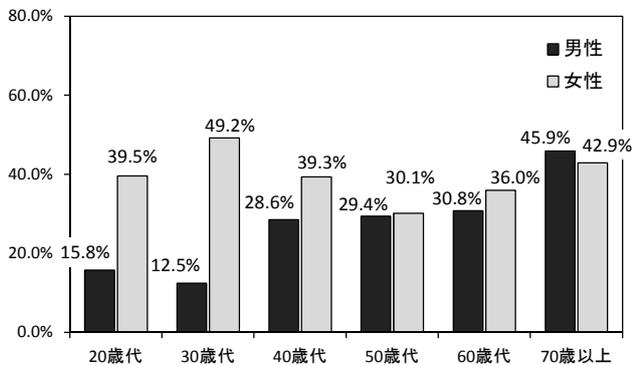
3. 障がいのある人



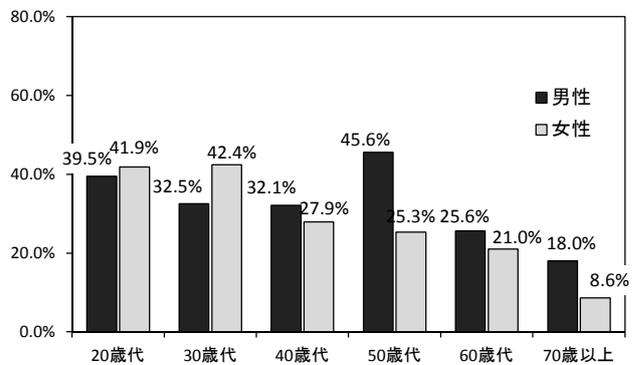
4. 子ども



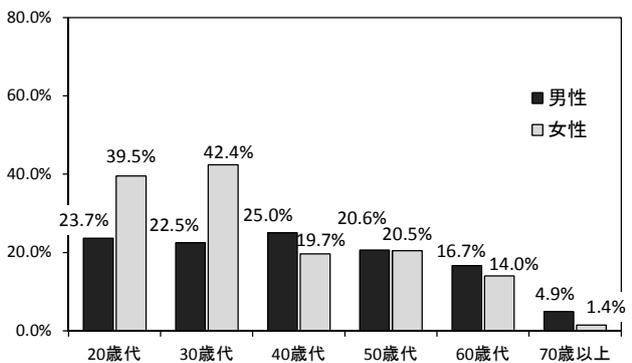
5. 高齢者



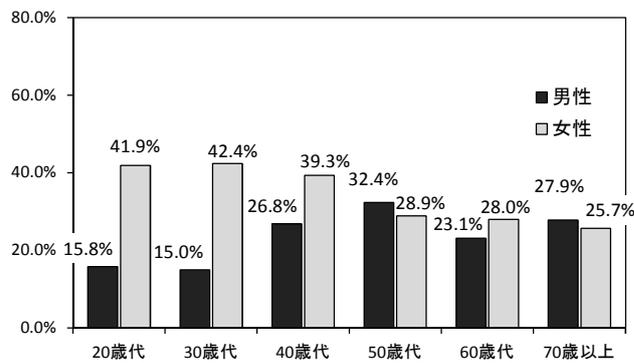
6. 在日韓国・朝鮮人



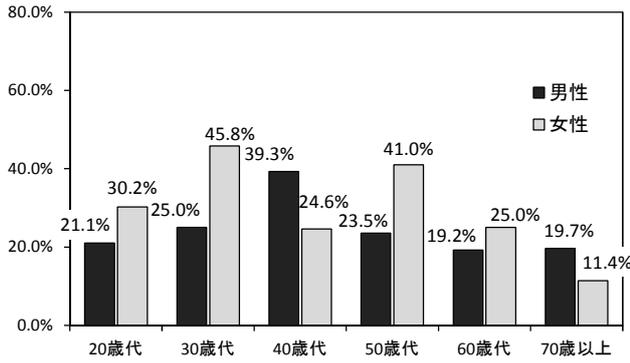
7. 日本で暮らす外国人



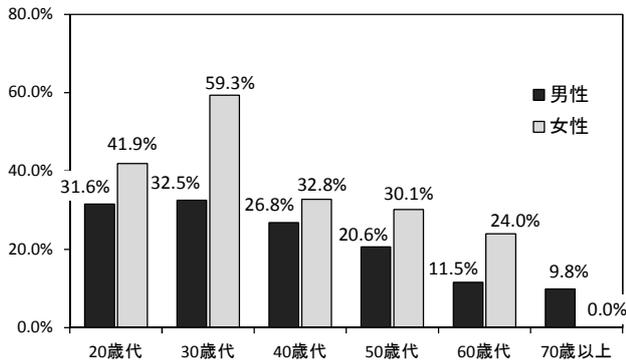
8. 病気にかかっている人等



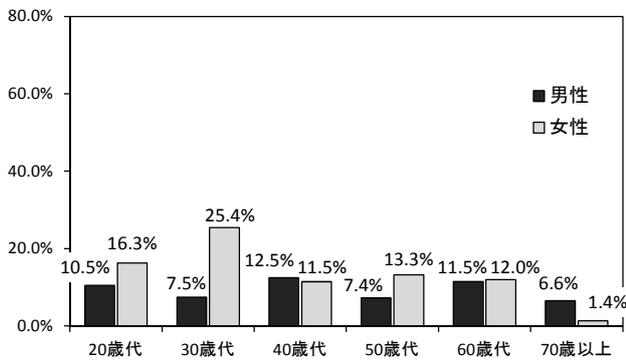
9. 刑を終えて出所した人



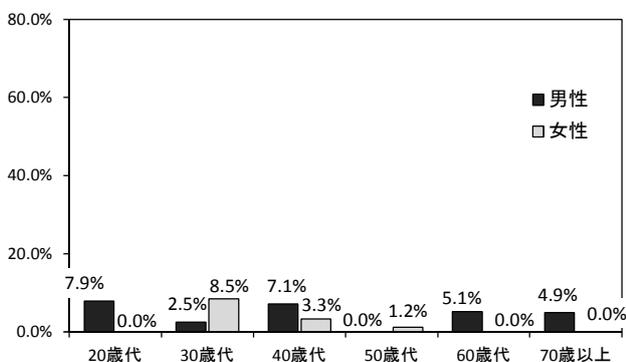
11. 性的マイノリティ



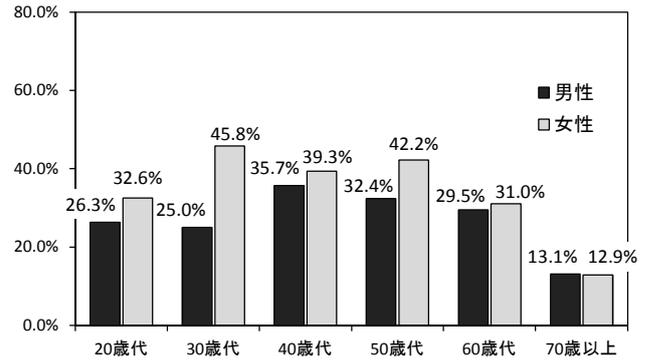
13. アイヌ



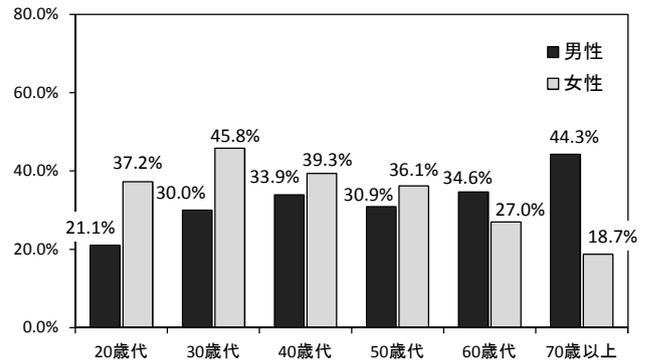
15. 1～14以外の人権問題



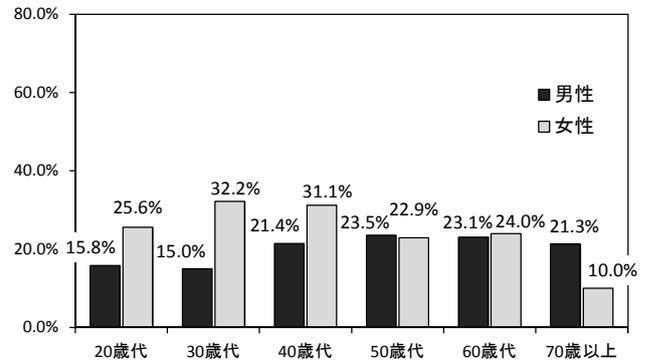
10. 犯罪被害者等



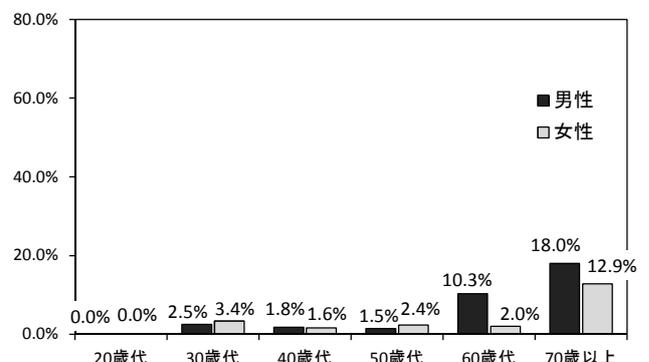
12. 経済的に生活が困難な人



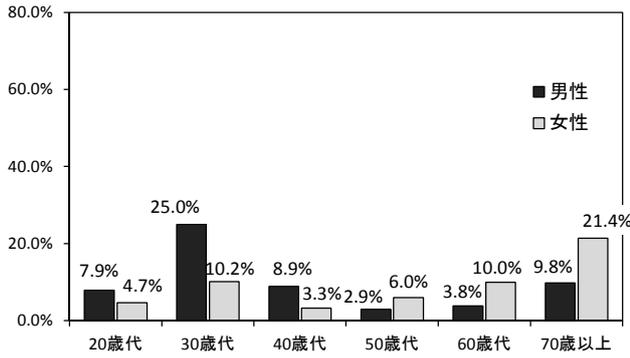
14. 東日本大震災被災者



16. 存在していない

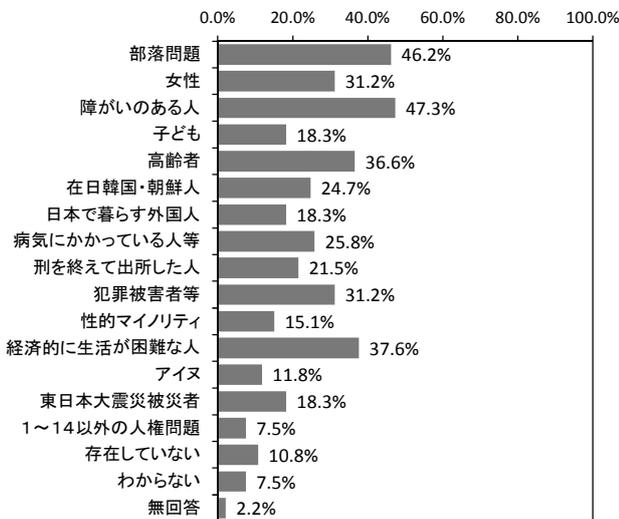


17. わからない

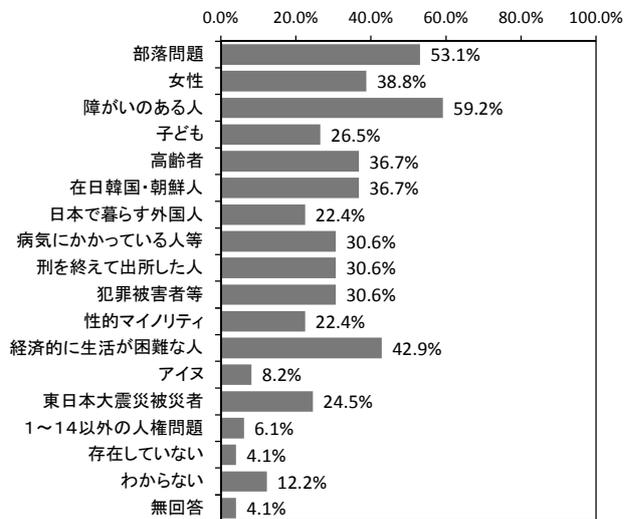


【職業別】

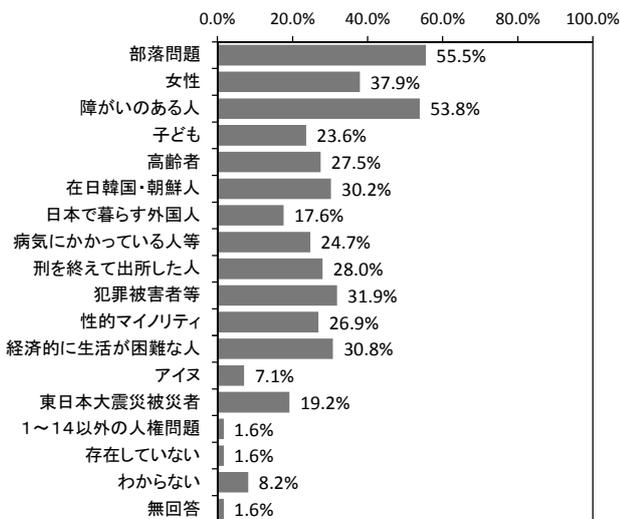
農林漁業者



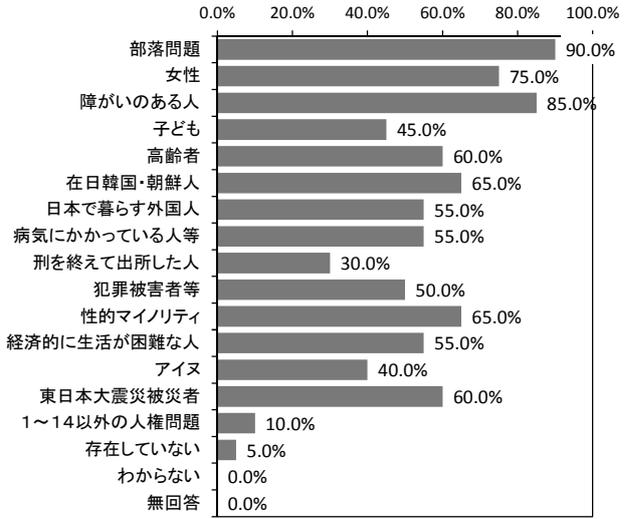
自営業者



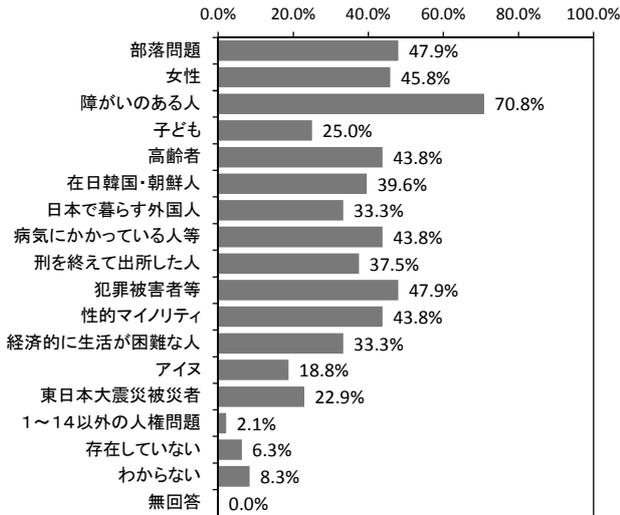
企業・団体職員



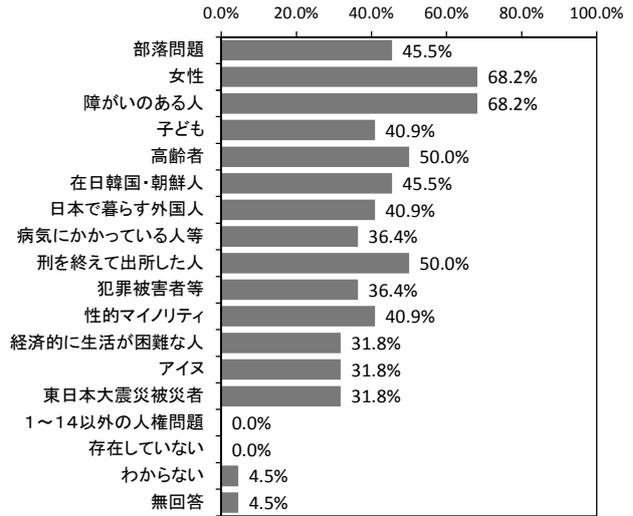
保育士・教員



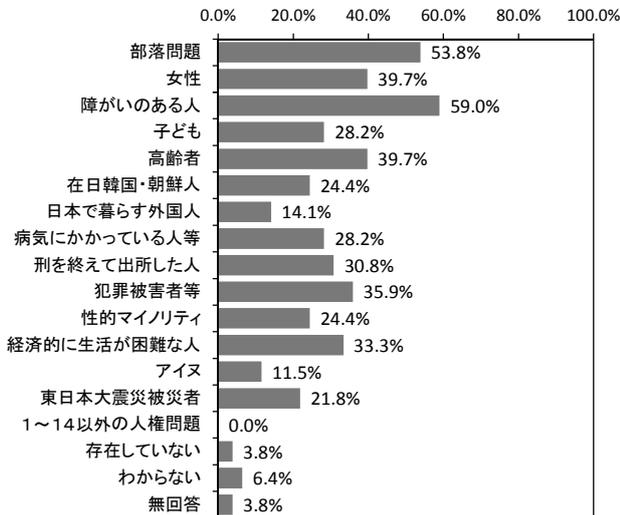
医療・福祉等関係者



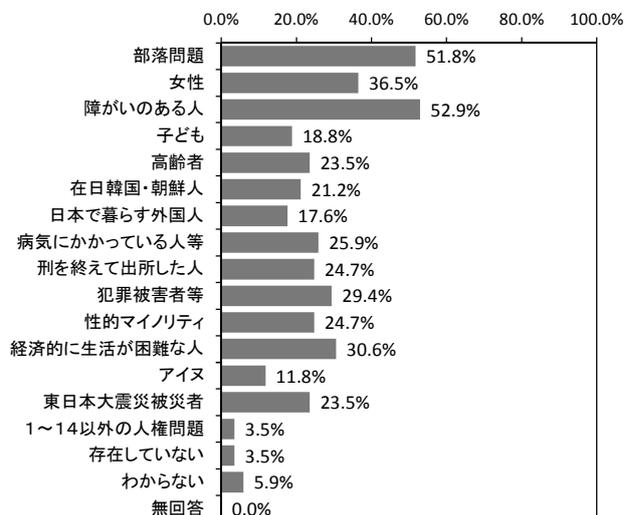
公務員



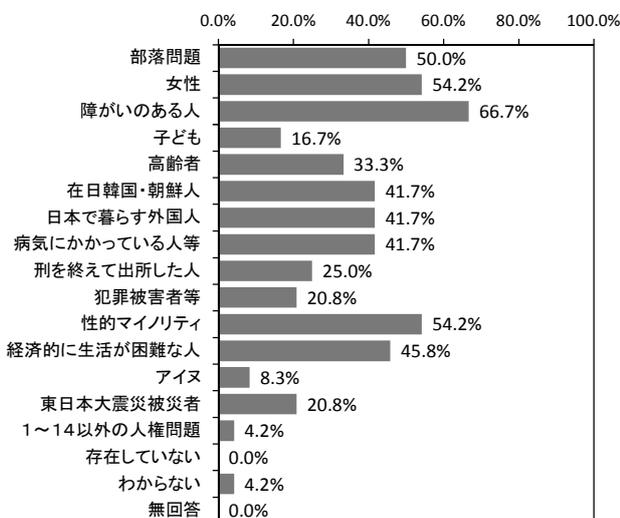
家事従事者



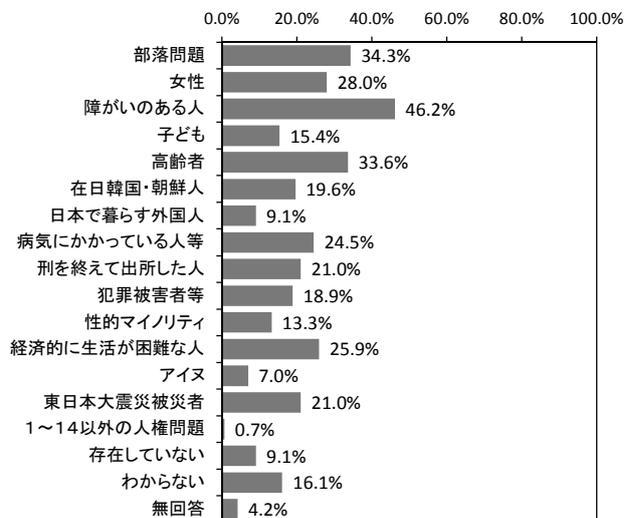
パート・アルバイト等



学生

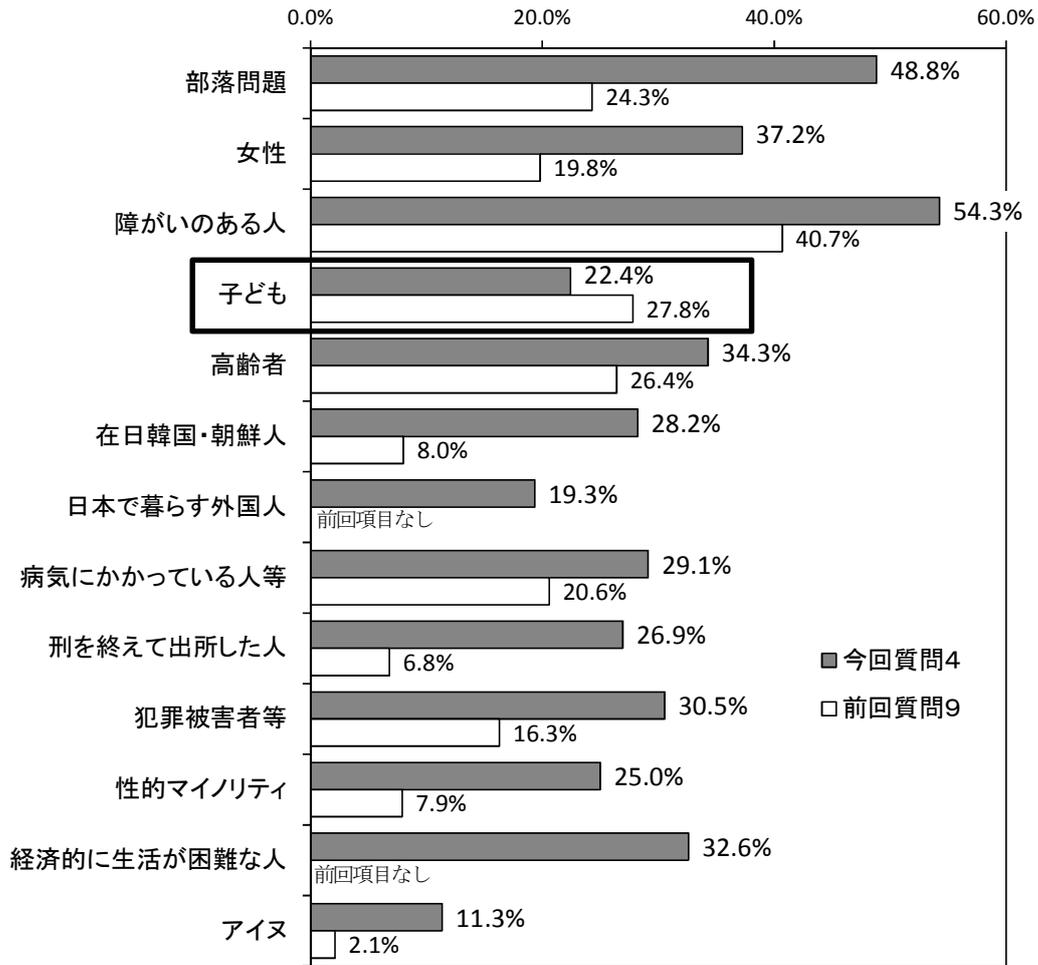


無職



- 全体では、「障がいのある人」54.3%が最も高く、「部落問題」、「女性」、「高齢者」、「経済的に生活が困難な人」、「犯罪被害者等」、「病気にかかっている人等」、「在日韓国・朝鮮人」、「刑を終えて出所した人」、「性的マイノリティ」、「子ども」、「東日本大震災被災者」、「日本で暮らす外国人」、「アイヌ」、「わからない」、「存在していない」、「それ以外の人権問題」の順である。
- 年代別では、次のような傾向、特徴がみられる。
 - ・ 50歳代以外は「障がいのある人」、50歳代は「部落問題」が最も高い。
 - ・ 「女性」は年代が高くなるにつれて割合が低くなる。
 - ・ 70歳以上は「高齢者」のみ40%を超えているが、それ以外は全体的に低い。また、「存在していない」、「わからない」が、他の年代よりも高い。
 - ・ 30ポイント以上差が開いたものは、「性的マイノリティ」（30歳代と70歳以上で44.0ポイント）、「女性」（20歳代と70歳以上で36.4ポイント）、「部落問題」（50歳代と70歳以上で34.3ポイント）、「日本で暮らす外国人」（30歳代と70歳以上で31.1ポイント）、「障がいのある人」（40歳代と70歳以上で30.1ポイント）である。
 - ・ どの年代も「アイヌ」が低い。
- 男女別では、ともに「障がいのある人」、「部落問題」が1番目、2番目に高い。男性は「経済的に生活が困難な人」、「女性」、「在日韓国・朝鮮人」と続き、女性は「女性」、「高齢者」、「犯罪被害者等」が続く。「女性」（10.8ポイント）、「高齢者」（9.5ポイント）、「性的マイノリティ」（9.2ポイント）、「病気にかかっている人等」（8.4ポイント）、「障がいのある人」（8.2ポイント）で差があり、いずれも女性の方が高い。
- 年代男女別では、次のような傾向、特徴がみられる。
 - ・ 20歳代男女は「病気にかかっている人等」、「高齢者」で20ポイント以上の差がある。「障がいのある人」、「経済的に生活が困難な人」、「女性」、「日本で暮らす外国人」も16ポイント前後の差がある。どの人権問題も女性の方が高い。
 - ・ 30歳代女性は「子ども」、「在日韓国・朝鮮人」、「部落問題」以外は、どれも年代男女中で最も高い。逆に、男性は全体的に低い傾向にあり、特に「高齢者」と「病気にかかっている人等」は、年代男女中で最も低い。男女で大きな差があり、特に「高齢者」、「女性」、「障がいのある人」は30ポイント以上、「病気にかかっている人等」、「性的マイノリティ」、「刑を終えて出所した人」、「犯罪被害者等」は20ポイント以上の差がある。
 - ・ 40歳代は男女で20ポイント以上差が開いたものはない。「子ども」、「女性」、「病気にかかっている人等」は女性の方が、「刑を終えて出所した人」は男性の方が、それぞれ15ポイント程度高い。
 - ・ 50歳代は「在日韓国・朝鮮人」は男性の方が20.3ポイント高く、「刑を終えて出所した人」は17.5ポイント、「女性」は14.1ポイント、女性の方が高い。
 - ・ 60歳代は男女であまり大きな差はない。
 - ・ 70歳以上はどの人権問題についても男性の方が高い。また、女性は「高齢者」と「病気にかかっている人等」以外、年代男女中で最も低い。男女で大きな差があるのは、「経済的に生活が困難な人」（25.7ポイント）、「障がいのある人」（17.2ポイント）、「部落問題」（14.8ポイント）。
- 職業等でみると、「刑を終えて出所した人」以外どの人権問題についても保育士・教員が最も高い。保育士・教員は「部落問題」が90.0%で突出しているが、職業に深くかわる「子ども」は45.0%にとどまっている。また、職業等によって差はあるが、どの職業等も概ね「障がいのある人」、「部落問題」が高い。公務員は「部落問題」が低い。

<参考> ※前回調査の質問9と比較



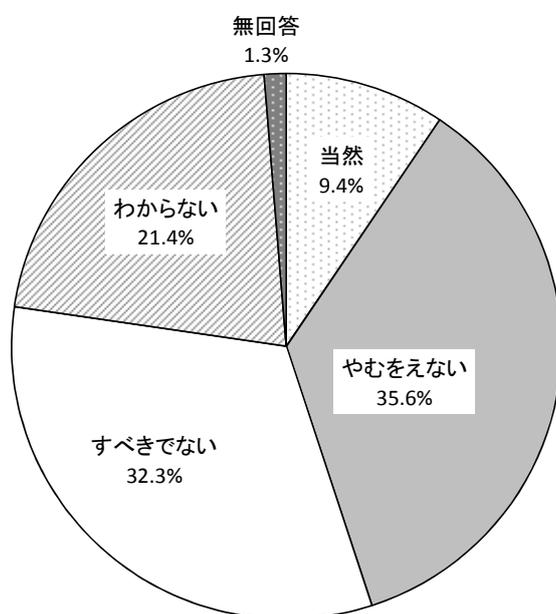
前回調査で「学習したいもの」を聞いたときには「子ども」が高かったが、今回のような質問では低い。

質問5-1 結婚のときに身元調査することを、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

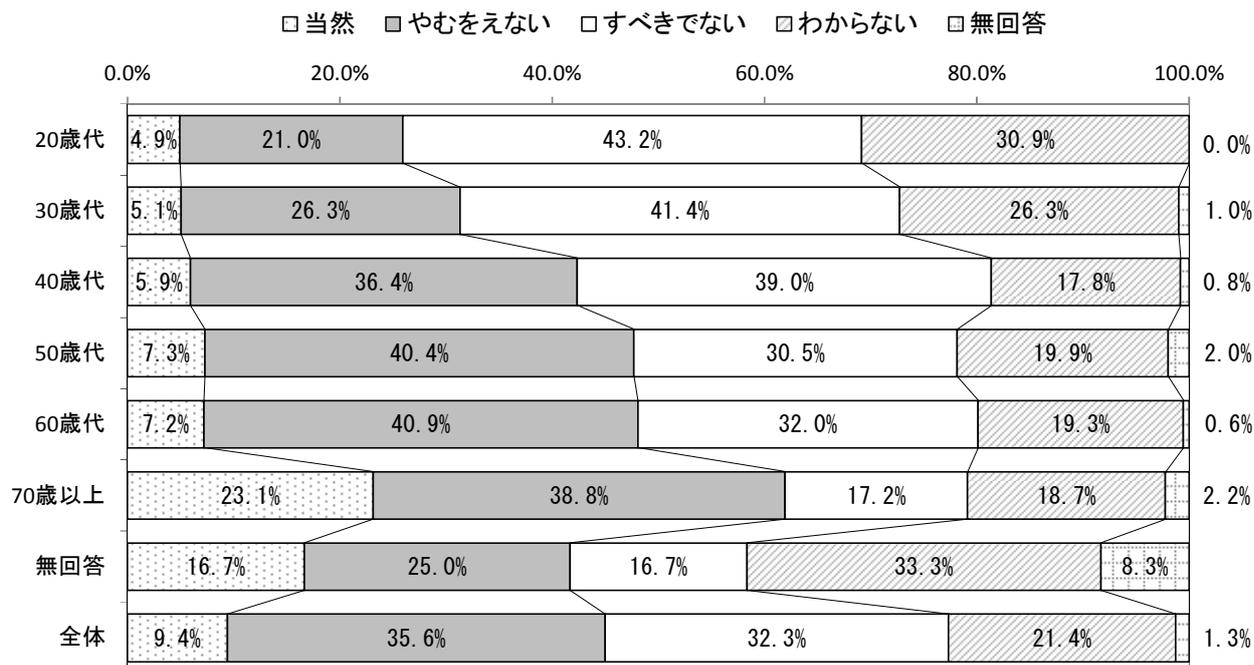
- 1 当然である
- 2 やむをえない
- 3 すべきでない
- 4 わからない

質問5-1		1. 当然		2. やむをえない		3. すべきでない		4. わからない		無回答		全体
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
20歳代	男性	2	5.3	5	13.2	16	42.1	15	39.5	0	0.0	38
	女性	2	4.7	12	27.9	19	44.2	10	23.3	0	0.0	43
	計	4	4.9	17	21.0	35	43.2	25	30.9	0	0.0	81
30歳代	男性	3	7.5	9	22.5	14	35.0	14	35.0	0	0.0	40
	女性	2	3.4	17	28.8	27	45.8	12	20.3	1	1.7	59
	計	5	5.1	26	26.3	41	41.4	26	26.3	1	1.0	99
40歳代	男性	6	10.7	19	33.9	21	37.5	9	16.1	1	1.8	56
	女性	1	1.6	23	37.7	25	41.0	12	19.7	0	0.0	61
	無回答	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1
	計	7	5.9	43	36.4	46	39.0	21	17.8	1	0.8	118
50歳代	男性	5	7.4	31	45.6	19	27.9	13	19.1	0	0.0	68
	女性	6	7.2	30	36.1	27	32.5	17	20.5	3	3.6	83
	計	11	7.3	61	40.4	46	30.5	30	19.9	3	2.0	151
60歳代	男性	6	7.7	31	39.7	24	30.8	16	20.5	1	1.3	78
	女性	6	6.0	42	42.0	34	34.0	18	18.0	0	0.0	100
	無回答	1	33.3	1	33.3	0	0.0	1	33.3	0	0.0	3
	計	13	7.2	74	40.9	58	32.0	35	19.3	1	0.6	181
70歳以上	男性	11	28.0	28	45.9	14	23.0	8	13.1	0	0.0	61
	女性	19	27.1	23	32.9	9	12.9	16	22.9	3	4.3	70
	無回答	1	33.3	1	33.3	0	0.0	1	33.3	0	0.0	3
	計	31	23.1	52	38.8	23	17.2	25	18.7	3	2.2	134
無回答	女性	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	100.0	0	0.0	2
	無回答	2	20.0	3	30.0	2	20.0	2	20.0	1	10.0	10
	計	2	16.7	3	25.0	2	16.7	4	33.3	1	8.3	12
全体	男性	33	9.7	123	36.1	108	31.7	75	22.0	2	0.6	341
	女性	36	8.6	147	35.2	141	33.7	87	20.8	7	1.7	418
	無回答	4	23.5	6	35.3	2	11.8	4	23.5	1	5.9	17
	計	73	9.4	276	35.6	251	32.3	166	21.4	10	1.3	776

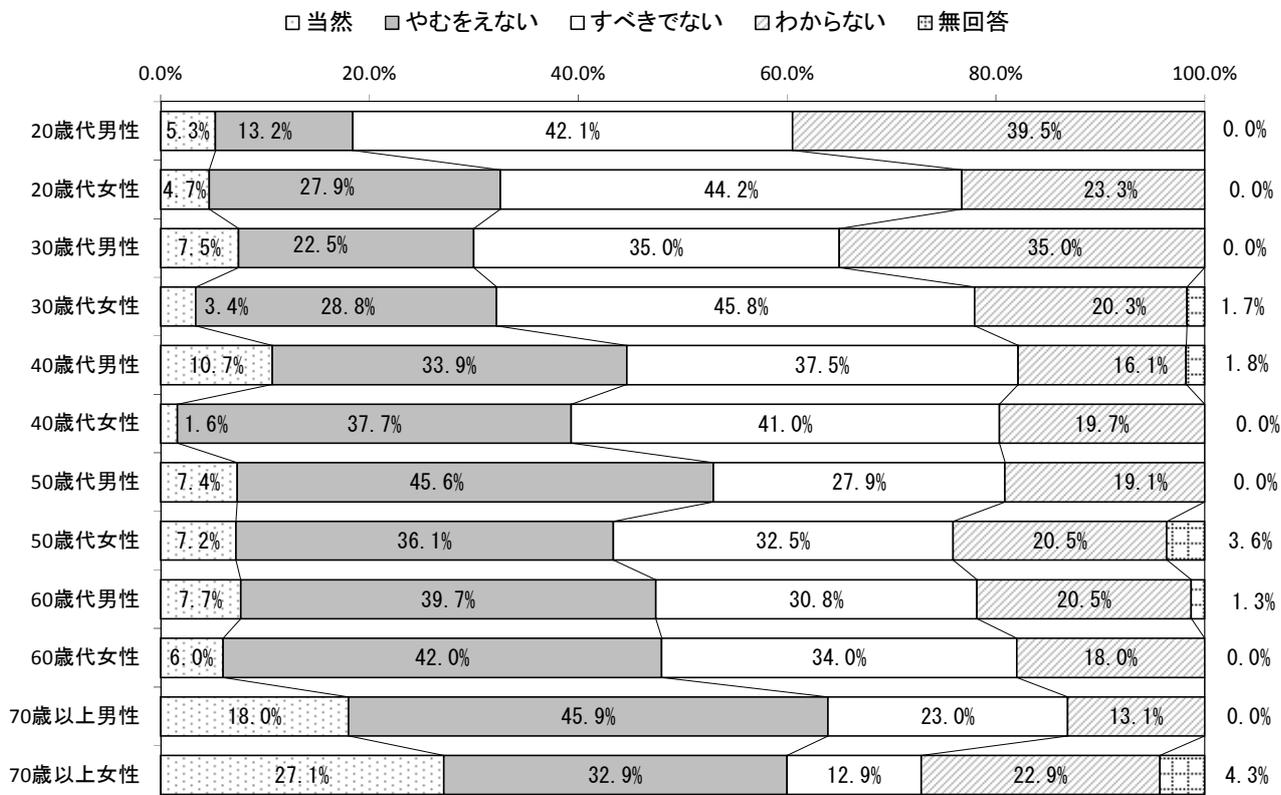
【全体】



【年代別】



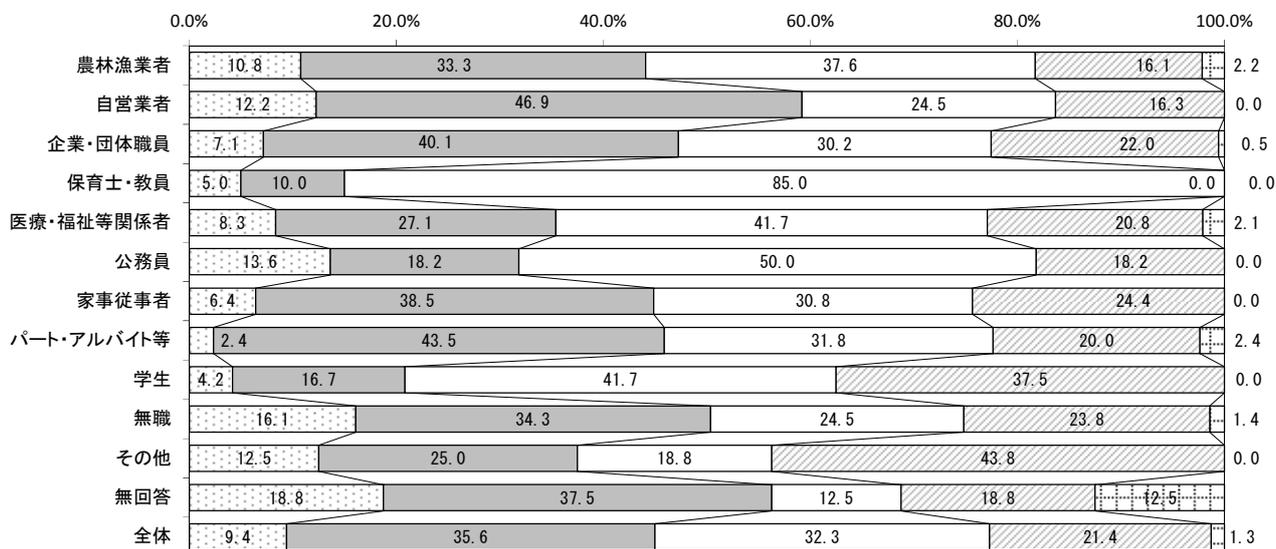
【年代男女別】



【職業別】

質問 5-1 職業別	1. 当然		2. やむをえない		3. すべきでない		4. わからない		無回答		全体
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
農林漁業者	10	10.8	31	33.3	35	37.6	15	16.1	2	2.2	93
自営業者	6	12.2	23	46.9	12	24.5	8	16.3	0	0.0	49
企業・団体職員	13	7.1	73	40.1	55	30.2	40	22.0	1	0.5	182
保育士・教員	1	5.0	2	10.0	17	85.0	0	0.0	0	0.0	20
医療・福祉等関係者	4	8.3	13	27.1	20	41.7	10	20.8	1	2.1	48
公務員	3	13.6	4	18.2	11	50.0	4	18.2	0	0.0	22
家事従事者	5	6.4	30	38.5	24	30.8	19	24.4	0	0.0	78
パート・アルバイト等	2	2.4	37	43.5	27	31.8	17	20.0	2	2.4	85
学生	1	4.2	4	16.7	10	41.7	9	37.5	0	0.0	24
無職	23	16.1	49	34.3	35	24.5	34	23.8	2	1.4	143
その他	2	12.5	4	25.0	3	18.8	7	43.8	0	0.0	16
無回答	3	18.8	6	37.5	2	12.5	3	18.8	2	12.5	16
全体	73	9.4	276	35.6	251	32.3	166	21.4	10	1.3	776

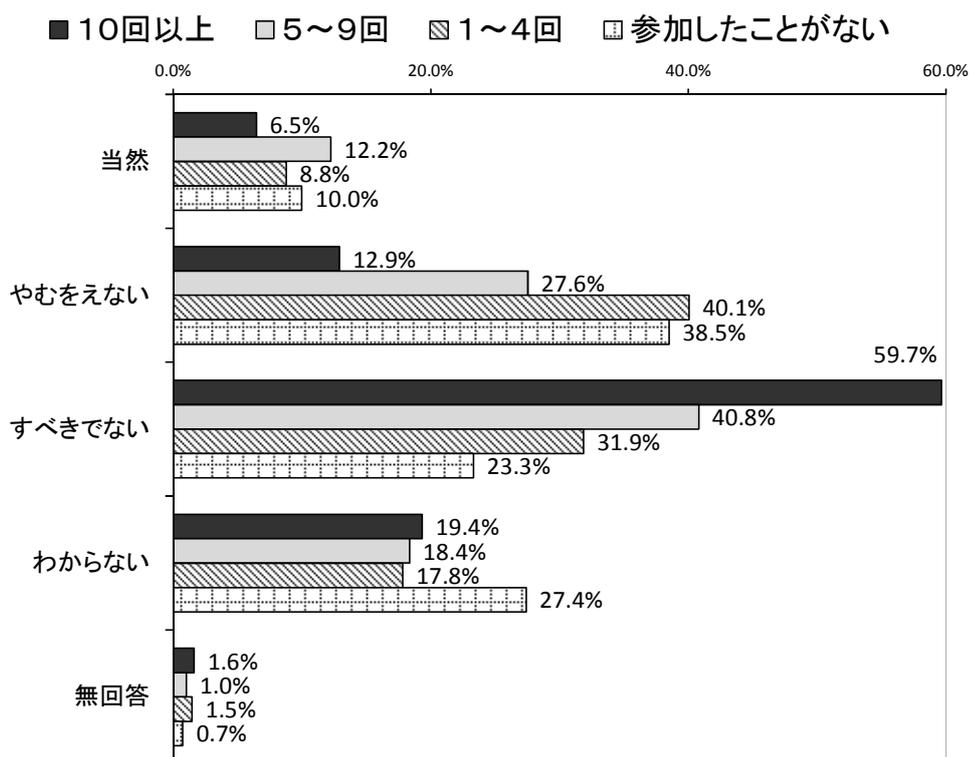
□当然 □やむをえない □すべきでない □わからない □無回答



- 全体では、「やむをえない」35.6%が最も高く、次いで「すべきでない」32.3%、「わからない」21.4%。「当然」9.4%と「やむをえない」を合わせると45.0%で、半数近くが身元調査を肯定・容認している。
- 年代別では、20歳代と30歳代は「すべきでない」が高いが、40歳代で「すべきでない」と「やむをえない」に差がなくなり、50歳代、60歳代で「やむをえない」が「すべきでない」を約10ポイント上回る。70歳以上は「当然」が他の年代よりも約16~18ポイント高く、「当然」と「やむをえない」を合計すると6割以上が身元調査を肯定・容認していることになる。
- 年代男女別でみると、20歳代は「当然」と「すべきでない」は男女であまり差はないが、「やむをえない」は女性の方が14.7ポイント、「わからない」は男性の方が16.2ポイント高い。30歳代も「わからない」は男性の方が15ポイント程度高い。30歳代女性は「すべきでない」が年代男女中最も高い。70歳以上女性は「当然」が約3割と高く、「すべきでない」が低い。70歳以上男性は「当然」と「やむをえない」の合計が約64%で、最も低い20歳代男性と約45ポイントの差がある。
- 職業等では、「すべきでない」は保育士・教員85.0%が突出している。「当然」は無職16.1%が最も高いが、「当然」と「やむをえない」を合計すると、自営業者が約60%で最も高く、無職とパート・アルバイト等が約45%~50%。

【質問5-1（身元調査をどう思うか）と質問6-1（研修等への参加回数）の関連】

質問5-1 \ 質問6-1	1. 当然		2. やむをえない		3. すべきでない		4. わからない		無回答		全体
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
1. 10回以上	4	6.5	8	12.9	37	59.7	12	19.4	1	1.6	62
2. 5～9回	12	12.2	27	27.6	40	40.8	18	18.4	1	1.0	98
3. 1～4回	30	8.8	137	40.1	109	31.9	61	17.8	5	1.5	342
4. 参加したことがない	27	10.0	104	38.5	63	23.3	74	27.4	2	0.7	270
無回答	0	0.0	0	0.0	2	50.0	1	25.0	1	25.0	4



【質問5-1と質問6-1】

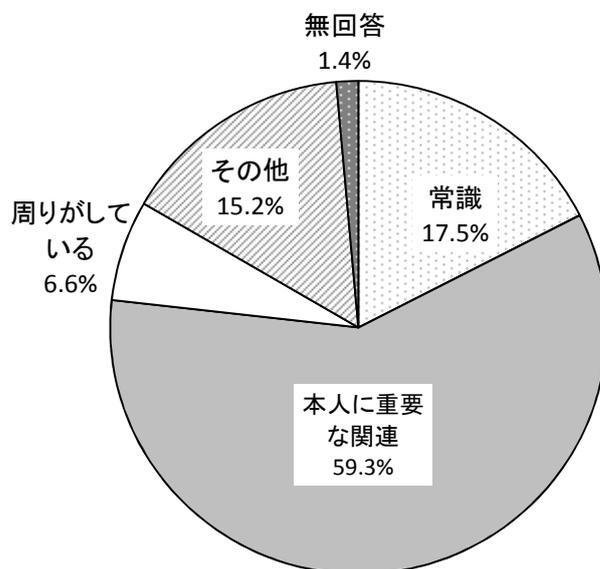
参加回数の増加に伴って「すべきでない」の割合が高くなっている。「10回以上参加」の人は「すべきでない」が6割に上る。「当然」と「やむをえない」をみると、0～4回の参加ではほとんど変化はない。

質問5-2 「当然である」「やむをえない」と答えた方にその理由をおたずねします。あなたの考えに近いものを選んでください。(〇は1つ)

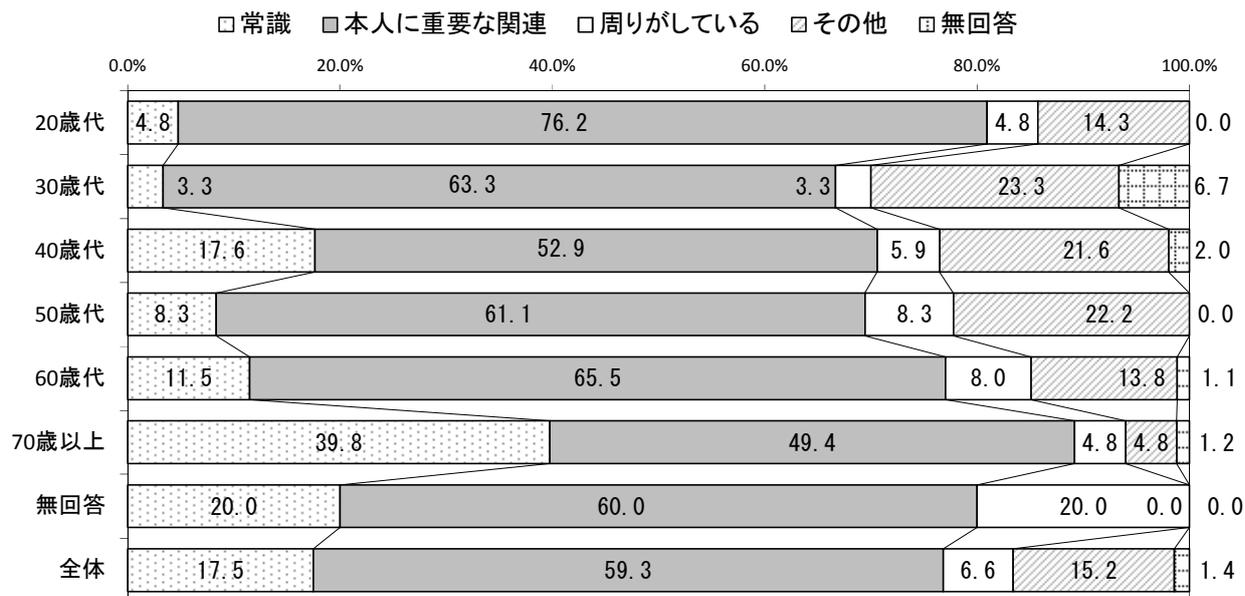
- 1 常識であるから
- 2 本人に重要な関連があるから
- 3 おかしいと思うが、周りがしているから
- 4 その他

質問5-2		1. 常識		2. 本人に重要な関連		3. 周りがしている		4. その他		無回答		全体
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
20歳代	男性	0	0.0	4	57.1	0	0.0	3	42.9	0	0.0	7
	女性	1	7.1	12	85.7	1	7.1	0	0.0	0	0.0	14
	計	1	4.8	16	76.2	1	4.8	3	14.3	0	0.0	21
30歳代	男性	0	0.0	9	75.0	0	0.0	3	25.0	0	0.0	12
	女性	1	5.6	10	55.6	1	5.6	4	22.2	2	11.1	18
	計	1	3.3	19	63.3	1	3.3	7	23.3	2	6.7	30
40歳代	男性	5	20.0	13	52.0	2	8.0	4	16.0	1	4.0	25
	女性	4	16.0	13	52.0	1	4.0	7	28.0	0	0.0	25
	無回答	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1
	計	9	17.6	27	52.9	3	5.9	11	21.6	1	2.0	51
50歳代	男性	1	2.8	24	66.7	3	8.3	8	22.2	0	0.0	36
	女性	5	13.9	20	55.6	3	8.3	8	22.2	0	0.0	36
	計	6	8.3	44	61.1	6	8.3	16	22.2	0	0.0	72
60歳代	男性	4	10.8	22	59.5	3	8.1	7	18.9	1	2.7	37
	女性	5	10.4	34	70.8	4	8.3	5	10.4	0	0.0	48
	無回答	1	50.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2
	計	10	11.5	57	65.5	7	8.0	12	13.8	1	1.1	87
70歳以上	男性	12	28.0	22	56.4	2	5.1	3	7.7	0	0.0	39
	女性	20	47.6	18	42.9	2	4.8	1	2.4	1	2.4	42
	無回答	1	50.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2
	計	33	39.8	41	49.4	4	4.8	4	4.8	1	1.2	83
無回答	無回答	1	20.0	3	60.0	1	20.0	0	0.0	0	0.0	5
	計	1	20.0	3	60.0	1	20.0	0	0.0	0	0.0	5
全体	男性	22	14.1	94	60.3	10	6.4	28	17.9	2	1.3	156
	女性	36	19.7	107	58.5	12	6.6	25	13.7	3	1.6	183
	無回答	3	30.0	6	60.0	1	10.0	0	0.0	0	0.0	10
	計	61	17.5	207	59.3	23	6.6	53	15.2	5	1.4	349

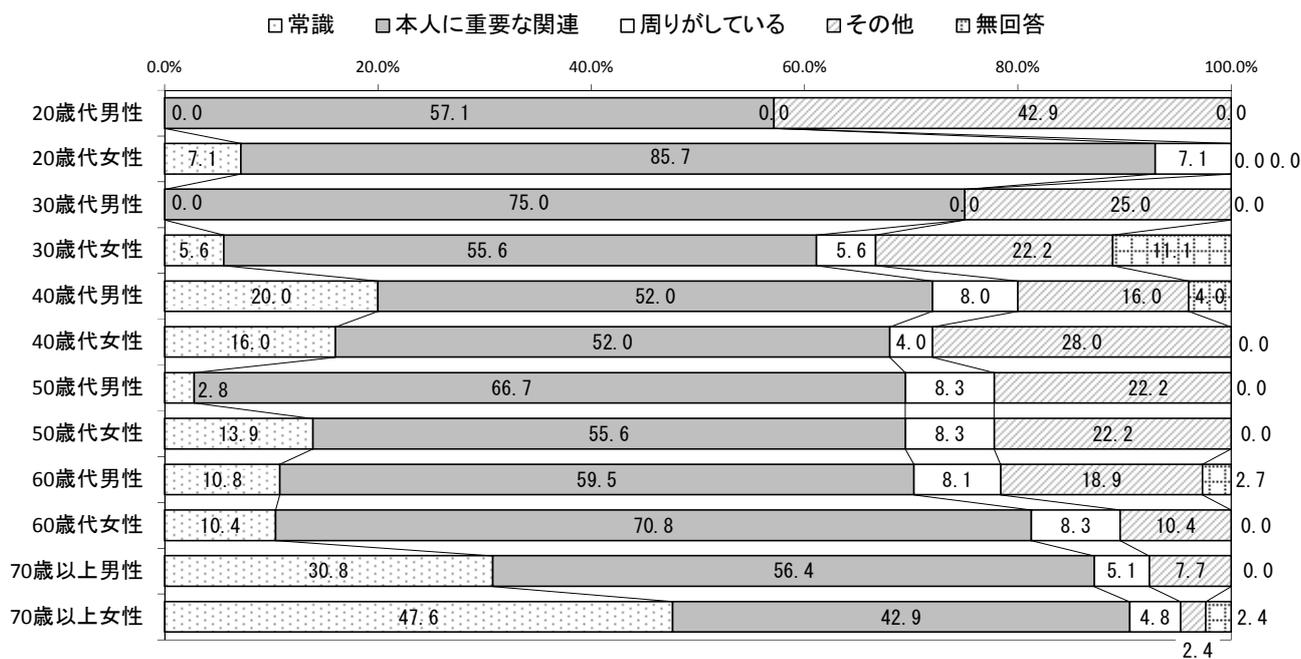
【全体】



【年代別】



【年代男女別】



- 全体では、「本人に重要な関連」59.3%が最も高い。「常識」は17.5%。
- 年代別では、どの年代も「本人に重要な関連」が最も高いが、70歳以上は「常識」が約4割と高い。30歳代～50歳代は「その他」が2割程度ある。
- 男女別では、大きな差はみられないが、「常識」は女性の方が少し高い。
- 年代男女別では、いずれも「本人に重要な関連」が高いが、70歳以上女性は「常識」47.6%が最も高く、「本人に重要な関連」を5ポイント程度上回る。70歳以上男性も「常識」が30.8%と高いが、同女性と16.8ポイントの差がある。

2 教育・啓発活動について

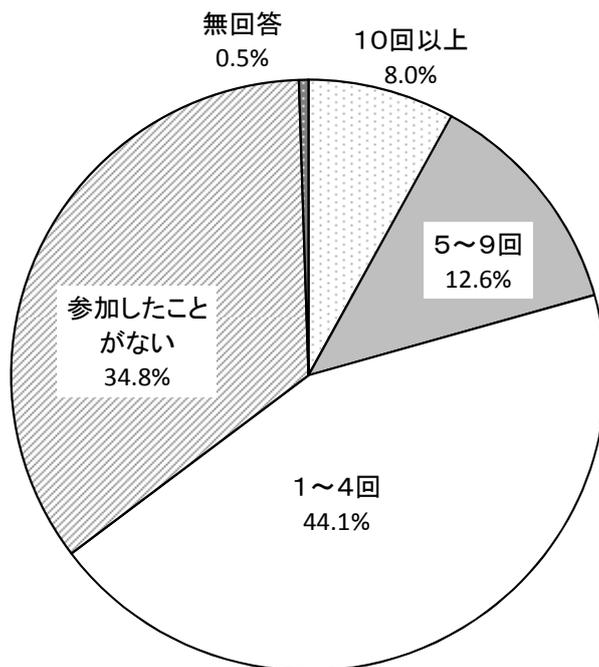
質問6-1 あなたは過去5年間に、人権・同和教育の講演会や研修会に参加されたことがありますか。

(○は1つ)

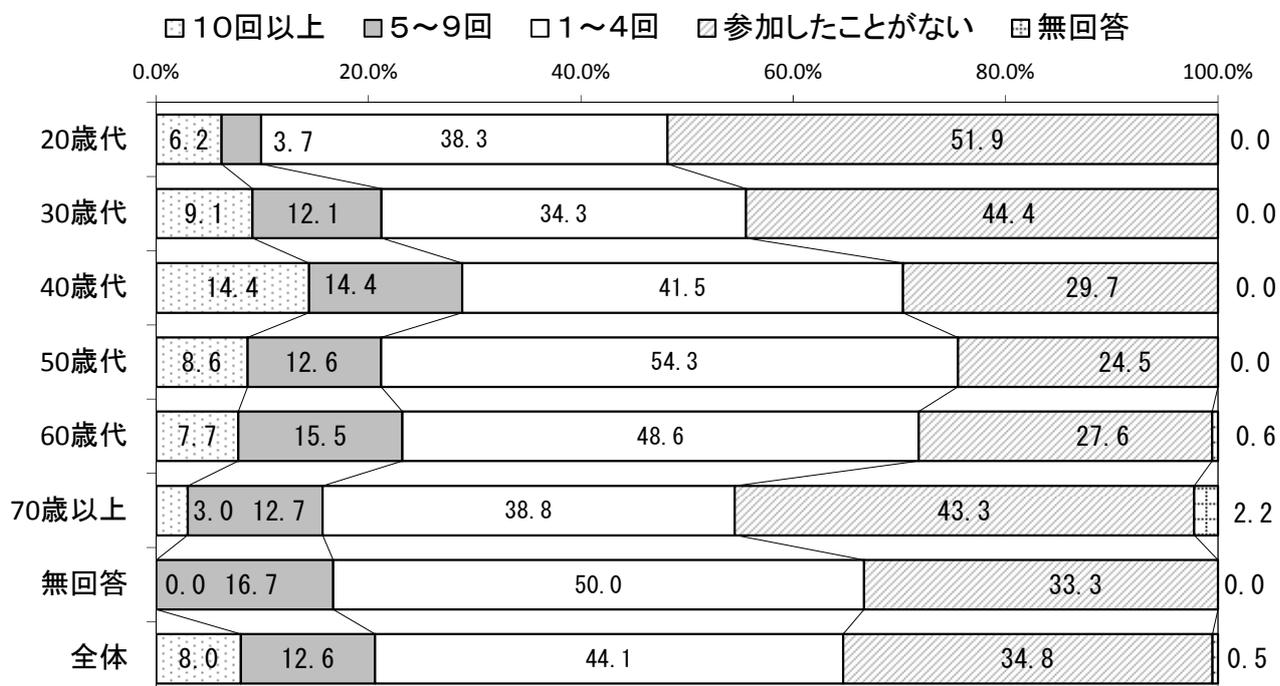
- 1 10回以上参加した
- 2 5～9回参加した
- 3 1～4回参加した
- 4 参加したことがない

質問6-1		1. 10回以上		2. 5～9回		3. 1～4回		4. 参加したことがない		無回答		全体
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
20歳代	男性	0	0.0	0	0.0	15	39.5	23	60.5	0	0.0	38
	女性	5	11.6	3	7.0	16	37.2	19	44.2	0	0.0	43
	計	5	6.2	3	3.7	31	38.3	42	51.9	0	0.0	81
30歳代	男性	2	5.0	4	10.0	12	30.0	22	55.0	0	0.0	40
	女性	7	11.9	8	13.6	22	37.3	22	37.3	0	0.0	59
	計	9	9.1	12	12.1	34	34.3	44	44.4	0	0.0	99
40歳代	男性	7	12.5	7	12.5	24	42.9	18	32.1	0	0.0	56
	女性	9	14.8	10	16.4	25	41.0	17	27.9	0	0.0	61
	無回答	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1
計	17	14.4	17	14.4	49	41.5	35	29.7	0	0.0	118	
50歳代	男性	8	11.8	11	16.2	35	51.5	14	20.6	0	0.0	68
	女性	5	6.0	8	9.6	47	56.6	23	27.7	0	0.0	83
	計	13	8.6	19	12.6	82	54.3	37	24.5	0	0.0	151
60歳代	男性	8	10.3	17	21.8	31	39.7	21	26.9	1	1.3	78
	女性	6	6.0	11	11.0	55	55.0	28	28.0	0	0.0	100
	無回答	0	0.0	0	0.0	2	66.7	1	33.3	0	0.0	3
計	14	7.7	28	15.5	88	48.6	50	27.6	1	0.6	181	
70歳以上	男性	2	28.0	10	16.4	30	49.2	19	31.1	0	0.0	61
	女性	2	2.9	7	10.0	20	28.6	38	54.3	3	4.3	70
	無回答	0	0.0	0	0.0	2	66.7	1	33.3	0	0.0	3
計	4	3.0	17	12.7	52	38.8	58	43.3	3	2.2	134	
無回答	女性	0	0.0	0	0.0	1	50.0	1	50.0	0	0.0	2
	無回答	0	0.0	2	20.0	5	50.0	3	30.0	0	0.0	10
	計	0	0.0	2	16.7	6	50.0	4	33.3	0	0.0	12
全体	男性	27	7.9	49	14.4	147	43.1	117	34.3	1	0.3	341
	女性	34	8.1	47	11.2	186	44.5	148	35.4	3	0.7	418
	無回答	1	5.9	2	11.8	9	52.9	5	29.4	0	0.0	17
計	62	8.0	98	12.6	342	44.1	270	34.8	4	0.5	776	

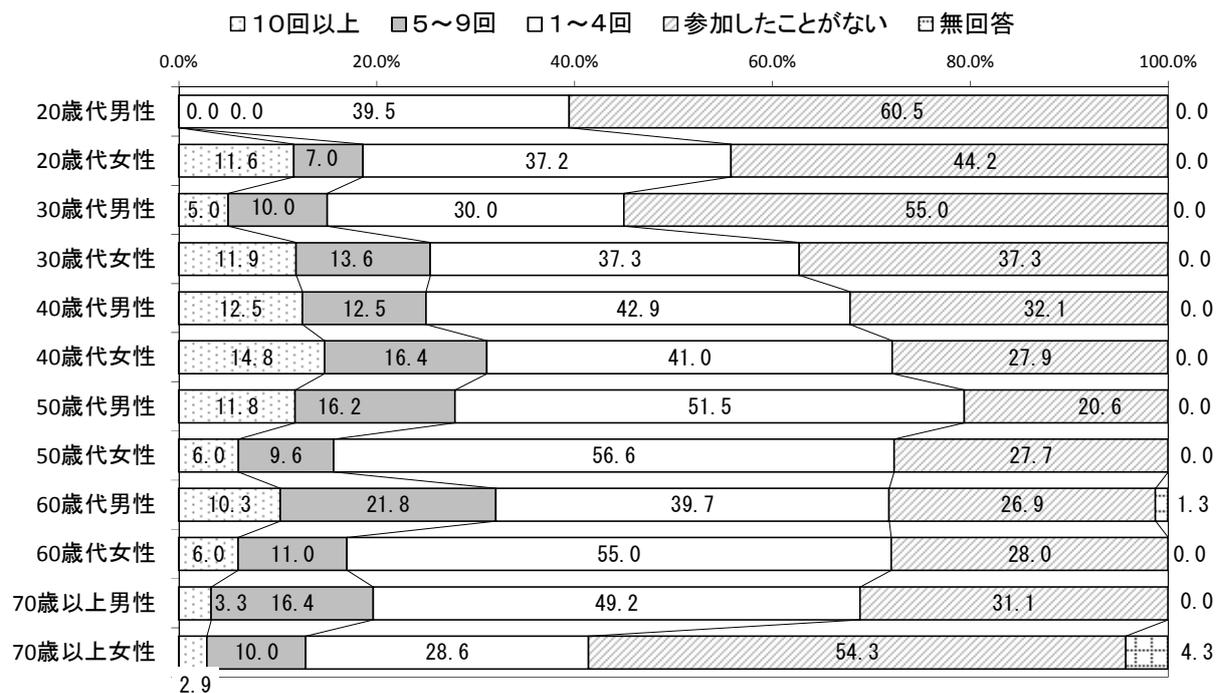
【全体】



【年代別】

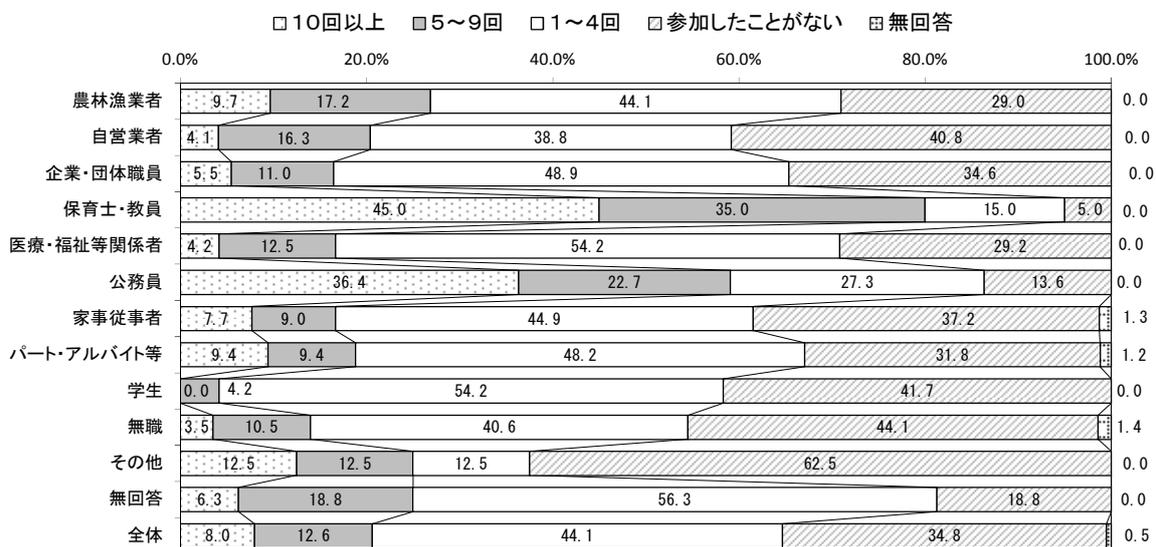


【年代男女別】



【職業別】

質問 6 - 1 職業別	1. 10回以上		2. 5~9回		3. 1~4回		4. 参加したことがない		無回答		全体
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
農林漁業者	9	9.7	16	17.2	41	44.1	27	29.0	0	0.0	93
自営業者	2	4.1	8	16.3	19	38.8	20	40.8	0	0.0	49
企業・団体職員	10	5.5	20	11.0	89	48.9	63	34.6	0	0.0	182
保育士・教員	9	45.0	7	35.0	3	15.0	1	5.0	0	0.0	20
医療・福祉等関係者	2	4.2	6	12.5	26	54.2	14	29.2	0	0.0	48
公務員	8	36.4	5	22.7	6	27.3	3	13.6	0	0.0	22
家事従事者	6	7.7	7	9.0	35	44.9	29	37.2	1	1.3	78
パート・アルバイト等	8	9.4	8	9.4	41	48.2	27	31.8	1	1.2	85
学生	0	0.0	1	4.2	13	54.2	10	41.7	0	0.0	24
無職	5	3.5	15	10.5	58	40.6	63	44.1	2	1.4	143
その他	2	12.5	2	12.5	2	12.5	10	62.5	0	0.0	16
無回答	1	6.3	3	18.8	9	56.3	3	18.8	0	0.0	16
全体	62	8.0	98	12.6	342	44.1	270	34.8	4	0.5	776



- 全体では、「1～4回」44.1%が最も高く、「参加したことがない」34.8%、「5～9回」12.6%、「10回以上」8.0%の順である。
- 年代別では、20歳代の約5割が「参加したことがない」。30歳代、70歳以上も「参加したことがない」が高い。40歳代～60歳代は「1～4回」が高い。
- 年代男女別では、次のような傾向、特徴がみられる。
 - ・ 5回以上の参加は20歳代～40歳代では女性の方が高く、50歳代以上になると男性の方が高くなる。
 - ・ 20歳代男性の「参加したことがない」60.5%は、同女性より16.3ポイント高い。また20歳代男性の5回以上の参加は0.0%。
 - ・ 30歳代男性の「参加したことがない」55.0%は、同女性より17.7ポイント高い。
 - ・ 40歳代と50歳代は、男女であまり大きな差はみられない。
 - ・ 60歳代は「5～9回」では男性の方が10.8ポイント、「1～4回」では女性の方が15.3ポイント高い。
 - ・ 70歳以上は「1～4回」では男性の方が20.6ポイント、「参加したことがない」は女性の方が23.2ポイント高い。女性の参加経験が少ない。
- 職業等では、「10回以上」は保育士・教員、公務員が高い。他の職業等は、概ね「1～4回」が高く、自営業者、学生、無職は「参加したことがない」も高い。

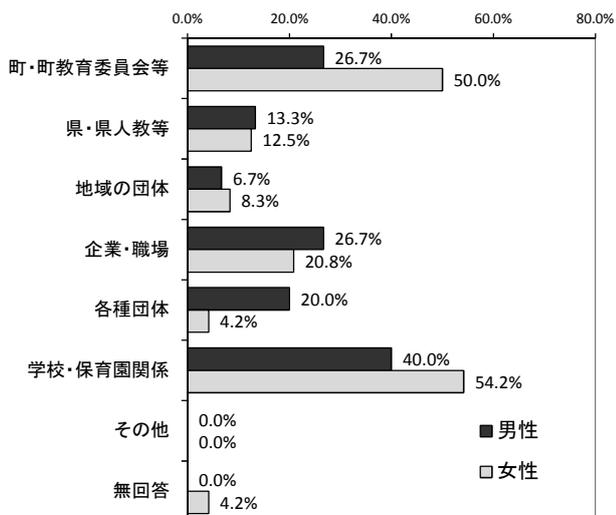
質問6-2 質問6-1で1~3を選ばれた方におたずねします。あなたが参加された講演会・研修会を主催していたのはどこですか。(〇はいくつでも)

- 1 町、町教育委員会、町及び地区人権・同和教育推進研究協議会が主催したもの
〔差別をなくする町民のつどい、部落懇談会(小地域懇談会)、人権・同和教育講座など〕
- 2 県、県人権教育推進協議会などが主催したもの〔人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会など〕
- 3 町内会、自治会、女性部などの地域の団体が主催したもの
- 4 企業や職場が主催したもの
- 5 社会教育関係団体、運動団体が主催したもの
〔男女共同参画推進会議、部落解放同盟、高齢者クラブ連合会、青年団などが主催した研修会〕
- 6 学校や保育園、こども園、PTAが主催したもの
- 7 その他

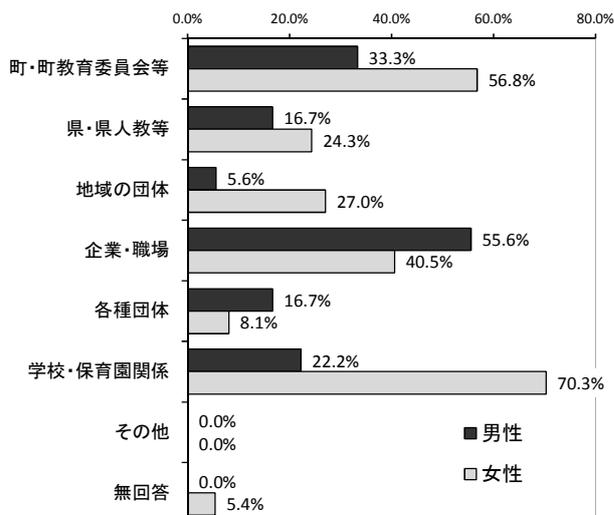
質問6-2		1. 町・町教育委員会等		2. 県・県人教等		3. 地域の団体		4. 企業・職場		5. 各種団体		6. 学校・保育園関係		7. その他		無回答		6-1回答者数
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
20歳代	男性	4	26.7	2	13.3	1	6.7	4	26.7	3	20.0	6	40.0	0	0.0	0	0.0	15
	女性	12	50.0	3	12.5	2	8.3	5	20.8	1	4.2	13	54.2	0	0.0	1	4.2	24
	計	16	41.0	5	12.8	3	7.7	9	23.1	4	10.3	19	48.7	0	0.0	1	2.6	39
30歳代	男性	6	33.3	3	16.7	1	5.6	10	55.6	3	16.7	4	22.2	0	0.0	0	0.0	18
	女性	21	56.8	9	24.3	10	27.0	15	40.5	3	8.1	26	70.3	0	0.0	2	5.4	37
	計	27	49.1	12	21.8	11	20.0	25	45.5	6	10.9	30	54.5	0	0.0	2	3.6	55
40歳代	男性	30	78.9	6	15.8	10	26.3	13	34.2	3	7.9	10	26.3	0	0.0	0	0.0	38
	女性	31	70.5	5	11.4	9	20.5	13	29.5	6	13.6	31	70.5	0	0.0	0	0.0	44
	無回答	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	1
計	62	74.7	11	13.3	19	22.9	26	31.3	9	10.8	42	50.6	0	0.0	0	0.0	83	
50歳代	男性	42	77.8	8	14.8	19	35.2	15	27.8	1	1.9	10	18.5	0	0.0	0	0.0	54
	女性	35	58.3	9	15.0	15	25.0	12	20.0	6	10.0	14	23.3	0	0.0	3	5.0	60
	計	77	67.5	17	14.9	34	29.8	27	23.7	7	6.1	24	21.1	0	0.0	3	2.6	114
60歳代	男性	41	73.2	9	16.1	25	44.6	10	17.9	7	12.5	5	8.9	0	0.0	2	3.6	56
	女性	52	72.2	9	12.5	40	55.6	6	8.3	12	16.7	5	6.9	0	0.0	3	4.2	72
	無回答	0	0.0	0	0.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	50.0	2
計	93	71.5	18	13.8	66	50.8	16	12.3	19	14.6	10	7.7	0	0.0	6	4.6	130	
70歳以上	男性	29	69.0	5	11.9	16	38.1	2	4.8	5	11.9	2	4.8	0	0.0	2	4.8	42
	女性	19	65.5	2	6.9	13	44.8	0	0.0	4	13.8	2	6.9	1	3.4	2	6.9	29
	無回答	2	100.0	0	0.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	2
計	50	68.5	7	9.6	30	41.1	2	2.7	9	12.3	5	6.8	1	1.4	4	5.5	73	
無回答	女性	0	0.0	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1
	無回答	4	57.1	1	14.3	4	57.1	1	14.3	1	14.3	2	28.6	0	0.0	1	14.3	7
	計	4	50.0	1	12.5	5	62.5	1	12.5	1	12.5	2	25.0	0	0.0	1	12.5	8
全体	男性	152	68.2	33	14.8	72	32.3	54	24.2	22	9.9	37	16.6	0	0.0	4	1.8	223
	女性	170	63.7	37	13.9	90	33.7	51	19.1	32	12.0	91	34.1	1	0.4	11	4.1	267
	無回答	7	58.3	1	8.3	6	50.0	1	8.3	1	8.3	4	33.3	0	0.0	2	16.7	12
計	329	65.5	71	14.1	168	33.5	106	21.1	55	11.0	132	26.3	1	0.2	17	3.4	502	

【年代男女別】

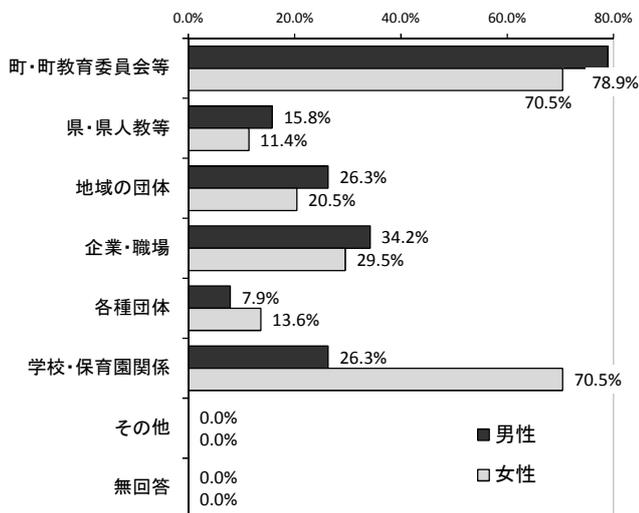
20歳代



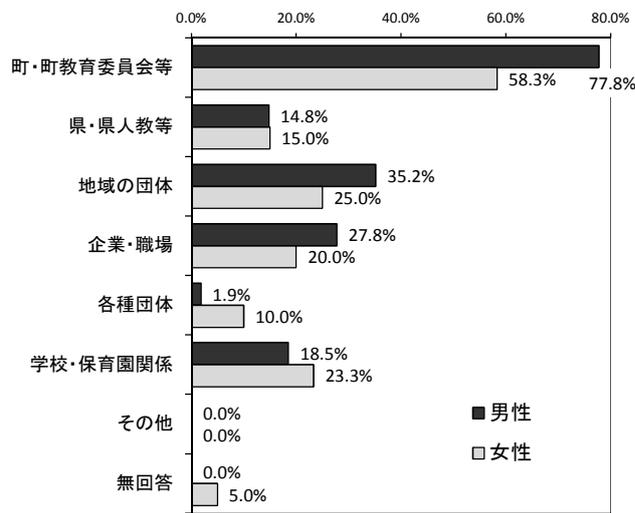
30歳代



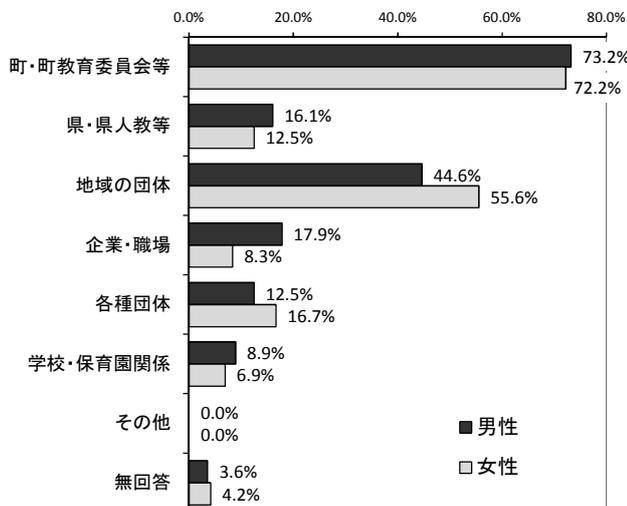
40歳代



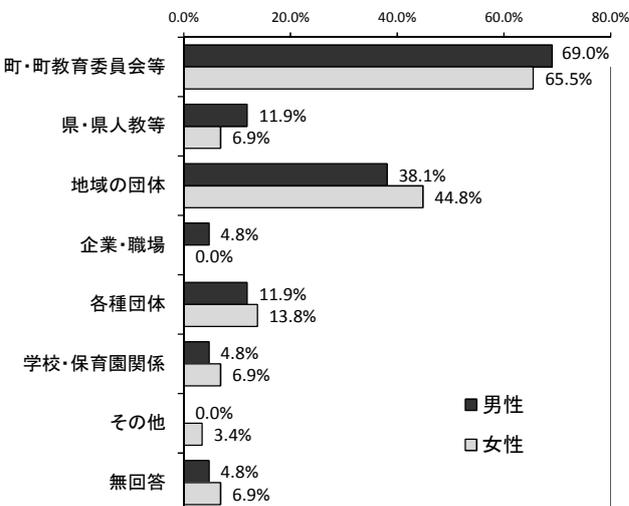
50歳代



60歳代



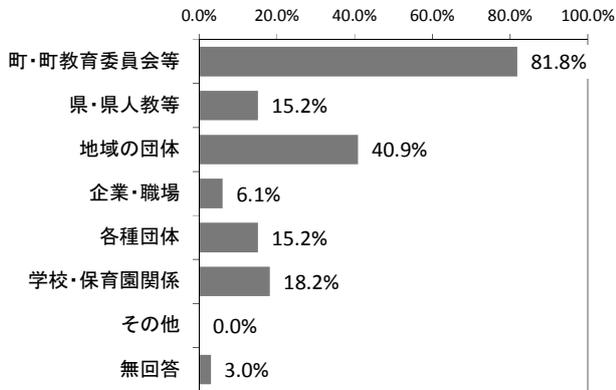
70歳以上



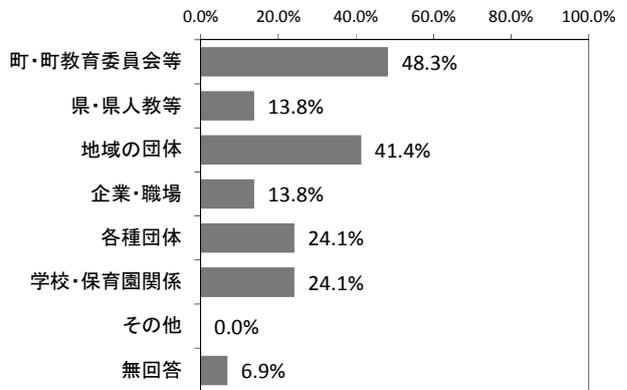
【職業別】

質問 6-2 職業別	1. 町・町 教育委員会 等		2. 県・県 人教等		3. 地域の 団体		4. 企業・ 職場		5. 各種団体		6. 学校・ 保育園関係		7. その他		無回答		6-1 回答 者数
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
農林漁業者	54	81.8	10	15.2	27	40.9	4	6.1	10	15.2	12	18.2	0	0.0	2	3.0	66
自営業者	14	48.3	4	13.8	12	41.4	4	13.8	7	24.1	7	24.1	0	0.0	2	6.9	29
企業・団体職員	73	61.3	5	4.2	24	20.2	35	29.4	4	3.4	31	26.1	0	0.0	4	3.4	119
保育士・教員	15	78.9	13	68.4	6	31.6	12	63.2	5	26.3	13	68.4	0	0.0	0	0.0	19
医療・福祉等関係者	16	47.1	3	8.8	11	32.4	17	50.0	4	11.8	16	47.1	0	0.0	0	0.0	34
公務員	13	68.4	10	52.6	4	21.1	10	52.6	1	5.3	4	21.1	0	0.0	0	0.0	19
家事従事者	35	72.9	8	16.7	23	47.9	4	8.3	9	18.8	7	14.6	0	0.0	0	0.0	48
パート・アルバイト等	43	75.4	6	10.5	16	28.1	11	19.3	6	10.5	20	35.1	0	0.0	1	1.8	57
学生	3	21.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	10	71.4	0	0.0	1	7.1	14
無職	53	67.9	10	12.8	33	42.3	6	7.7	6	7.7	7	9.0	1	1.3	4	5.1	78
その他	3	50.0	0	0.0	4	66.7	1	16.7	1	16.7	1	16.7	0	0.0	1	16.7	6
無回答	7	53.8	2	15.4	8	61.5	2	15.4	2	15.4	4	30.8	0	0.0	2	15.4	13
全体	329	65.5	71	14.1	168	33.5	106	21.1	55	11.0	132	26.3	1	0.2	17	3.4	502

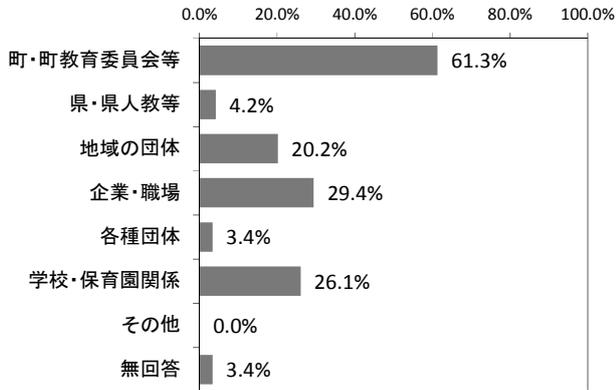
農林漁業者



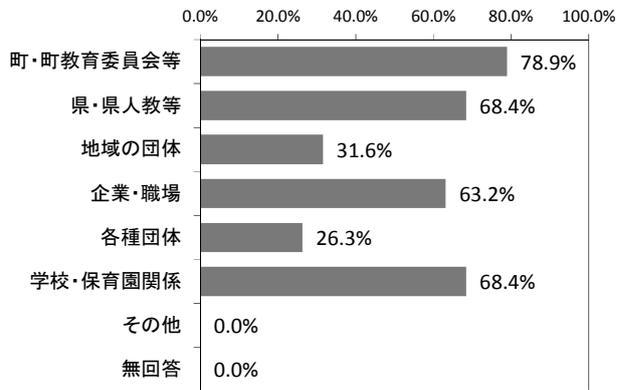
自営業者



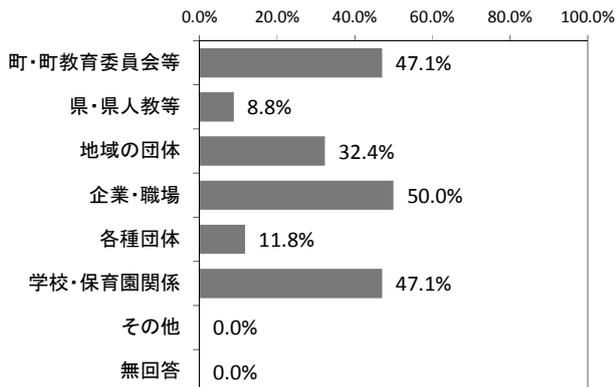
企業・団体職員



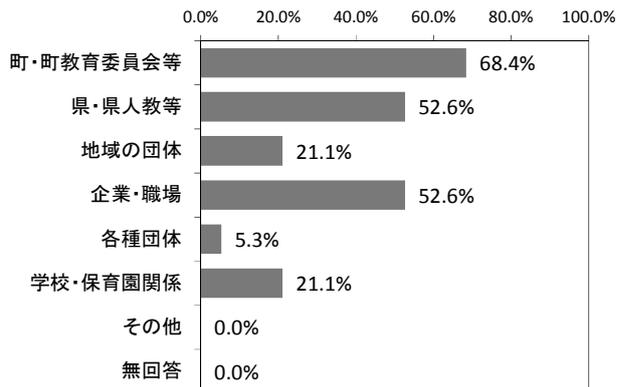
保育士・教員



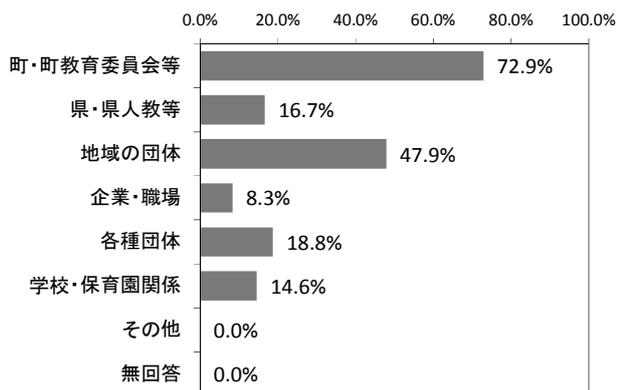
医療・福祉等関係者



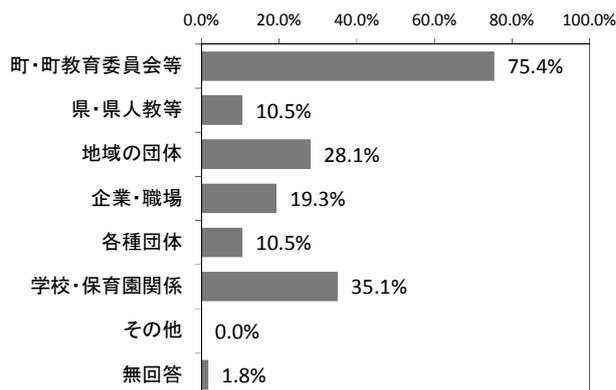
公務員



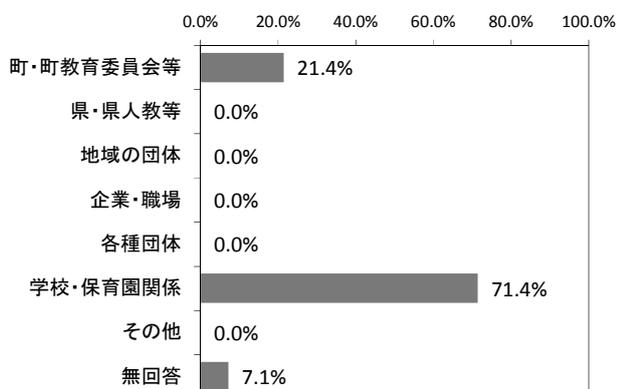
家事従事者



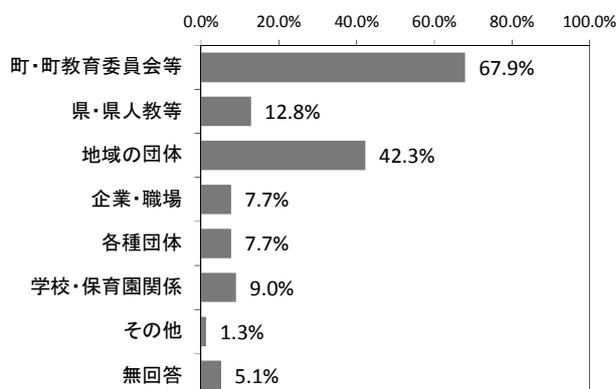
パート・アルバイト等



学生



無職



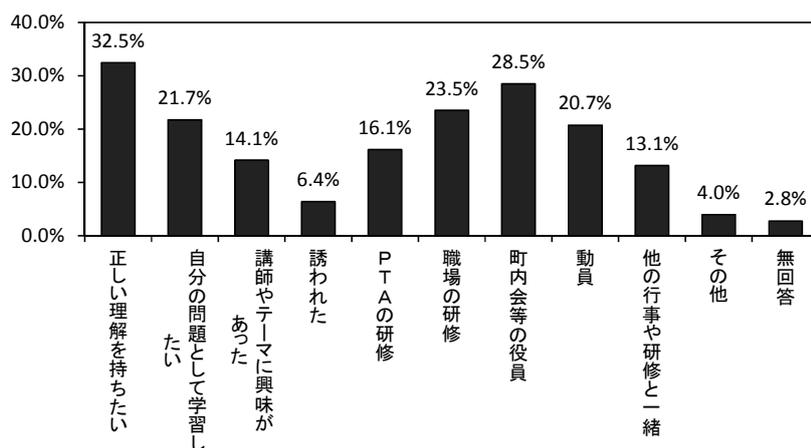
- 全体では、「町・町教育委員会等」65.5%が最も高く、「地域の団体」33.5%、「学校・保育園関係」26.3%、「企業・職場」21.1%と続く。
- 年代では、20歳代と30歳代は「学校・保育園関係」、「町・町教育委員会等」の順で高く、30歳代は「企業・職場」も高くなる。40歳代以上は「町・町教育委員会等」が70%前後で最も高い。40歳代は「学校・保育園関係」と「企業・職場」、60歳代以上は「地域の団体」が高い。
- 男女別では、「学校・保育園関係」は女性の方が17.5ポイント高い。
- 年代男女別では、次のような傾向、特徴がみられる。
 - ・ 20歳代男女は「学校・保育園関係」が高いが、PTAの場合と本人が学生の場合の両方が考えられる。
 - ・ 30歳代女性と40歳代女性は「学校・保育園関係」が高く、男性と大きな差がみられる。30歳代は48.1ポイント、40歳代は44.2ポイント、女性の方が高い。
- 職業等では、学生以外は「町・町教育委員会等」が高く、特に農林漁業者、保育士・教員は約8割と高い。職場の研修機会が多いのは、保育士・教員、医療・福祉等関係者、公務員である。また、農林漁業者、自営業者、家事従事者、無職は「地域の団体」が約4割～5割で比較的高い。

質問6-3 質問6-1で1~3を選ばれた方におたずねします。あなたが講演会・研修会などに参加されたのは、どういうことからですか。(〇はいくつでも)

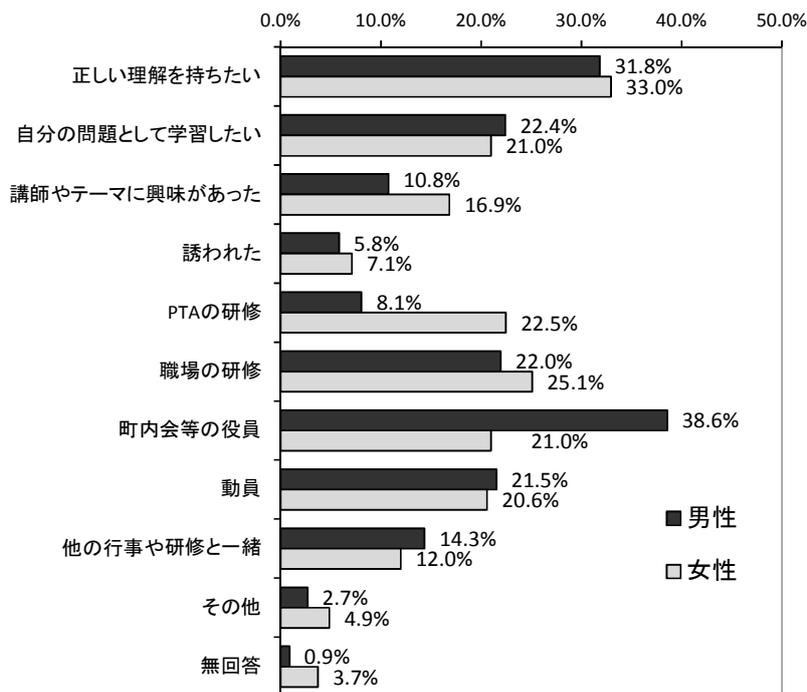
- 1 人権・同和教育を通して、正しい理解を持ちたいと思ったから
- 2 自分の問題として学習したいから
- 3 講師やテーマに興味があったから
- 4 知人などに誘われたから
- 5 PTAの研修だったから
- 6 職場の研修だったから
- 7 町内会などの役員になっていたから
- 8 参加割り当て(動員)だったから
- 9 他の行事や研修の中に組み込まれていたから
- 10 その他

質問6-3		1. 正しい理解を持ちたい		2. 自分の問題として学習したい		3. 講師やテーマに興味があった		4. 誘われた		5. PTAの研修		6. 職場の研修		7. 町内会等の役員		8. 動員		9. 他の行事や研修と一緒に		10. その他		無回答		6-1回答者数		
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%			
20歳代	男性	3	20.0	2	13.3	1	6.7	0	0.0	0	0.0	5	33.3	1	6.7	2	13.3	4	26.7	2	13.3	0	0.0	15		
	女性	8	33.3	6	25.0	3	12.5	3	12.5	1	4.2	8	33.3	1	4.2	1	4.2	5	20.8	1	4.2	2	8.3	24		
	計	11	28.2	8	20.5	4	10.3	3	7.7	1	2.6	13	33.3	2	5.1	3	7.7	9	23.1	3	7.7	2	5.1	39		
30歳代	男性	3	16.7	2	11.1	3	16.7	1	5.6	2	11.1	9	50.0	3	16.7	3	16.7	2	11.1	1	5.6	0	0.0	18		
	女性	13	35.1	8	21.6	8	21.6	1	2.7	16	43.2	20	54.1	3	8.1	10	27.0	5	13.5	2	5.4	2	5.4	37		
	計	16	29.1	10	18.2	11	20.0	2	3.6	18	32.7	29	52.7	6	10.9	13	23.6	7	12.7	3	5.5	2	3.6	55		
40歳代	男性	13	34.2	8	21.1	2	5.3	4	10.5	5	13.2	11	28.9	19	50.0	7	18.4	3	7.9	0	0.0	1	2.6	38		
	女性	14	31.8	5	11.4	13	29.5	2	4.5	28	63.6	15	34.1	12	27.3	8	18.2	5	11.4	3	6.8	0	0.0	44		
	無回答	1	100.0	0	0.0	1	100.0	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1		
計	28	33.7	13	15.7	16	19.3	6	7.2	34	41.0	26	31.3	31	37.3	15	18.1	8	9.6	3	3.6	1	1.2	83			
50歳代	男性	18	33.3	13	24.1	8	14.8	3	5.6	6	11.1	13	24.1	18	33.3	11	20.4	4	7.4	2	3.7	0	0.0	54		
	女性	14	23.3	14	23.3	11	18.3	4	6.7	10	16.7	19	31.7	15	25.0	15	25.0	5	8.3	1	1.7	1	1.7	60		
	計	32	28.1	27	23.7	19	16.7	7	6.1	16	14.0	32	28.1	33	28.9	26	22.8	9	7.9	3	2.6	1	0.9	114		
60歳代	男性	18	32.1	18	32.1	6	10.7	2	3.6	4	7.1	10	17.9	27	48.2	17	30.4	10	17.9	1	1.8	0	0.0	56		
	女性	23	31.9	19	26.4	9	12.5	5	6.9	3	4.2	5	6.9	21	29.2	16	22.2	11	15.3	4	5.6	2	2.8	72		
	無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	50.0	0	0.0	1	50.0	0	0.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	2		
計	41	31.5	37	28.5	15	11.5	7	5.4	8	6.2	15	11.5	49	37.7	33	25.4	22	16.9	5	3.8	2	1.5	130			
70歳以上	男性	16	38.1	7	16.7	4	9.5	3	7.1	1	2.4	1	2.4	18	42.9	8	19.0	9	21.4	0	0.0	1	2.4	42		
	女性	16	55.2	3	10.3	1	3.4	4	13.8	2	6.9	0	0.0	4	13.8	4	13.8	1	3.4	2	6.9	3	10.3	29		
	無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	50.0	0	0.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2		
計	32	43.8	10	13.7	5	6.8	7	9.6	3	4.1	2	2.7	22	30.1	13	17.8	10	13.7	2	2.7	4	5.5	73			
無回答	女性	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1
	無回答	3	42.9	3	42.9	1	14.3	0	0.0	1	14.3	1	14.3	0	0.0	0	0.0	1	14.3	1	14.3	2	28.6	7		
	計	3	37.5	4	50.0	1	12.5	0	0.0	1	12.5	1	12.5	0	0.0	1	12.5	1	12.5	1	12.5	2	25.0	8		
全体	男性	71	31.8	50	22.4	24	10.8	13	5.8	18	8.1	49	22.0	86	38.6	48	21.5	32	14.3	6	2.7	2	0.9	223		
	女性	88	33.0	56	21.0	45	16.9	19	7.1	60	22.5	67	25.1	56	21.0	55	20.6	32	12.0	13	4.9	10	3.7	267		
	無回答	4	33.3	3	25.0	2	16.7	0	0.0	3	25.0	2	16.7	1	8.3	1	8.3	2	16.7	1	8.3	2	16.7	12		
計	163	32.5	109	21.7	71	14.1	32	6.4	81	16.1	118	23.5	143	28.5	104	20.7	66	13.1	20	4.0	14	2.8	502			

【全体】

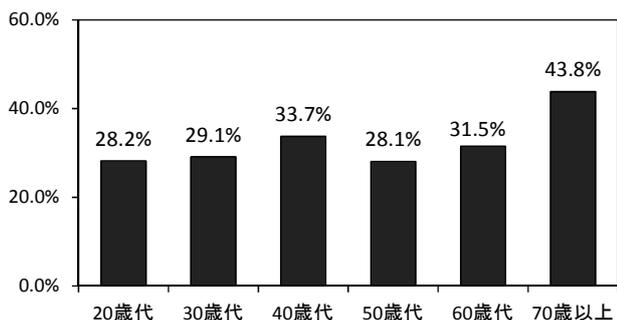


【全体男女別】

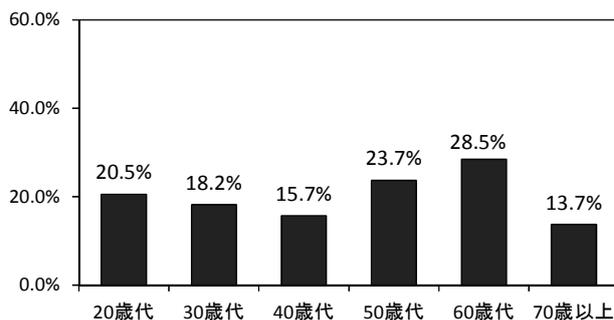


【選択肢・年代別】

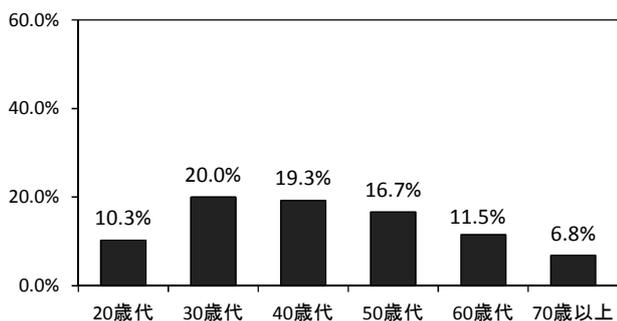
1. 正しい理解を持ちたい



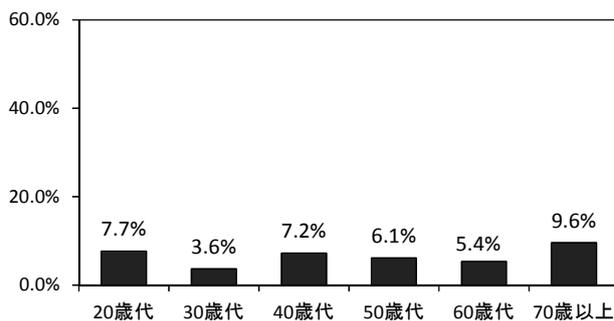
2. 自分の問題として学習したい



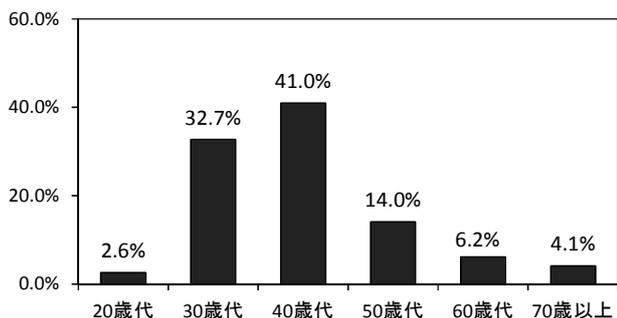
3. 講師やテーマに興味があった



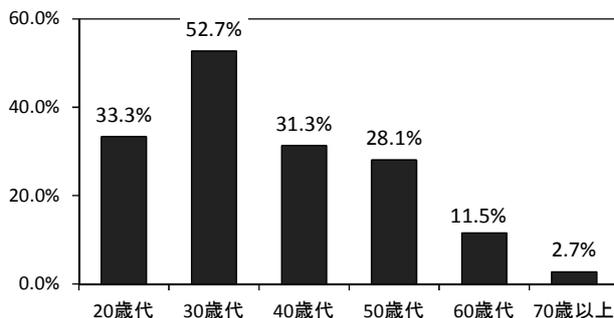
4. 誘われた



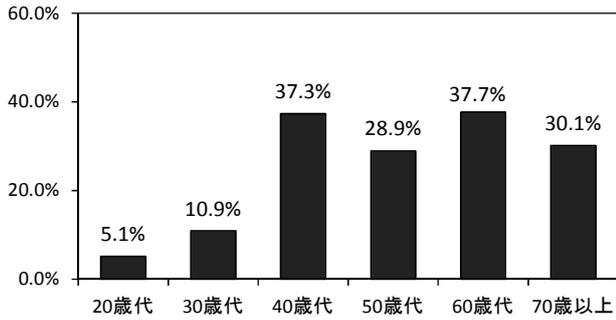
5. PTAの研修



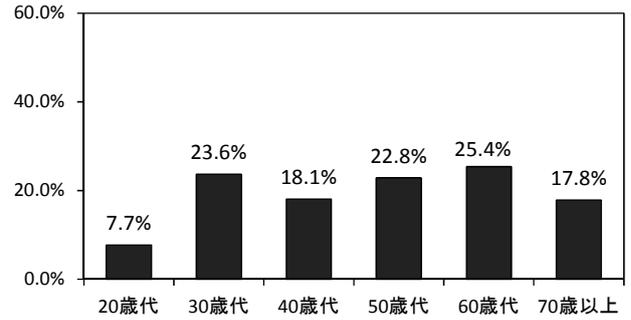
6. 職場の研修



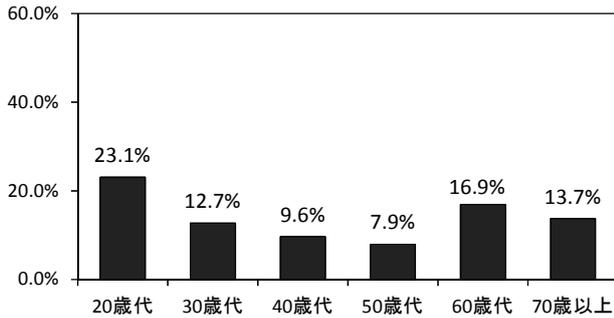
7. 町内会等の役員



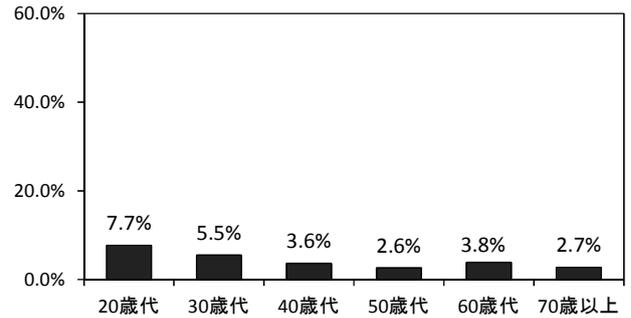
8. 動員



9. 他の行事や研修と一緒に

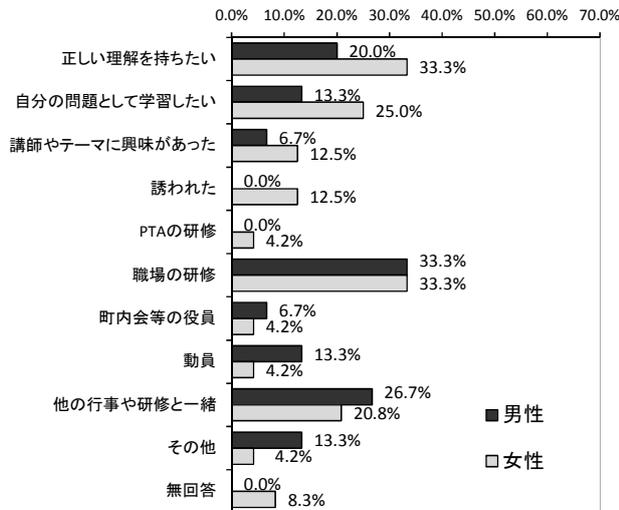


10. その他

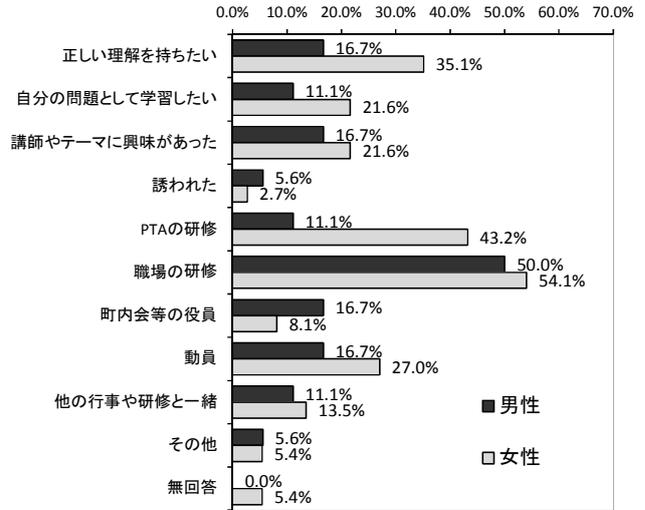


【年代男女別】

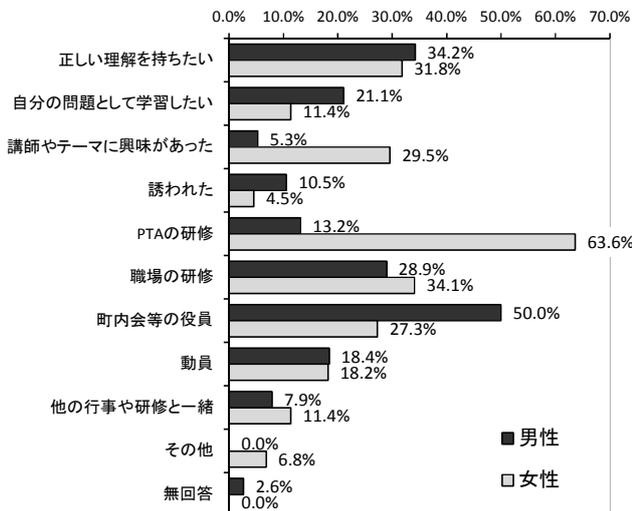
20歳代



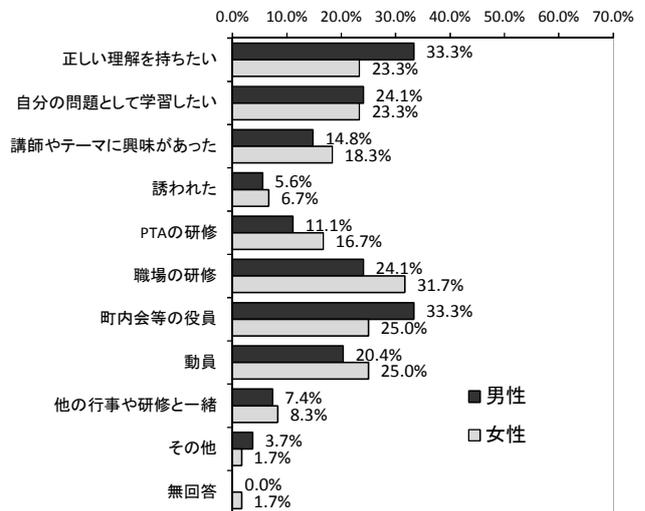
30歳代



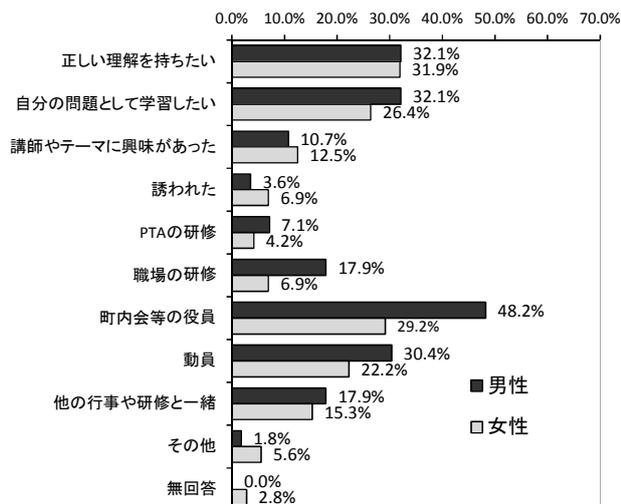
40歳代



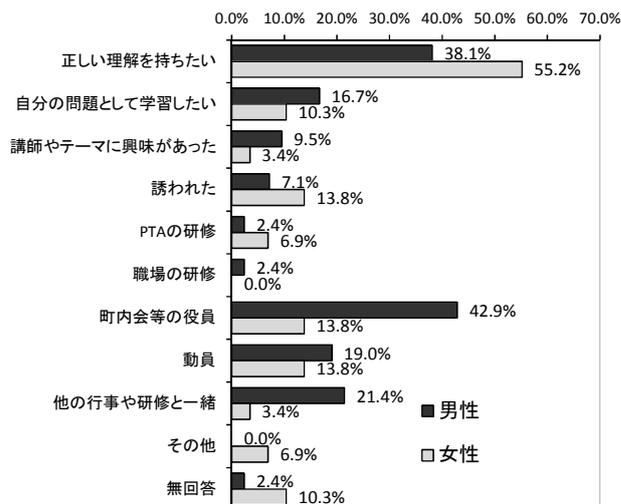
50歳代



60歳代



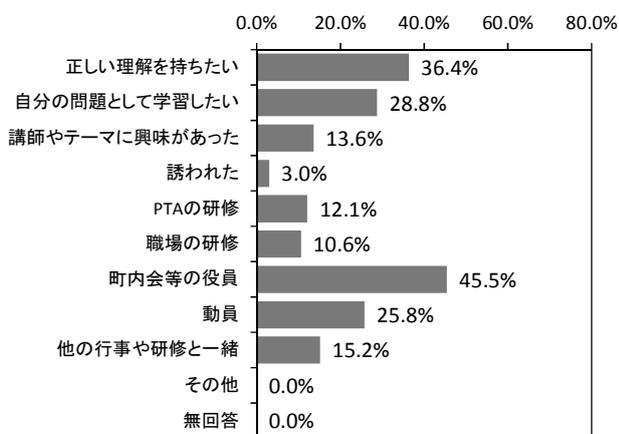
70歳以上



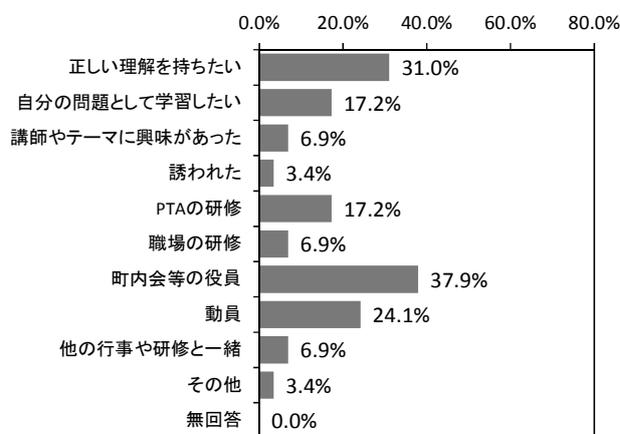
【職業別】

質問6-3 職業別	1. 正しい理解を持ちたい		2. 自分の問題として学習したい		3. 講師やテーマに興味があった		4. 誘われた		5. PTAの研修		6. 職場の研修		7. 町内会等の役員		8. 動員		9. 他の行事や研修と一緒に		10. その他		無回答		6-1 回答者数
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
農林漁業者	24	36.4	19	28.8	9	13.6	2	3.0	8	12.1	7	10.6	30	45.5	17	25.8	10	15.2	0	0.0	0	0.0	66
自営業者	9	31.0	5	17.2	2	6.9	1	3.4	5	17.2	2	6.9	11	37.9	7	24.1	2	6.9	1	3.4	0	0.0	29
企業・団体職員	30	25.2	20	16.8	6	5.0	8	6.7	19	16.0	36	30.3	36	30.3	27	22.7	11	9.2	2	1.7	4	3.4	119
保育士・教員	10	52.6	10	52.6	9	47.4	1	5.3	7	36.8	15	78.9	1	5.3	1	5.3	2	10.5	1	5.3	0	0.0	19
医療・福祉等関係者	11	32.4	8	23.5	6	17.6	0	0.0	13	38.2	18	52.9	10	29.4	6	17.6	4	11.8	0	0.0	0	0.0	34
公務員	9	47.4	6	31.6	6	31.6	1	5.3	4	21.1	12	63.2	2	10.5	3	15.8	0	0.0	1	5.3	0	0.0	19
家事従事者	19	39.6	11	22.9	10	20.8	8	16.7	4	8.3	5	10.4	13	27.1	8	16.7	5	10.4	5	10.4	0	0.0	48
パート・アルバイト等	16	28.1	8	14.0	12	21.1	4	7.0	13	22.8	16	28.1	11	19.3	14	24.6	9	15.8	2	3.5	1	1.8	57
学生	4	28.6	1	7.1	1	7.1	1	7.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	6	42.9	3	21.4	1	7.1	14
無職	25	32.1	14	17.9	8	10.3	6	7.7	5	6.4	3	3.8	25	32.1	19	24.4	15	19.2	4	5.1	4	5.1	78
その他	2	33.3	3	50.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	33.3	2	33.3	1	16.7	0	0.0	0	0.0	2	33.3	6
無回答	4	30.8	4	30.8	2	15.4	0	0.0	3	23.1	2	15.4	2	15.4	1	7.7	2	15.4	1	7.7	2	15.4	13
全体	163	32.5	109	21.7	71	14.1	32	6.4	81	16.1	118	23.5	143	28.5	104	20.7	66	13.1	20	4.0	14	2.8	502

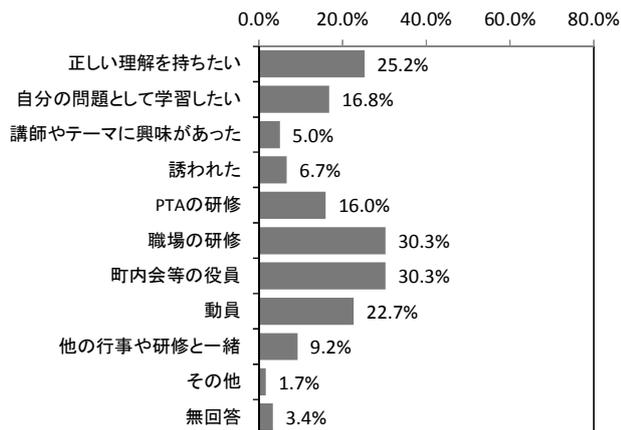
農林漁業者



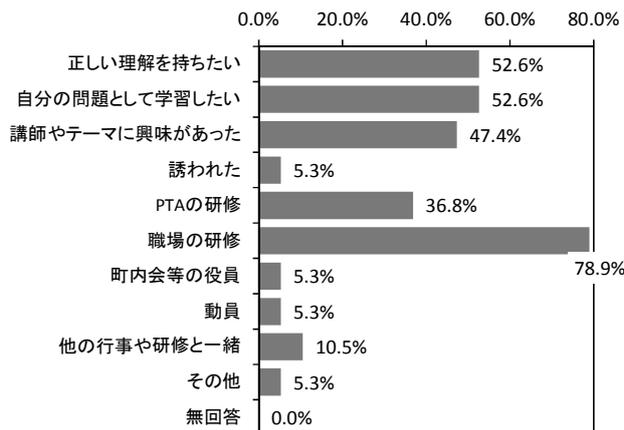
自営業者



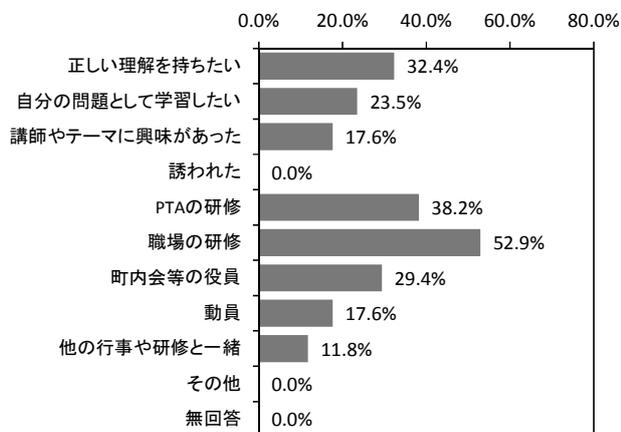
企業・団体職員



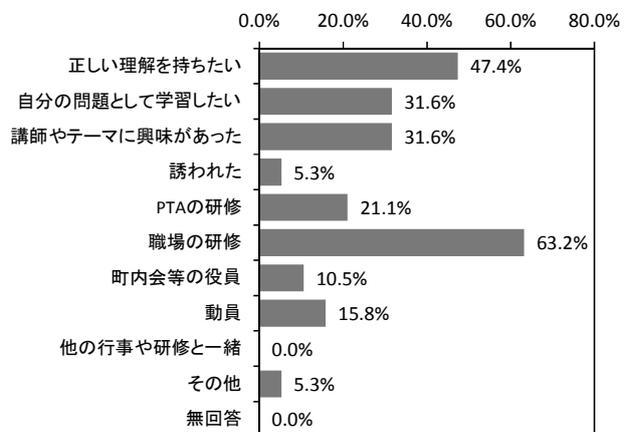
保育士・教員



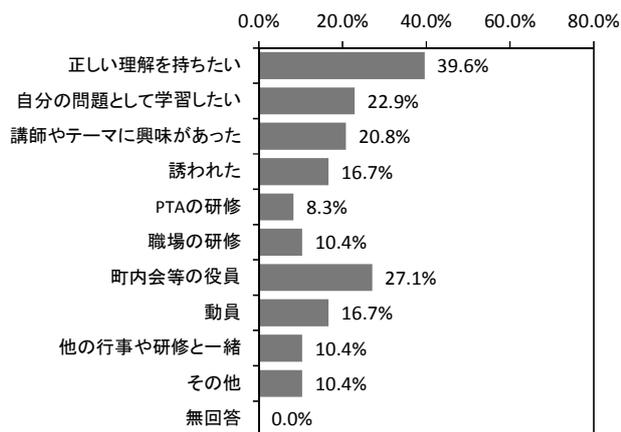
医療・福祉等関係者



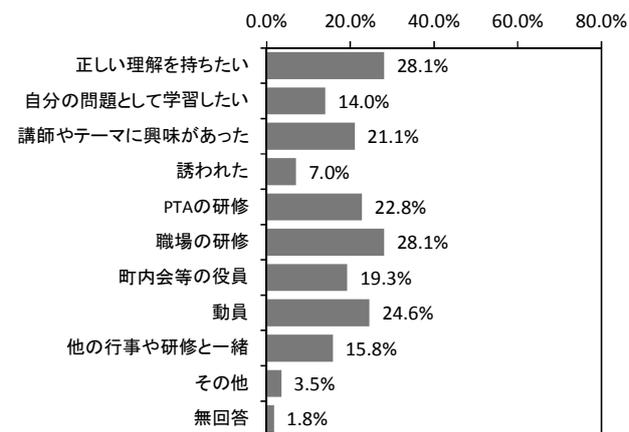
公務員



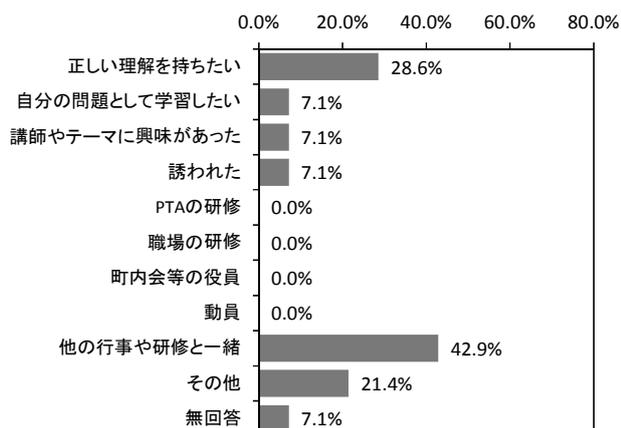
家事従事者



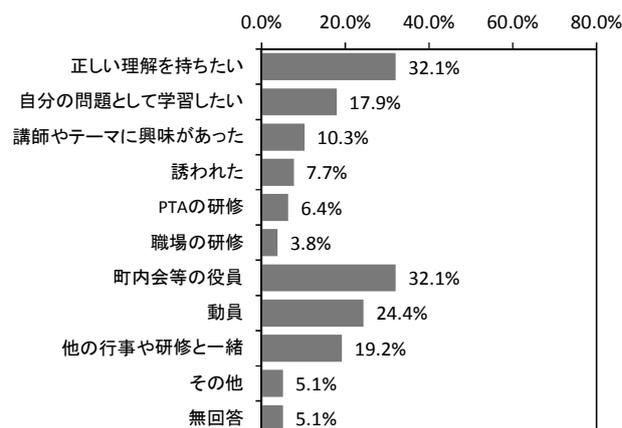
パート・アルバイト等



学生



無職



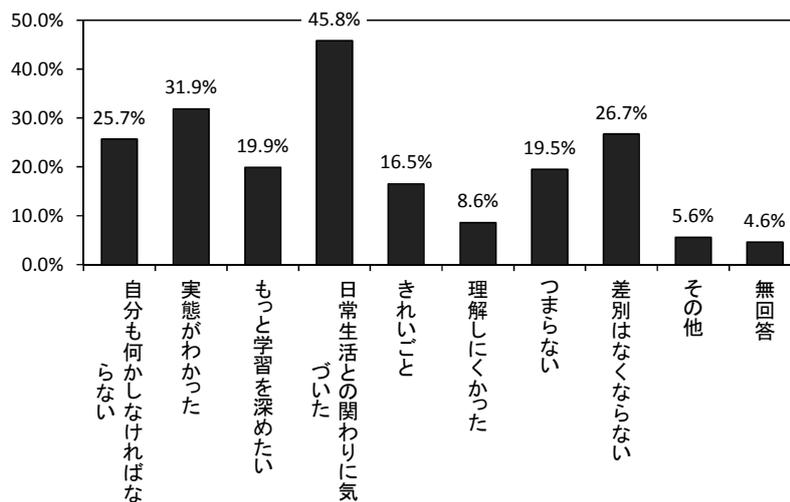
- 全体では、「正しい理解を持ちたい」32.5%が最も高く、「町内会等の役員」28.5%が続き、「職場の研修」23.5%と「自分の問題として学習したい」21.7%、「動員」20.7%が同程度である。
- 年代では、20歳代と30歳代は「職場の研修」、40歳代は「PTAの研修」、50歳代と60歳代は「町内会等の役員」、70歳以上は「正しい理解を持ちたい」が最も高い。70歳以上は「正しい理解を持ちたい」43.8%が他の年代より10～16ポイント程度高いが、「自分の問題として学習したい」は13.7%で、「正しい理解を持ちたい」より約30ポイント低く、他の年代よりも低い。「町内会等の役員」と「動員」は60歳代が最も高い。
- 男女別では、「PTAの研修」は女性の方が14.4ポイント高く、「町内会等の役員」は男性の方が17.6ポイント高い。また、「講師やテーマに興味があった」は女性の方が約6ポイント高い。
- 年代男女別では、次のような傾向、特徴がみられる。
 - ・ 20歳代は男女であまり大きな差はないが、積極的・自発的な理由は女性の方が11～13ポイント程度高く、消極的・義務的な理由は男性の方が少し高い。
 - ・ 30歳代男女で特に大きな差があるのは「PTAの研修」で、女性43.2%に対し男性11.1%で、32.1ポイントの差がある。また、「正しい理解を持ちたい」も女性の方が18.4ポイント高く、男性16.7%は年代男女中最も低い。「職場の研修」は男女とも他の年代より高い。
 - ・ 40歳代男女も「PTAの研修」で大きな差がある。女性63.6%は年代男女中最も高く、男性13.2%と50.4ポイントもの差がある。また、女性は「講師やテーマに興味があった」も年代男女中最も高い29.5%で、男性と24.2ポイントの差がある。逆に、男性は「町内会等の役員」が年代男女中最も高い50.0%で、女性と22.7ポイントの差がある。
 - ・ 50歳代は男女であまり大きな差はないが、「正しい理解を持ちたい」は10.0ポイント、「町内会等の役員」は8.3ポイント、それぞれ男性の方が高い。
 - ・ 60歳代男女で大きな差があるのは「町内会等の役員」で、男性48.2%、女性29.2%で19.0ポイントの差がある。
 - ・ 70歳以上男女で特に大きな差があるのは「町内会等の役員」で、男性42.9%、女性13.8%で29.1ポイントの差。「他の行事と一緒に」も男性の方が18.0ポイント高い。女性は「正しい理解を持ちたい」が年代男女中最も高い55.2%だが、「自分の問題として学習したい」10.3%は年代男女中最も低い。
- 職業等では、「正しい理解を持ちたい」、「自分の問題として学習したい」、「講師やテーマに興味があった」、「職場の研修」は、保育士・教員、公務員が高い。「町内会等の役員」、「動員」は農林漁業者が高い。

質問6-4 質問6-1で1~3を選ばれた方におたずねします。参加されてどのような感想を持たれましたか。(〇はいくつでも)

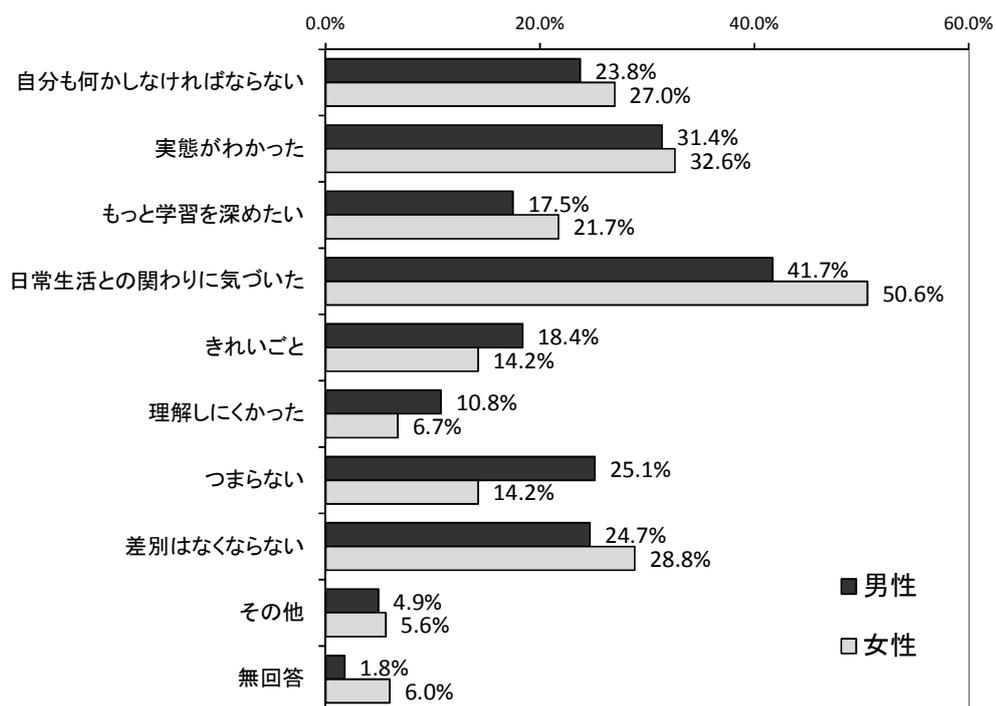
- 1 差別や人権侵害をなくすために、自分も何かしなければならなかった
- 2 差別や人権侵害の実態がよくわかった
- 3 もっといろいろな人権問題について学習を深めたいと思った
- 4 人権問題は日常の生活や仕事と深く関わっていることに気づいた
- 5 話がきれいごとすぎると思った
- 6 話が難しかったり、極端であったりして、理解しにくかった
- 7 毎回同じような話でつまらないと思った
- 8 そうはいつでも差別はやはりなくならないと思った
- 9 その他

質問6-4		1. 自分も何かしなければならなかった		2. 実態がわかった		3. もっと学習を深めたい		4. 日常生活との関わり気づいた		5. きれいごと		6. 理解しにくかった		7. つまらない		8. 差別はなくならない		9. その他		無回答		6-1回答者数		
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%			
20歳代	男性	3	20.0	4	26.7	2	13.3	5	33.3	3	20.0	2	13.3	1	6.7	4	26.7	0	0.0	1	6.7	15		
	女性	9	37.5	12	50.0	5	20.8	14	58.3	2	8.3	3	12.5	2	8.3	6	25.0	0	0.0	2	8.3	24		
	計	12	30.8	16	41.0	7	17.9	19	48.7	5	12.8	5	12.8	3	7.7	10	25.6	0	0.0	3	7.7	39		
30歳代	男性	3	16.7	9	50.0	4	22.2	8	44.4	5	27.8	3	16.7	6	33.3	5	27.8	1	5.6	0	0.0	0	0.0	18
	女性	8	21.6	12	32.4	13	35.1	16	43.2	5	13.5	3	8.1	2	5.4	8	21.6	3	8.1	5	13.5	37		
	計	11	20.0	21	38.2	17	30.9	24	43.6	10	18.2	6	10.9	8	14.5	13	23.6	4	7.3	5	9.1	55		
40歳代	男性	12	31.6	11	28.9	9	23.7	15	39.5	2	5.3	2	5.3	7	18.4	6	15.8	2	5.3	2	5.3	2	5.3	38
	女性	14	31.8	19	43.2	13	29.5	23	52.3	3	6.8	2	4.5	3	6.8	10	22.7	3	6.8	1	2.3	44		
	無回答	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	1	100.0	0	0.0	1	100.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	1		
計	26	31.3	31	37.3	22	26.5	38	45.8	6	7.2	4	4.8	11	13.3	17	20.5	5	6.0	3	3.6	83			
50歳代	男性	11	20.4	17	31.5	8	14.8	27	50.0	12	22.2	7	13.0	10	18.5	14	25.9	2	3.7	0	0.0	0	0.0	54
	女性	18	30.0	20	33.3	13	21.7	34	56.7	12	20.0	3	5.0	10	16.7	19	31.7	2	3.3	1	1.7	60		
	計	29	25.4	37	32.5	21	18.4	61	53.5	24	21.1	10	8.8	20	17.5	33	28.9	4	3.5	1	0.9	114		
60歳代	男性	17	30.4	15	26.8	10	17.9	20	35.7	13	23.2	6	10.7	16	28.6	16	28.6	4	7.1	0	0.0	0	0.0	56
	女性	17	23.6	16	22.2	9	12.5	39	54.2	11	15.3	6	8.3	14	19.4	27	37.5	5	6.9	3	4.2	72		
	無回答	1	50.0	1	50.0	1	50.0	0	0.0	1	50.0	0	0.0	2	100.0	0	0.0	1	50.0	0	0.0	2		
計	35	26.9	32	24.6	20	15.4	59	45.4	25	19.2	12	9.2	32	24.6	43	33.1	10	7.7	3	2.3	130			
70歳以上	男性	7	16.7	14	33.3	6	14.3	18	42.9	6	14.3	4	9.5	16	38.1	10	23.8	2	4.8	1	2.4	42		
	女性	6	20.7	7	24.1	5	17.2	9	31.0	5	17.2	1	3.4	7	24.1	7	24.1	2	6.9	4	13.8	29		
	無回答	1	50.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	50.0	0	0.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2		
計	14	19.2	21	28.8	11	15.1	27	37.0	12	16.4	5	6.8	24	32.9	17	23.3	4	5.5	5	6.8	73			
無回答	女性	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1
	無回答	2	28.6	1	14.3	2	28.6	2	28.6	1	14.3	1	14.3	0	0.0	1	14.3	1	14.3	3	42.9	7		
	計	2	25.0	2	25.0	2	25.0	2	25.0	1	12.5	1	12.5	0	0.0	1	12.5	1	12.5	3	37.5	8		
全体	男性	53	23.8	70	31.6	39	17.5	93	41.7	41	18.4	24	10.8	56	25.1	55	24.7	11	4.9	4	1.8	223		
	女性	72	27.0	87	32.6	58	21.7	135	50.6	38	14.2	18	6.7	38	14.2	77	28.8	15	5.6	16	6.0	267		
	無回答	4	33.3	3	25.0	3	25.0	2	16.7	4	33.3	1	8.3	4	33.3	2	16.7	2	16.7	3	25.0	12		
計	129	25.7	160	31.9	100	19.9	230	45.8	83	16.5	43	8.6	98	19.5	134	26.7	28	5.6	23	4.6	502			

【全体】

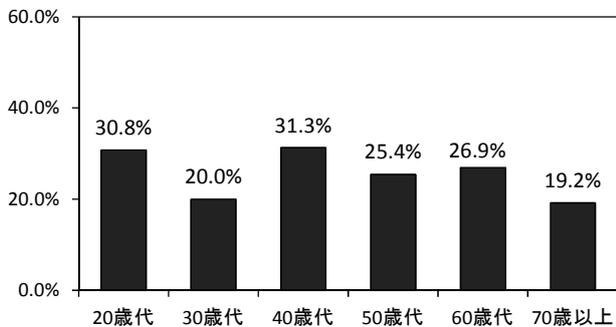


【全体男女別】

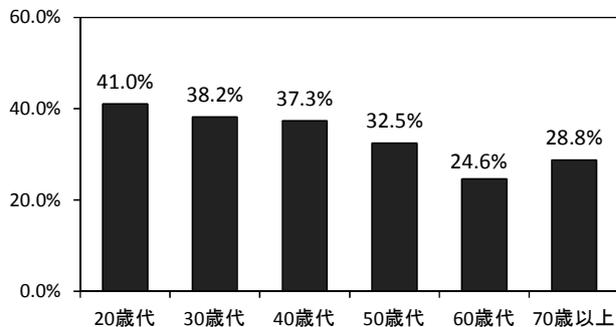


【選択肢・年代別】

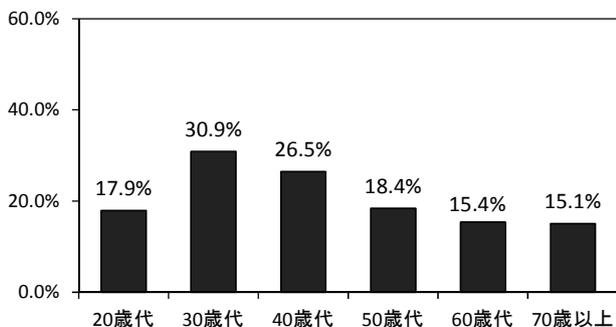
1. 自分も何かしなければならない



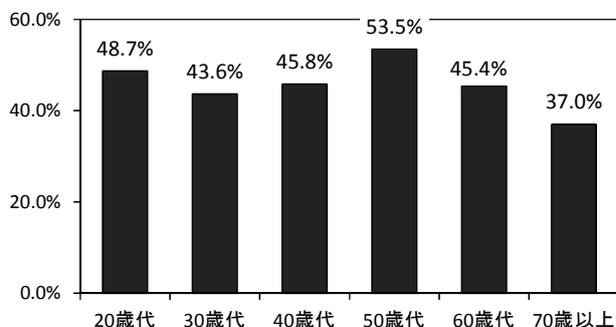
2. 実態がわかった



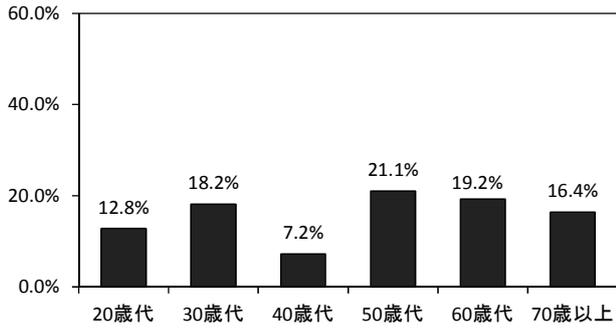
3. もっと学習を深めたい



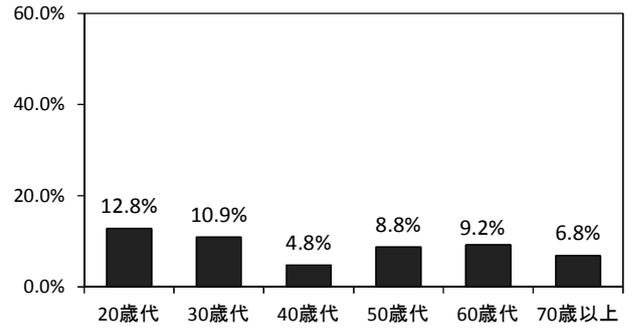
4. 日常生活との関わりに気づいた



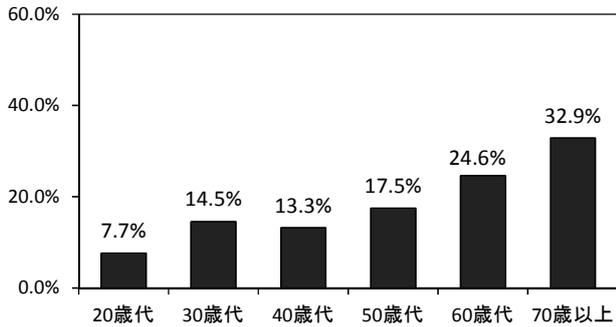
5. きれいごと



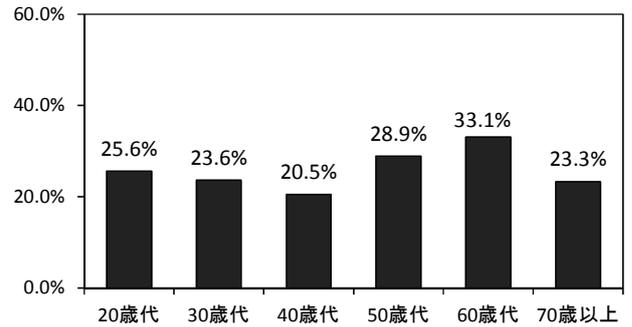
6. 理解しにくかった



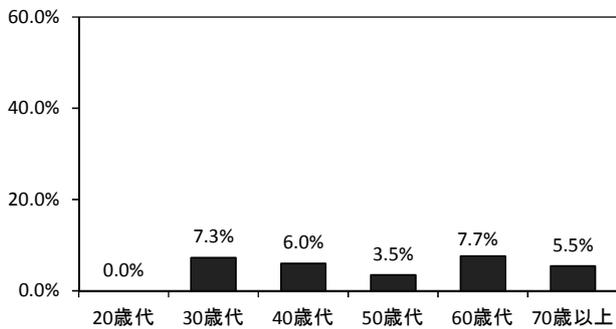
7. つまらない



8. 差別はなくなる

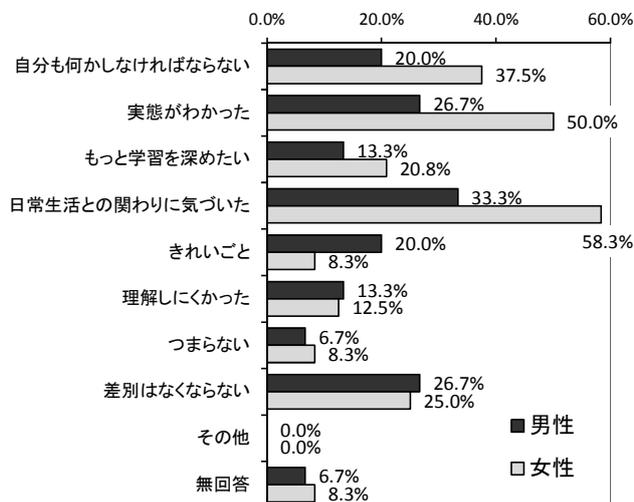


9. その他

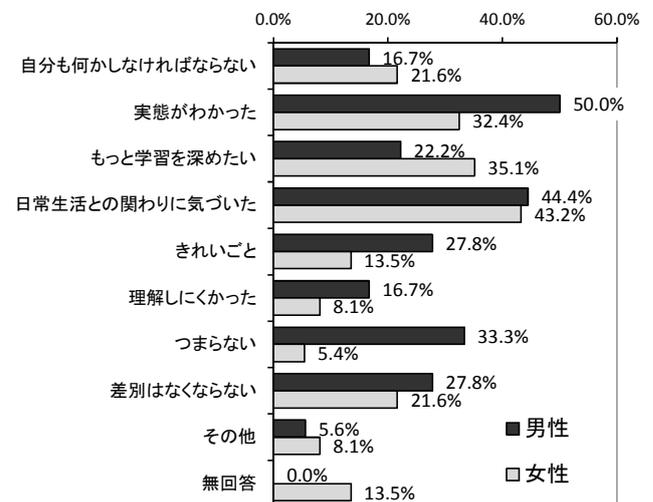


【年代男女別】

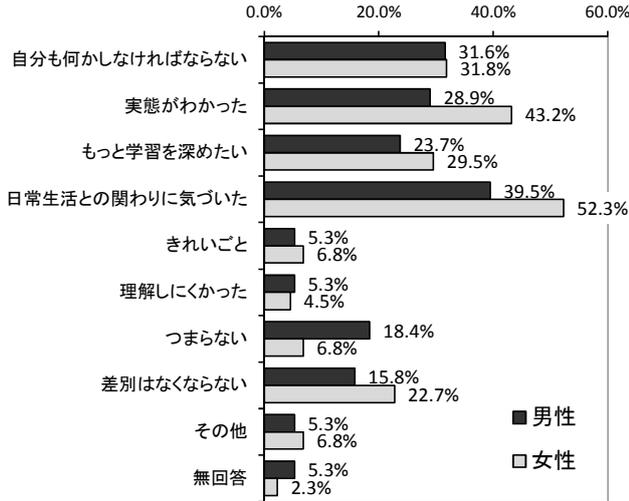
20歳代



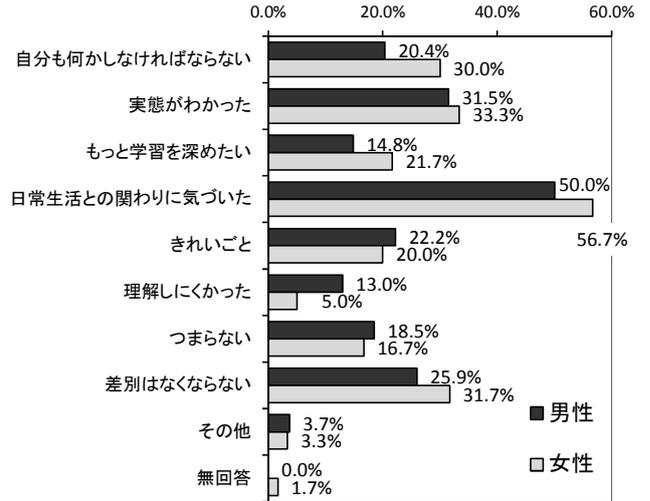
30歳代



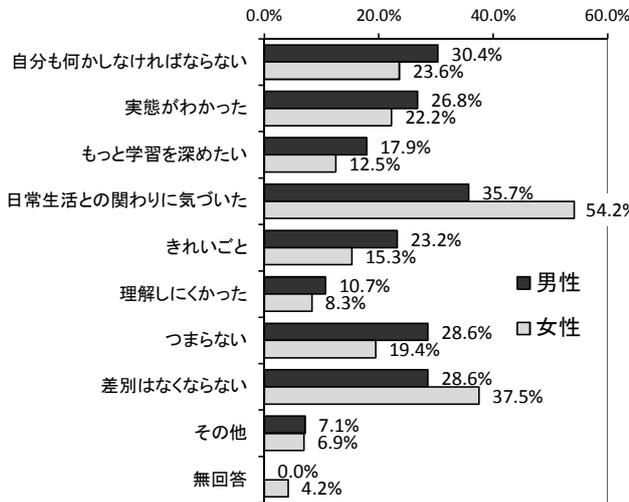
40歳代



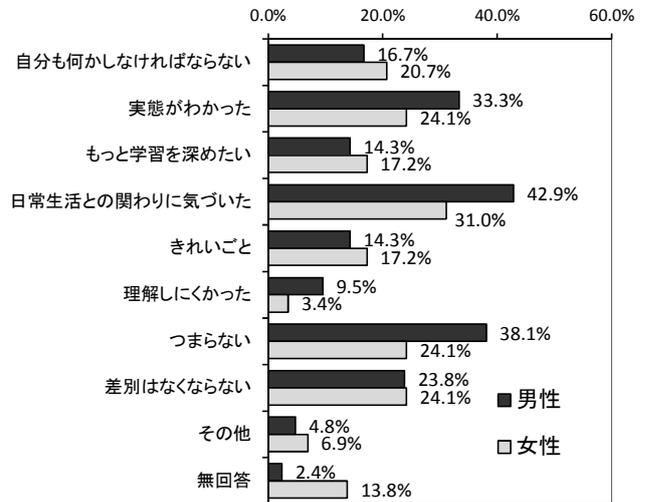
50歳代



60歳代



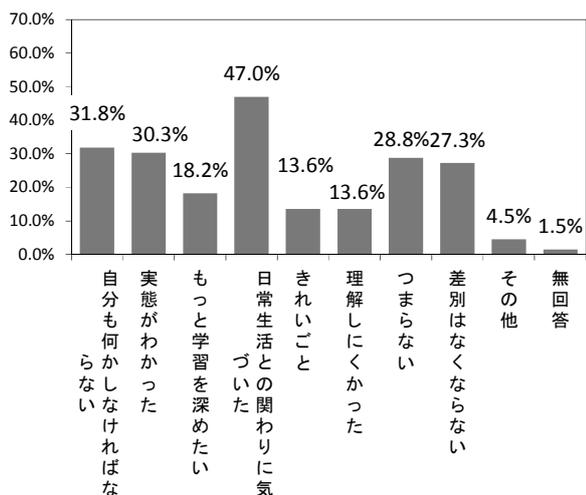
70歳以上



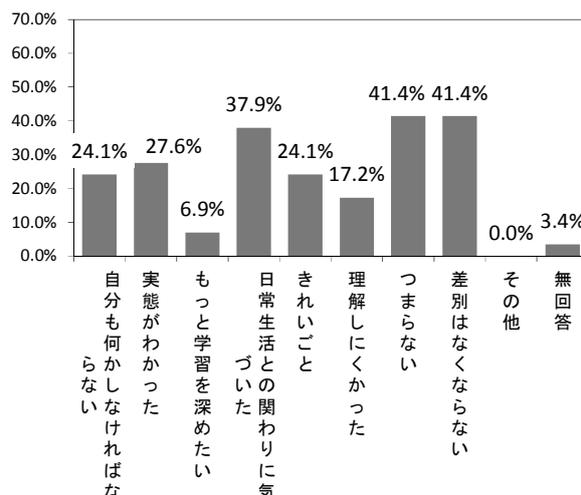
【職業別】

質問6-4 職業別	1. 自分も何かしなければならぬ		2. 実態がわかった		3. もっと学習を深めたい		4. 日常生活との関わり気づいた		5. きれいごと		6. 理解しにくかった		7. つまらない		8. 差別はなくなる		9. その他		無回答		6-1 回答者数
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
農林漁業者	21	31.8	20	30.3	12	18.2	31	47.0	9	13.6	9	13.6	19	28.8	18	27.3	3	4.5	1	1.5	66
自営業者	7	24.1	8	27.6	2	6.9	11	37.9	7	24.1	5	17.2	12	41.4	12	41.4	0	0.0	1	3.4	29
企業・団体職員	21	17.6	33	27.7	21	17.6	54	45.4	17	14.3	8	6.7	20	16.8	29	24.4	5	4.2	6	5.0	119
保育士・教員	12	63.2	12	63.2	7	36.8	13	68.4	2	10.5	2	10.5	1	5.3	2	10.5	1	5.3	0	0.0	19
医療・福祉等関係者	11	32.4	10	29.4	13	38.2	19	55.9	5	14.7	1	2.9	4	11.8	7	20.6	0	0.0	0	0.0	34
公務員	5	26.3	10	52.6	6	31.6	11	57.9	2	10.5	0	0.0	1	5.3	1	5.3	1	5.3	1	5.3	19
家事従事者	15	31.3	14	29.2	13	27.1	25	52.1	8	16.7	2	4.2	5	10.4	15	31.3	6	12.5	1	2.1	48
パート・アルバイト等	10	17.5	22	38.6	11	19.3	24	42.1	11	19.3	9	15.8	9	15.8	22	38.6	3	5.3	4	7.0	57
学生	6	42.9	6	42.9	2	14.3	7	50.0	1	7.1	0	0.0	0	0.0	3	21.4	0	0.0	1	7.1	14
無職	13	16.7	20	25.6	10	12.8	30	38.5	17	21.8	6	7.7	25	32.1	21	26.9	7	9.0	3	3.8	78
その他	3	50.0	2	33.3	0	0.0	3	50.0	2	33.3	0	0.0	0	0.0	2	33.3	0	0.0	2	33.3	6
無回答	5	38.5	3	23.1	3	23.1	2	15.4	2	15.4	1	7.7	2	15.4	2	15.4	2	15.4	3	23.1	13
全体	129	25.7	160	31.9	100	19.9	230	45.8	83	16.5	43	8.6	98	19.5	134	26.7	28	5.6	23	4.6	502

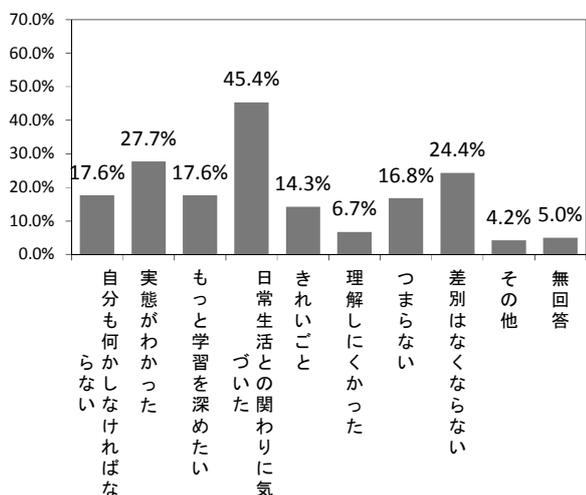
農林漁業者



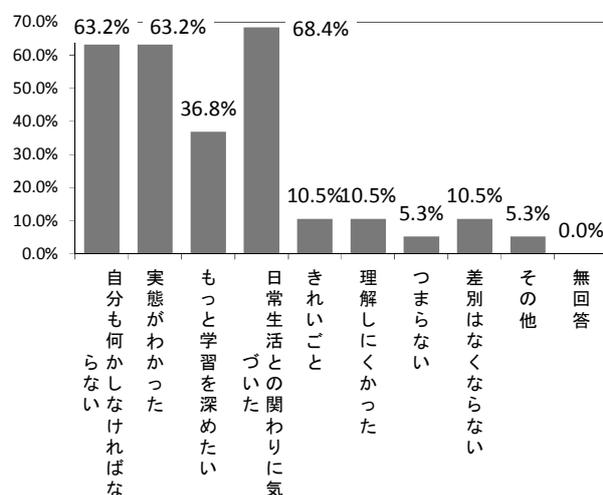
自営業者



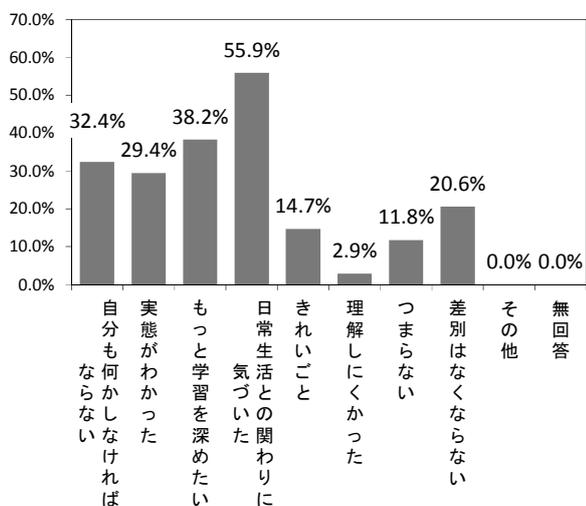
企業・団体職員



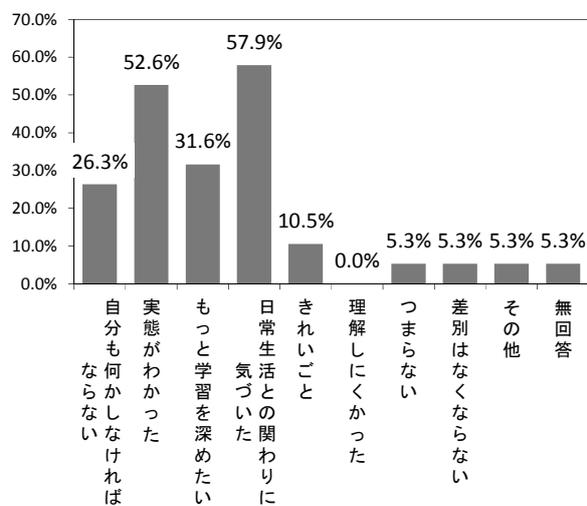
保育士・教員



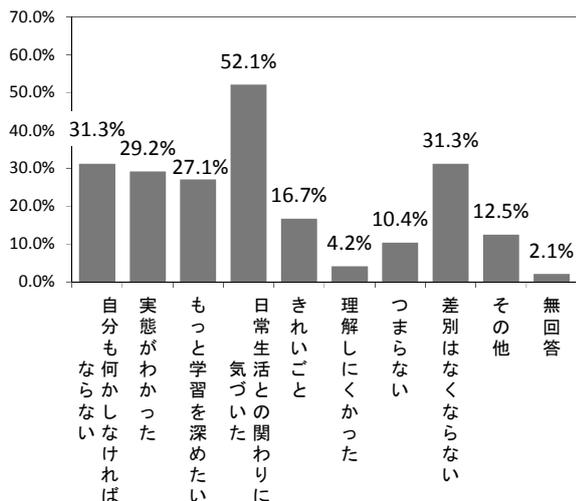
医療・福祉等関係者



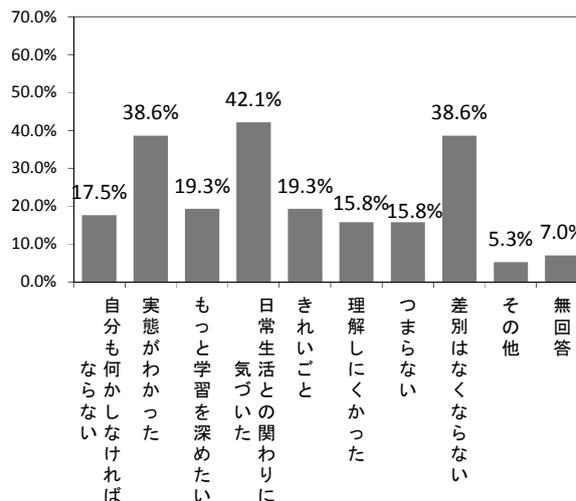
公務員



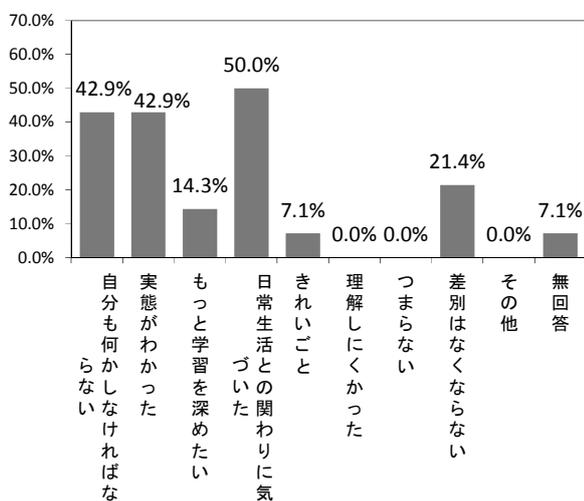
家事従事者



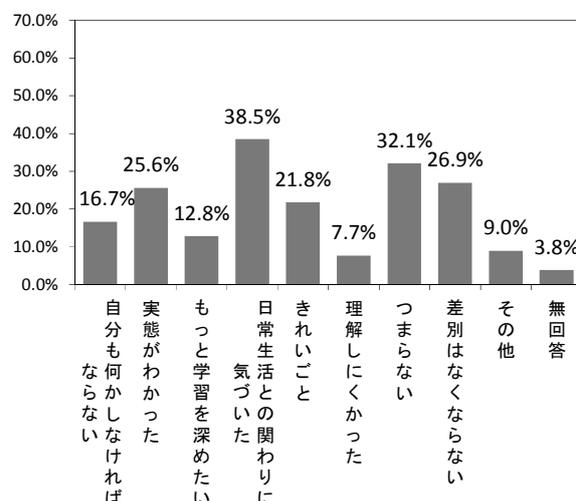
パート・アルバイト等



学生



無職



○ 全体では、「日常生活との関わり気づいた」45.8%が最も高く、次に「実態がわかった」31.9%、「差別はなくならない」26.7%と「自分も何かしなければならぬ」25.7%が同程度で続く。「もっと学習を深めたい」19.9%と「つまらない」19.5%、「きれいごと」16.5%も同程度である。

○ 年代では、次のような傾向、特徴がみられる。

- どの年代も「日常生活との関わり気づいた」が最も高い。20歳代～50歳代は「実態がわかった」、60歳代は「差別はなくならない」、70歳以上は「つまらない」が2番目に高い。
- 「つまらない」は概ね年代が上がるにつれて高くなり、最も高い70歳以上と最も低い20歳代では25.2ポイントの差がある。
- 20歳代は、「自分も何かしなければならぬ」、「実態がわかった」、「日常生活との関わり気づいた」は他の年代より高い傾向にあるが、「もっと学習を深めたい」は30歳代や40歳代と比べると低く、学習意欲の向上につながっているとは言えない。
- 30歳代は「自分も何かしなければならぬ」が70歳以上と同じくらい低い。

○ 男女別ではあまり大きな差はみられないが、「日常生活との関わり気づいた」は女性の方が約9ポイント、「つまらない」は男性の方が約11ポイント高い。

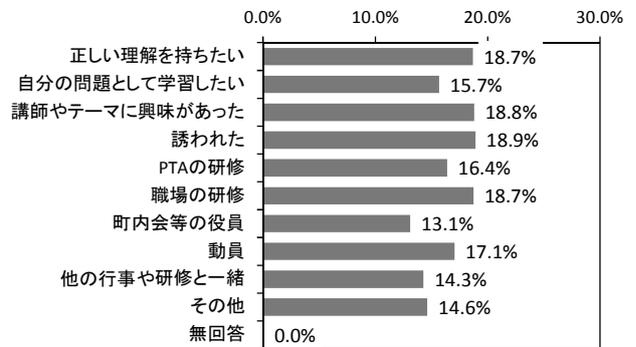
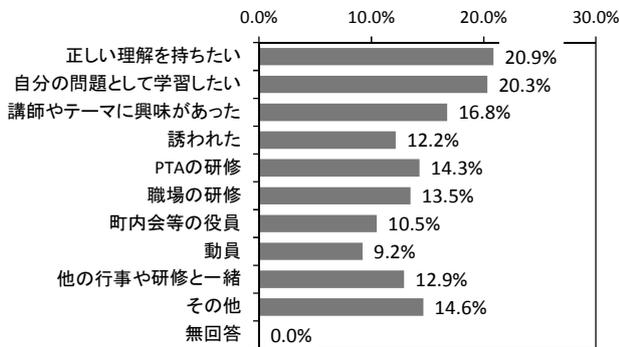
- 年代男女別では、次のような傾向、特徴がみられる。
 - ・ 20歳代男女で大きな差があるのは、「日常生活との関わりに気づいた」25.0ポイント、「実態がわかった」23.3ポイント、「自分も何かしなければならぬ」17.5ポイントで、いずれも女性の方が高く、「きれいごと」は男性の方が11.7ポイント高い。また、男性は「もっと学習を深めたい」が年代男女中最も低い。
 - ・ 30歳代男性は「実態がわかった」が20歳代女性同様、年代男女中最も高いが、「きれいごと」、「理解しにくかった」も年代男女中最も高く、「つまらない」も70歳以上男性に次いで高い。「自分も何かしなければならぬ」は70歳以上男性と同様、年代男女中最も低い。「自分も何かしなければならぬ」は、女性も高いとは言えない。しかし、30歳代女性は「もっと学習を深めたい」が年代男女中最も高い。「つまらない」は年代男女中最も低く、同男性とは27.9ポイントの差がある。
 - ・ 40歳代は男女とも「きれいごと」、「理解しにくかった」が低い。
 - ・ 50歳代は男女で大きな差はない。男女とも「日常生活との関わりに気づいた」が高い。
 - ・ 60歳代で大きな差があるのは、「日常生活との関わりに気づいた」で、女性の方が18.5ポイント高い。また、女性は「差別はなくなる」が年代男女中最も高い。
 - ・ 70歳以上男性は「つまらない」が年代男女中最も高い。女性も他の年代と比べると高いが、男性の方が14.0ポイント高い。
- 職業等では、次のような傾向、特徴がみられる。
 - ・ 保育士・教員は「日常生活との関わりに気づいた」、「自分も何かしなければならぬ」、「実態がわかった」が6割以上で、他の職業等と比べてとても高いが、「もっと学習を深めたい」は4割以下で、上位3つとは26.4ポイント～31.6ポイントの差がある。
 - ・ 公務員も「日常生活との関わりに気づいた」が6割近く、「実態がわかった」も5割以上と高いが、「自分も何かしなければならぬ」は3割を下回り、他の職業等と比較しても高いとは言えない。
 - ・ 「きれいごと」、「理解しにくかった」、「つまらない」、「差別はなくなる」は、自営業者が最も高い。特に、「つまらない」41.4%は他の職業等よりも高く、2番目に高い無職とも9.3ポイントの差がある。また、「日常生活との関わりに気づいた」、「実態がわかった」は他の職業等より低く、「もっと学習を深めたい」は6.9%で1割にも満たない。

【質問6-4（研修等に参加した感想）と質問6-3（研修会等への参加動機）の関連】

質問6-4 \ 質問6-3	1. 自分も何かしなければならぬ		2. 実態がわかった		3. もっと学習を深めたい		4. 日常生活との関わりに気づいた		5. きれいごと		6. 理解しにくかった		7. つまらない		8. 差別はなくならない		9. その他		無回答	6-3 回答数	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%			
1. 正しい理解を持ちたい	86	20.9	77	18.7	67	16.3	95	23.1	16	3.9	9	2.2	15	3.6	36	8.7	8	1.9	3	0.7	412
2. 自分の問題として学習したい	61	20.3	47	15.7	52	17.3	67	22.3	15	5.0	9	3.0	13	4.3	28	9.3	7	2.3	1	0.3	300
3. 講師やテーマに興味があった	33	16.8	37	18.8	32	16.2	51	25.9	12	6.1	4	2.0	6	3.0	17	8.6	4	2.0	1	0.5	197
4. 誘われた	9	12.2	14	18.9	7	9.5	17	23.0	3	4.1	5	6.8	7	9.5	8	10.8	4	5.4	0	0.0	74
5. P T Aの研修	27	14.3	31	16.4	28	14.8	44	23.3	10	5.3	7	3.7	12	6.3	20	10.6	7	3.7	3	1.6	189
6. 職場の研修	36	13.5	50	18.7	33	12.4	73	27.3	17	6.4	9	3.4	15	5.6	28	10.5	2	0.7	4	1.5	267
7. 町内会等の役員	32	10.5	40	13.1	16	5.2	60	19.7	34	11.1	16	5.2	41	13.4	52	17.0	11	3.6	3	1.0	305
8. 動員	20	9.2	37	17.1	12	5.5	40	18.4	21	9.7	16	7.4	26	12.0	33	15.2	8	3.7	4	1.8	217
9. 他の行事や研修と一緒に	19	12.9	21	14.3	10	6.8	26	17.7	19	12.9	8	5.4	18	12.2	24	16.3	2	1.4	0	0.0	147
10. その他	6	14.6	6	14.6	2	4.9	8	0.0	3	7.3	3	7.3	2	4.9	4	9.8	6	14.6	1	2.4	41
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	7.1	0	0.0	13	92.9	14

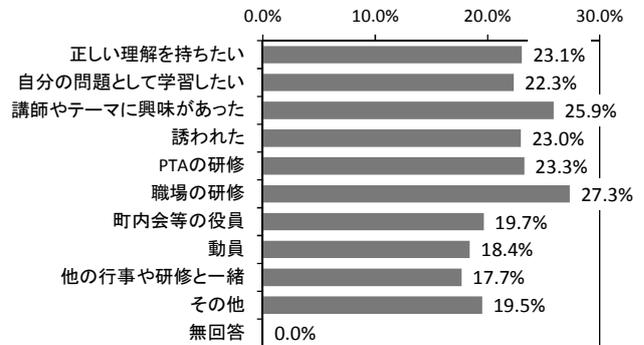
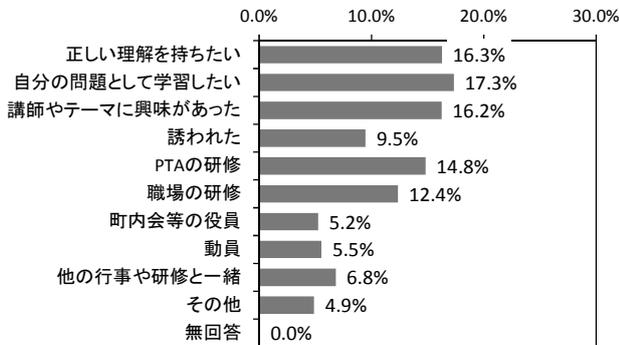
1. 自分も何かしなければならぬ

2. 実態がわかった



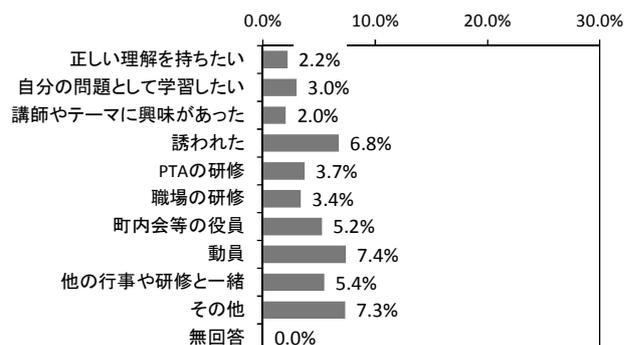
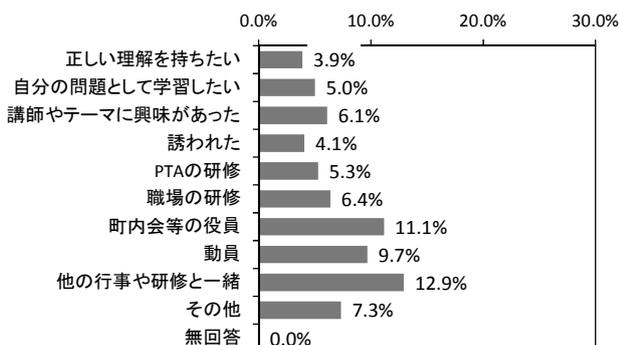
3. もっと学習を深めたい

4. 日常生活との関わりに気づいた

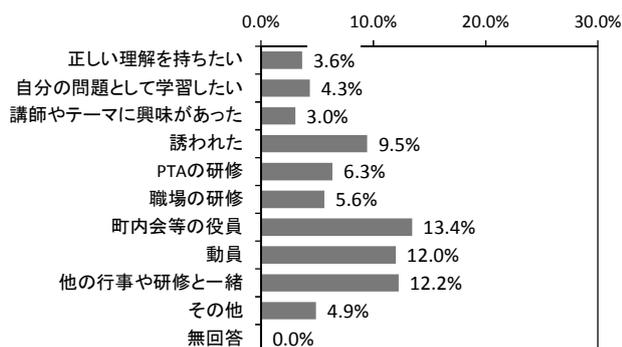


5. きれいごと

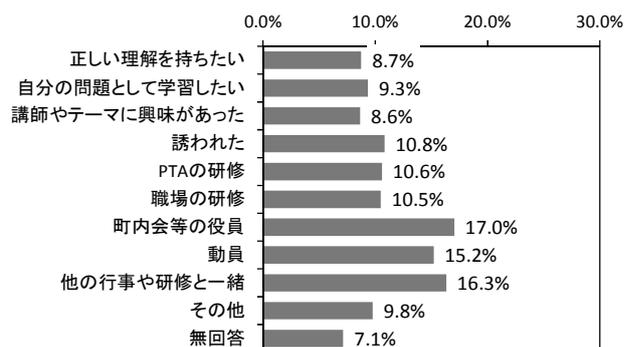
6. 理解しにくかった



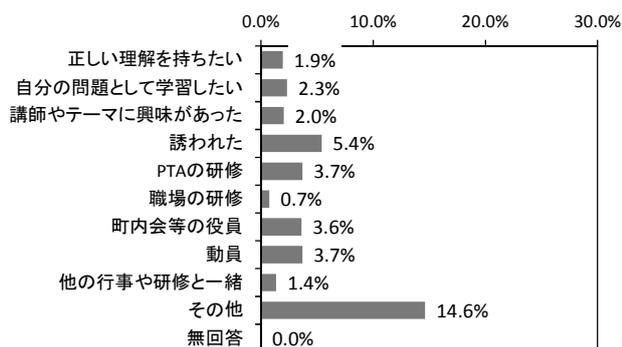
7. つまらない



8. 差別はなくなるらない



9. その他



【質問6-4と質問6-3】

研修等への参加動機が、「主体的グループ」（「正しい理解を持ちたい」、「自分の問題として学習したい」、「講師やテーマに興味があった」）、「属性グループ」（「PTAの研修」、「職場の研修」）、「半強制グループ」（「町内会等の役員」、「動員」、「他の行事や研修と一緒に」）のいずれであるかによって感想に差がある。

「主体的グループ」は、「自分も何かしなければならぬ」という行動化に対する意識や、「もっと学習を深めたい」といった次への学習意欲が高く、「きれいごと」や「つまらない」、「差別はなくなるらない」が低い。一方、「半強制グループ」は、行動化への意識や学習意欲が低く、「きれいごと」、「つまらない」、「差別はなくなるらない」が高い。

「町内会等の役員」や「動員」、「他の行事や研修と一緒に」という参加の仕方・させ方は、鳥取県の特徴の一つと言える。参加率の維持や向上はできるかもしれないが、感想をみると、行動化や学習意欲など、本来目指すべき方向にはつながっていない。参加人数や参加率のような、わかりやすく、数値化しやすいものが判断基準にされる傾向があるが、ここにこそ大きな課題があるのではないかと。

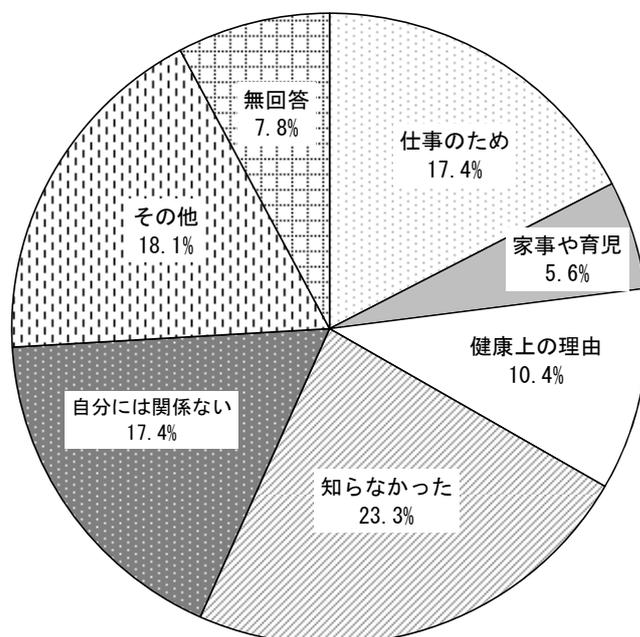
質問6-5 質問6-1で4を選ばれた方におたずねします。参加されなかったのはなぜですか。

(〇は1つ)

- 1 仕事のため都合がつかなかったから
- 2 家事や育児で忙しかったから
- 3 健康上の理由があったから
- 4 講演会や研修会があることを知らなかったから
- 5 講演会や研修会があることは知っていたが、自分には関係ないと思ったから
- 6 その他

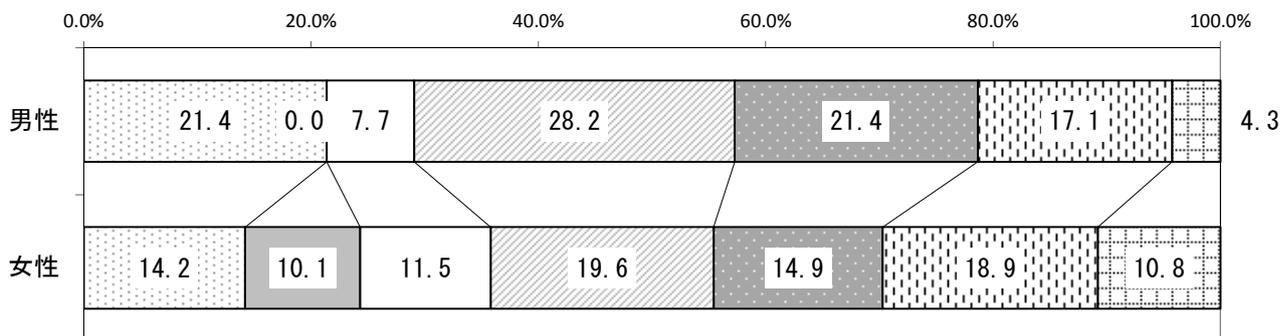
質問6-5		1. 仕事のため		2. 家事や育児		3. 健康上の理由		4. 知らなかった		5. 自分には関係ない		6. その他		無回答		全体
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
20歳代	男性	4	17.4	0	0.0	2	8.7	11	47.8	1	4.3	5	21.7	0	0.0	23
	女性	2	10.5	1	5.3	0	0.0	5	26.3	4	21.1	4	21.1	3	15.8	19
	計	6	14.3	1	2.4	2	4.8	16	38.1	5	11.9	9	21.4	3	7.1	42
30歳代	男性	3	13.6	0	0.0	0	0.0	10	45.5	6	27.3	3	13.6	0	0.0	22
	女性	5	22.7	2	9.1	1	4.5	9	40.9	2	9.1	3	13.6	0	0.0	22
	計	8	18.2	2	4.5	1	2.3	19	43.2	8	18.2	6	13.6	0	0.0	44
40歳代	男性	7	38.9	0	0.0	1	5.6	4	22.2	4	22.2	1	5.6	1	5.6	18
	女性	3	17.6	3	17.6	1	5.9	5	29.4	2	11.8	2	11.8	1	5.9	17
	計	10	28.6	3	8.6	2	5.7	9	25.7	6	17.1	3	8.6	2	5.7	35
50歳代	男性	2	14.3	0	0.0	0	0.0	4	28.6	4	28.6	4	28.6	0	0.0	14
	女性	4	17.4	2	8.7	3	13.0	2	8.7	4	17.4	5	21.7	3	13.0	23
	計	6	16.2	2	5.4	3	8.1	6	16.2	8	21.6	9	24.3	3	8.1	37
60歳代	男性	5	23.8	0	0.0	1	4.8	2	9.5	6	28.6	4	19.0	3	14.3	21
	女性	3	10.7	4	14.3	3	10.7	5	17.9	3	10.7	8	28.6	2	7.1	28
	無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1
計	8	16.0	4	8.0	4	8.0	8	16.0	9	18.0	12	24.0	5	10.0	50	
70歳以上	男性	4	21.1	0	0.0	5	26.3	2	10.5	4	21.1	3	15.8	1	5.3	19
	女性	4	10.5	3	7.9	8	21.1	3	7.9	7	18.4	6	15.8	7	18.4	38
	無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	100.0	0	0.0	1
計	8	13.8	3	5.2	13	22.4	5	8.6	11	19.0	10	17.2	8	13.8	58	
無回答	女性	0	0.0	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1
	無回答	1	33.3	0	0.0	2	66.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3
	計	1	25.0	0	0.0	3	75.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4
全体	男性	25	21.4	0	0.0	9	7.7	33	28.2	25	21.4	20	17.1	5	4.3	117
	女性	21	14.2	15	10.1	17	11.5	29	19.6	22	14.9	28	18.9	16	10.8	148
	無回答	1	20.0	0	0.0	2	40.0	1	20.0	0	0.0	1	20.0	0	0.0	5
計	47	17.4	15	5.6	28	10.4	63	23.3	47	17.4	49	18.1	21	7.8	270	

【全体】



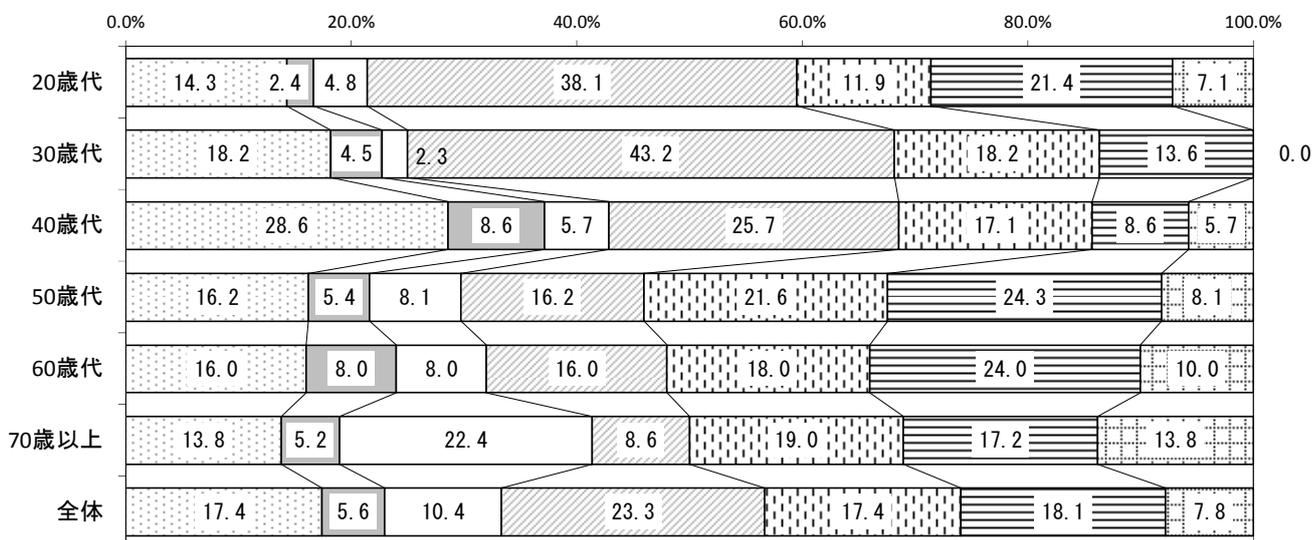
【男女別】

□ 仕事のため □ 家事や育児 □ 健康上の理由 □ 知らなかった □ 自分には関係ない □ その他 □ 無回答



【年代別】

□ 仕事のため □ 家事や育児 □ 健康上の理由 □ 知らなかった □ 自分には関係ない □ その他 □ 無回答

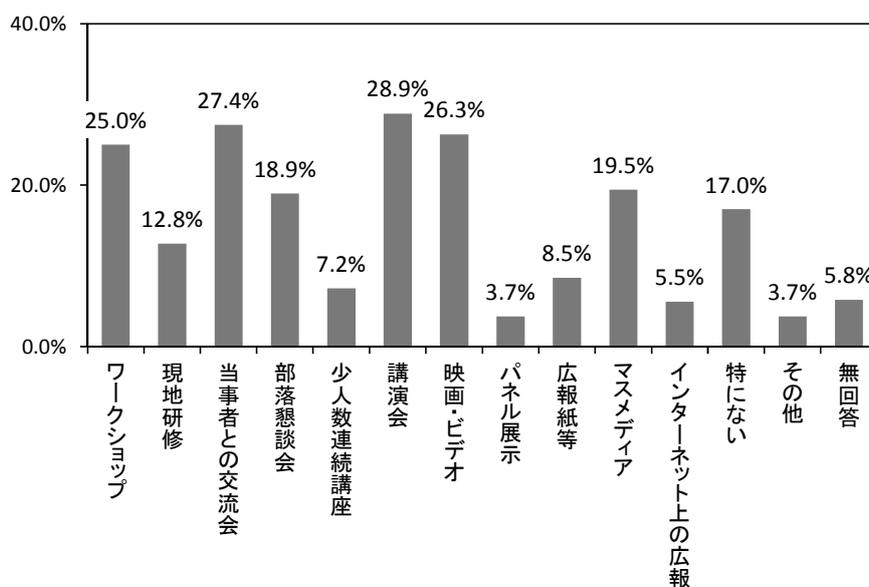


- 全体では、「知らなかった」23.3%が最も高く、「その他」、「仕事のため」、「自分には関係ない」が同程度である。
- 年代では、20歳代と30歳代は「知らなかった」、40歳代は「仕事のため」と「知らなかった」、50歳代と60歳代は「その他」と「自分には関係ない」、70歳以上は「健康上の理由」が高い。
- 男女別では、「知らなかった」は8.6ポイント、「仕事のため」は7.2ポイント、「自分には関係ない」は6.5ポイント、それぞれ男性の方が高い。男性は「家事・育児」が0.0%である。

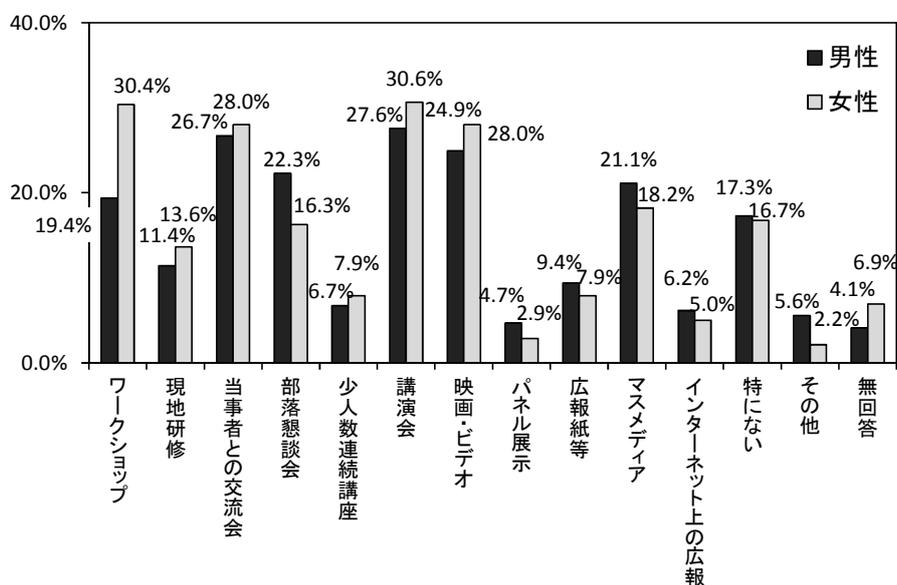
質問7 あなたは、人権や人権問題への理解を深めるために、どのような学習方法や啓発活動が有効だと思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 体験的参加型学習（ワークショップ）
- 2 現地研修（フィールドワーク）
- 3 当事者との交流会や懇談会
- 4 居住地での部落懇談会（小地域懇談会）
- 5 少人数での連続講座（指導者養成など）
- 6 講演会
- 7 映画やビデオ（DVD）の上映
- 8 パネルなどの展示会
- 9 広報紙・パンフレット・ポスターの作成
- 10 テレビなどのマスメディアの利用
- 11 ホームページ・メールマガジンなどのインターネット上の広報
- 12 特にない
- 13 その他

【全体】

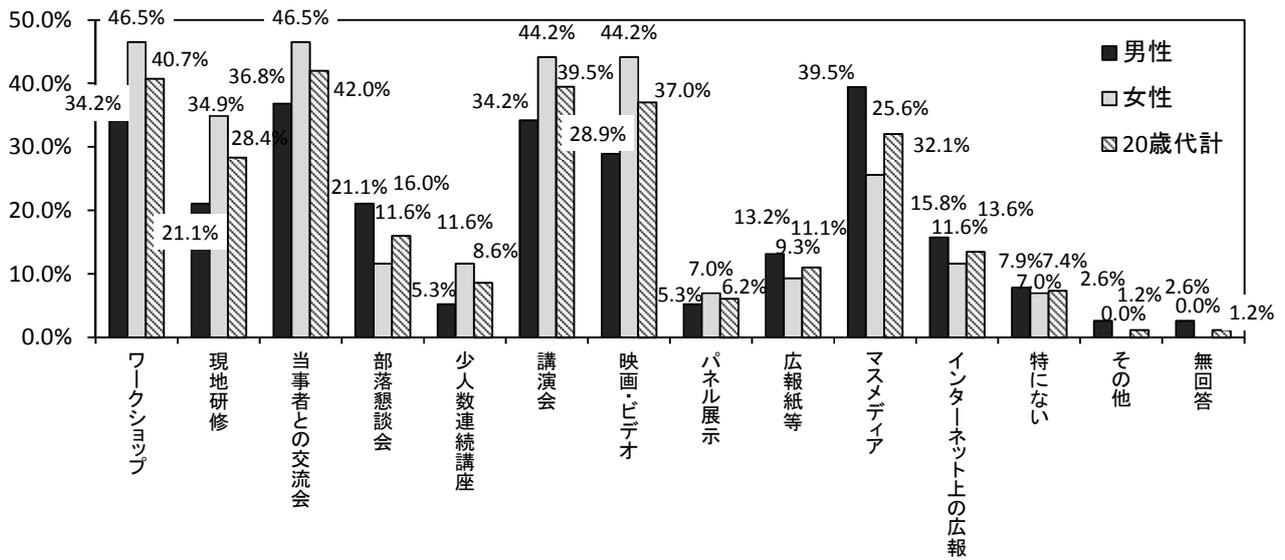


【男女別】

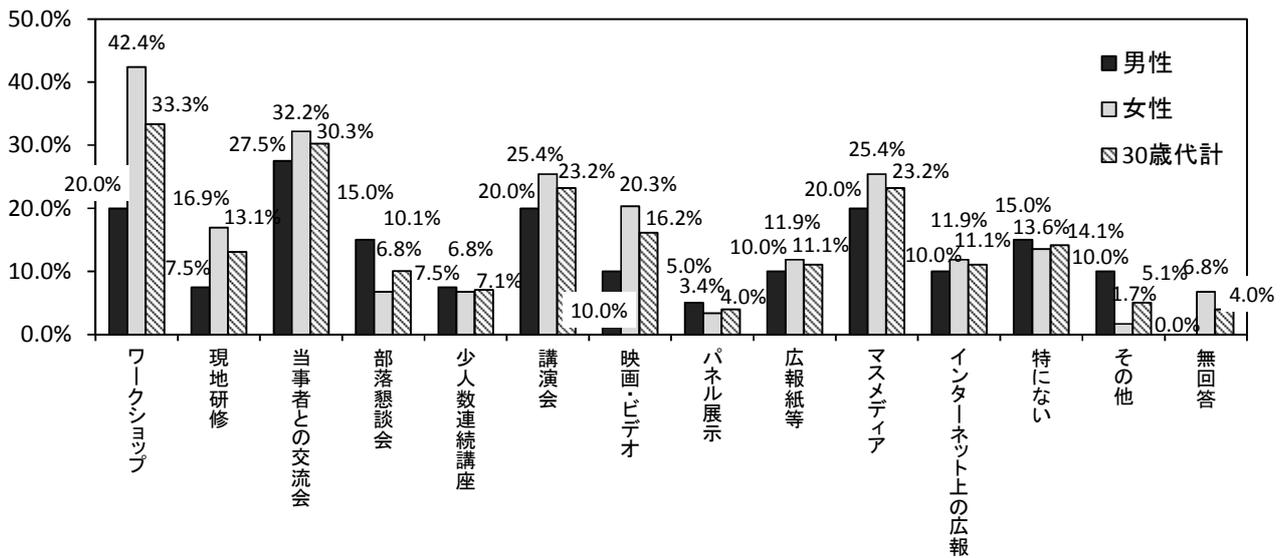


【年代男女別】

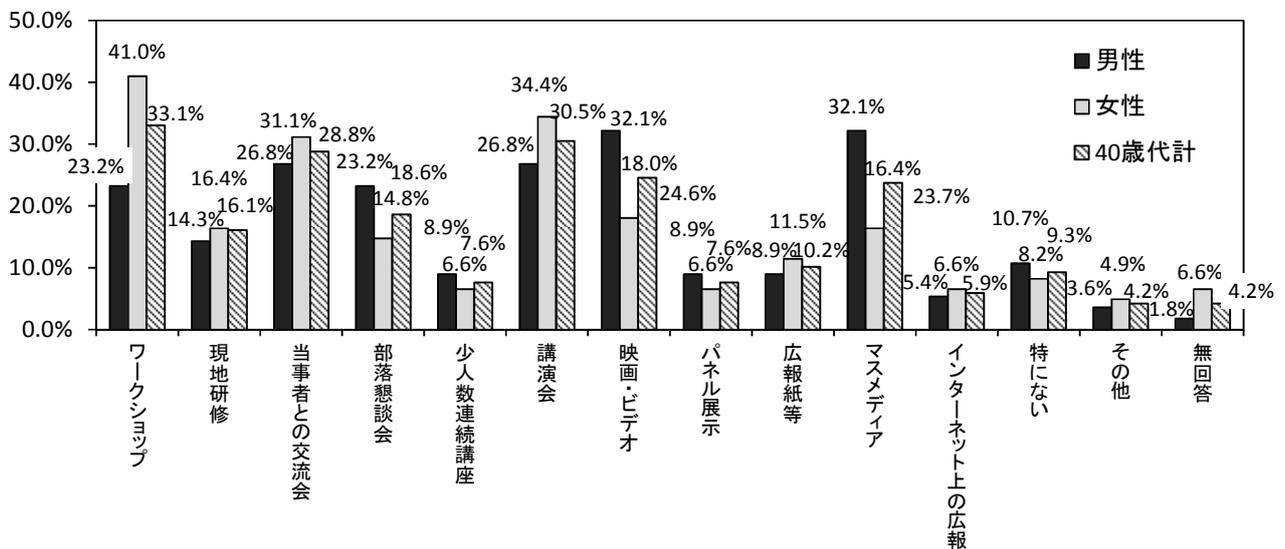
20歳代



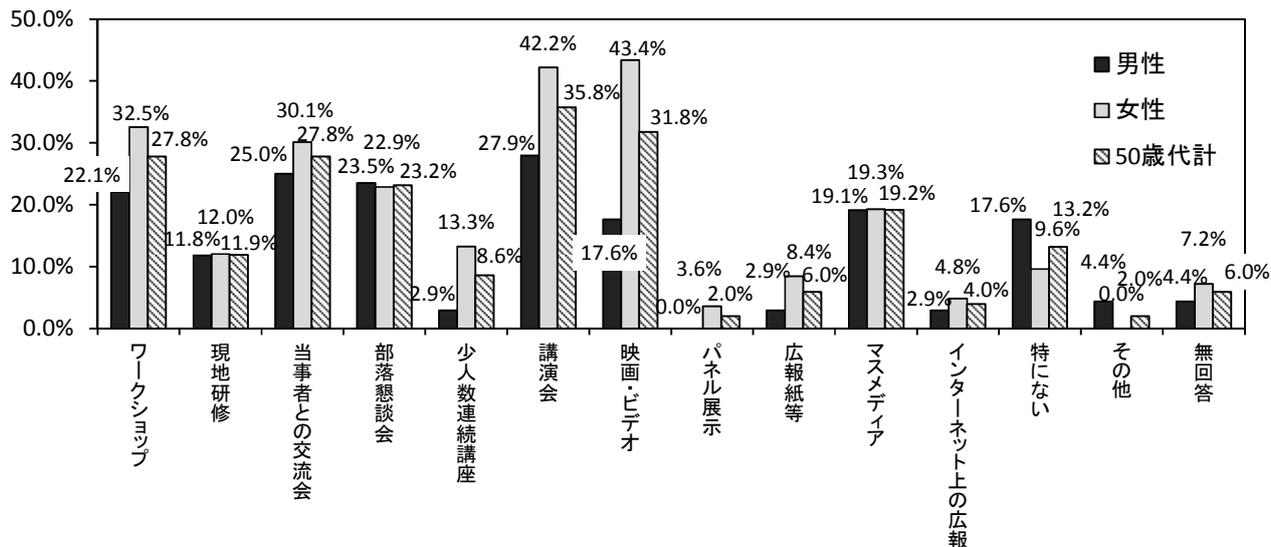
30歳代



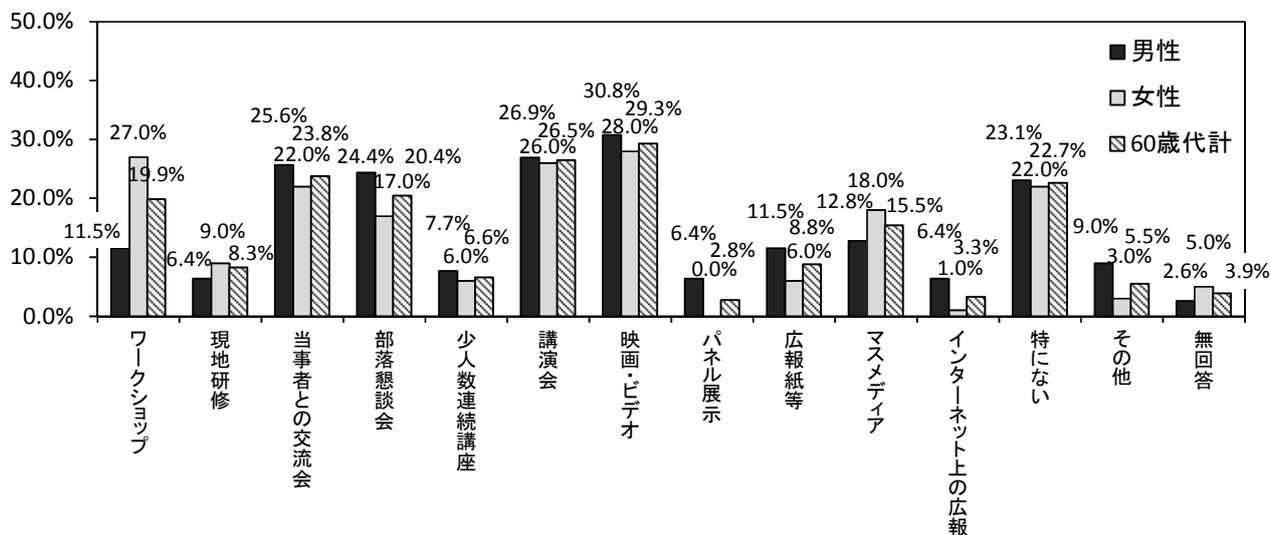
40歳代



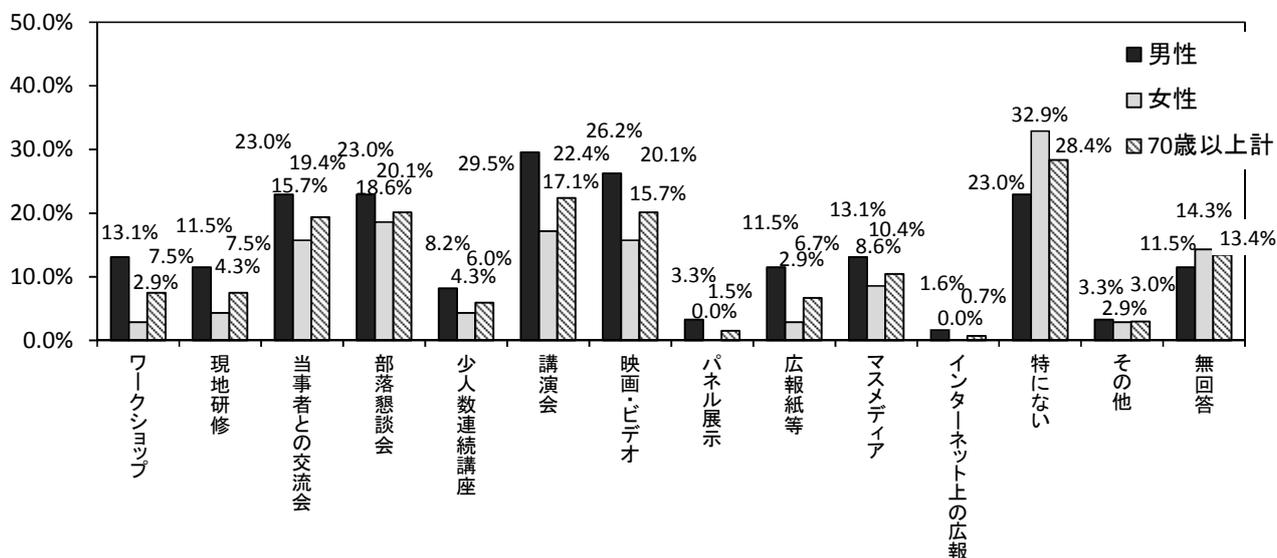
50歳代



60歳代

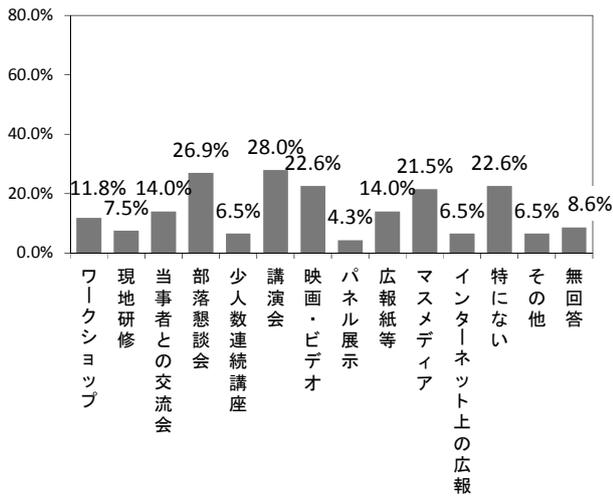


70歳以上

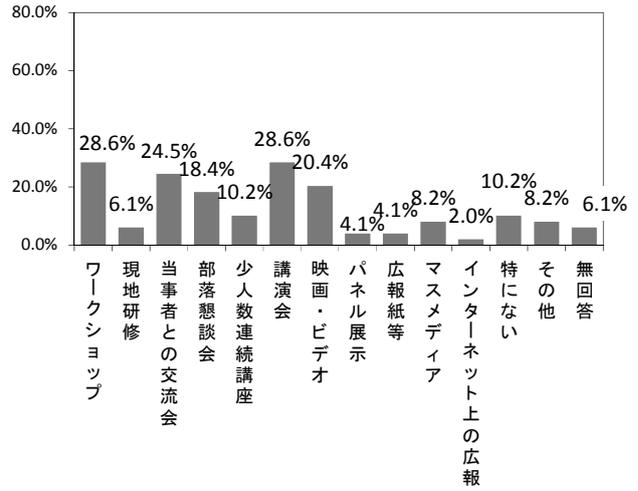


【職業別】

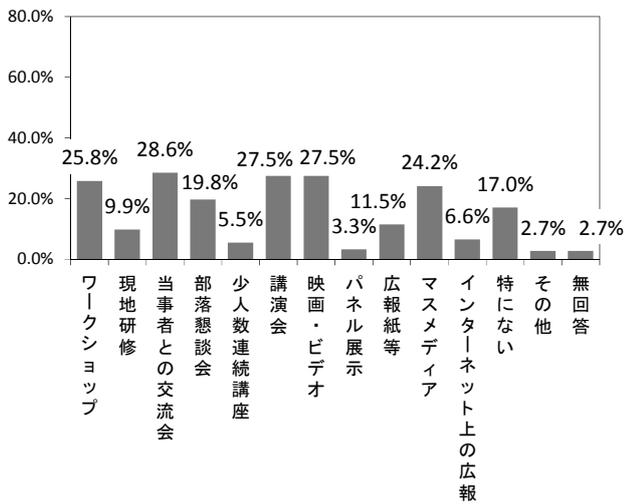
農林漁業者



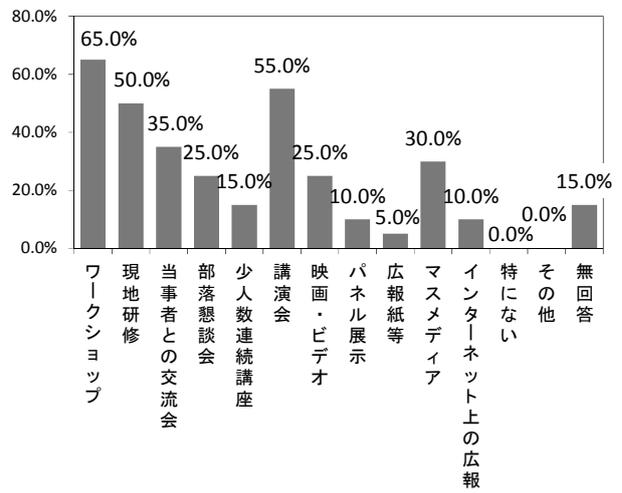
自営業者



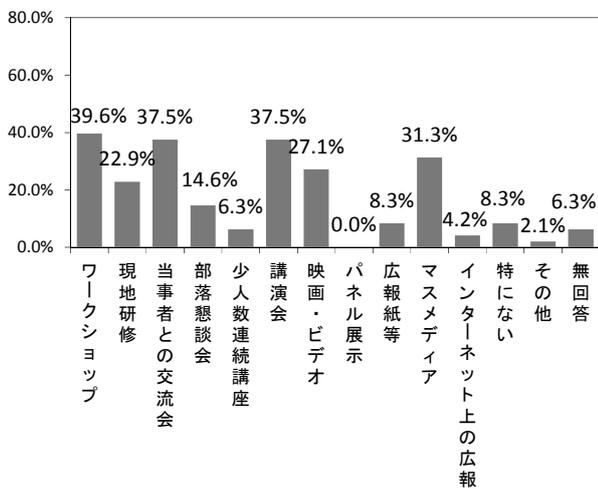
企業・団体職員



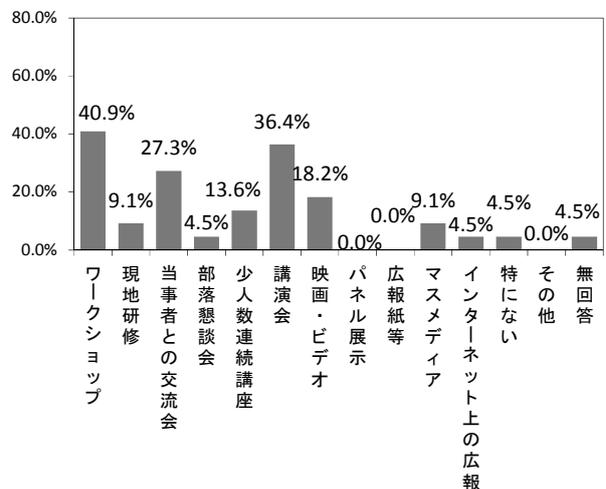
保育士・教員



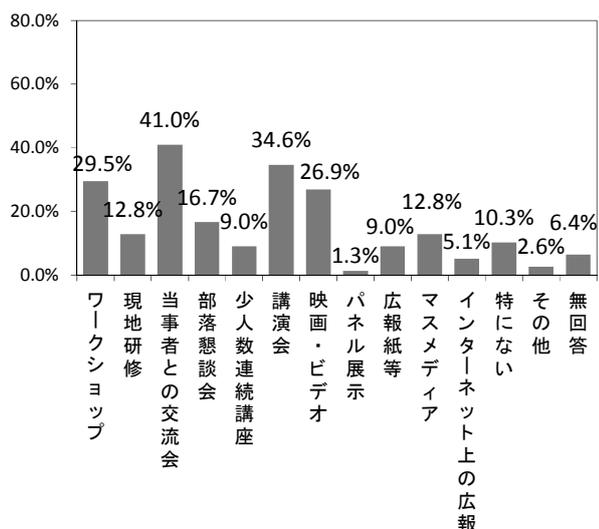
医療・福祉等関係者



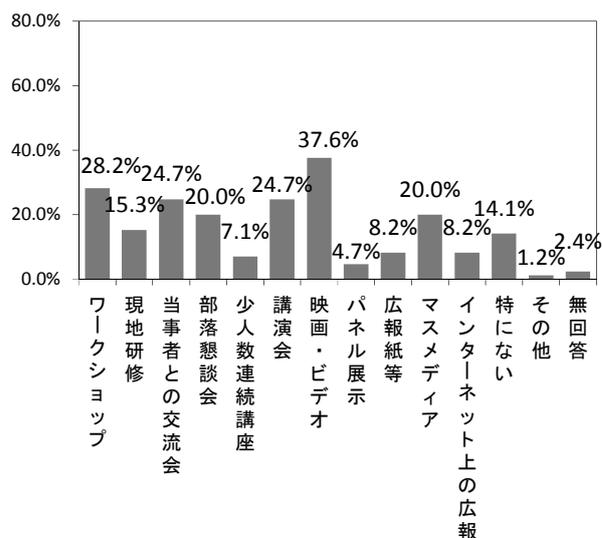
公務員



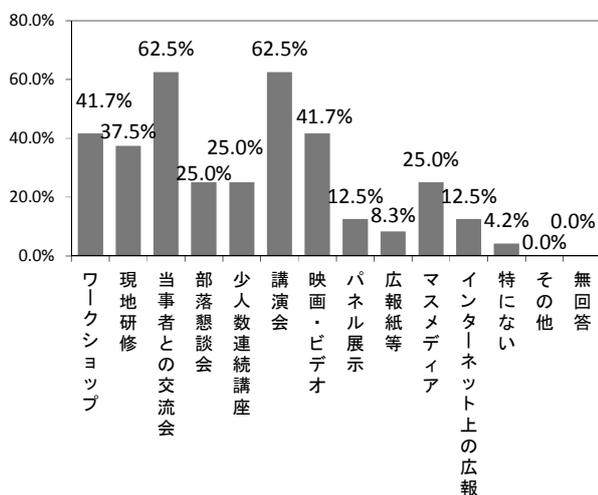
家事従事者



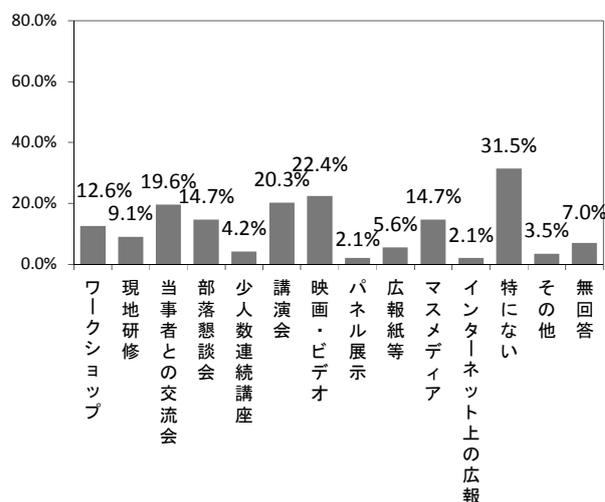
パート・アルバイト等



学生



無職



- 全体では、「講演会」、「当事者との交流会」、「映画・ビデオ」、「ワークショップ」が25%～29%程度。次に「マスメディア」、「部落懇談会」、「特にない」が20%近く、「現地研修」、「広報紙等」、「少人数連続講座」が10%前後、「インターネット」と「パネル展示」は5%前後である。
- 年代では、20歳代は「当事者との交流会」、「ワークショップ」といった主体的な学習が40%以上。年代が上がるにつれ、徐々に主体的な学習から「講演会」や「映画・ビデオ」などの受け身的な学習に流れていき、70歳以上では「特にない」が最も高くなる。20歳代は「当事者との交流会」、「ワークショップ」、「講演会」、「映画・ビデオ」の上位4つが40%前後、30歳代～50歳代は最も高いものが35%前後、60歳以上は30%を超えるものではなく、全体的に低い。
- 男女別では大きな差はないが、「ワークショップ」は女性の方が11.0ポイント高い。
- 年代男女別では、次のような傾向、特徴がみられる。
 - ・ 「ワークショップ」と「現地研修」は、70歳以上以外は女性の方が高い。特に、20歳代～40歳代の女性は「ワークショップ」が高い。

- ・ 「部落懇談会」はどの年代も男性の方が高い。
 - ・ 20歳代は男女で大きな差が開いたものがいくつかある。女性は全体的に高い傾向にあり、中でも「ワークショップ」、「現地研修」、「当事者との交流会」、「講演会」、「映画・ビデオ」は年代男女中最も高い。男性は「広報紙等」、「マスメディア」、「インターネット」と、一方的な情報伝達になりがちなものが年代男女中最も高い。
 - ・ 30歳代と40歳代、60歳代の男女は、「ワークショップ」で大きな差がみられる。30歳代は22.4ポイント、40歳代は17.8ポイント、60歳代は15.5ポイント、それぞれ女性の方が高い。また、40歳代は「マスメディア」が15.7ポイント、「映画・ビデオ」が14.1ポイント、男性の方が高い。
 - ・ 50歳代は「映画・ビデオ」が25.8ポイント、「講演会」が14.3ポイント、「ワークショップ」が10.4ポイント、いずれも女性の方が高い。
 - ・ 70歳以上女性は、「部落懇談会」は他の年代の女性より比較的高いが、それ以外の学習方法については、概ね年代男女中最も低い。「特にない」32.9%と「無回答」14.3%は、年代男女中最も高い。
- 職業等では、保育士・教員、学生は50%を超えるものがいくつかあり、全体的に高い傾向がみられる。医療・福祉等関係者、公務員、家事従事者も「ワークショップ」、「当事者との交流会」、「講演会」が高い。農林漁業者、自営業者、企業・団体職員は、最も高いものでも30%を超えない。また、無職は「特にない」が31.5%で最も高い。

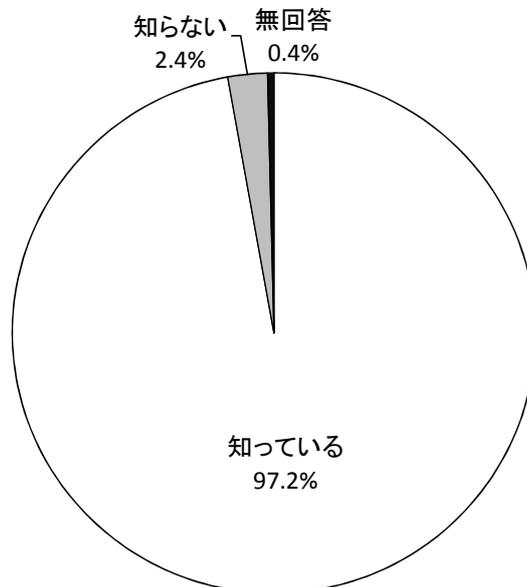
3 部落問題について

質問8 あなたは、被差別部落や部落問題のことを知っていますか。(〇は1つ)

- 1 知っている
- 2 知らない

質問8		1. 知っている		2. 知らない		無回答		全体
		人数	%	人数	%	人数	%	
20歳代	男性	37	97.4	1	2.6	0	0.0	38
	女性	42	97.7	1	2.3	0	0.0	43
	計	79	97.5	2	2.5	0	0.0	81
30歳代	男性	39	97.5	1	2.5	0	0.0	40
	女性	54	91.5	5	8.5	0	0.0	59
	計	93	93.9	6	6.1	0	0.0	99
40歳代	男性	56	100.0	0	0.0	0	0.0	56
	女性	61	100.0	0	0.0	0	0.0	61
	無回答	1	100.0	0	0.0	0	0.0	1
	計	118	100.0	0	0.0	0	0.0	118
50歳代	男性	66	97.1	2	2.9	0	0.0	68
	女性	83	100.0	0	0.0	0	0.0	83
	計	149	98.7	2	1.3	0	0.0	151
60歳代	男性	74	94.9	3	3.8	1	1.3	78
	女性	99	99.0	1	1.0	0	0.0	100
	無回答	3	100.0	0	0.0	0	0.0	3
	計	176	97.2	4	2.2	1	0.6	181
70歳以上	男性	60	98.4	1	1.6	0	0.0	61
	女性	65	92.9	3	4.3	2	2.9	70
	無回答	3	100.0	0	0.0	0	0.0	3
	計	128	95.5	4	3.0	2	1.5	134
無回答	女性	1	50.0	1	50.0	0	0.0	2
	無回答	10	100.0	0	0.0	0	0.0	10
	計	11	91.7	1	8.3	0	0.0	12
全体	男性	332	97.4	8	2.3	1	0.3	341
	女性	405	96.9	11	2.6	2	0.5	418
	無回答	17	100.0	0	0.0	0	0.0	17
	計	754	97.2	19	2.4	3	0.4	776

【全体】



【年代別】



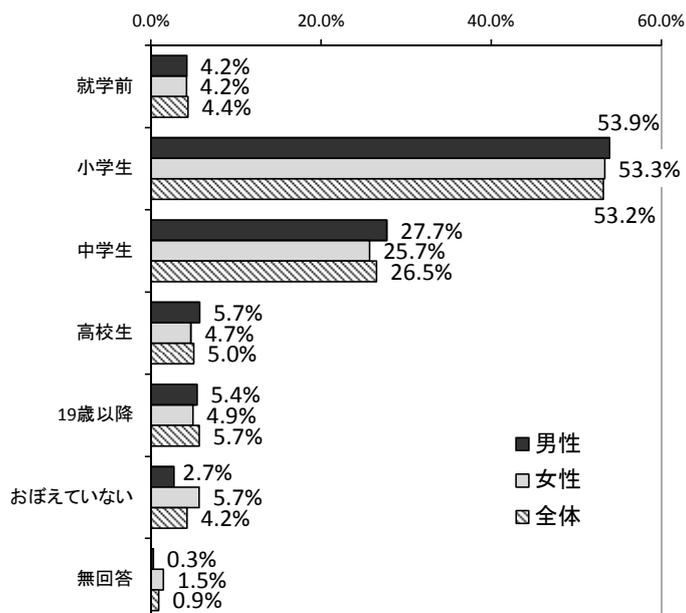
- 全体では、97.2%が「知っている」と答えている。
- 年代では、「知っている」は40歳代が100.0%、30歳代以外は95.0%以上である。30歳代は「知らない」が6.1%ある。
- 年代男女別では、40歳代男女と50歳代女性は「知っている」が100.0%。「知らない」は30歳代女性が8.5%で、他の年代男女より少し高い。

質問9 あなたが、被差別部落や部落問題について初めて知ったのは、いつ頃ですか。(〇は1つ)

- 1 小学校に入る前
- 2 小学生の頃
- 3 中学生の頃
- 4 高校生（15歳～18歳）の頃
- 5 19歳以降
- 6 おぼえていない

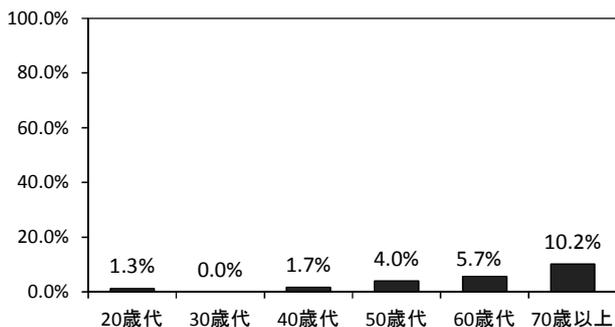
質問9		1. 就学前		2. 小学生		3. 中学生		4. 高校生		5. 19歳以降		6. おぼえていない		無回答		全体
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
20歳代	男性	0	0.0	31	83.8	5	13.5	0	0.0	0	0.0	1	2.7	0	0.0	37
	女性	1	2.4	36	85.7	5	11.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	42
	計	1	1.3	67	84.8	10	12.7	0	0.0	0	0.0	1	1.3	0	0.0	79
30歳代	男性	0	0.0	35	89.7	1	2.6	0	0.0	1	2.6	2	5.1	0	0.0	39
	女性	0	0.0	46	85.2	5	9.3	0	0.0	2	3.7	1	1.9	0	0.0	54
	計	0	0.0	81	87.1	6	6.5	0	0.0	3	3.2	3	3.2	0	0.0	93
40歳代	男性	1	1.8	33	58.9	20	35.7	0	0.0	2	3.6	0	0.0	0	0.0	56
	女性	1	1.6	49	80.3	9	14.8	0	0.0	2	3.3	0	0.0	0	0.0	61
	無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	1
	計	2	1.7	82	69.5	29	24.6	0	0.0	5	4.2	0	0.0	0	0.0	118
50歳代	男性	2	3.0	31	47.0	23	34.8	8	12.1	2	3.0	0	0.0	0	0.0	66
	女性	4	4.8	36	43.4	32	38.6	8	9.6	1	1.2	0	0.0	2	2.4	83
	計	6	4.0	67	45.0	55	36.9	16	10.7	3	2.0	0	0.0	2	1.3	149
60歳代	男性	4	5.4	24	32.4	26	35.1	10	13.5	8	10.8	1	1.4	1	1.4	74
	女性	5	5.1	34	34.3	31	31.3	7	7.1	9	9.1	11	11.1	2	2.0	99
	無回答	1	33.3	0	0.0	1	33.3	0	0.0	1	33.3	0	0.0	0	0.0	3
	計	10	5.7	58	33.0	58	33.0	17	9.7	18	10.2	12	6.8	3	1.7	176
70歳以上	男性	7	11.7	25	41.7	17	28.3	1	1.7	5	8.3	5	8.3	0	0.0	60
	女性	6	9.2	15	23.1	21	32.3	4	6.2	6	9.2	11	16.9	2	3.1	65
	無回答	0	0.0	1	33.3	2	66.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3
	計	13	10.2	41	32.0	40	31.3	5	3.9	11	8.6	16	12.5	2	1.6	128
無回答	女性	0	0.0	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1
	無回答	1	10.0	5	50.0	1	10.0	0	0.0	3	30.0	0	0.0	0	0.0	10
	計	1	9.1	5	45.5	2	18.2	0	0.0	3	27.3	0	0.0	0	0.0	11
全体	男性	14	4.2	179	53.9	92	27.7	19	5.7	18	5.4	9	2.7	1	0.3	332
	女性	17	4.2	216	53.3	104	25.7	19	4.7	20	4.9	23	5.7	6	1.5	405
	無回答	2	11.8	6	35.3	4	23.5	0	0.0	5	29.4	0	0.0	0	0.0	17
	計	33	4.4	401	53.2	200	26.5	38	5.0	43	5.7	32	4.2	7	0.9	754

【全体男女別】

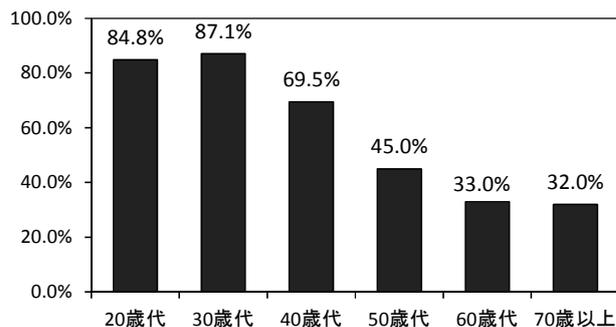


【選択肢・年代別】

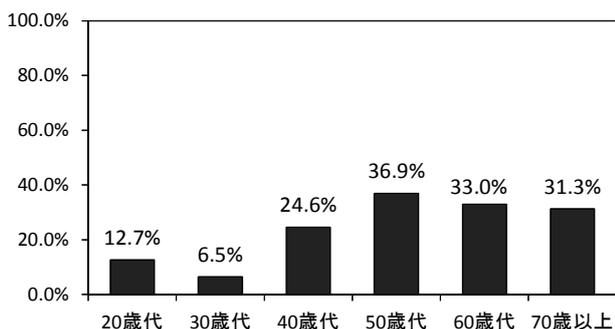
1. 就学前



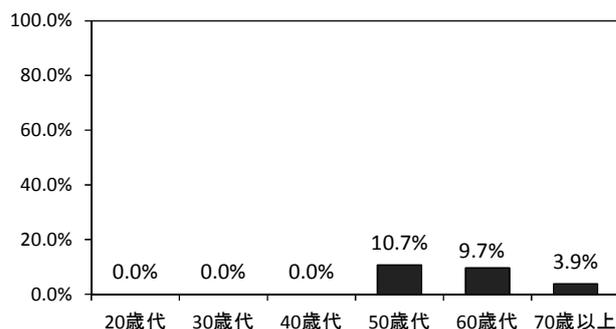
2. 小学生



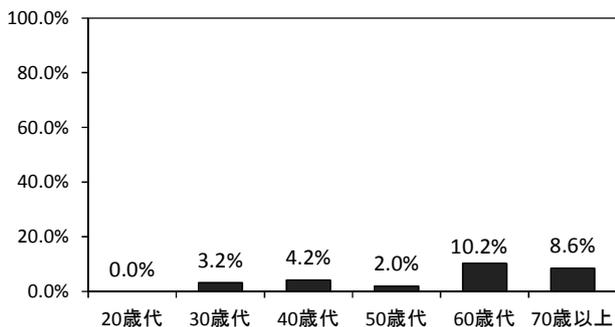
3. 中学生



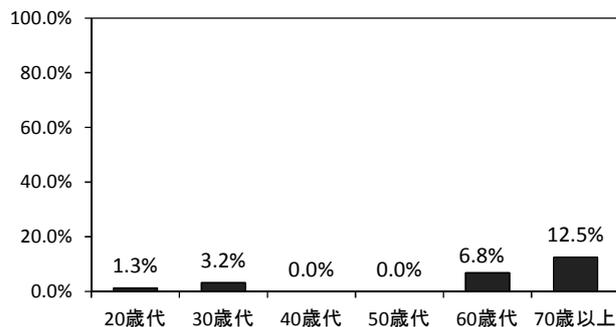
4. 高校生



5. 19歳以降



6. おぼえていない



- 全体では、「小学生」53.2%が最も高く、「中学生」26.5%が続く。約8割が小・中学生の頃に知っている。
- 年代では、どの年代も「小学生」が最も高く、「小学生」と「中学生」を合わせると6割以上になる。特に、20歳代～40歳代は「小学生」と「中学生」で9割を超える。40歳代から「中学生」が徐々に高くなり、60歳以上では「小学生」と「中学生」が同程度になる。また、50歳代から徐々に「就学前」が増加している。
- 年代男女別では、40歳代男女で大きな差がみられる。「小学生」は女性の方が21.4ポイント高く、「中学生」は男性の方が20.9ポイント高い。また、70歳以上も「小学生」で大きな差がみられる。男性41.7%、女性23.1%で18.6ポイントの差がある。

質問10 あなたが、被差別部落や部落問題について初めて知ったのは、どのようにしてですか。

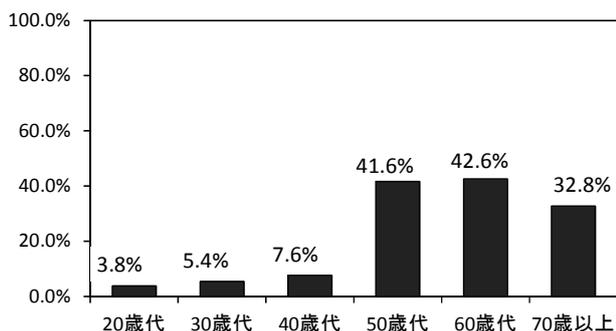
(○は1つ)

- 1 父母や家族から聞いた
- 2 近所の人から聞いた
- 3 学校の友だちから聞いた
- 4 職場の人から聞いた
- 5 学校の授業で教わった
- 6 講演会や研修会などで聞いた
- 7 県や市町村の広報紙で読んだ
- 8 テレビ・新聞・本などで知った
- 9 おぼえていない
- 10 その他

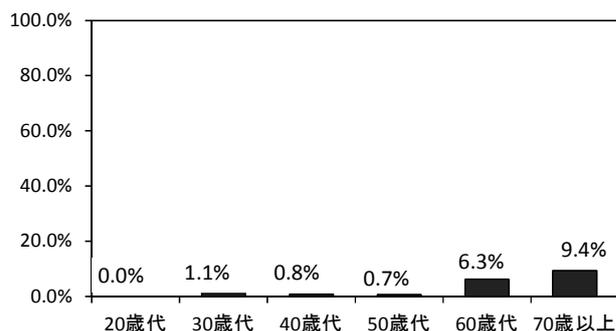
質問10	1. 父母や家族		2. 近所の人		3. 学校の友だち		4. 職場の人		5. 学校の授業		6. 講演会や研修会		7. 広報紙		8. テレビ・本等		9. おぼえていない		10. その他		無回答		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%		
20歳代	男性	1	2.7	0	0.0	2	5.4	0	0.0	31	83.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.7	1	2.7	1	2.7	37
	女性	2	4.8	0	0.0	1	2.4	0	0.0	37	88.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.4	0	0.0	1	2.4	42
	計	3	3.8	0	0.0	3	3.8	0	0.0	68	86.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	2.5	1	1.3	2	2.5	79
30歳代	男性	2	5.1	1	2.6	0	0.0	1	2.6	32	82.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	5.1	1	2.6	0	0.0	39
	女性	3	5.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	45	83.3	3	5.6	0	0.0	0	0.0	1	1.9	0	0.0	2	3.7	54
	計	5	5.4	1	1.1	0	0.0	1	1.1	77	82.8	3	3.2	0	0.0	0	0.0	3	3.2	1	1.1	2	2.2	93
40歳代	男性	5	8.9	1	1.8	0	0.0	0	0.0	46	82.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.8	0	0.0	3	5.4	56
	女性	4	6.6	0	0.0	1	1.6	0	0.0	48	78.7	2	3.3	0	0.0	0	0.0	2	3.3	0	0.0	4	6.6	61
	無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1
計	9	7.6	1	0.8	1	0.8	0	0.0	94	79.7	3	2.5	0	0.0	0	0.0	3	2.5	0	0.0	7	5.9	118	
50歳代	男性	26	39.4	0	0.0	5	7.6	1	1.5	24	36.4	1	1.5	0	0.0	0	0.0	4	6.1	1	1.5	4	6.1	66
	女性	36	43.4	1	1.2	10	12.0	1	1.2	24	28.9	2	2.4	0	0.0	0	0.0	2	2.4	1	1.2	6	7.2	83
	計	62	41.6	1	0.7	15	10.1	2	1.3	48	32.2	3	2.0	0	0.0	0	0.0	6	4.0	2	1.3	10	6.7	149
60歳代	男性	28	37.8	9	12.2	16	21.6	1	1.4	2	2.7	3	4.1	0	0.0	2	2.7	10	13.5	1	1.4	2	2.7	74
	女性	45	45.5	2	2.0	17	17.2	1	1.0	7	7.1	4	4.0	1	1.0	3	3.0	8	8.1	2	2.0	9	9.1	99
	無回答	2	66.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	33.3	3
計	75	42.6	11	6.3	33	18.8	2	1.1	9	5.1	7	4.0	1	0.6	5	2.8	18	10.2	3	1.7	12	6.8	176	
70歳以上	男性	21	35.0	8	13.3	13	21.7	2	3.3	1	1.7	1	1.7	1	1.7	1	1.7	5	8.3	1	1.7	6	10.0	60
	女性	21	32.3	4	6.2	11	16.9	1	1.5	3	4.6	4	6.2	1	1.5	1	1.5	10	15.4	4	6.2	5	7.7	65
	無回答	0	0.0	0	0.0	3	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3
計	42	32.8	12	9.4	27	21.1	3	2.3	4	3.1	5	3.9	2	1.6	2	1.6	15	11.7	5	3.9	11	8.6	128	
無回答	女性	0	0.0	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1
	無回答	2	20.0	1	10.0	1	10.0	2	20.0	2	20.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	10.0	1	10.0	10
	計	2	18.2	1	9.1	2	18.2	2	18.2	2	18.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	9.1	1	9.1	11
全体	男性	83	25.0	19	5.7	36	10.8	5	1.5	136	41.0	5	1.5	1	0.3	3	0.9	23	6.9	5	1.5	16	4.8	332
	女性	111	27.4	7	1.7	41	10.1	3	0.7	164	40.5	15	3.7	2	0.5	4	1.0	24	5.9	7	1.7	27	6.7	405
	無回答	4	23.5	1	5.9	4	23.5	2	11.8	2	11.8	1	5.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	5.9	2	11.8	17
計	198	26.3	27	3.6	81	10.7	10	1.3	302	40.1	21	2.8	3	0.4	7	0.9	47	6.2	13	1.7	45	6.0	754	

【選択肢・年代別】

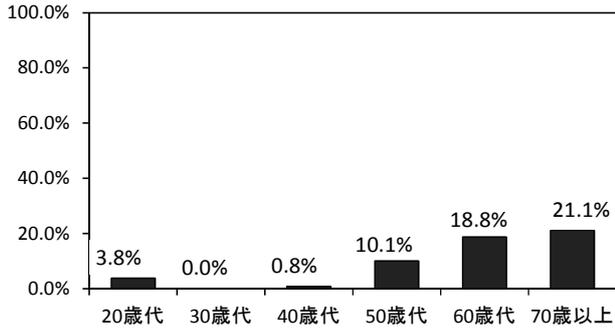
1. 父母や家族



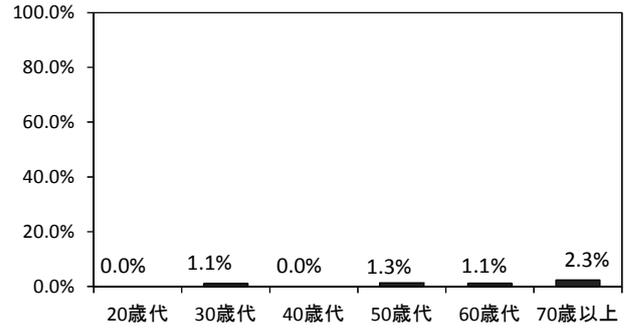
2. 近所の人



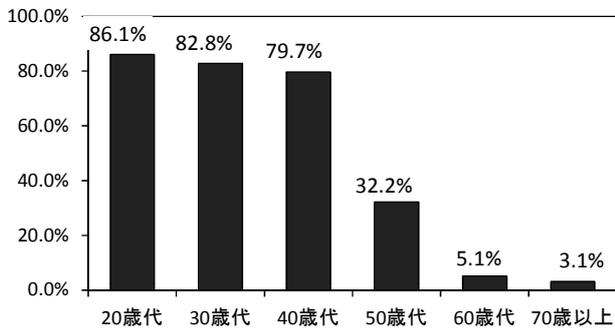
3. 学校の友だち



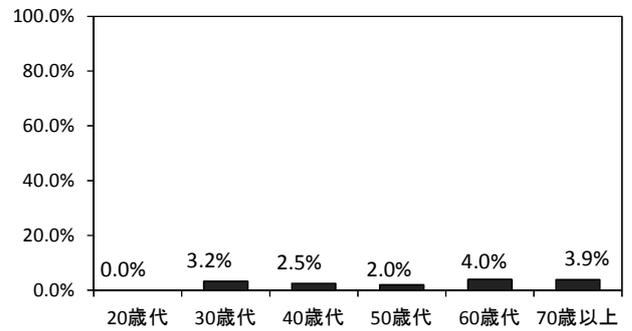
4. 職場の人



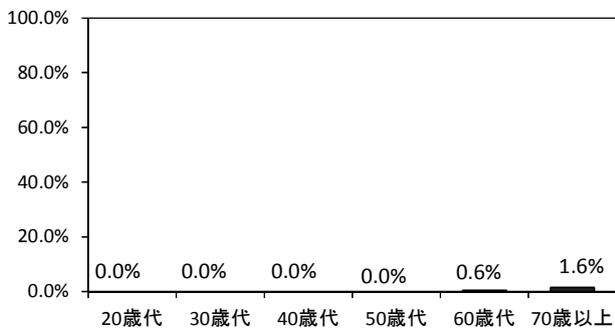
5. 学校の授業



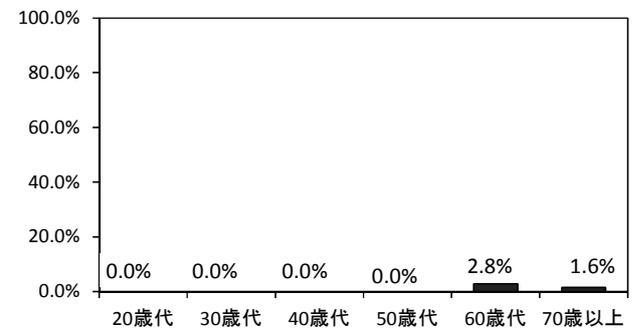
6. 講演会や研修会



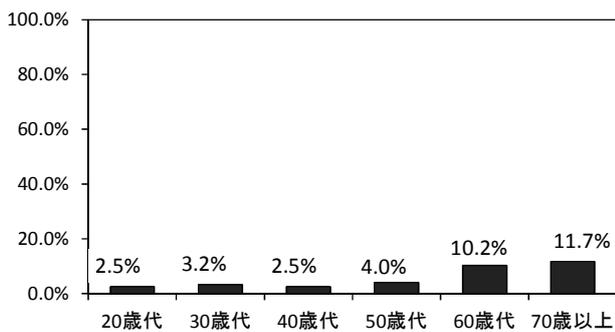
7. 広報紙



8. テレビ・本等



9. おぼえていない



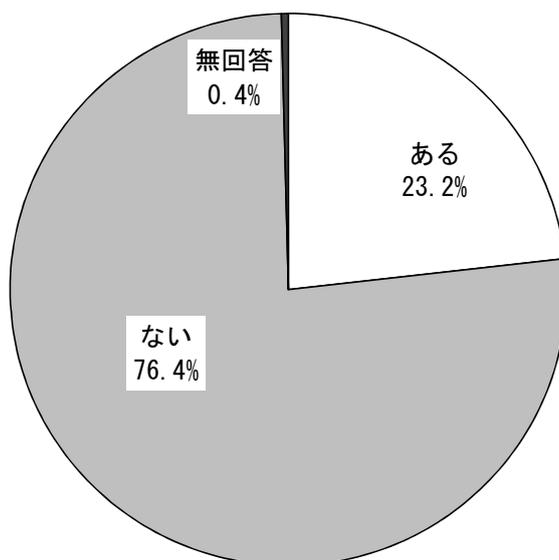
- 全体では、「学校の授業」40.1%が最も高く、「父母や家族」26.3%が続く。「学校の友だち」も1割ある。
- 年代では、次のような傾向、特徴がみられる。
 - ・ 20歳代～40歳代は「学校の授業」が8割～9割近くである。
 - ・ 50歳代は「父母や家族」41.6%が最も高く、40歳代の7.6%と34.0ポイントの差がある。次に「学校の授業」が32.2%で高いが、40歳代の79.7%より47.5ポイント下がる。40歳代と比べ「学校の友だち」も増える。
 - ・ 「父母や家族」、「学校の友だち」、「近所の人」を合わせると、60歳代は67.7%、70歳以上は63.3%に上る。「おぼえていない」も20歳代～50歳代より高い。

質問11-1 あなたは、過去5年間で部落問題に関する差別的な発言や行動を、直接見聞きしたことがありますか。(〇は1つ)

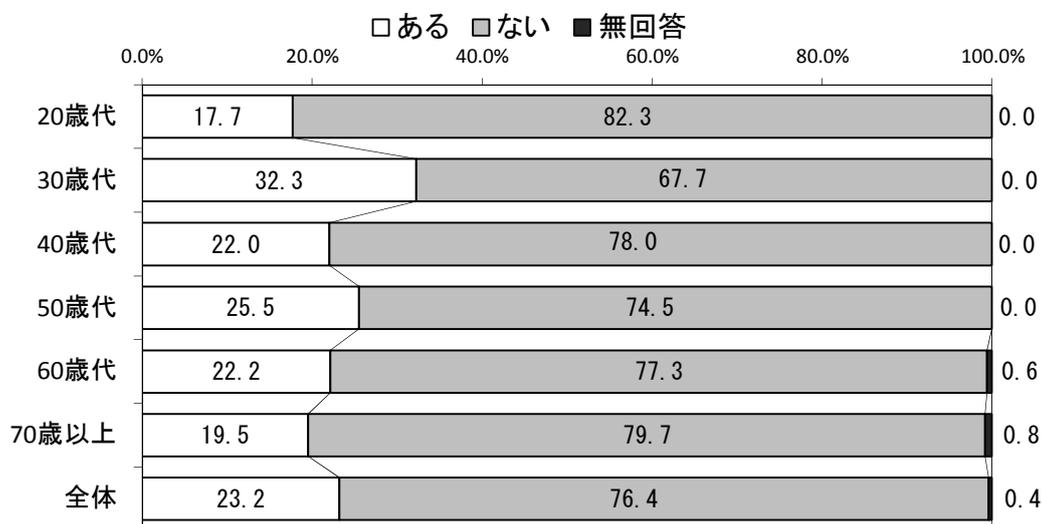
- 1 ある
2 ない

質問11-1		1. ある		2. ない		無回答		全体
		人数	%	人数	%	人数	%	
20歳代	男性	5	13.5	32	86.5	0	0.0	37
	女性	9	21.4	33	78.6	0	0.0	42
	計	14	17.7	65	82.3	0	0.0	79
30歳代	男性	10	25.6	29	74.4	0	0.0	39
	女性	20	37.0	34	63.0	0	0.0	54
	計	30	32.3	63	67.7	0	0.0	93
40歳代	男性	10	17.9	46	82.1	0	0.0	56
	女性	15	24.6	46	75.4	0	0.0	61
	無回答	1	100.0	0	0.0	0	0.0	1
	計	26	22.0	92	78.0	0	0.0	118
50歳代	男性	17	25.8	49	74.2	0	0.0	66
	女性	21	25.3	62	74.7	0	0.0	83
	計	38	25.5	111	74.5	0	0.0	149
60歳代	男性	18	24.3	56	75.7	0	0.0	74
	女性	21	21.2	78	78.8	0	0.0	99
	無回答	0	0.0	2	66.7	1	33.3	3
	計	39	22.2	136	77.3	1	0.6	176
70歳以上	男性	13	21.7	46	76.7	1	1.7	60
	女性	12	18.5	53	81.5	0	0.0	65
	無回答	0	0.0	3	100.0	0	0.0	3
	計	25	19.5	102	79.7	1	0.8	128
無回答	女性	0	0.0	1	100.0	0	0.0	1
	無回答	3	30.0	6	60.0	1	10.0	10
	計	3	27.3	7	63.6	1	9.1	11
全体	男性	73	22.0	258	77.7	1	0.3	332
	女性	98	24.2	307	75.8	0	0.0	405
	無回答	4	23.5	11	64.7	2	11.8	17
	計	175	23.2	576	76.4	3	0.4	754

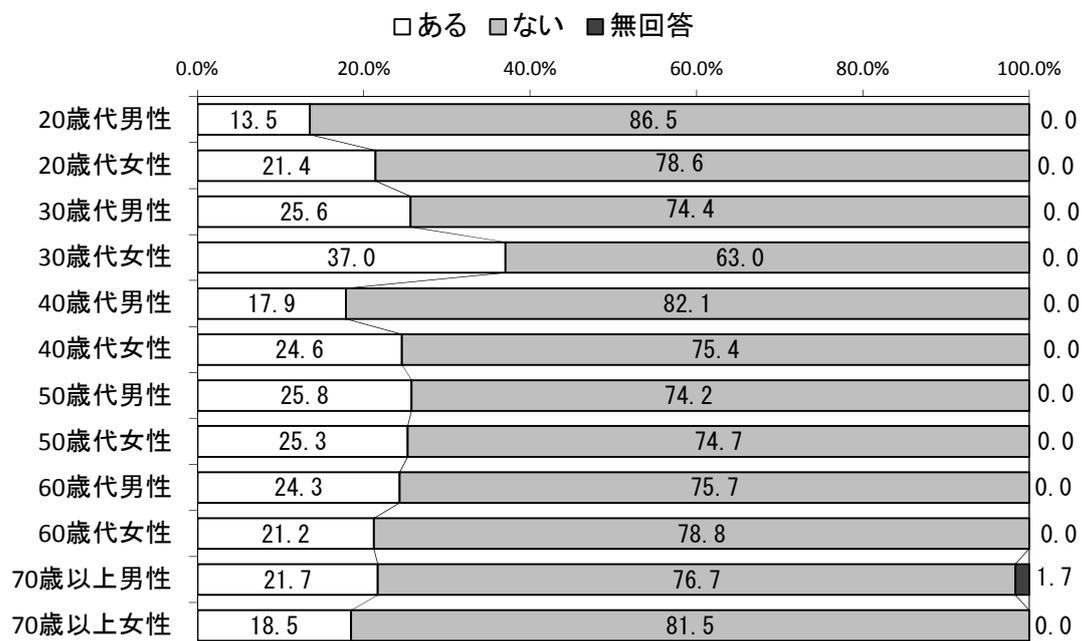
【全体】



【年代別】

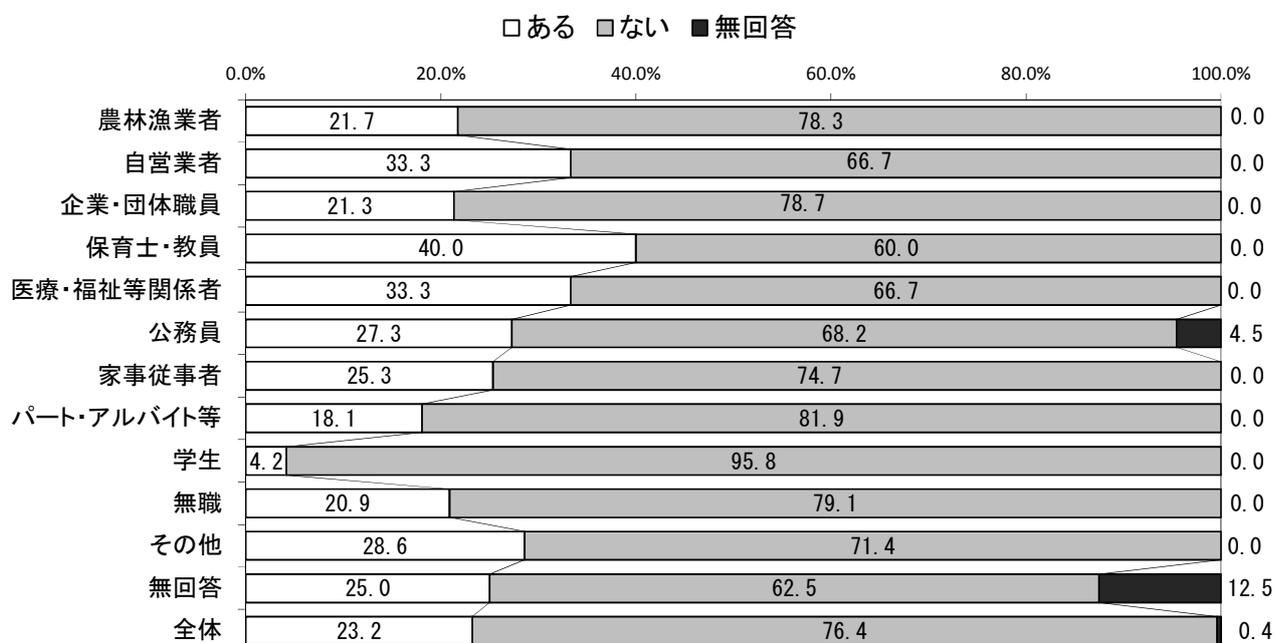


【年代男女別】



【職業別】

質問 1 1 - 1 職業別	1. ある		2. ない		無回答		全体
	人数	%	人数	%	人数	%	
農林漁業者	20	21.7	72	78.3	0	0.0	92
自営業者	16	33.3	32	66.7	0	0.0	48
企業・団体職員	38	21.3	140	78.7	0	0.0	178
保育士・教員	8	40.0	12	60.0	0	0.0	20
医療・福祉等関係者	16	33.3	32	66.7	0	0.0	48
公務員	6	27.3	15	68.2	1	4.5	22
家事従事者	19	25.3	56	74.7	0	0.0	75
パート・アルバイト等	15	18.1	68	81.9	0	0.0	83
学生	1	4.2	23	95.8	0	0.0	24
無職	28	20.9	106	79.1	0	0.0	134
その他	4	28.6	10	71.4	0	0.0	14
無回答	4	25.0	10	62.5	2	12.5	16
全体	175	23.2	576	76.4	3	0.4	754

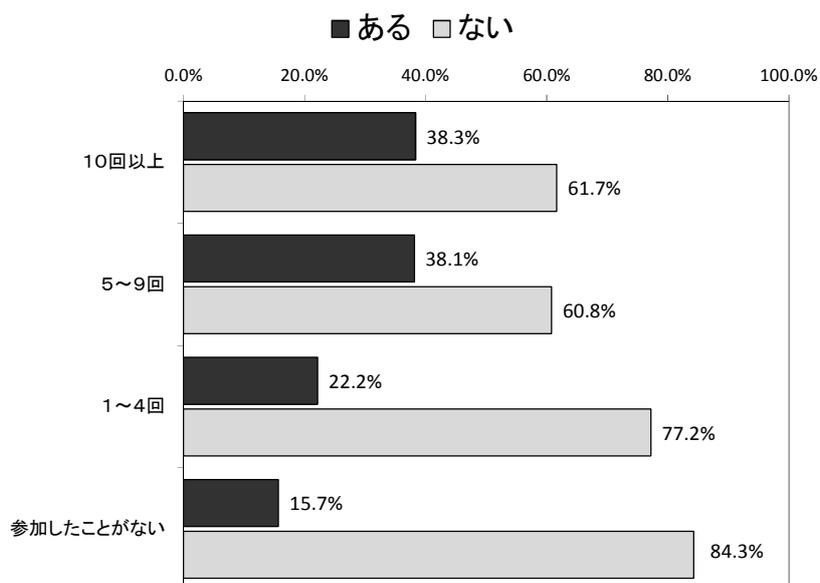


- 全体では、「ない」が76.4%、「ある」が23.2%である。2割以上、約4人に1人が、過去5年間で部落問題に関する差別的な言動を直接見聞きしている。
- 年代では、「ある」は30歳代32.3%が最も高い。最も低い20歳代も17.7%と2割近い。
- 年代男女別では、「ある」は30歳代女性37.0%が最も高く、20歳代男性13.5%が最も低い。20歳代～40歳代は女性の方が「ある」が高く、同年代男性と6.7～11.4ポイントの差がある。50歳代以上は男性の方が「ある」が高いが、女性とあまり差はない。
- 職業等では、「ある」は保育士・教員が4割で最も高い。自営業者、医療・福祉等関係者、公務員、家事従事者は約3割、農林漁業者、企業・団体職員、パート・アルバイト等、無職は約2割が「ある」と答えている。学生は4.2%で低い。

【質問11-1（差別的な言動を見聞したことがあるか）と質問6-1（研修等への参加回数）の関連】

質問11-1 \ 質問6-1	1. ある		2. ない		無回答		全体
	人数	%	人数	%	人数	%	
1. 10回以上	23	38.3	37	61.7	0	0.0	60
2. 5～9回	37	38.1	59	60.8	1	1.0	97
3. 1～4回	75	22.2	261	77.2	2	0.6	338
4. 参加したことがない	40	15.7	215	84.3	0	0.0	255
無回答	0	0.0	4	100.0	0	0.0	4

※全体の部分は質問8で、部落問題を知っていると答えた人の数。



【質問11-1と質問6-1】

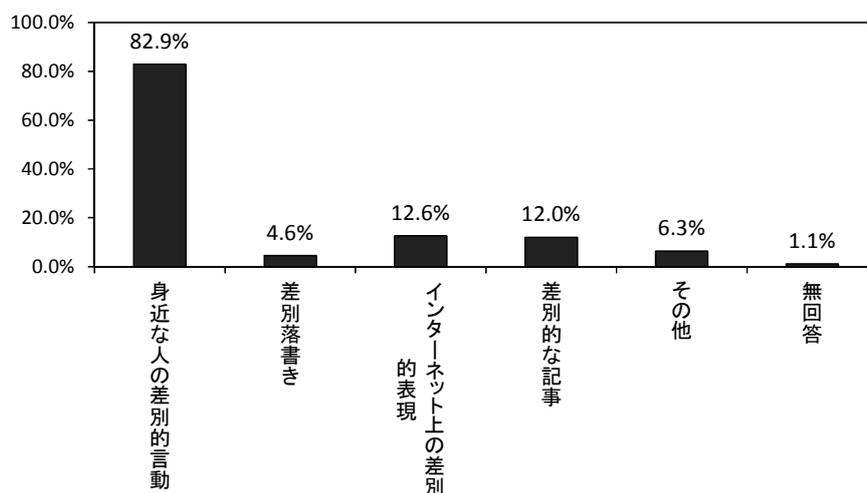
参加回数「5～9回」と「1～4回」で線引きができる。参加回数が5回以上になると「ある」が約4割に増える。

質問11-2 質問11-1で1を選ばれた方におたずねします。その見聞きした差別的な発言や行動は、次のうちどれですか。(〇はいくつでも)

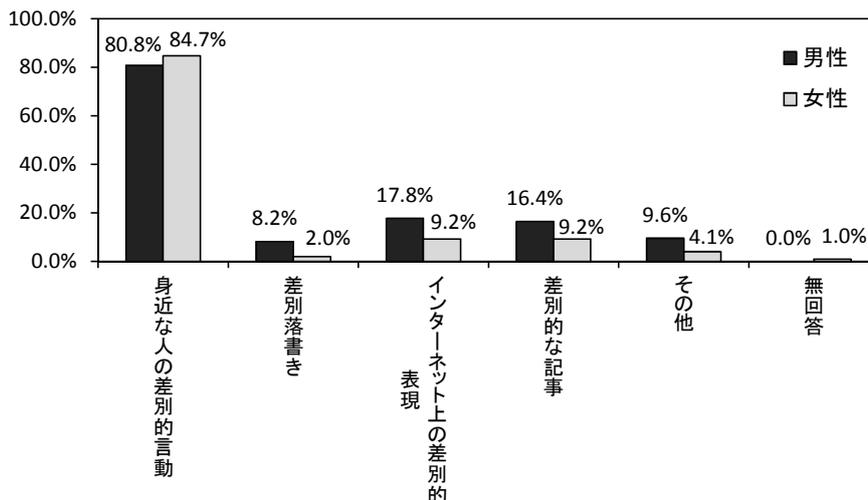
- 1 地域や職場、学校、家庭内などでの差別的な言動
- 2 建物などへの差別落書き
- 3 インターネット上での差別的な表現など
- 4 雑誌等での差別的な記事
- 5 その他

質問11-2		1. 身近な人の差別的言動		2. 差別落書き		3. インターネット上の差別的表現		4. 差別的な記事		5. その他		無回答		11-1回答者数
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
20歳代	男性	4	80.0	0	0.0	2	40.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5
	女性	7	77.8	0	0.0	1	11.1	0	0.0	1	11.1	0	0.0	9
	計	11	78.6	0	0.0	3	21.4	0	0.0	1	7.1	0	0.0	14
30歳代	男性	8	80.0	1	10.0	3	30.0	2	20.0	1	10.0	0	0.0	10
	女性	17	85.0	0	0.0	3	15.0	0	0.0	1	5.0	0	0.0	20
	計	25	83.3	1	3.3	6	20.0	2	6.7	2	6.7	0	0.0	30
40歳代	男性	7	70.0	2	20.0	5	50.0	4	40.0	2	20.0	0	0.0	10
	女性	11	73.3	2	13.3	2	13.3	3	20.0	1	6.7	0	0.0	15
	無回答	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1
計	19	73.1	4	15.4	7	26.9	7	26.9	3	11.5	0	0.0	26	
50歳代	男性	13	76.5	1	5.9	1	5.9	3	17.6	1	5.9	0	0.0	17
	女性	20	95.2	0	0.0	1	4.8	1	4.8	1	4.8	0	0.0	21
	計	33	86.8	1	2.6	2	5.3	4	10.5	2	5.3	0	0.0	38
60歳代	男性	16	88.9	2	11.1	2	11.1	2	11.1	2	11.1	0	0.0	18
	女性	19	90.5	0	0.0	2	9.5	2	9.5	0	0.0	1	4.8	21
	計	35	89.7	2	5.1	4	10.3	4	10.3	2	5.1	1	2.6	39
70歳以上	男性	11	84.6	0	0.0	0	0.0	1	7.7	1	7.7	0	0.0	13
	女性	9	75.0	0	0.0	0	0.0	3	25.0	0	0.0	0	0.0	12
	計	20	80.0	0	0.0	0	0.0	4	16.0	1	4.0	0	0.0	25
無回答	無回答	2	66.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	33.3	3
全体	男性	59	80.8	6	8.2	13	17.8	12	16.4	7	9.6	0	0.0	73
	女性	83	84.7	2	2.0	9	9.2	9	9.2	4	4.1	1	1.0	98
	無回答	3	75.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	25.0	4
	計	145	82.9	8	4.6	22	12.6	21	12.0	11	6.3	2	1.1	175

【全体】

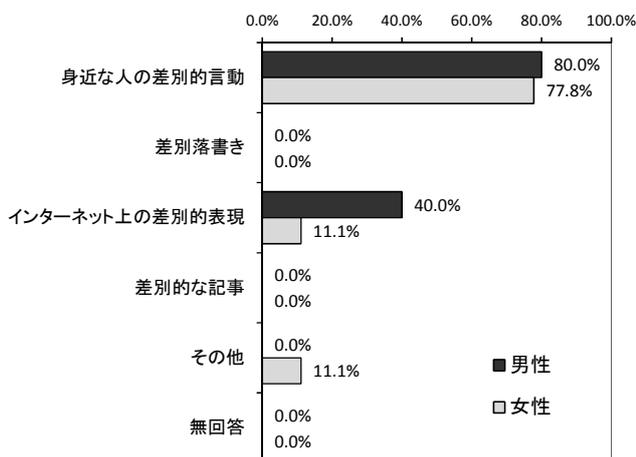


【男女別】

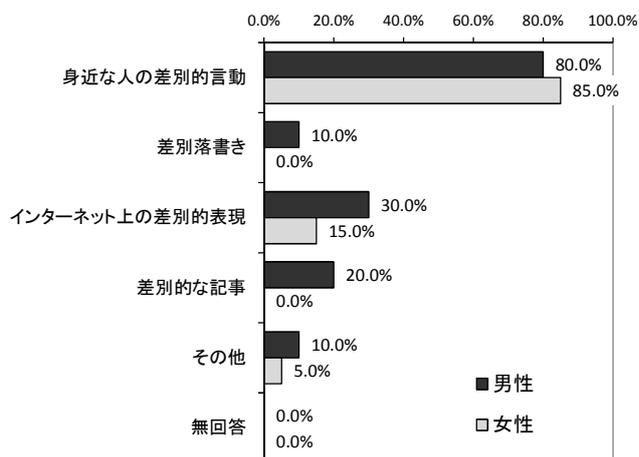


【年代男女別】

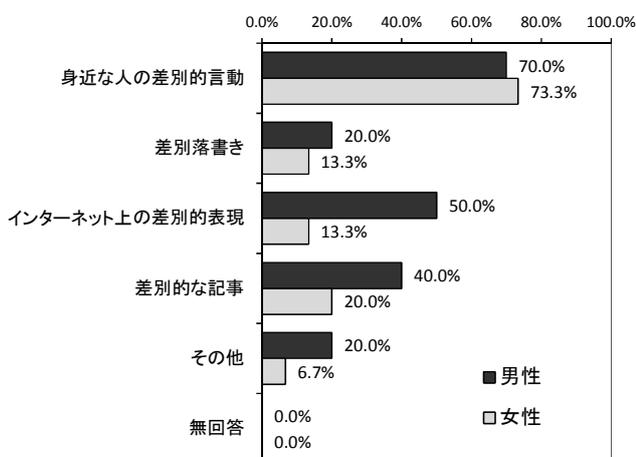
20歳代



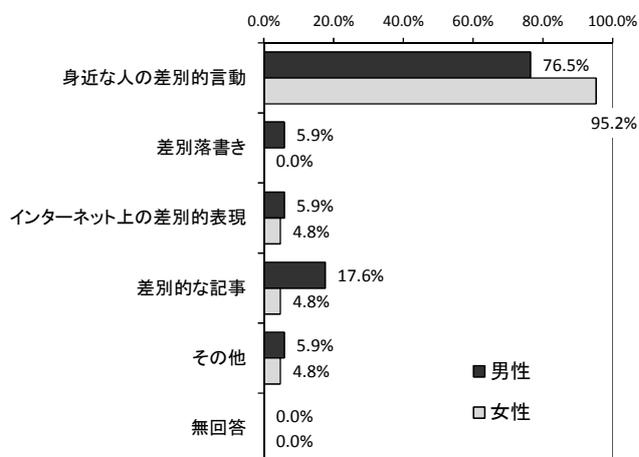
30歳代



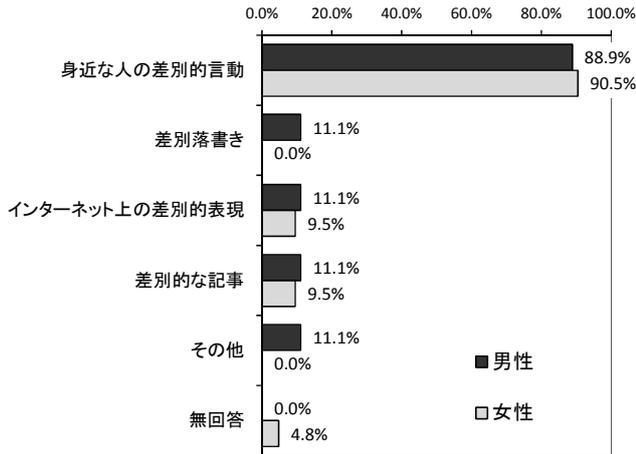
40歳代



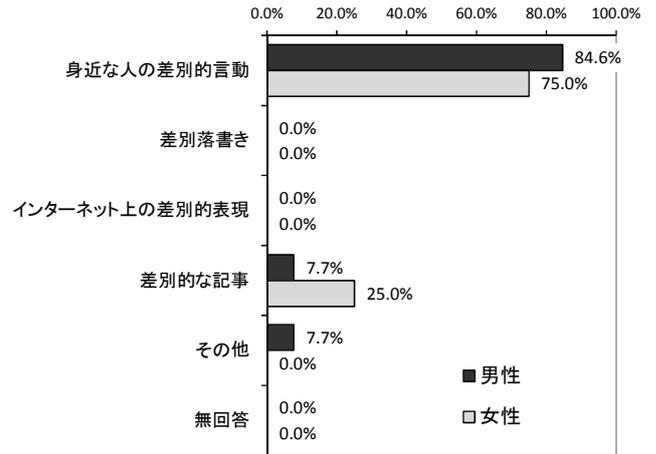
50歳代



60歳代



70歳以上



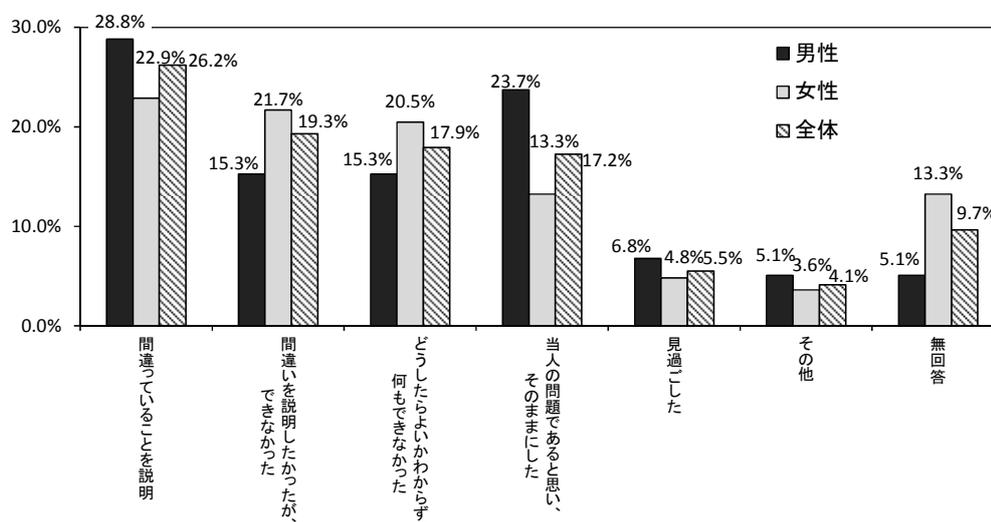
- 全体では、「身近な人の差別的言動」82.9%が最も高い。「インターネット上の差別的表現」、「差別的な記事」も約1割ある。
- 年代では、どの年代も「身近な人の差別的言動」が約7割～9割で最も高い。20歳代～40歳代は「インターネット上の差別的表現」が約2割ある。
- 男女別では、「身近な人の差別的言動」は女性の方が少し高いが、それ以外は男性の方が高い。
- 年代男女別では、「身近な人の差別的言動」は50歳代と60歳代の女性が高い。

質問11-3 質問11-2で1を選ばれた方におたずねします。その時、あなたはどうしましたか。(〇は1つ)

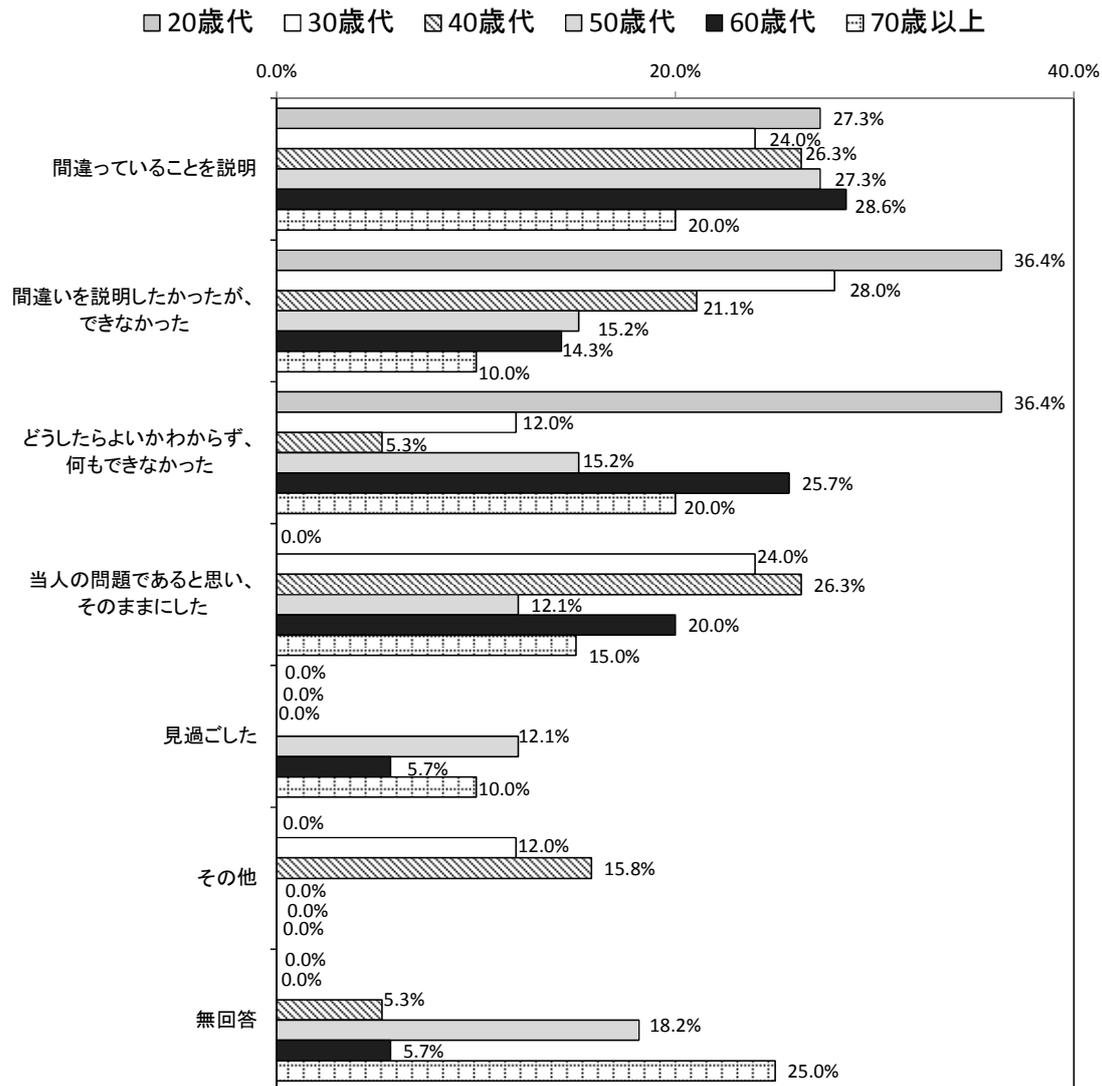
- 1 差別に気づき、間違っていることを説明した
- 2 差別に気づき、間違いを説明したかったが、できなかった
- 3 差別に気づいたが、どうしたらよいかわからず、何もできなかった
- 4 差別に気づいたが、当人の問題であると思い、そのままにした
- 5 その時は差別と認識せず、見過ごした
- 6 その他

質問11-3		1. 間違っていることを説明		2. 間違いを説明したかったが、できなかった		3. どうしたらよいかわからず、何もできなかった		4. 当人の問題であると思い、そのままにした		5. 見過ごした		6. その他		無回答		全体
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
20歳代	男性	2	50.0	0	0.0	2	50.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4
	女性	1	14.3	4	57.1	2	28.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	7
	計	3	27.3	4	36.4	4	36.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	11
30歳代	男性	1	12.5	1	12.5	1	12.5	3	37.5	0	0.0	2	25.0	0	0.0	8
	女性	5	29.4	6	35.3	2	11.8	3	17.6	0	0.0	1	5.9	0	0.0	17
	計	6	24.0	7	28.0	3	12.0	6	24.0	0	0.0	3	12.0	0	0.0	25
40歳代	男性	1	14.3	2	28.6	1	14.3	1	14.3	0	0.0	1	14.3	1	14.3	7
	女性	3	27.3	2	18.2	0	0.0	4	36.4	0	0.0	2	18.2	0	0.0	11
	無回答	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1
	計	5	26.3	4	21.1	1	5.3	5	26.3	0	0.0	3	15.8	1	5.3	19
50歳代	男性	4	30.8	2	15.4	2	15.4	3	23.1	1	7.7	0	0.0	1	7.7	13
	女性	5	25.0	3	15.0	3	15.0	1	5.0	3	15.0	0	0.0	5	25.0	20
	計	9	27.3	5	15.2	5	15.2	4	12.1	4	12.1	0	0.0	6	18.2	33
60歳代	男性	5	31.3	2	12.5	3	18.8	5	31.3	1	6.3	0	0.0	0	0.0	16
	女性	5	26.3	3	15.8	6	31.6	2	10.5	1	5.3	0	0.0	2	10.5	19
	計	10	28.6	5	14.3	9	25.7	7	20.0	2	5.7	0	0.0	2	5.7	35
70歳以上	男性	4	36.4	2	18.2	0	0.0	2	18.2	2	18.2	0	0.0	1	9.1	11
	女性	0	0.0	0	0.0	4	44.4	1	11.1	0	0.0	0	0.0	4	44.4	9
	計	4	20.0	2	10.0	4	20.0	3	15.0	2	10.0	0	0.0	5	25.0	20
無回答	無回答	1	50.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2
全体	男性	17	28.8	9	15.3	9	15.3	14	23.7	4	6.8	3	5.1	3	5.1	59
	女性	19	22.9	18	21.7	17	20.5	11	13.3	4	4.8	3	3.6	11	13.3	83
	無回答	2	66.7	1	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3
	計	38	26.2	28	19.3	26	17.9	25	17.2	8	5.5	6	4.1	14	9.7	145

【全体男女別】



【年代別】



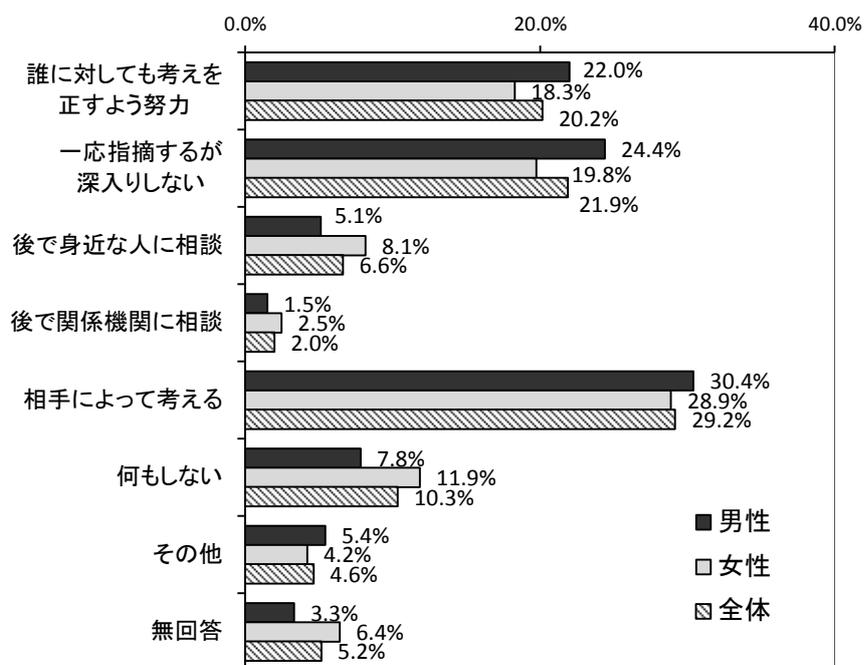
- 全体では、「間違っていることを説明」26.2%が最も高いが、「間違いを説明したかったが、できなかった」と「どうしたらよいかわからず、何もできなかった」と「当人の問題であると思い、そのままにした」を合わせると54.4%で、差別に気づいても、結局何もしなかった人が5割以上になる。
- 年代では、20歳代～40歳代は「見過ごした」が0.0%。20歳代は「間違いを説明したかったが、できなかった」「どうしたらよいかわからず、何もできなかった」が他の年代より高い。
- 男女別では、「当人の問題であると思い、そのままにした」は男性の方が10.4ポイント高い。「間違っていることを説明」は男性の方が、「間違いを説明したかったが、できなかった」、「どうしたらよいかわからず、何もできなかった」は女性の方が5～6ポイント程度高い。

質問12 今後、あなたの周りや親しい人の間で、部落問題に関する差別的な発言や行動を直接見聞きした場合、あなたはどのように思いますか。(〇は1つ)

- 1 誰に対しても、その人の考え(間違い)を正すよう努力する
- 2 一応間違いを指摘するが、あまり深入りしないようにする
- 3 そのときは何もしないが、後で身近な人に相談する
- 4 そのときは何もしないが、後で関係機関に相談する
- 5 相手によって、どうするか考える
- 6 気まづくなるといやなので、何もしない
- 7 その他

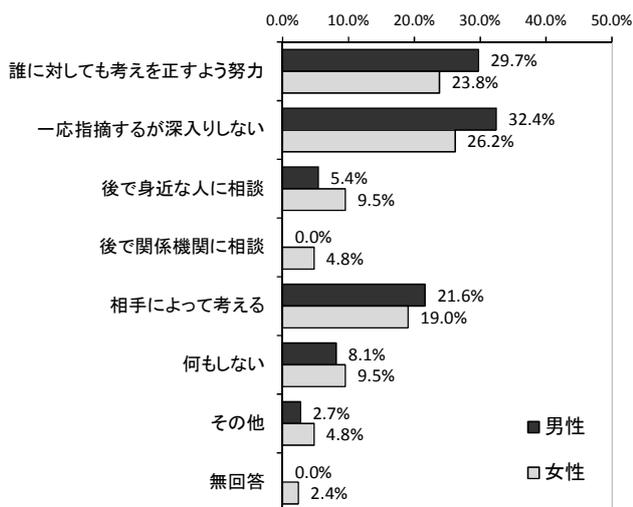
質問12		1. 誰に対しても考えを正すよう努力		2. 一応指摘するが深入りしない		3. 後で身近な人に相談		4. 後で関係機関に相談		5. 相手によって考える		6. 何もしない		7. その他		無回答		全体
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
20歳代	男性	11	29.7	12	32.4	2	5.4	0	0.0	8	21.6	3	8.1	1	2.7	0	0.0	37
	女性	10	23.8	11	26.2	4	9.5	2	4.8	8	19.0	4	9.5	2	4.8	1	2.4	42
	計	21	26.6	23	29.1	6	7.6	2	2.5	16	20.3	7	8.9	3	3.8	1	1.3	79
30歳代	男性	5	12.8	5	12.8	0	0.0	3	7.7	18	46.2	3	7.7	5	12.8	0	0.0	39
	女性	11	20.4	8	14.8	3	5.6	1	1.9	21	38.9	3	5.6	3	5.6	4	7.4	54
	計	16	17.2	13	14.0	3	3.2	4	4.3	39	41.9	6	6.5	8	8.6	4	4.3	93
40歳代	男性	11	19.6	12	21.4	4	7.1	1	1.8	22	39.3	3	5.4	3	5.4	0	0.0	56
	女性	10	16.4	15	24.6	6	9.8	1	1.6	19	31.1	4	6.6	4	6.6	2	3.3	61
	無回答	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1
	計	22	18.6	27	22.9	10	8.5	2	1.7	41	34.7	7	5.9	7	5.9	2	1.7	118
50歳代	男性	12	18.2	21	31.8	3	4.5	1	1.5	19	28.8	2	3.0	4	6.1	4	6.1	66
	女性	12	14.5	14	16.9	11	13.3	3	3.6	27	32.5	8	9.6	2	2.4	6	7.2	83
	計	24	16.1	35	23.5	14	9.4	4	2.7	46	30.9	10	6.7	6	4.0	10	6.7	149
60歳代	男性	20	27.0	14	18.9	4	5.4	0	0.0	19	25.7	8	10.8	4	5.4	5	6.8	74
	女性	23	23.2	22	22.2	4	4.0	3	3.0	28	28.3	12	12.1	3	3.0	4	4.0	99
	無回答	0	0.0	1	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	33.3	0	0.0	1	33.3	3
	計	43	24.4	37	21.0	8	4.5	3	1.7	47	26.7	21	11.9	7	4.0	10	5.7	176
70歳以上	男性	14	23.3	17	28.3	4	6.7	0	0.0	15	25.0	7	11.7	1	1.7	2	3.3	60
	女性	8	12.3	9	13.8	5	7.7	0	0.0	14	21.5	17	26.2	3	4.6	9	13.8	65
	無回答	2	66.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3
	計	24	18.8	26	20.3	9	7.0	0	0.0	30	23.4	24	18.8	4	3.1	11	8.6	128
無回答	女性	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1
	無回答	2	20.0	3	30.0	0	0.0	0	0.0	1	10.0	3	30.0	0	0.0	1	10.0	10
	計	2	18.2	4	36.4	0	0.0	0	0.0	1	9.1	3	27.3	0	0.0	1	9.1	11
全体	男性	73	22.0	81	24.4	17	5.1	5	1.5	101	30.4	26	7.8	18	5.4	11	3.3	332
	女性	74	18.3	80	19.8	33	8.1	10	2.5	117	28.9	48	11.9	17	4.2	26	6.4	405
	無回答	5	29.4	4	23.5	0	0.0	0	0.0	2	11.8	4	23.5	0	0.0	2	11.8	17
	計	152	20.2	165	21.9	50	6.6	15	2.0	220	29.2	78	10.3	35	4.6	39	5.2	754

【全体男女別】

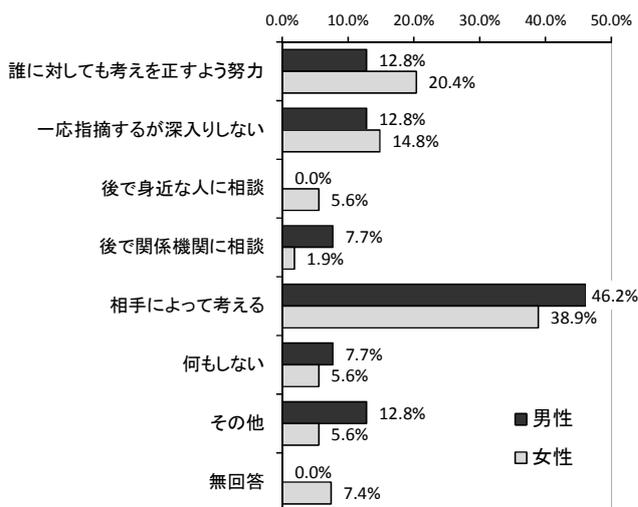


【年代男女別】

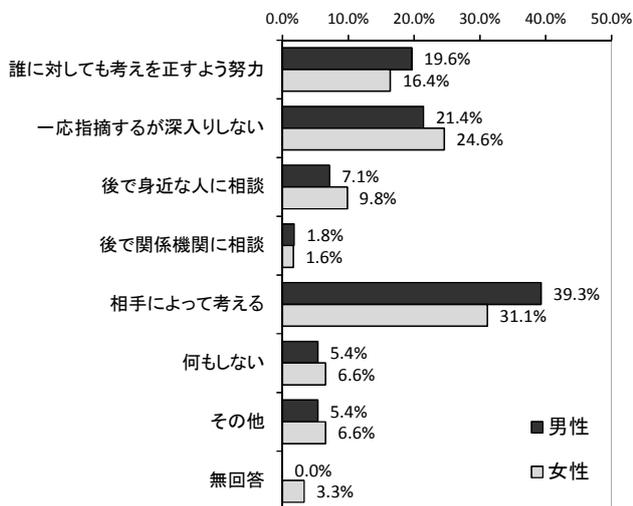
20歳代



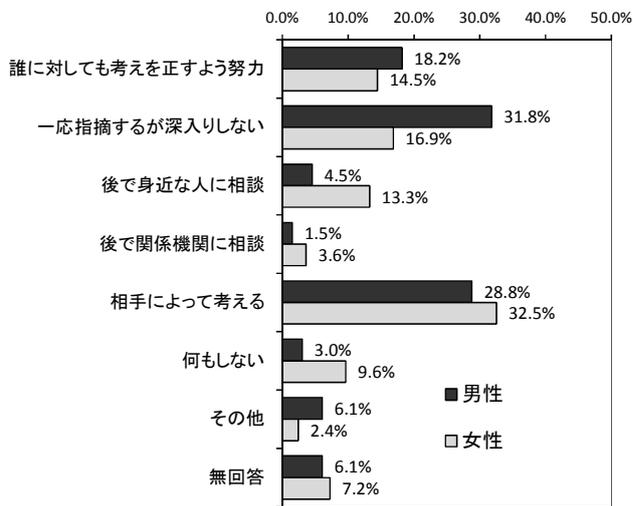
30歳代



40歳代

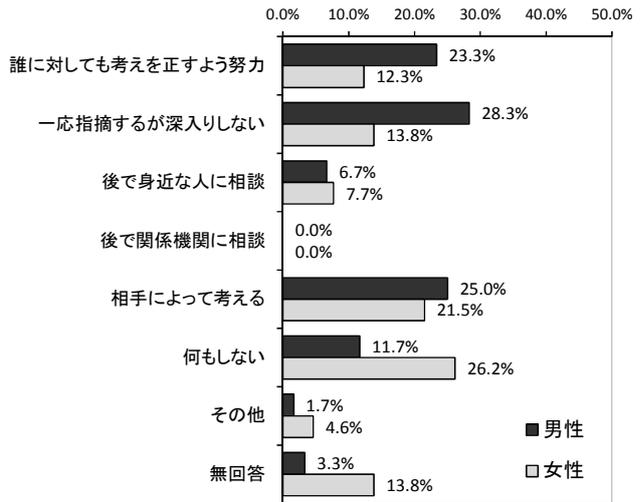
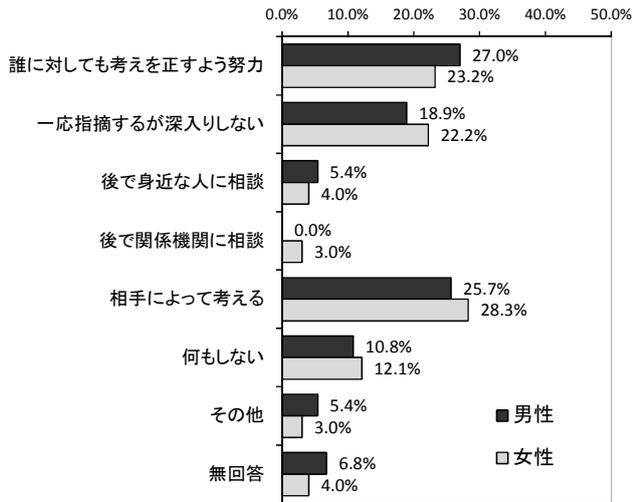


50歳代



60歳代

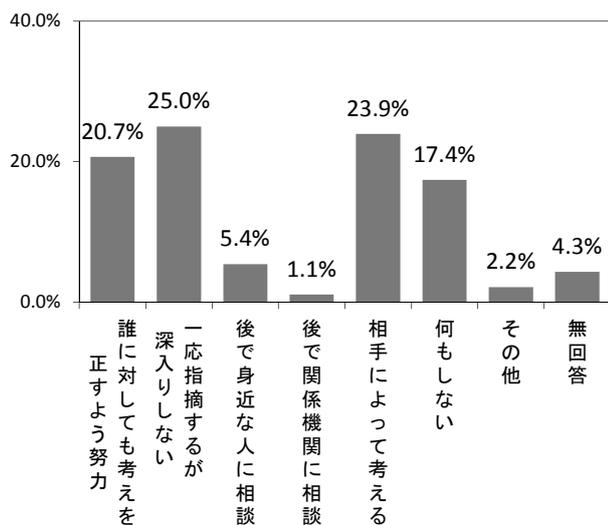
70歳以上



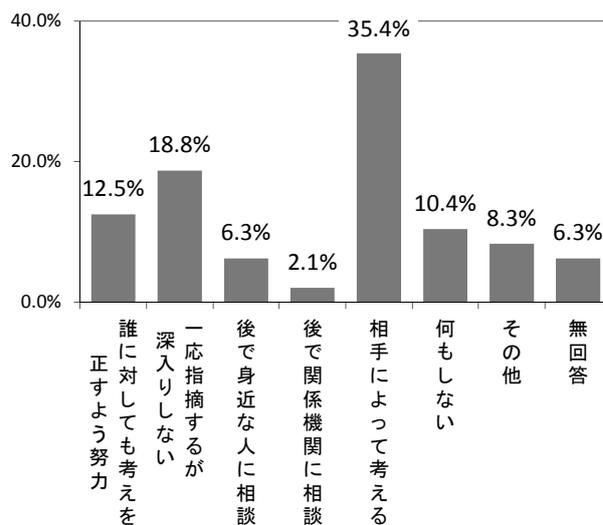
【職業別】

質問 1.2 職業別	1. 誰に対しても考えを正すよう努力		2. 一応指摘するが深入りしない		3. 後で身近な人に相談		4. 後で関係機関に相談		5. 相手によって考える		6. 何もしない		7. その他		無回答		全体
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
農林漁業者	19	20.7	23	25.0	5	5.4	1	1.1	22	23.9	16	17.4	2	2.2	4	4.3	92
自営業者	6	12.5	9	18.8	3	6.3	1	2.1	17	35.4	5	10.4	4	8.3	3	6.3	48
企業・団体職員	28	15.7	42	23.6	14	7.9	6	3.4	64	36.0	12	6.7	8	4.5	4	2.2	178
保育士・教員	7	35.0	5	25.0	0	0.0	0	0.0	7	35.0	0	0.0	0	0.0	1	5.0	20
医療・福祉等関係者	13	27.1	4	8.3	4	8.3	1	2.1	14	29.2	2	4.2	5	10.4	5	10.4	48
公務員	4	18.2	7	31.8	3	13.6	0	0.0	7	31.8	1	4.5	0	0.0	0	0.0	22
家事従事者	18	24.0	14	18.7	6	8.0	1	1.3	21	28.0	6	8.0	4	5.3	5	6.7	75
パート・アルバイト等	13	15.7	20	24.1	6	7.2	2	2.4	25	30.1	9	10.8	3	3.6	5	6.0	83
学生	7	29.2	9	37.5	2	8.3	0	0.0	3	12.5	2	8.3	1	4.2	0	0.0	24
無職	31	23.1	27	20.1	6	4.5	2	1.5	38	28.4	18	13.4	4	3.0	8	6.0	134
その他	3	21.4	0	0.0	1	7.1	1	7.1	0	0.0	3	21.4	4	28.6	2	14.3	14
無回答	3	18.8	5	31.3	0	0.0	0	0.0	2	12.5	4	25.0	0	0.0	2	12.5	16
全体	152	20.2	165	21.9	50	6.6	15	2.0	220	29.2	78	10.3	35	4.6	39	5.2	754

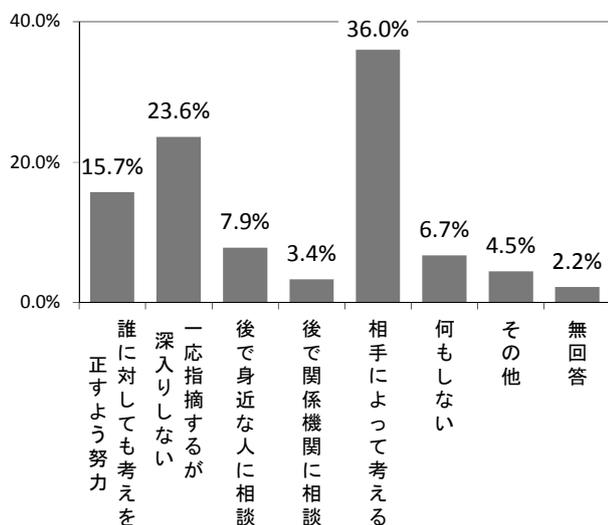
農林漁業者



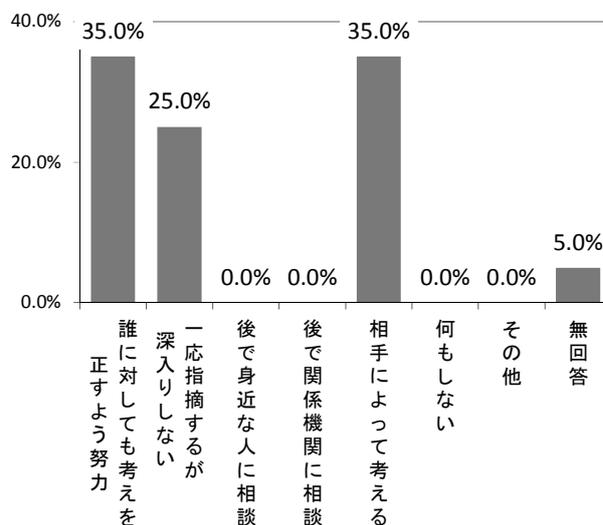
自営業者



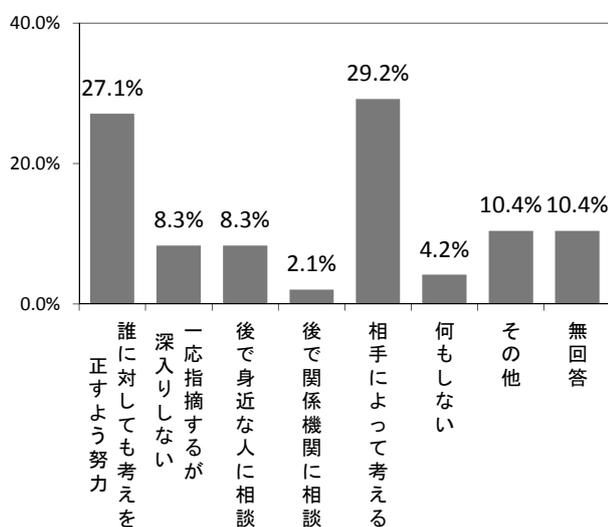
企業・団体職員



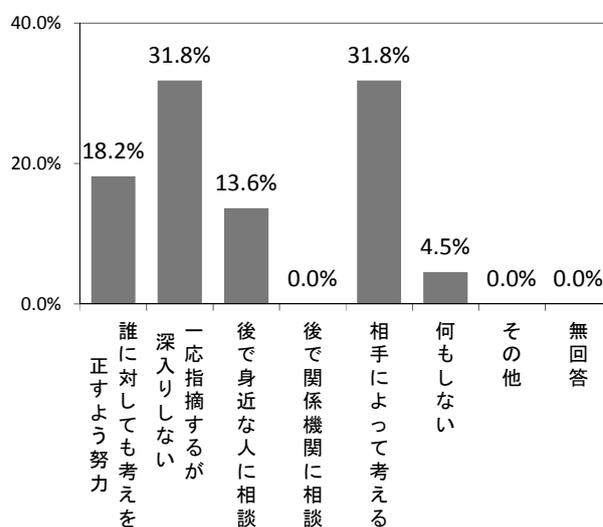
保育士・教員



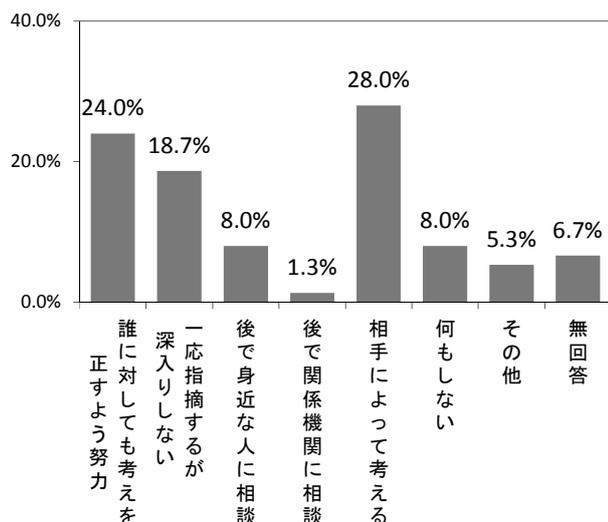
医療・福祉等関係者



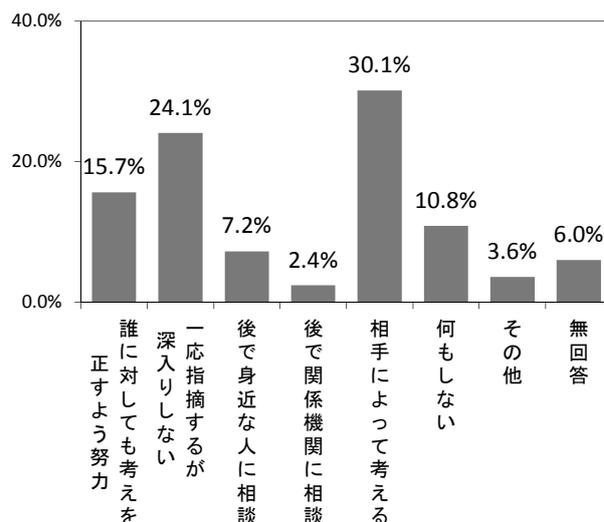
公務員



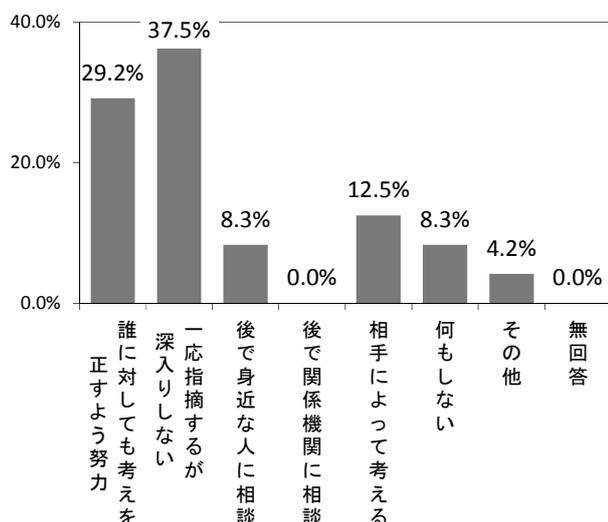
家事従事者



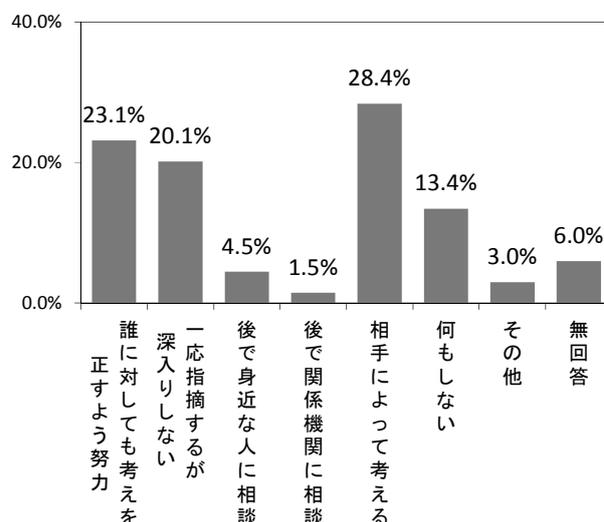
パート・アルバイト等



学生



無職



- 全体では、「相手によって考える」29.2%が最も高い。「一応指摘するが深入りしない」と「誰に対しても考えを正すよう努力」が約2割、「何もしない」は約1割ある。「後で関係機関に相談」が2.0%で最も低い。
- 年代では、次のような傾向、特徴がみられる。
 - ・ 20歳代以外はどの年代も「相手によって考える」が最も高い。年代中最も高いのは30歳代41.9%で、最も低い20歳代20.3%と21.6ポイントの差がある。
 - ・ 20歳代は「一応指摘するが深入りしない」29.1%が最も高く、「誰に対しても考えを正すよう努力」が同程度で続く。いずれも年代中最も高い。「誰に対しても考えを正すよう努力」は60歳代も高い。
 - ・ 「何もしない」は70歳以上18.8%が最も高く、最も低い40歳代5.9%と12.9ポイントの差がある。
- 年代男女別では、次のような傾向、特徴がみられる。
 - ・ 20歳代と60歳代は男女で大きな差はない。
 - ・ 30歳代は「誰に対しても考えを正すよう努力」は女性の方が7.6ポイント、「相手によって考える」

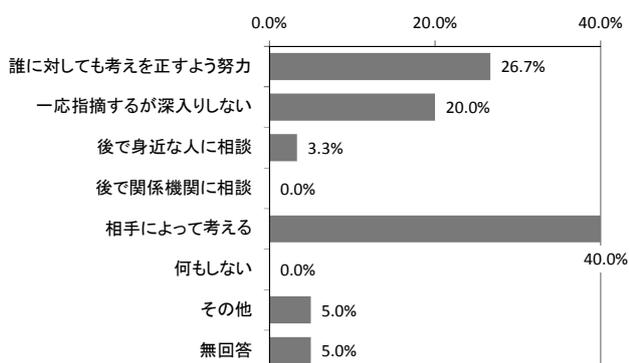
は男性の方が7.3ポイント高い。

- ・ 40歳代も「相手によって考える」は男性の方が8.2ポイント高い。
 - ・ 50歳代は「一応指摘するが深入りしない」は男性の方が14.9ポイント、「後で身近な人に相談」は女性の方が8.8ポイント高い。
 - ・ 70歳以上は「誰に対しても考えを正すよう努力」は11.0ポイント、「一応指摘するが深入りしない」は14.5ポイント、それぞれ男性の方が高い。「何もしない」は14.5ポイント、「無回答」は10.5ポイント、それぞれ女性の方が高い。「何もしない」は70歳以上女性が年代男女中最も高い。
 - ・ 「誰に対しても考えを正すよう努力」は20歳代男性と60歳代男性が高く、30歳代男性と70歳以上女性が低い。「一応指摘するが深入りしない」も20歳代男性が最も高い。
 - ・ どの年代男女も「後で関係機関に相談」が低く、特に、20歳代男性、60歳代男性、70歳以上男女は0.0%である。
- 職業等では、次のような傾向、特徴がみられる。
- ・ 農林漁業者は「誰に対しても考えを正すよう努力」、「相手によって考える」、「一応指摘するが深入りしない」が20%~25%でほぼ同程度。「何もしない」17.4%が、職業等の中で最も高い。
 - ・ 自営業者、企業・団体職員、パート・アルバイト等は「相手によって考える」が3割~4割近く、「一応指摘するが深入りしない」が2割程度、「誰に対しても考えを正すよう努力」が15%前後。「誰に対しても考えを正すよう努力」は、自営業の12.8%が最も低い。
 - ・ 医療・福祉等関係者は「一応指摘するが深入りしない」が8.3%で、職業等の中で最も低い。「その他」と「無回答」がそれぞれ1割あり、他の職業等より少し高い。
 - ・ 保育士・教員は「誰に対しても考えを正すよう努力」が35.0%で、職業等の中で最も高い。「後で身近な人に相談」、「後で関係機関に相談」は0.0%である。
 - ・ 学生は「一応指摘するが深入りしない」が37.5%で、職業等の中で最も高い。また「相手によって考える」が1割程度で、職業等の中で最も低い。
 - ・ 公務員は「一応指摘するが深入りしない」と「相手によって考える」が3割。「誰に対しても考えを正すよう努力」は18.2%であり高くなく、保育士・教員より16.8ポイント低い。「後で身近な人に相談」は他の職業等より少し高いが、「後で関係機関に相談」は0.0%である。
 - ・ 家事従事者と無職は同じような割合を示している。

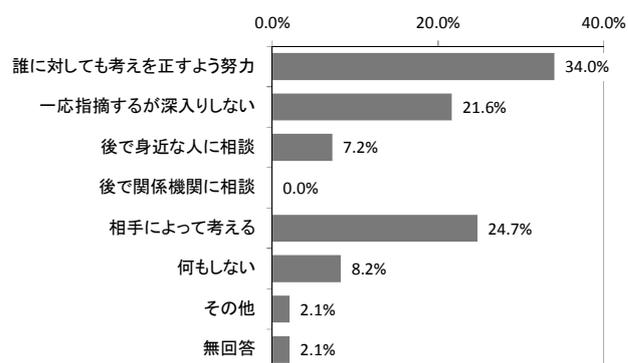
【質問12（今後差別的な言動を見聞きした時の対応）と質問6-1（研修等への参加回数）の関連】

質問12 \ 質問6-1	1. 誰に対しても考えを正すよう努力		2. 一応指摘するが深入りしない		3. 後で身近な人に相談する		4. 後で関係機関に相談する		5. 相手によって考える		6. 何もしない		7. その他		無回答		全体
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
1. 10回以上	16	26.7	12	20.0	2	3.3	0	0.0	24	40.0	0	0.0	3	5.0	3	5.0	60
2. 5～9回	33	34.0	21	21.6	7	7.2	0	0.0	24	24.7	8	8.2	2	2.1	2	2.1	97
3. 1～4回	65	19.2	85	25.1	22	6.5	9	2.7	95	28.1	28	8.3	15	4.4	19	5.6	338
4. 参加したことがない	37	14.5	47	18.4	19	7.5	6	2.4	76	29.8	40	15.7	15	5.9	15	5.9	255
無回答	1	25.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	25.0	2	50.0	0	0.0	0	0.0	4

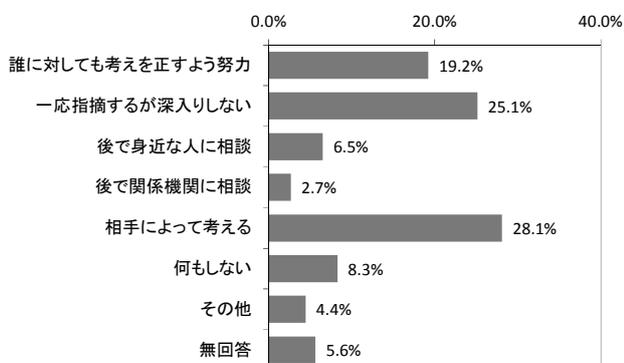
1. 10回以上



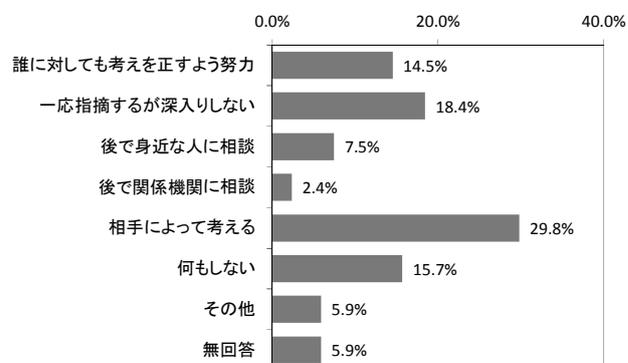
2. 5～9回



3. 1～4回



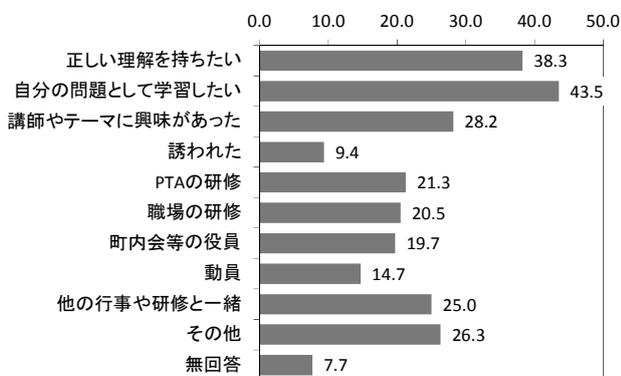
4. 参加したことがない



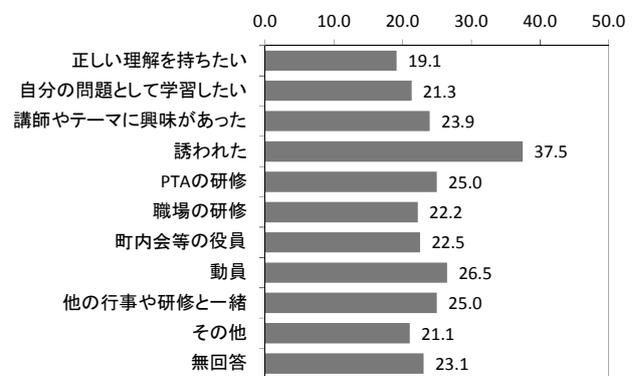
【質問12（今後差別的な言動を見聞きした時の対応）と質問6-3（研修等への参加動機）の関連】

質問12 質問6-3	1. 誰に対しても考えを正すよう努力		2. 一応指摘するが深入りしない		3. 後で身近な人に相談する		4. 後で関係機関に相談する		5. 相手によって考える		6. 何もしない		7. その他		無回答		全体
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
1. 正しい理解を持ちたい	62	38.3	31	19.1	10	6.2	3	1.9	42	25.9	3	1.9	4	2.5	7	4.3	162
2. 自分の問題として学習したい	47	43.5	23	21.3	5	4.6	1	0.9	22	20.4	3	2.8	2	1.9	5	4.6	108
3. 講師やテーマに興味があった	20	28.2	17	23.9	3	4.2	0	0.0	24	33.8	2	2.8	2	2.8	3	4.2	71
4. 誘われた	3	9.4	12	37.5	1	3.1	1	3.1	13	40.6	1	3.1	0	0.0	1	3.1	32
5. PTAの研修	17	21.3	20	25.0	7	8.8	2	2.5	22	27.5	4	5.0	4	5.0	4	5.0	80
6. 職場の研修	24	20.5	26	22.2	7	6.0	0	0.0	38	32.5	4	3.4	9	7.7	9	7.7	117
7. 町内会等の役員	28	19.7	32	22.5	8	5.6	4	2.8	44	31.0	17	12.0	4	2.8	5	3.5	142
8. 動員	15	14.7	27	26.5	2	2.0	0	0.0	35	34.3	8	7.8	7	6.9	8	7.8	102
9. 他の行事や研修と一緒に	16	25.0	16	25.0	3	4.7	2	3.1	16	25.0	6	9.4	1	1.6	4	6.3	64
10. その他	5	26.3	4	21.1	3	15.8	0	0.0	4	21.1	0	0.0	2	10.5	1	5.3	19
無回答	1	7.7	3	23.1	1	7.7	0	0.0	3	23.1	4	30.8	0	0.0	1	7.7	13

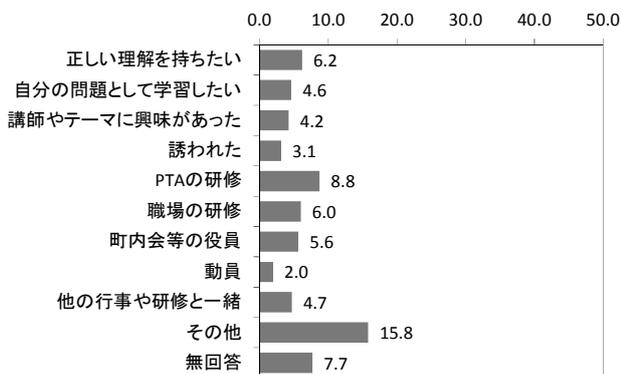
1. 誰に対しても考えを正すよう努力



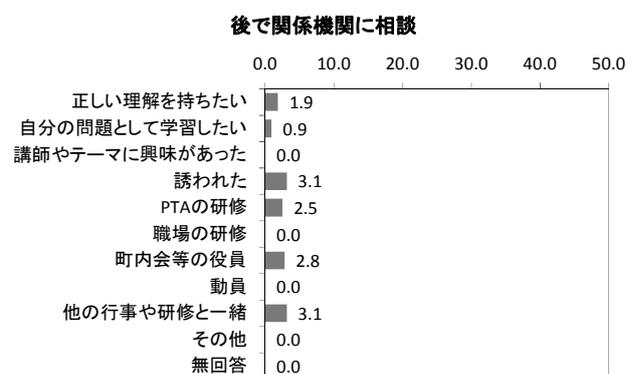
2. 一応指摘するが深入りしない



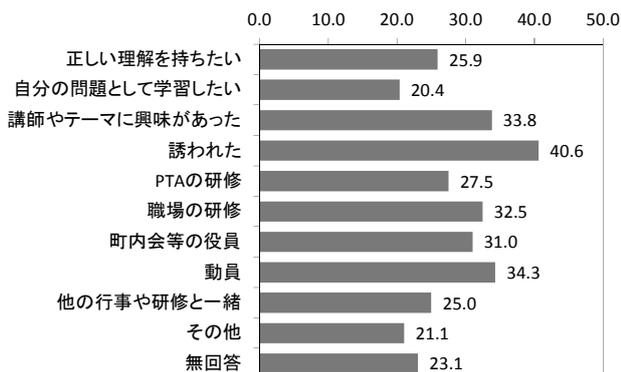
3. 後で身近な人に相談する



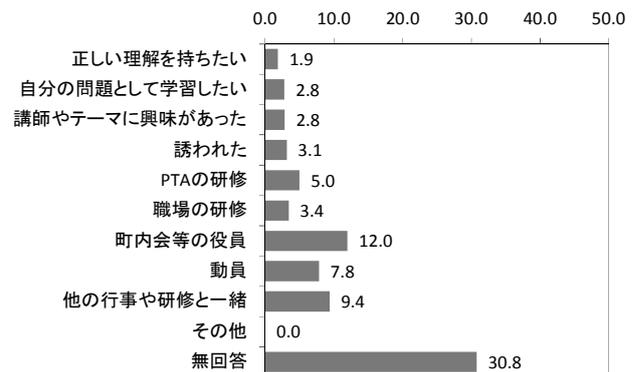
4. 後で関係機関に相談する



5. 相手によって考える



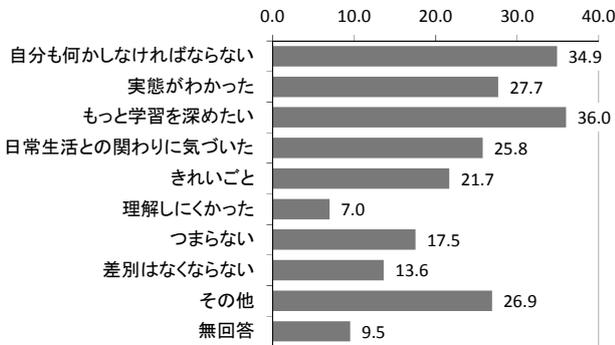
6. 何もしない



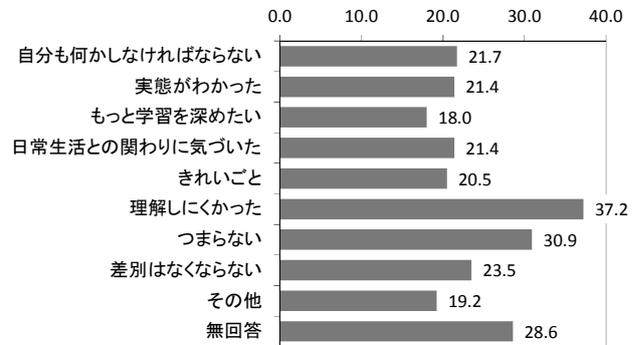
【質問12（今後差別的な言動を見聞きした時の対応）と質問6-4（研修等へ参加した感想）の関連】

質問12 質問6-4	1. 誰に対しても考えを正すよう努力		2. 一応指摘するが深入りしない		3. 後で身近な人に相談する		4. 後で関係機関に相談する		5. 相手によって考える		6. 何もしない		7. その他		無回答		全体
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
1. 自分も何かしなければならぬ	45	34.9	28	21.7	8	6.2	1	0.8	36	27.9	2	1.6	1	0.8	8	6.2	129
2. 実態がわかった	44	27.7	34	21.4	8	5.0	2	1.3	49	30.8	11	6.9	4	2.5	7	4.4	159
3. もっと学習を深めたい	36	36.0	18	18.0	4	4.0	3	3.0	29	29.0	0	0.0	3	3.0	7	7.0	100
4. 日常生活との関わりに気づいた	59	25.8	49	21.4	20	8.7	3	1.3	71	31.0	9	3.9	6	2.6	12	5.2	229
5. きれいごと	18	21.7	17	20.5	4	4.8	1	1.2	27	32.5	3	3.6	6	7.2	7	8.4	83
6. 理解しにくかった	3	7.0	16	37.2	5	11.6	0	0.0	11	25.6	4	9.3	2	4.7	2	4.7	43
7. つまらない	17	17.5	30	30.9	3	3.1	1	1.0	25	25.8	13	13.4	3	3.1	5	5.2	97
8. 差別はなくなる	18	13.6	31	23.5	8	6.1	3	2.3	47	35.6	10	7.6	7	5.3	8	6.1	132
9. その他	7	26.9	5	19.2	1	3.8	0	0.0	6	23.1	1	3.8	4	15.4	2	7.7	26
無回答	2	9.5	6	28.6	1	4.8	0	0.0	5	23.8	5	23.8	1	4.8	1	4.8	21

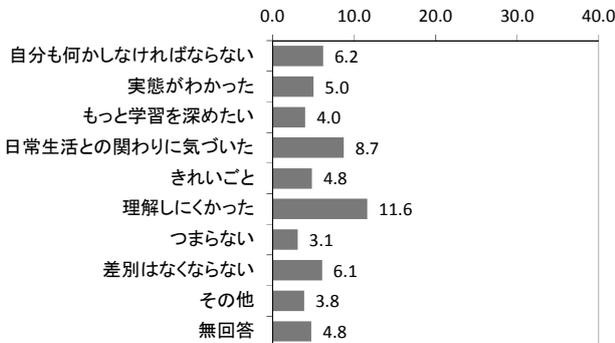
1. 誰に対しても考えを正すよう努力



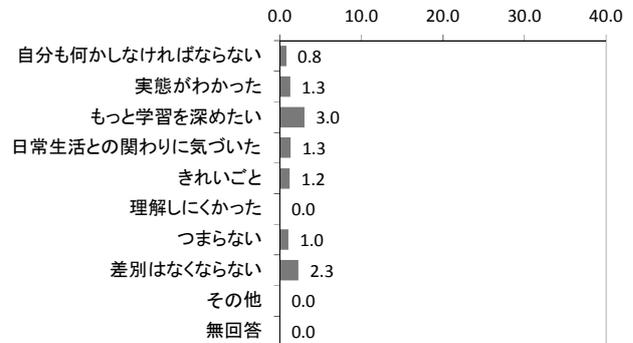
2. 一応指摘するが深入りしない



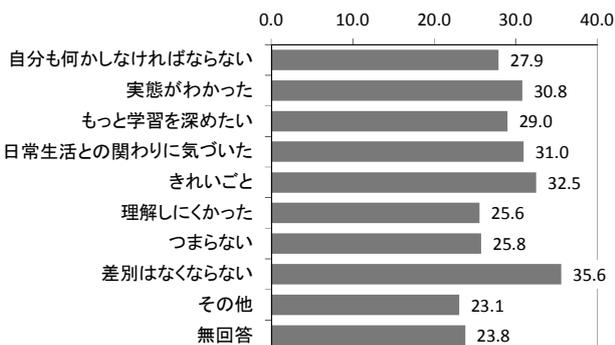
3. 後で身近な人に相談する



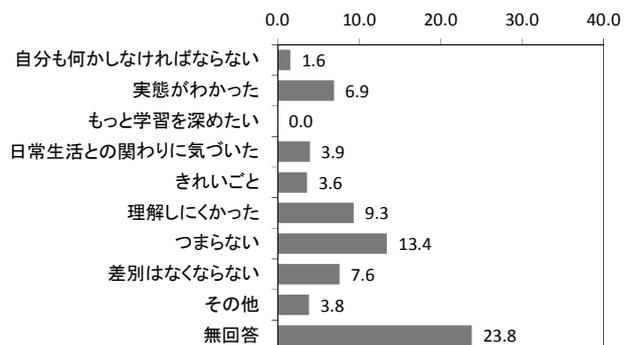
4. 後で関係機関に相談する



5. 相手によって考える



6. 何もしない



【質問12と質問6-1】

「10回以上」参加の人は「相手によって考える」が4割と高い。回数を重ねたからといって「誰に対しても考えを正すよう努力」が増えるわけではない。単なる知識としての学びと、建設的に問題を解決したことがあるといった経験的な学びとでは、その後の意識や行動に違いが出るのだろう。

【質問12と質問6-3】

〔質問6-3〕で、研修会等への参加動機を「自分の問題として学習したい」や「正しい理解を持ちたい」と答えている人は、「誰に対しても正すよう努力」が40%前後で高い。

一方、参加動機が「誘われた」や「動員」の人は、「相手によって考える」、「一応指摘するが深入りしない」が高く、「誰に対しても正すよう努力」が低い。また、「町内会等の役員」は「何もしない」が他の動機の人より高い。「誘われた」や「動員」など、本人の動機付けが弱いと、主体的な意識や行動にはつながっていない。

【質問12と質問6-4】

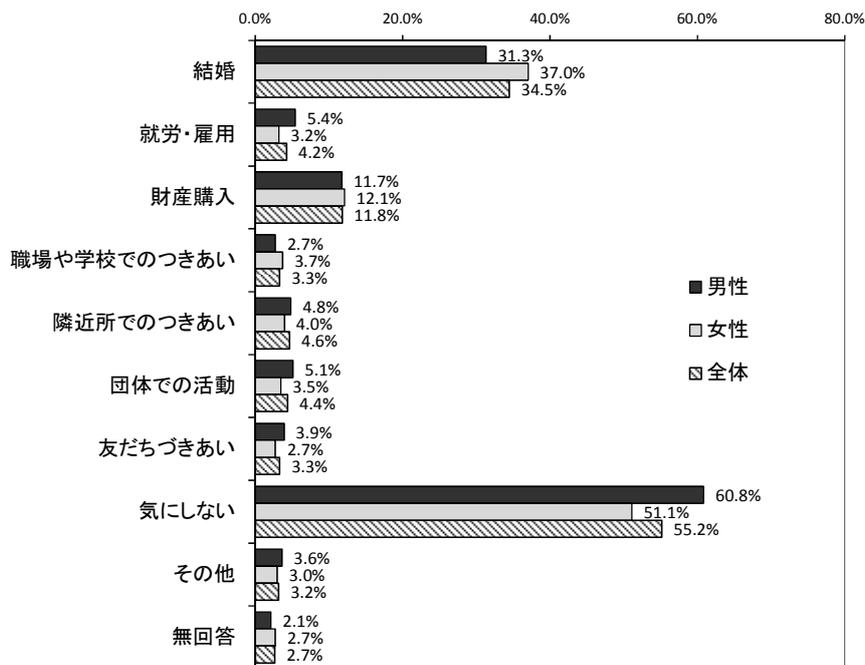
〔質問6-4〕で「理解しにくかった」、「つまらない」と答えた人は、「一応指摘するが深入りしない」が高い。また、「つまらない」と答えた人は、「何もしない」が他の感想の人より高い。

質問13 あなたは、部落問題をどんなときに気にしますか。(〇はいくつでも)

- 1 結婚を考えるとき
- 2 就労・雇用するとき
- 3 土地や家などの財産を購入するとき
- 4 職場や学校でつきあいをするとき
- 5 隣近所でつきあいをするとき
- 6 町内会、自治会、PTA、女性部などの団体に活動するとき
- 7 友だちづきあいをするとき
- 8 気にしない
- 9 その他

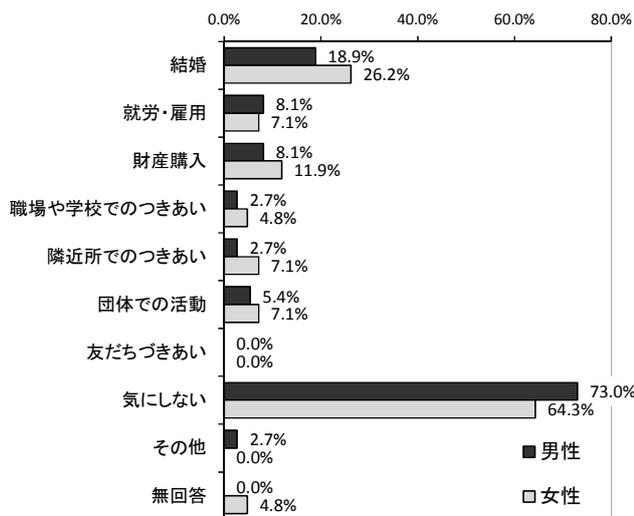
質問13		1. 結婚		2. 就労・雇用		3. 財産購入		4. 職場や学校でのつきあい		5. 隣近所でのつきあい		6. 団体での活動		7. 友だちづきあい		8. 気にしない		9. その他		無回答		回答者数
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
20歳代	男性	7	18.9	3	8.1	3	8.1	1	2.7	1	2.7	2	5.4	0	0.0	27	73.0	1	2.7	0	0.0	37
	女性	11	26.2	3	7.1	5	11.9	2	4.8	3	7.1	3	7.1	0	0.0	27	64.3	0	0.0	2	4.8	42
	計	18	22.8	6	7.6	8	10.1	3	3.8	4	5.1	5	6.3	0	0.0	54	68.4	1	1.3	2	2.5	79
30歳代	男性	7	17.9	2	5.1	2	5.1	0	0.0	2	5.1	1	2.6	1	2.6	27	69.2	4	10.3	0	0.0	39
	女性	13	24.1	1	1.9	12	22.2	1	1.9	1	1.9	0	0.0	0	0.0	32	59.3	2	3.7	1	1.9	54
	計	20	21.5	3	3.2	14	15.1	1	1.1	3	3.2	1	1.1	1	1.1	59	63.4	6	6.5	1	1.1	93
40歳代	男性	18	32.1	1	1.8	6	10.7	2	3.6	3	5.4	4	7.1	2	3.6	32	57.1	4	7.1	0	0.0	56
	女性	24	39.3	1	1.6	8	13.1	2	3.3	1	1.6	2	3.3	1	1.6	33	54.1	3	4.9	1	1.6	61
	無回答	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1
計	43	36.4	2	1.7	14	11.9	4	3.4	4	3.4	6	5.1	3	2.5	65	55.1	7	5.9	1	0.8	118	
50歳代	男性	26	39.4	5	7.6	13	19.7	2	3.0	3	4.5	4	6.1	5	7.6	36	54.5	2	3.0	0	0.0	66
	女性	42	50.6	6	7.2	9	10.8	6	7.2	2	2.4	2	2.4	3	3.6	36	43.4	2	2.4	0	0.0	83
	計	68	45.6	11	7.4	22	14.8	8	5.4	5	3.4	6	4.0	8	5.4	72	48.3	4	2.7	0	0.0	149
60歳代	男性	24	32.4	4	5.4	7	9.5	1	1.4	4	5.4	5	6.8	4	5.4	44	59.5	1	1.4	4	5.4	74
	女性	39	39.4	2	2.0	12	12.1	3	3.0	5	5.1	5	5.1	4	4.0	47	47.5	4	4.0	0	0.0	99
	無回答	1	33.3	1	33.3	1	33.3	1	33.3	1	33.3	1	33.3	1	33.3	2	66.7	0	0.0	0	0.0	3
計	64	36.4	7	4.0	20	11.4	5	2.8	10	5.7	11	6.3	9	5.1	93	52.8	5	2.8	4	2.3	176	
70歳以上	男性	22	36.7	3	5.0	8	13.3	3	5.0	3	5.0	1	1.7	1	1.7	36	60.0	0	0.0	3	5.0	60
	女性	21	32.3	0	0.0	3	4.6	1	1.5	4	6.2	2	3.1	3	4.6	31	47.7	1	1.5	7	10.8	65
	無回答	2	66.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	33.3	0	0.0	0	0.0	3
計	45	35.2	3	2.3	11	8.6	4	3.1	7	5.5	3	2.3	4	3.1	68	53.1	1	0.8	10	7.8	128	
無回答	女性	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	1
	無回答	2	20.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	20.0	1	10.0	0	0.0	4	40.0	0	0.0	2	20.0	10
	計	2	18.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	18.2	1	9.1	0	0.0	5	45.5	0	0.0	2	18.2	11
全体	男性	104	31.3	18	5.4	39	11.7	9	2.7	16	4.8	17	5.1	13	3.9	202	60.8	12	3.6	7	2.1	332
	女性	150	37.0	13	3.2	49	12.1	15	3.7	16	4.0	14	3.5	11	2.7	207	51.1	12	3.0	11	2.7	405
	無回答	6	35.3	1	5.9	1	5.9	1	5.9	3	17.6	2	11.8	1	5.9	7	41.2	0	0.0	2	11.8	17
計	260	34.5	32	4.2	89	11.8	25	3.3	35	4.6	33	4.4	25	3.3	416	55.2	24	3.2	20	2.7	754	

【全体男女別】

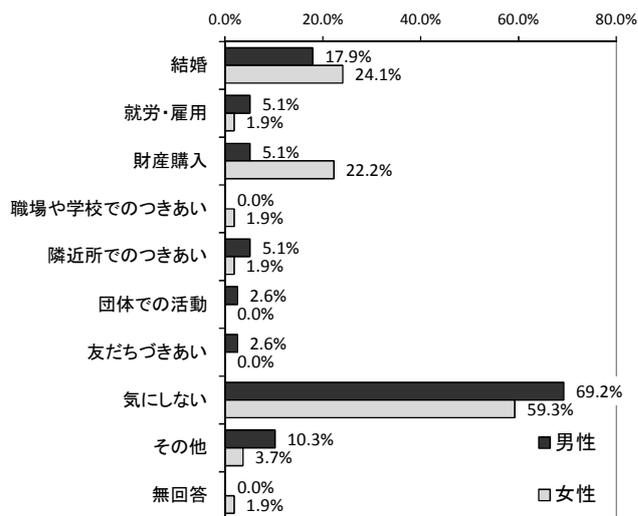


【年代男女別】

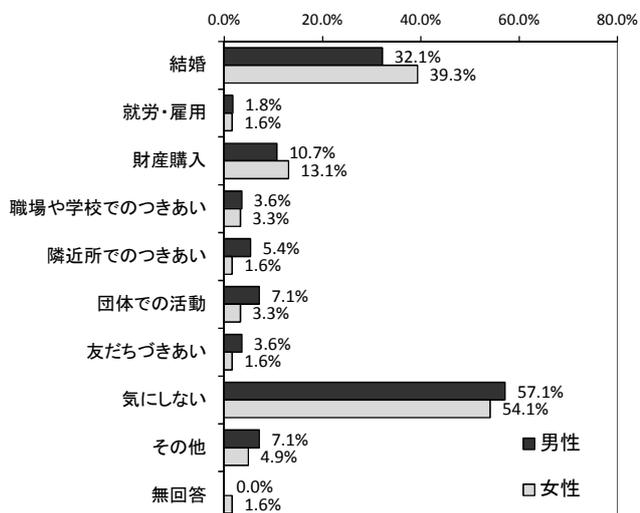
20歳代



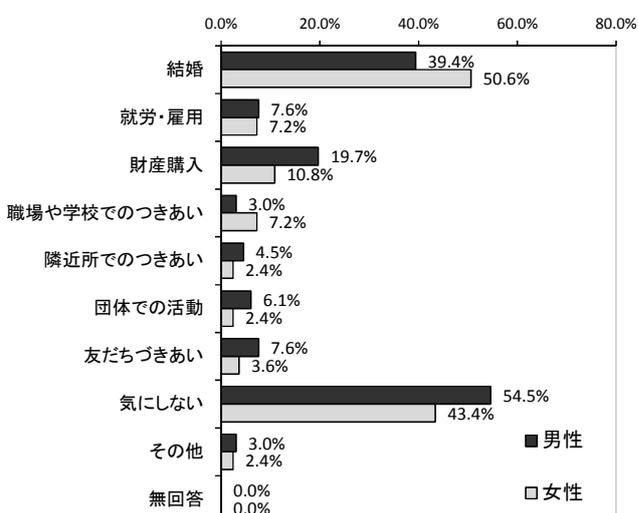
30歳代



40歳代

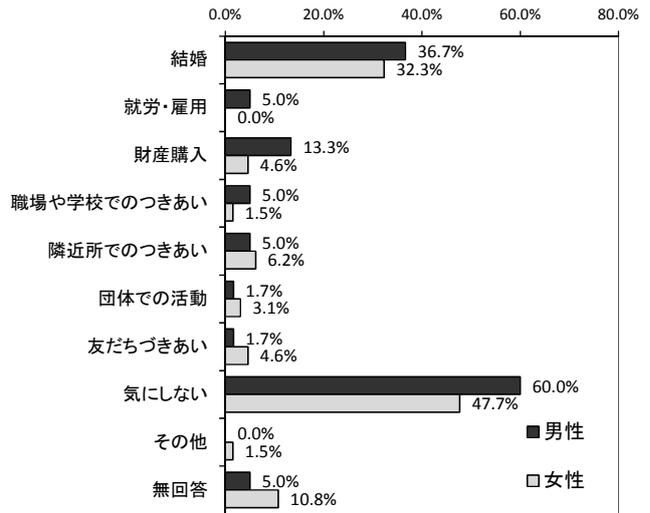
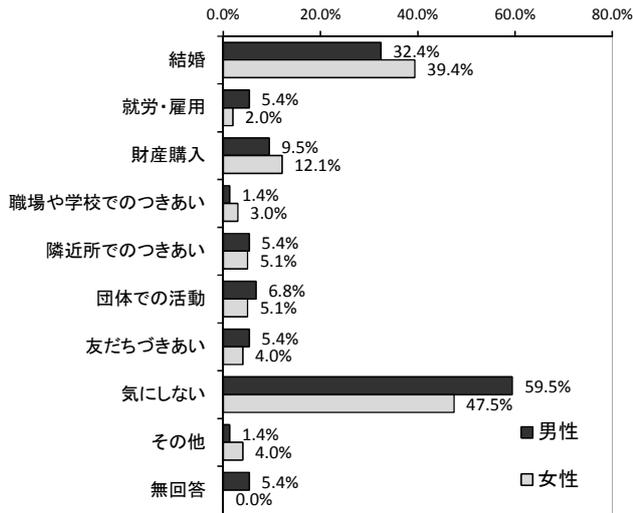


50歳代



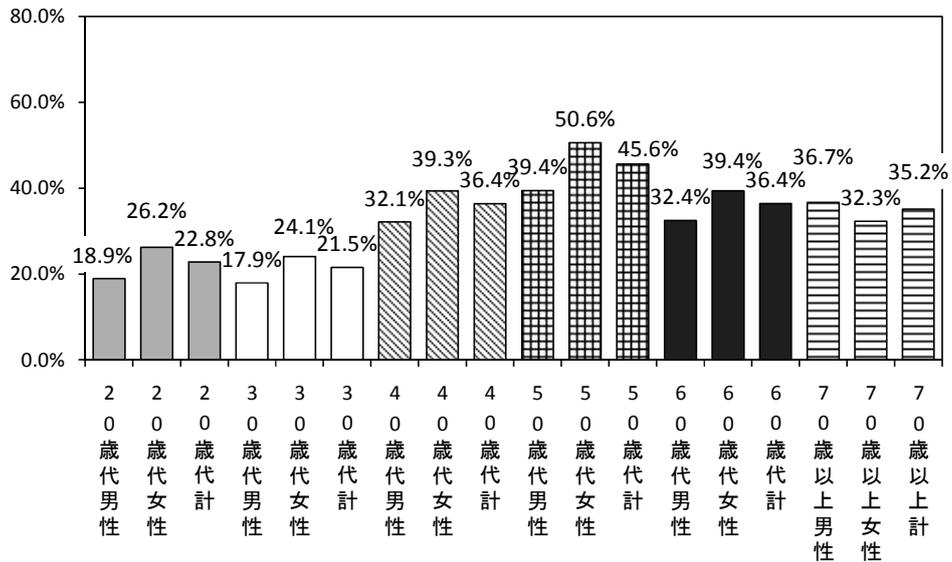
60歳代

70歳以上

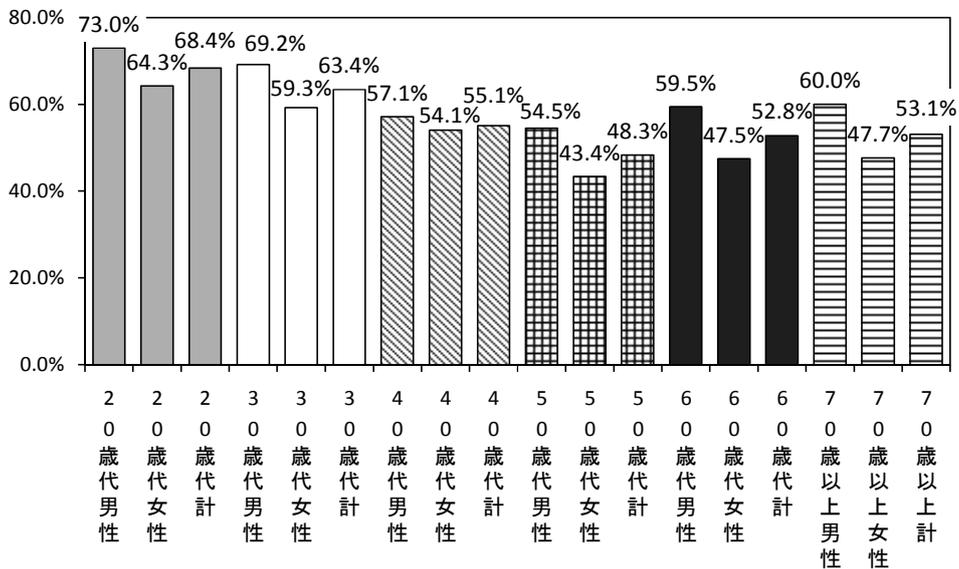


【選択肢・年代男女別】

1. 結婚



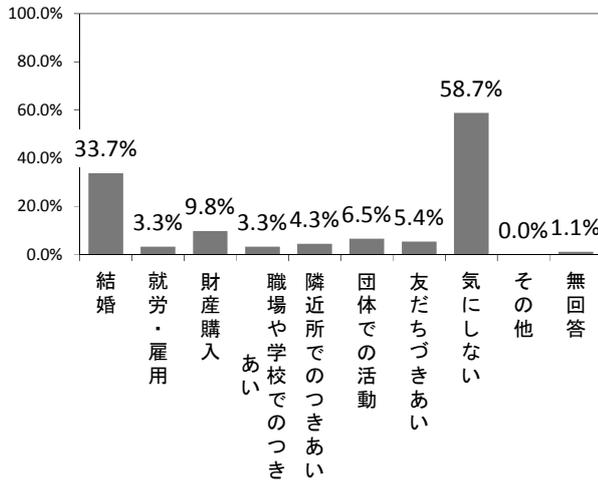
8. 気に入らない



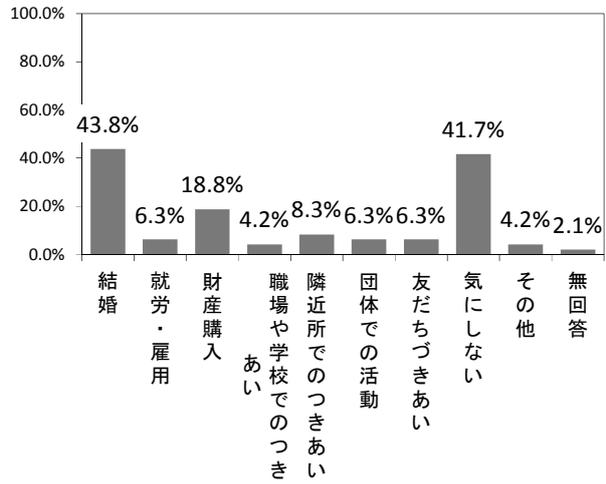
【職業別】

質問13 職業別	1. 結婚		2. 就 労・雇用		3. 財産 購入		4. 職場 や学校で のつきあ い		5. 隣近 所でのつ きあい		6. 団体 での活動		7. 友だ ちづきあ い		8. 気に しない		9. その他		無回答		回答 者数
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
農林漁業者	31	33.7	3	3.3	9	9.8	3	3.3	4	4.3	6	6.5	5	5.4	54	58.7	0	0.0	1	1.1	92
自営業者	21	43.8	3	6.3	9	18.8	2	4.2	4	8.3	3	6.3	3	6.3	20	41.7	2	4.2	1	2.1	48
企業・団体職員	68	38.2	7	3.9	22	12.4	5	2.8	5	2.8	7	3.9	3	1.7	92	51.7	8	4.5	2	1.1	178
保育士・教員	2	10.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	14	70.0	2	10.0	2	10.0	20
医療・福祉等関係者	20	41.7	2	4.2	6	12.5	4	8.3	2	4.2	3	6.3	1	2.1	24	50.0	4	8.3	0	0.0	48
公務員	5	22.7	1	4.5	3	13.6	1	4.5	1	4.5	2	9.1	2	9.1	15	68.2	0	0.0	0	0.0	22
家事従事者	28	37.3	1	1.3	7	9.3	2	2.7	2	2.7	1	1.3	5	6.7	38	50.7	2	2.7	3	4.0	75
パート・アルバイト等	24	28.9	5	6.0	11	13.3	3	3.6	5	6.0	5	6.0	2	2.4	50	60.2	2	2.4	2	2.4	83
学生	3	12.5	2	8.3	1	4.2	0	0.0	2	8.3	2	8.3	0	0.0	20	83.3	0	0.0	1	4.2	24
無職	50	37.3	5	3.7	18	13.4	2	1.5	7	5.2	2	1.5	3	2.2	74	55.2	3	2.2	5	3.7	134
その他	4	28.6	1	7.1	2	14.3	2	14.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	8	57.1	1	7.1	1	7.1	14
無回答	4	25.0	2	12.5	1	6.3	1	6.3	3	18.8	2	12.5	1	6.3	7	43.8	0	0.0	2	12.5	16
全体	260	34.5	32	4.2	89	11.8	25	3.3	35	4.6	33	4.4	25	3.3	416	55.2	24	3.2	20	2.7	754

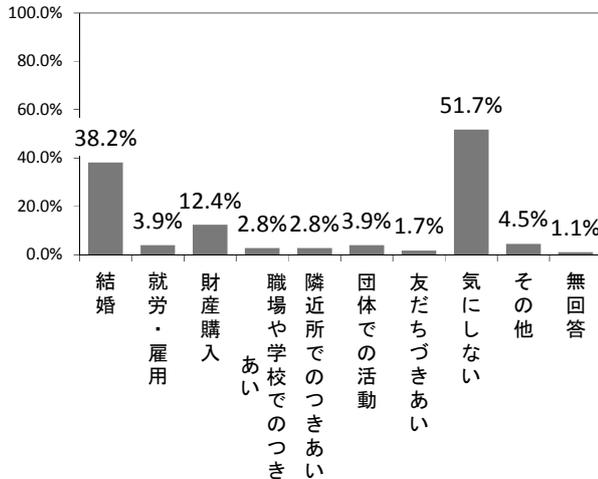
農林漁業者



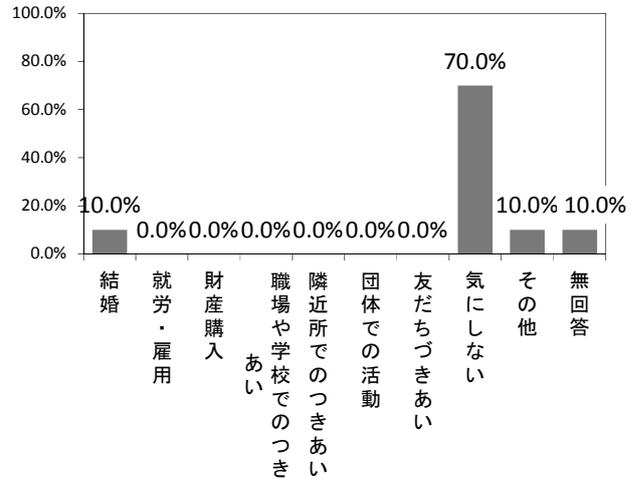
自営業者



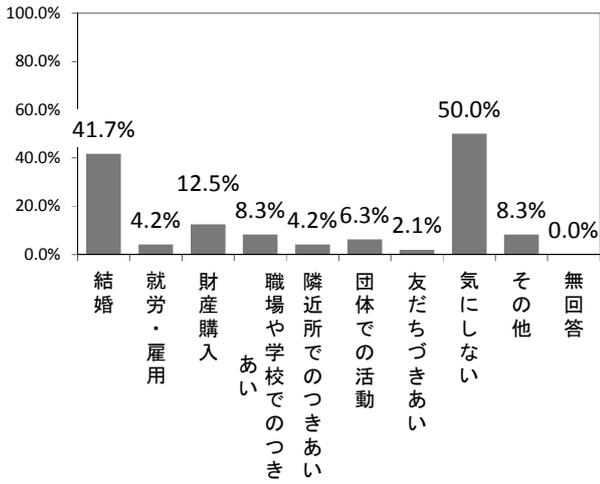
企業・団体職員



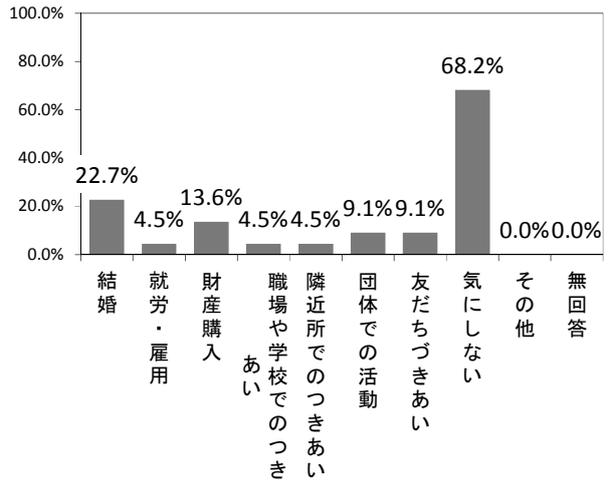
保育士・教員



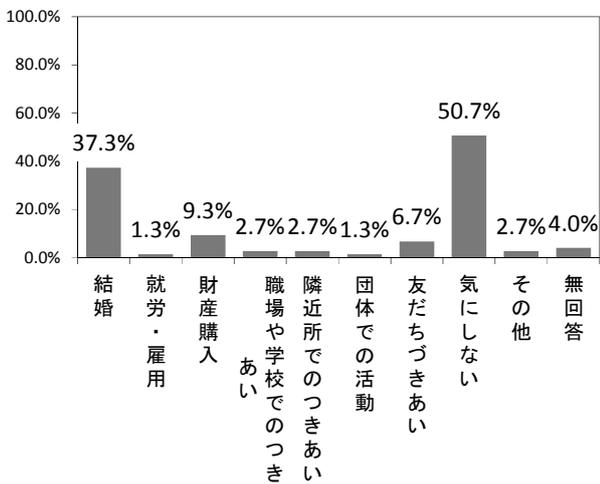
医療・福祉等関係者



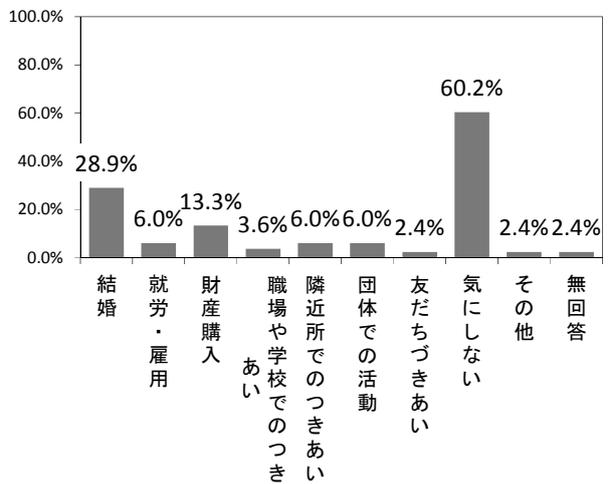
公務員



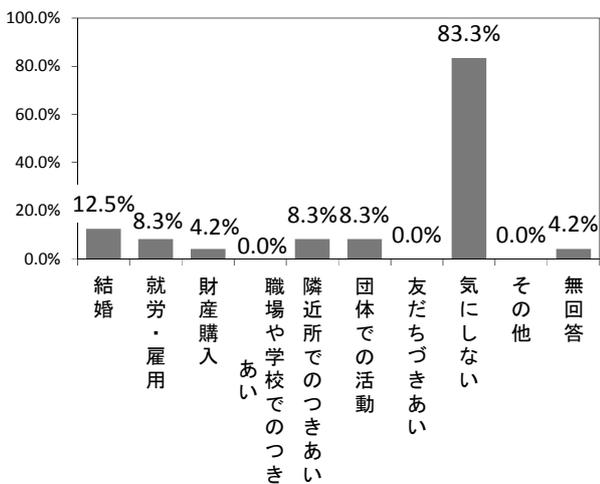
家事従事者



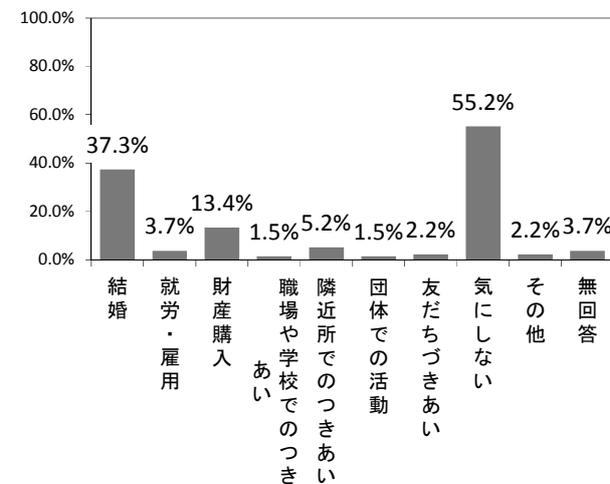
パート・アルバイト等



学生



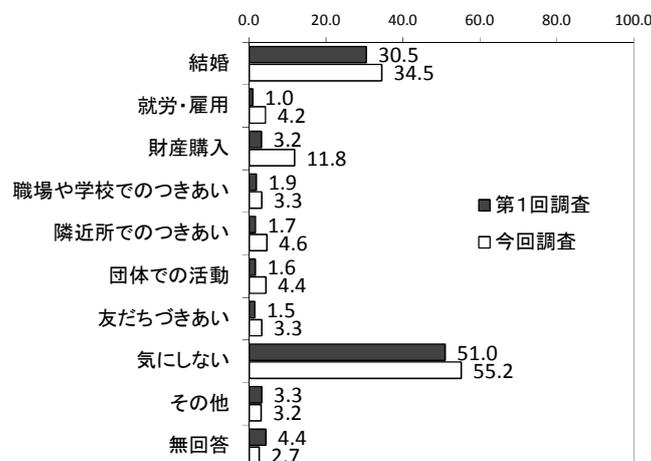
無職



- 全体では、「気にしない」55.2%が最も高く、「結婚」34.5%、「財産購入」11.8%が続く。「結婚」と「財産購入」は22.7ポイントの差がある。それ以外はいずれも5%以下である。
- 年代では、「結婚」は50歳代45.6%が最も高く、40歳代、60歳代、70歳以上は、50歳代より10ポイント程度低い。最も低いのは30歳代21.5%で、50歳代と24.1ポイントの差がある。また、「気にしない」は20歳代68.4%が最も高く、最も低い50歳代と20.1ポイントの差がある。それ以外は、年代による大きな差はみられない。
- 男女別ではあまり大きな差はないが、「気にしない」は男性の方が9.7ポイント、「結婚」は女性の方が5.7ポイント高い。
- 年代男女別では、次のような傾向、特徴がみられる。
 - ・ 「結婚」は、70歳以上以外は女性の方が高い。年代男女中最も高いのは50歳代女性50.6%で、同男性と11.2ポイントの差、最も低い30歳代男性とは32.7ポイントの差がある。
 - ・ 「気にしない」はどの年代も男性の方が高い。年代男女中最も低いのは50歳代女性43.4%で、同男性と11.1ポイントの差、最も高い20歳代男性とは29.6ポイントの差がある。また、60歳代と70歳以上も、それぞれ男女で12ポイント程度の差がある。
 - ・ 30歳代女性は「財産購入」が22.2%で他の年代男女より高く、同男性と17.1ポイントの差がある。
- 職業等では、次のような傾向、特徴がみられる。
 - ・ 「結婚」は自営業者42.6%、医療・福祉等関係者41.7%が高い。企業・団体職員、無職、家事従事者も4割近い。最も低いのは保育士・教員の10.0%で、自営業者と32.6ポイントの差がある。
 - ・ 「気にしない」は学生の83.3%が最も高い。保育士・教員70.0%、公務員68.2%が続く。最も低いのは自営業者42.6%で、学生と40.7ポイントの差がある。
 - ・ 保育士・教員は、「就労・雇用」、「財産購入」、「職場や学校でのつきあい」、「隣近所でのつきあい」、「団体での活動」、「友だちづきあい」が0.0%である。

<参考>※前回調査との比較

	1. 結婚	2. 就労・雇用	3. 財産購入	4. 職場や学校でのつきあい	5. 隣近所でのつきあい	6. 団体での活動	7. 友だちづきあい	8. 気にしない	9. その他	無回答
第1回調査	30.5	1.0	3.2	1.9	1.7	1.6	1.5	51.0	3.3	4.4
今回調査	34.5	4.2	11.8	3.3	4.6	4.4	3.3	55.2	3.2	2.7



前回調査では回答は1つだったが、今回同様「気にしない」が51.0%で最も高く、今回と4.2ポイント差である。また、次に高い「結婚」も30.5%で、今回と4.0ポイントの差である。それ以外の選択肢も、「財産購入」のみ8.6ポイント上回ったが、他は大きな差はない。

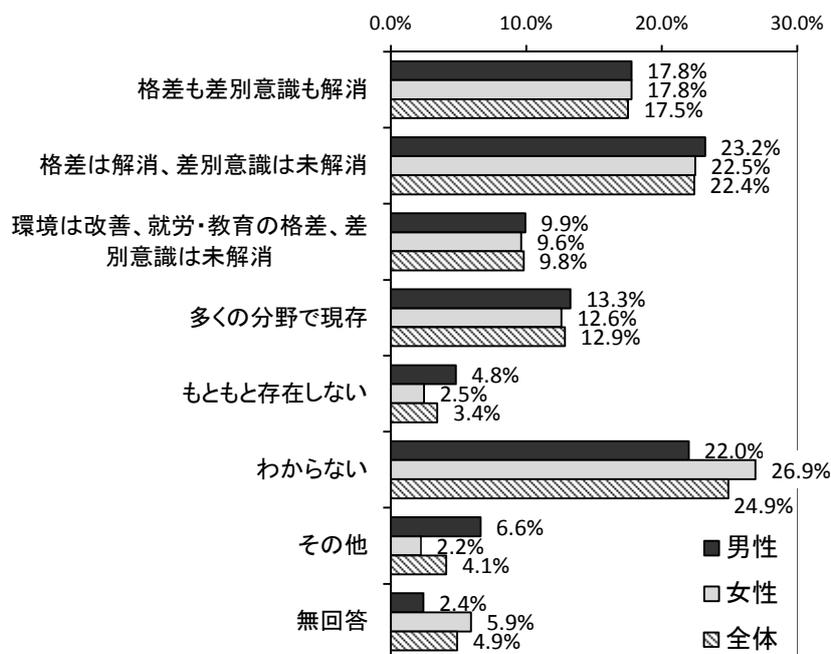
質問14 部落差別の現状についてあなたはどのように考えていますか。(○は1つ)

A：被差別部落の生活環境
 B：就労面や教育面
 C：被差別部落の人々に対する差別意識

- 1 A・Bの格差もCも解消されている
- 2 A・Bの格差は解消されたが、Cは解消されていない
- 3 Aはおおむね改善されたが、Bの格差やCは解消されていない
- 4 多くの分野で格差や差別意識が現存している
- 5 もともと格差や差別は存在しない
- 6 わからない
- 7 その他

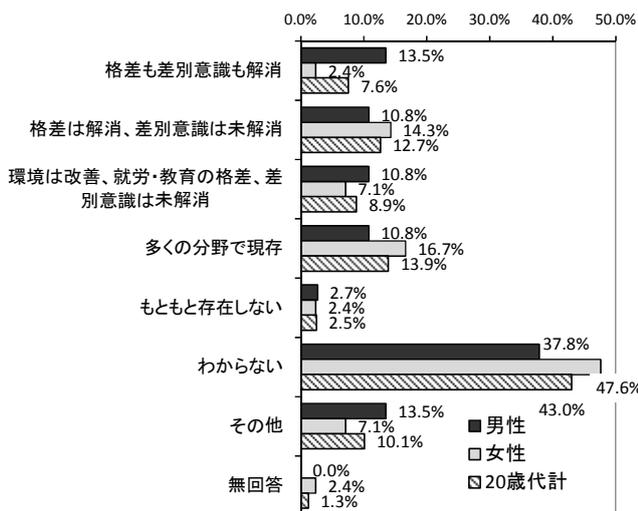
質問14		1. 格差も差別意識も解消		2. 格差は解消、差別意識は未解消		3. 環境は改善、就労・教育の格差、差別意識は未解消		4. 多くの分野で現存		5. もともと存在しない		6. わからない		7. その他		無回答		全体
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
20歳代	男性	5	13.5	4	10.8	4	10.8	4	10.8	1	2.7	14	37.8	5	13.5	0	0.0	37
	女性	1	2.4	6	14.3	3	7.1	7	16.7	1	2.4	20	47.6	3	7.1	1	2.4	42
	計	6	7.6	10	12.7	7	8.9	11	13.9	2	2.5	34	43.0	8	10.1	1	1.3	79
30歳代	男性	2	5.1	11	28.2	3	7.7	2	5.1	2	5.1	14	35.9	5	12.8	0	0.0	39
	女性	7	13.0	15	27.8	3	5.6	8	14.8	1	1.9	19	35.2	1	1.9	0	0.0	54
	計	9	9.7	26	28.0	6	6.5	10	10.8	3	3.2	33	35.5	6	6.5	0	0.0	93
40歳代	男性	7	12.5	16	28.6	2	3.6	9	16.1	2	3.6	16	28.6	3	5.4	1	1.8	56
	女性	13	21.3	15	24.6	10	16.4	6	9.8	1	1.6	15	24.6	0	0.0	1	1.6	61
	無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1
計	20	16.9	31	26.3	12	10.2	16	13.6	3	2.5	31	26.3	3	2.5	2	1.7	118	
50歳代	男性	10	15.2	19	28.8	8	12.1	9	13.6	0	0.0	14	21.2	4	6.1	2	3.0	66
	女性	15	18.1	27	32.5	8	9.6	15	18.1	0	0.0	11	13.3	1	1.2	6	7.2	83
	計	25	16.8	46	30.9	16	10.7	24	16.1	0	0.0	25	16.8	5	3.4	8	5.4	149
60歳代	男性	17	23.0	17	23.0	8	10.8	11	14.9	7	9.5	7	9.5	5	6.8	2	2.7	74
	女性	25	25.3	22	22.2	8	8.1	11	11.1	6	6.1	21	21.2	2	2.0	4	4.0	99
	無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	66.7	0	0.0	1	33.3	3
計	42	23.9	39	22.2	16	9.1	22	12.5	13	7.4	30	17.0	7	4.0	7	4.0	176	
70歳以上	男性	18	30.0	10	16.7	8	13.3	9	15.0	4	6.7	8	13.3	0	0.0	3	5.0	60
	女性	11	16.9	6	9.2	7	10.8	4	6.2	1	1.5	22	33.8	2	3.1	12	18.5	65
	無回答	0	0.0	0	0.0	1	33.3	1	33.3	0	0.0	1	33.3	0	0.0	0	0.0	3
計	29	22.7	16	12.5	16	12.5	14	10.9	5	3.9	31	24.2	2	1.6	15	11.7	128	
無回答	女性	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	1
	無回答	1	10.0	1	10.0	1	10.0	0	0.0	0	0.0	3	30.0	0	0.0	4	40.0	10
	計	1	9.1	1	9.1	1	9.1	0	0.0	0	0.0	4	36.4	0	0.0	4	36.4	11
全体	男性	59	17.8	77	23.2	33	9.9	44	13.3	16	4.8	73	22.0	22	6.6	8	2.4	332
	女性	72	17.8	91	22.5	39	9.6	51	12.6	10	2.5	109	26.9	9	2.2	24	5.9	405
	無回答	1	5.9	1	5.9	2	11.8	2	11.8	0	0.0	6	35.3	0	0.0	5	29.4	17
計	132	17.5	169	22.4	74	9.8	97	12.9	26	3.4	188	24.9	31	4.1	37	4.9	754	

【全体男女別】

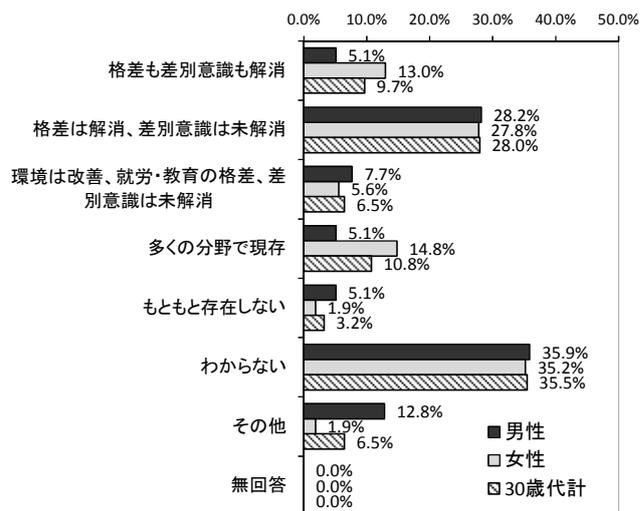


【年代男女別】

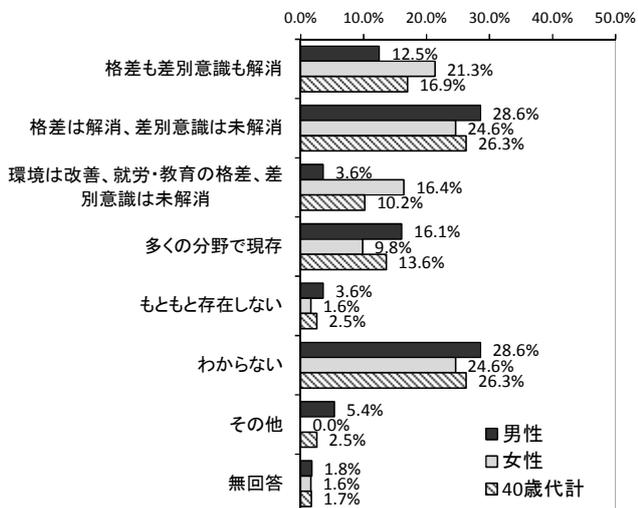
20歳代



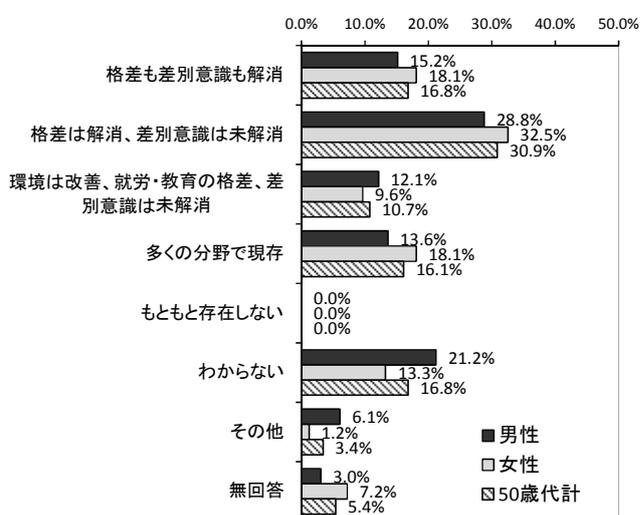
30歳代



40歳代

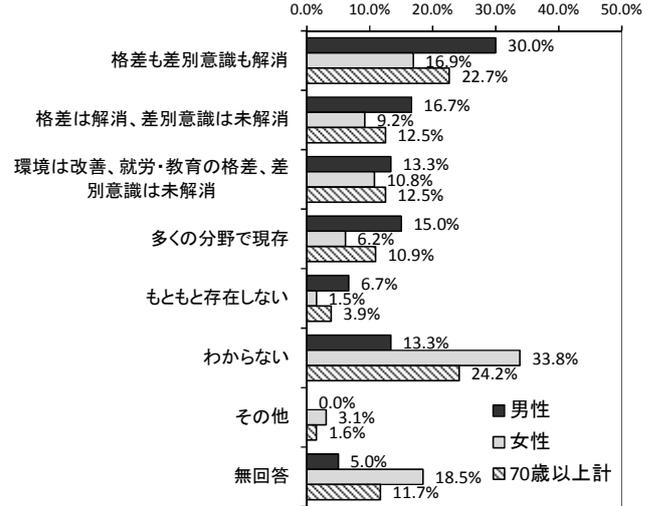
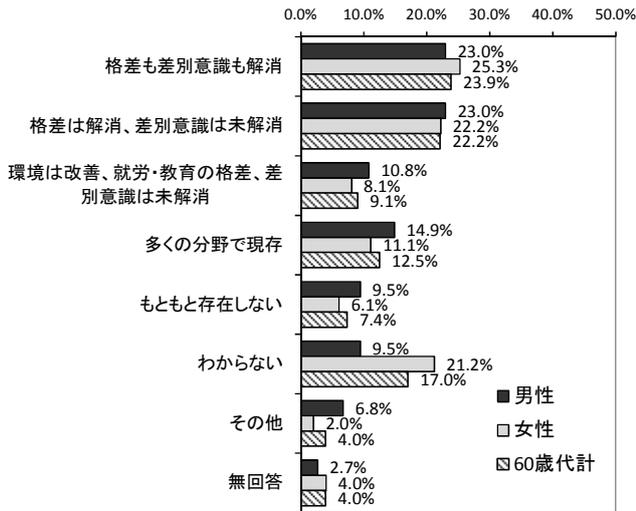


50歳代



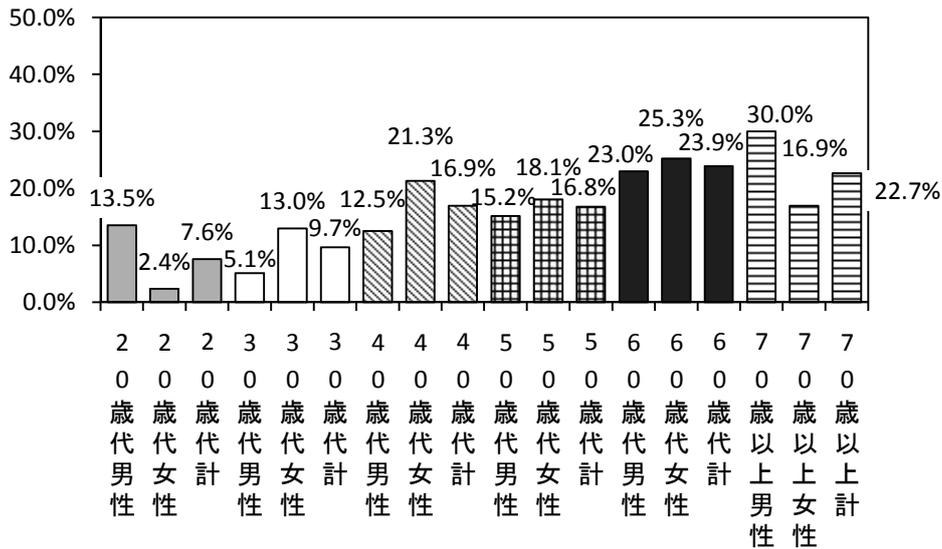
60歳代

70歳以上

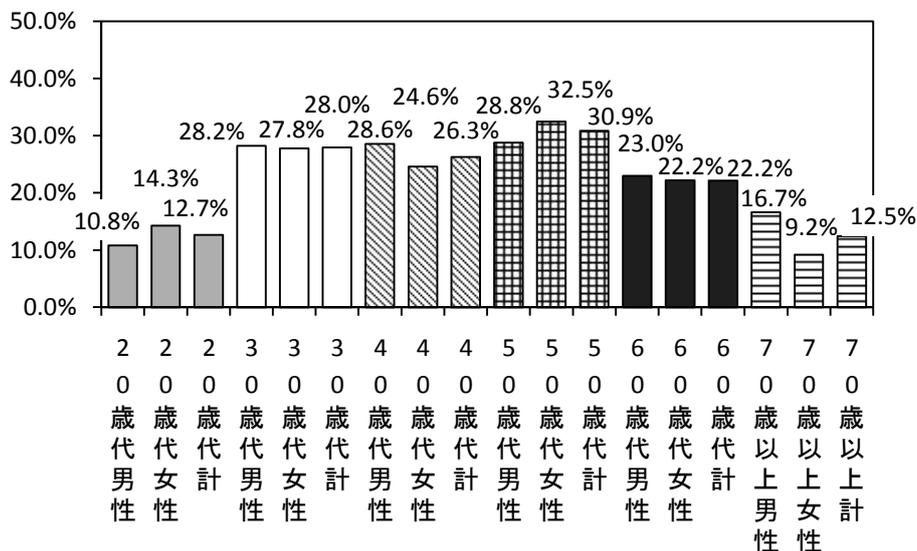


【選択肢・年代男女別】

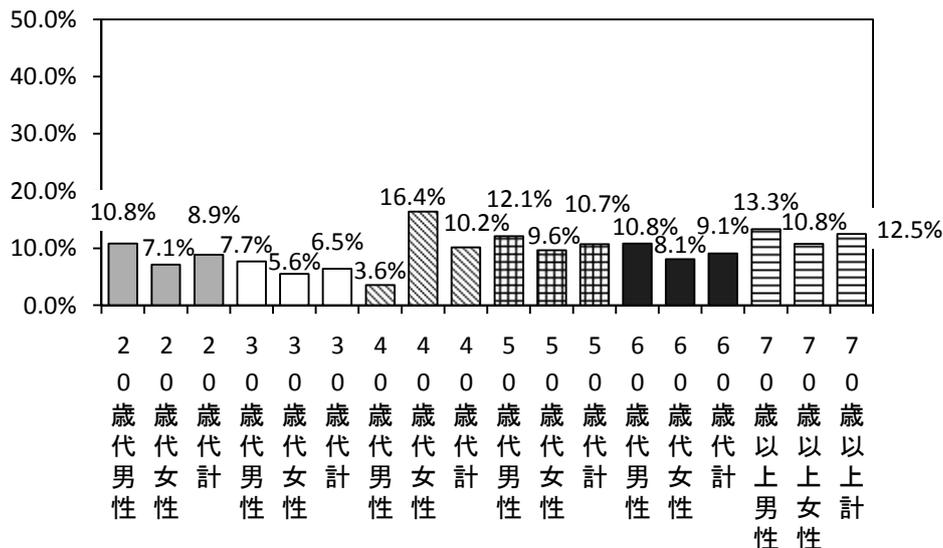
1. 格差も差別意識も解消



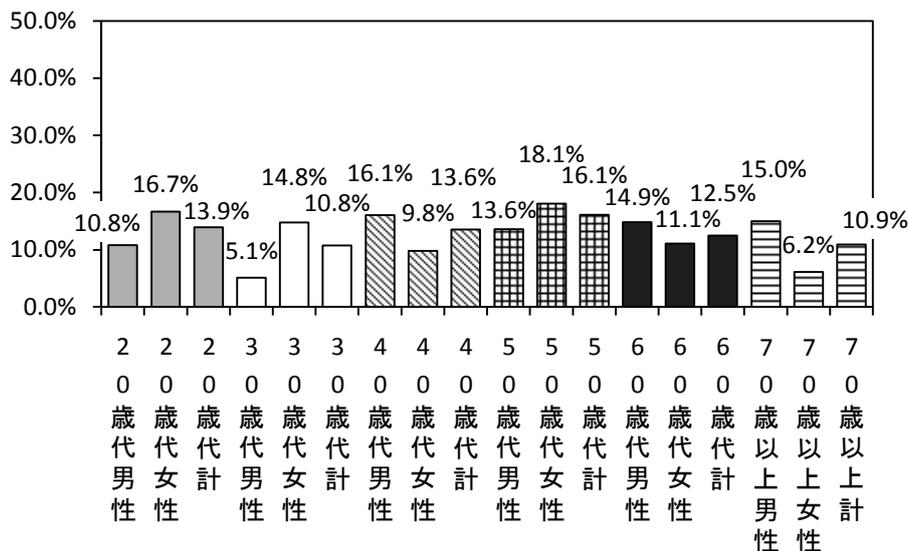
2. 格差は解消、差別意識は未解消



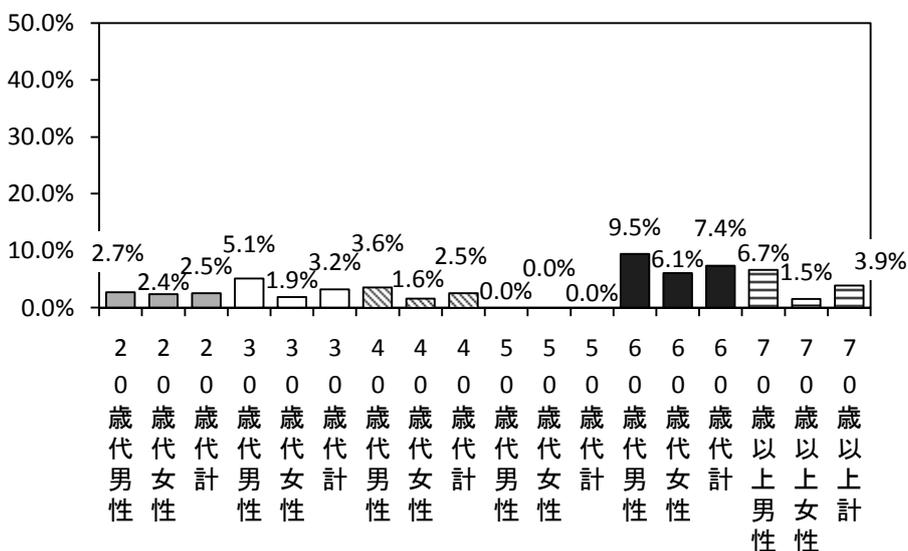
3. 環境は改善、就労・教育の格差、差別意識は未解消



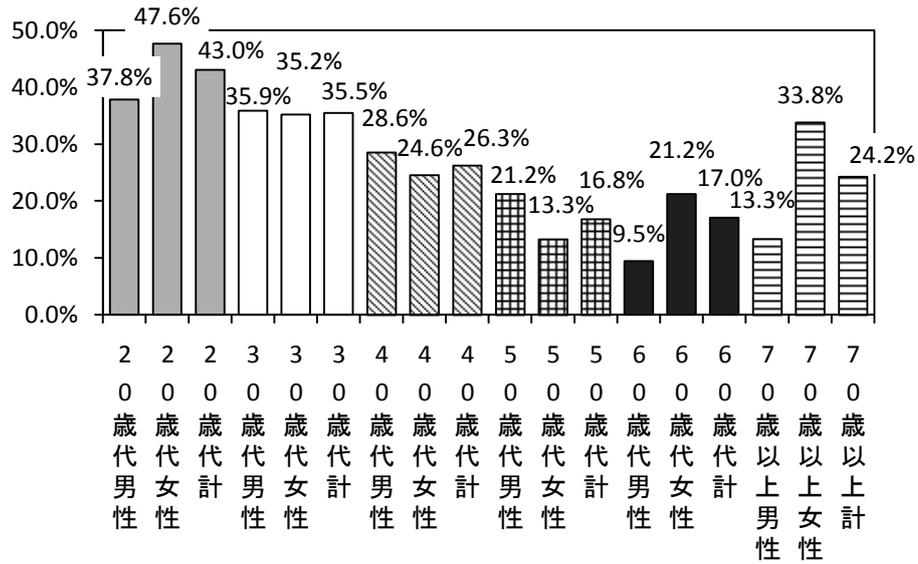
4. 多くの分野で現存



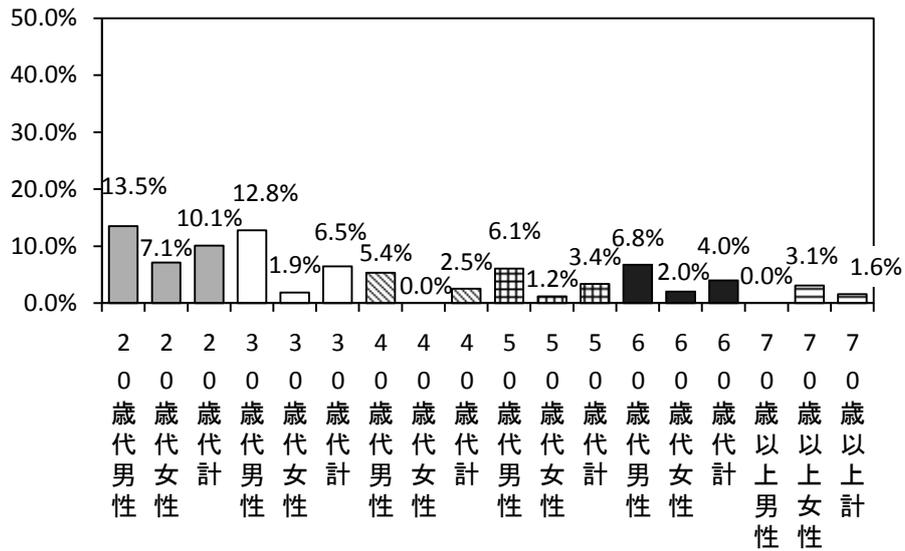
5. もともと存在しない



6. わからない



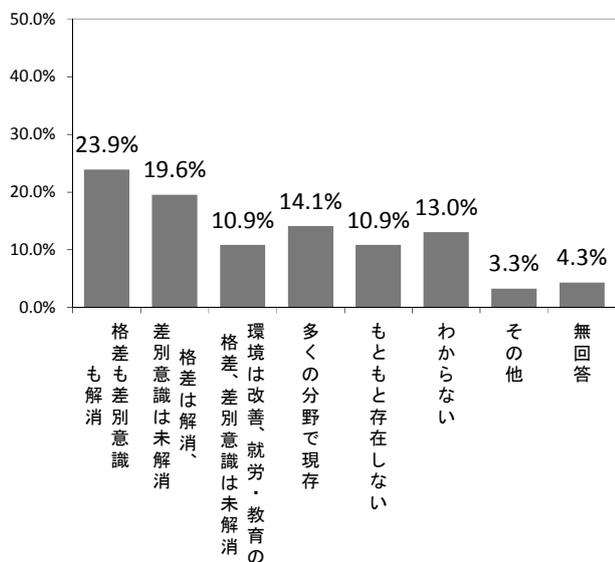
7. その他



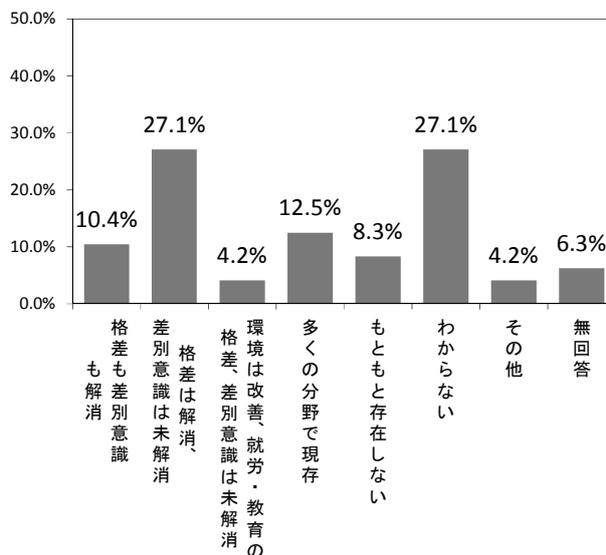
【職業別】

質問 1 4 職業別	1. 格差も差別意識も解消		2. 格差は解消、差別意識は未解消		3. 環境は改善、就労・教育の格差、差別意識は未解消		4. 多くの分野で現存		5. もともと存在しない		6. わからない		7. その他		無回答		全体
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
農林漁業者	22	23.9	18	19.6	10	10.9	13	14.1	10	10.9	12	13.0	3	3.3	4	0.0	92
自営業者	5	10.4	13	27.1	2	4.2	6	12.5	4	8.3	13	27.1	2	4.2	3	0.1	48
企業・団体職員	30	16.9	48	27.0	12	6.7	24	13.5	1	0.6	52	29.2	9	5.1	2	0.0	178
保育士・教員	0	0.0	4	20.0	7	35.0	6	30.0	0	0.0	2	10.0	0	0.0	1	0.1	20
医療・福祉等関係者	8	16.7	14	29.2	6	12.5	7	14.6	1	2.1	8	16.7	2	4.2	2	0.0	48
公務員	3	13.6	8	36.4	3	13.6	5	22.7	0	0.0	3	13.6	0	0.0	0	0.0	22
家事従事者	14	18.7	20	26.7	7	9.3	10	13.3	2	2.7	16	21.3	2	2.7	4	0.1	75
パート・アルバイト等	14	16.9	20	24.1	5	6.0	10	12.0	3	3.6	25	30.1	4	4.8	2	0.0	83
学生	0	0.0	3	12.5	3	12.5	1	4.2	2	8.3	11	45.8	4	16.7	0	0.0	24
無職	33	24.6	19	14.2	15	11.2	15	11.2	2	1.5	37	27.6	2	1.5	11	0.1	134
その他	1	7.1	1	7.1	3	21.4	0	0.0	1	7.1	4	28.6	2	14.3	2	0.1	14
無回答	2	12.5	1	6.3	1	6.3	0	0.0	0	0.0	5	31.3	1	6.3	6	0.4	16
全体	132	17.5	169	22.4	74	9.8	97	12.9	26	3.4	188	24.9	31	4.1	37	0.0	754

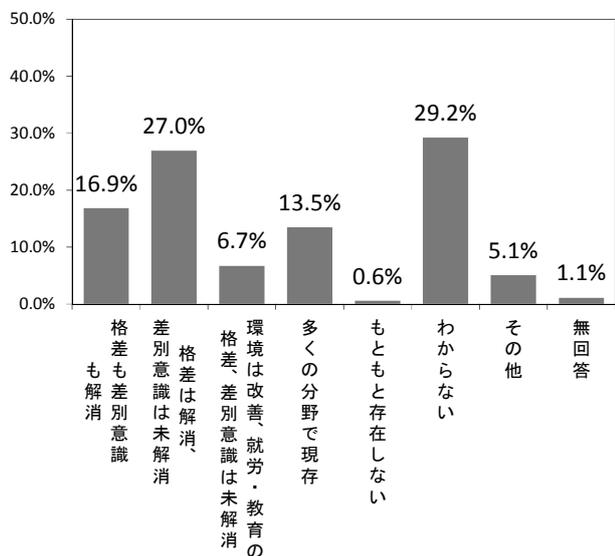
農林漁業者



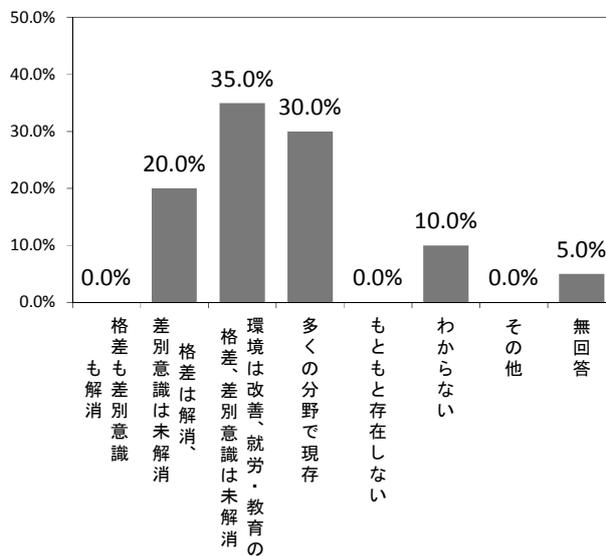
自営業者



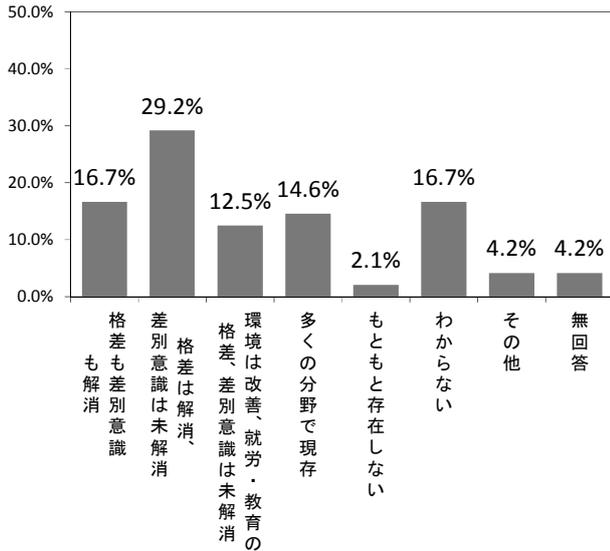
企業・団体職員



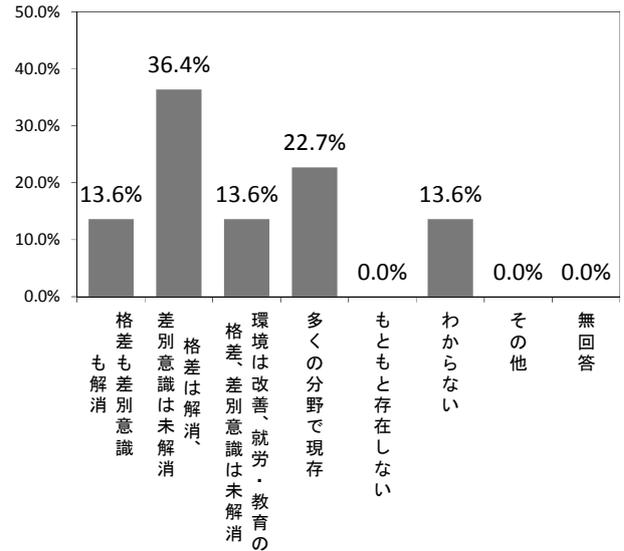
保育士・教員



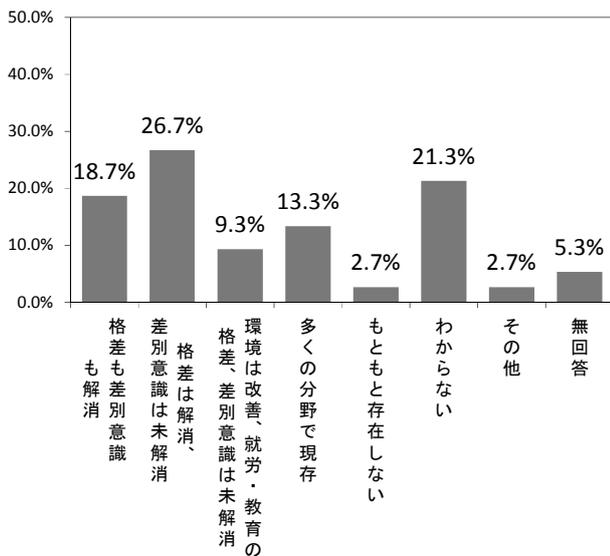
医療・福祉等関係者



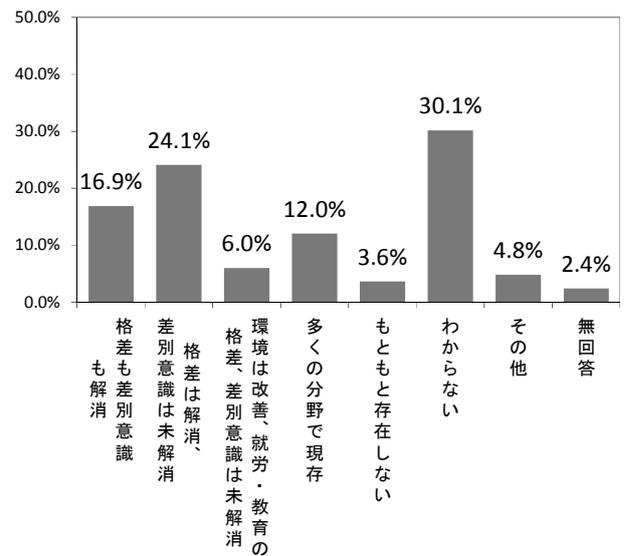
公務員



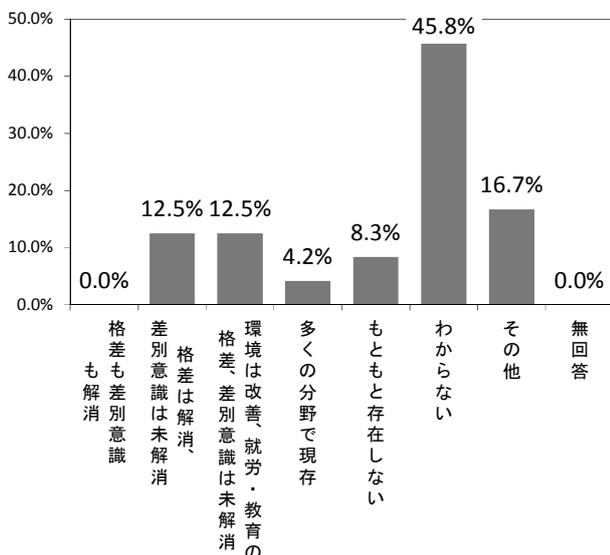
家事従事者



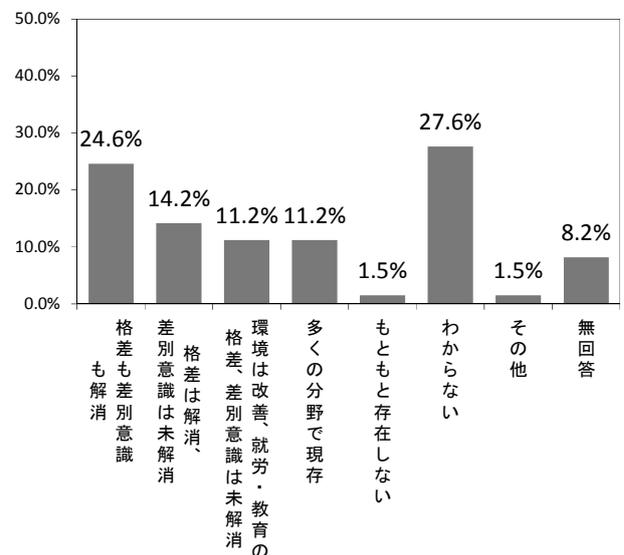
パート・アルバイト等



学生

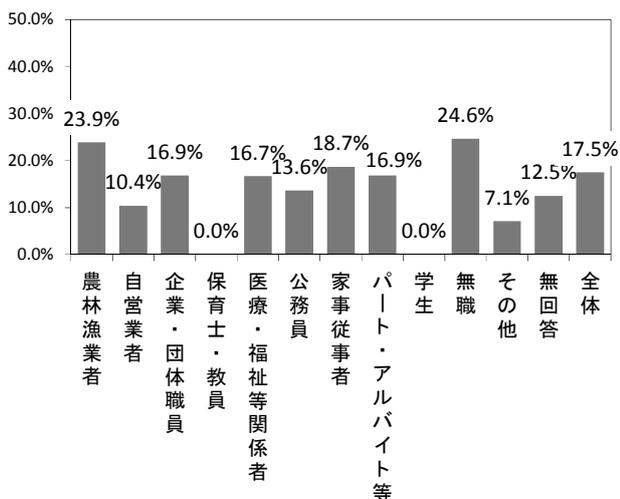


無職

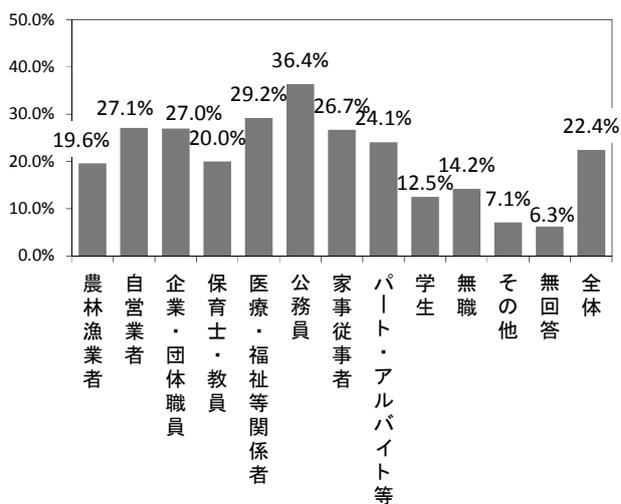


【選択肢別・職業】

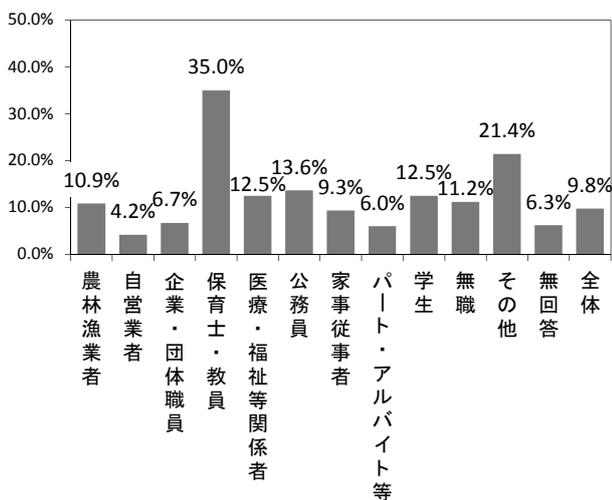
1. 格差も差別意識も解消



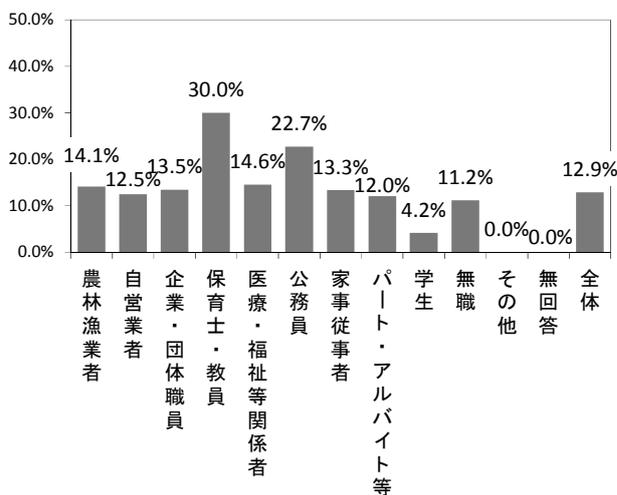
2. 格差は解消、差別意識は未解消



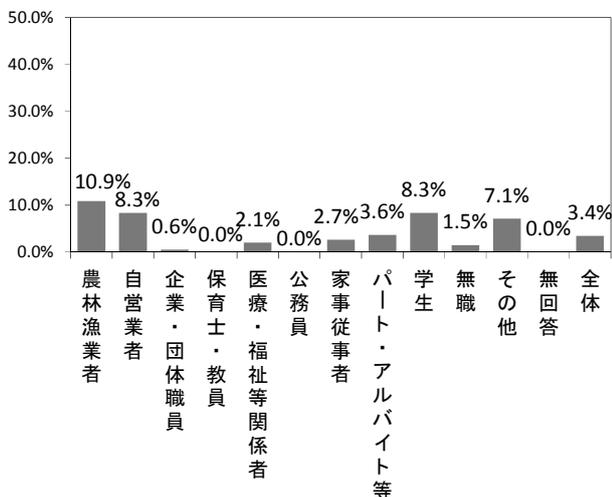
3. 環境は改善、就労・教育の格差、差別意識は未解消



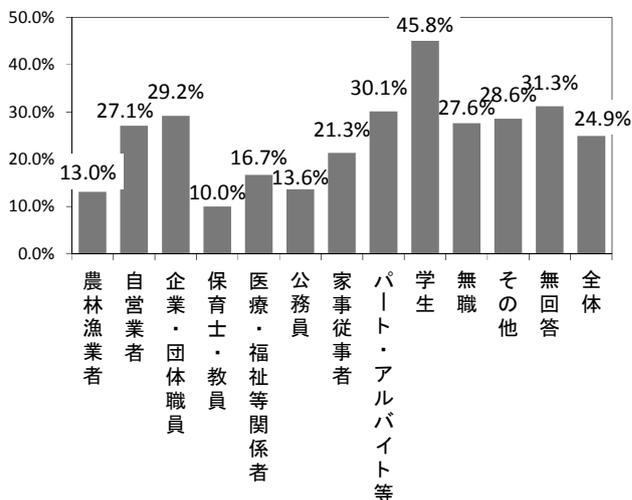
4. 多くの分野で現存



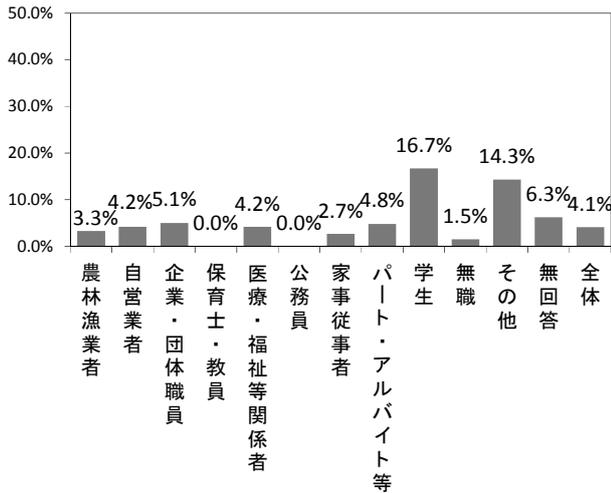
5. もともと存在しない



6. わからない



7. その他



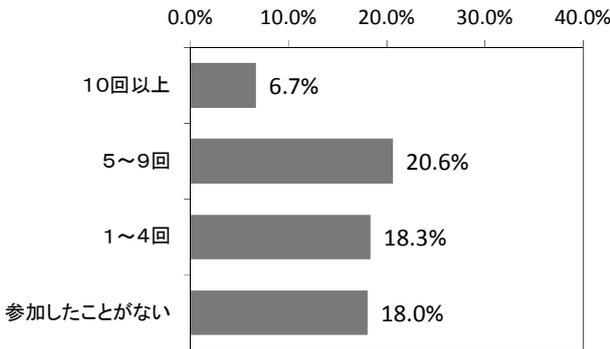
- 全体では、「わからない」24.9%が最も高く、「格差は解消、差別意識は未解消」22.4%、「格差も差別意識も解消」17.5%、「多くの分野で現存」12.9%、「環境は改善、就労・教育の格差、差別意識は未解消」9.8%、「無回答」4.9%、「その他」4.1%、「もともと存在しない」3.4%の順である。
- 年代では、次のような傾向、特徴がみられる。
 - ・ 20歳代は「わからない」43.0%が最も高い。
 - ・ 30歳代は「わからない」35.5%が最も高いが、20歳代と比べ「格差は解消、差別意識は未解消」が15.3ポイント高くなる。また、「環境は改善、就労・教育の格差、差別意識は未解消」、「多くの分野で現存」は、年代中最も低い。
 - ・ 40歳代は「わからない」と「格差は解消、差別意識は未解消」がいずれも26.3%で最も高い。20歳代、30歳代より「格差も差別意識も解消」が7.2～9.3ポイント高くなる。
 - ・ 50歳代は「格差は解消、差別意識は未解消」30.9%が最も高く、「格差も差別意識も解消」、「わからない」、「多くの分野で現存」がほぼ同率で続く。「もともと存在しない」は50歳代のみが0.0%である。
 - ・ 60歳代は「格差も差別意識も解消」23.9%が最も高く、「格差は解消、差別意識は未解消」が同程度で続く。「もともと存在しない」が7.4%で、他の年代より高い。
 - ・ 70歳以上は「わからない」が24.2%で最も高く、「格差も差別意識も解消」が同程度で続く。
 - ・ 「格差も差別意識も解消」は、20歳代と30歳代、40歳代と50歳代、60歳代と70歳以上がそれぞれ同程度。最も高いのは60歳代23.9%で、最も低い20歳代7.6%と16.3ポイントの差がある。
 - ・ 「格差は解消、差別意識は未解消」は、50歳代30.9%が最も高く、30歳代、40歳代、60歳代が20%台で続く。20歳代と70歳以上が同程度で、最も低い70歳以上12.5%と最も高い50歳代で18.4ポイントの差がある。
 - ・ 「環境は改善、就労・教育の格差、差別意識は未解消」と「多くの分野で現存」は、年代による大きな差はない。
 - ・ 「わからない」は20歳代43.0%が最も高く、最も低い50歳代16.8%と26.2ポイントの差がある。
- 年代男女別では、次のような傾向、特徴がみられる。
 - ・ 20歳代～40歳代の男女は「格差も差別意識も解消」で差がある。20歳代は男性の方が11.1ポイント、30歳代は女性の方が7.9ポイント、40歳代は女性の方が8.8ポイント高い。また、20歳代は「わからない」で9.8ポイント、30歳代は「多くの分野で現存」で9.7ポイント、40歳代は「環境は改善、就労・教育の格差、差別意識は未解消」で12.8ポイント、いずれも女性の方が高い。

- ・ 50歳代と60歳代の男女は「わからない」で差がある。50歳代は男性の方が7.9ポイント、60歳代は女性の方が11.7ポイント高い。
 - ・ 70歳以上は男女でいくつか差がある。「格差も差別意識も解消」は13.1ポイント、「格差は解消、差別意識は未解消」は7.5ポイント、「多くの分野で現存」は8.8ポイント、いずれも男性の方が高い。「わからない」は20.5ポイント、「無回答」は13.5ポイント、女性の方が高い。女性は「無回答」が18.5%で他の年代より高く、「わからない」を合わせると52.3%になる。
 - ・ 「格差も差別意識も解消」は、70歳以上男性30.0%が最も高く、最も低い20歳代女性2.4%と27.6ポイントの差がある。
 - ・ 「格差は解消、差別意識は未解消」は、50歳代女性32.5%が最も高く、最も低い70歳以上女性9.2%と23.3ポイントの差がある。
 - ・ 「環境は改善、就労・教育の格差、差別意識は未解消」は、40歳代女性16.4%が最も高く、最も低い40歳代男性3.6%と12.8ポイントの差がある。
 - ・ 「多くの分野で現存」は、50歳代女性18.1%が最も高く、最も低い30歳代男性5.1%と13.0ポイントの差がある。
 - ・ 「もともと存在しない」は、60歳代男性9.5%が最も高く、最も低いのは50歳代男女の0.0%。
 - ・ 「わからない」は、20歳代女性47.6%が最も高く、最も低い60歳代男性9.5%と38.1ポイントの差がある。
 - ・ 「その他」は、20歳代と30歳代の男性が他の年代男女より少し高い。
- 職業等では、次のような傾向、特徴がみられる。
- ・ 公務員、医療・福祉等関係者、自営業者、家事従事者は「格差は解消、差別意識は未解消」が高い。特に、公務員は36.4%で職業等の中で最も高い。自営業者は「わからない」も同率で高い。
 - ・ 学生、パート・アルバイト等、企業・団体職員、無職は「わからない」が高い。特に、学生は45.8%で職業等の中で最も高い。学生は「その他」も16.7%で他の職業等より高い。
 - ・ 農林漁業者は「格差も差別意識も解消」が最も高い。また、「もともと存在しない」が10.9%で他の職業等より高い。「格差も差別意識も解消」は、無職の24.6%が職業等の中で最も高い。
 - ・ 保育士・教員は「環境は改善、就労・教育の格差、差別意識は未解消」35.0%が最も高く、他の職業等と大きな差がある。「多くの分野で現存」も30.0%で他の職業等より高い。「格差も差別意識も解消」、「もともと存在しない」は0.0%である。

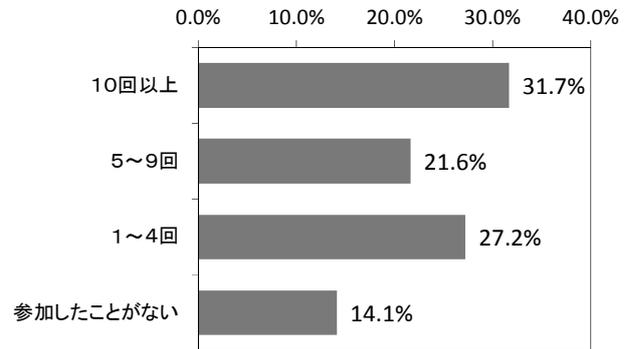
【質問14（部落差別の現状について）と質問6-1（研修等への参加回数）の関連】

質問14 \ 質問6-1	1. 格差も差別意識も解消		2. 格差は解消、差別意識は未解消		3. 環境は改善、就労・教育の格差、差別意識は未解消		4. 多くの分野で現存		5. もともと存在しない		6. わからない		7. その他		無回答		全体
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
1. 10回以上	4	6.7	19	31.7	13	21.7	13	21.7	2	3.3	7	11.7	2	3.3	0	0.0	60
2. 5～9回	20	20.6	21	21.6	16	16.5	18	18.6	2	2.1	12	12.4	3	3.1	5	5.2	97
3. 1～4回	62	18.3	92	27.2	35	10.4	44	13.0	11	3.3	70	20.7	8	2.4	16	4.7	338
4. 参加したことがない	46	18.0	36	14.1	10	3.9	22	8.6	10	3.9	98	38.4	18	7.1	15	5.9	255
無回答	0	0.0	1	25.0	0	0.0	0	0.0	1	25.0	1	25.0	0	0.0	1	25.0	4

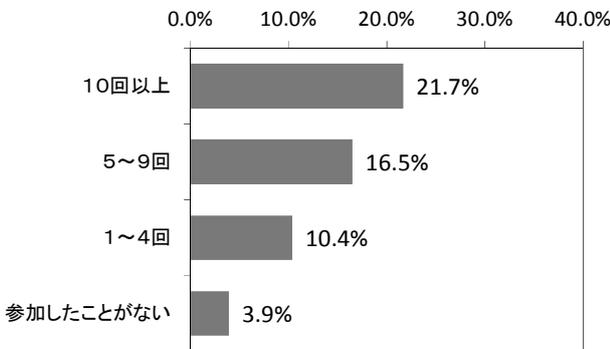
1. 格差も差別意識も解消



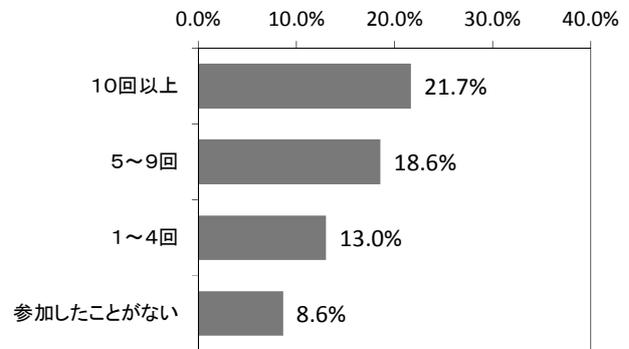
2. 格差は解消、差別意識は未解消



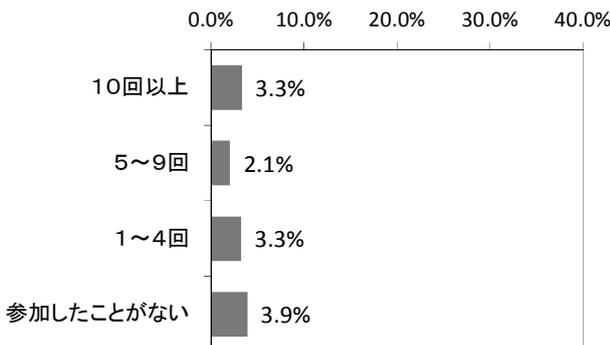
3. 環境は改善、就労・教育の格差、差別意識は未解消



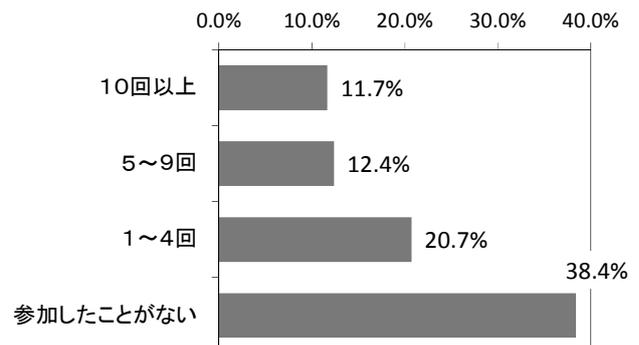
4. 多くの分野で現存



5. もともと存在しない



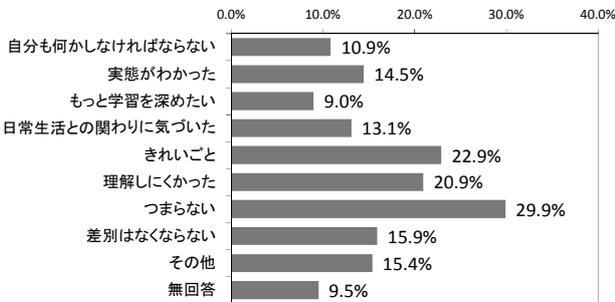
6. わからない



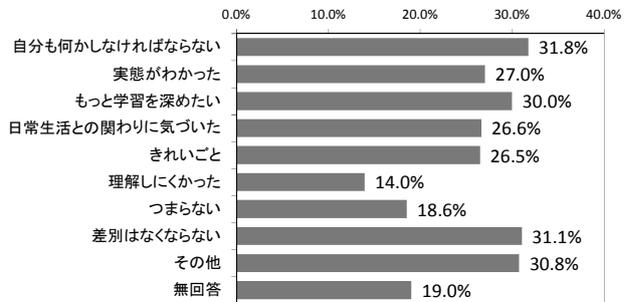
【質問14（部落差別の現状について）と質問6-4（研修等へ参加した感想）の関連】

質問14 \ 質問6-4	1. 格差も差別意識も解消		2. 格差は解消、差別意識は未解消		3. 環境は改善、就労・教育の格差、差別意識は未解消		4. 多くの分野で現存		5. もともと存在しない		6. わからない		7. その他		無回答		回答者数
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
1. 自分も何かしなければならぬ	14	10.9	41	31.8	26	20.2	25	19.4	3	2.3	11	8.5	3	2.3	6	4.7	129
2. 実態がわかった	23	14.5	43	27.0	32	20.1	27	17.0	3	1.9	23	14.5	2	1.3	6	3.8	159
3. もっと学習を深めたい	9	9.0	30	30.0	18	18.0	27	27.0	2	2.0	6	6.0	1	1.0	7	7.0	100
4. 日常生活との関わりに気づいた	30	13.1	61	26.6	37	16.2	43	18.8	2	0.9	42	18.3	7	3.1	7	3.1	229
5. きれいごと	19	22.9	22	26.5	7	8.4	13	15.7	1	1.2	12	14.5	3	3.6	6	7.2	83
6. 理解しにくかった	9	20.9	6	14.0	6	14.0	7	16.3	2	4.7	10	23.3	2	4.7	1	2.3	43
7. つまらない	29	29.9	18	18.6	5	5.2	10	10.3	6	6.2	22	22.7	2	2.1	5	5.2	97
8. 差別はなくなる	21	15.9	41	31.1	14	10.6	22	16.7	6	4.5	21	15.9	3	2.3	4	3.0	132
9. その他	4	15.4	8	30.8	2	7.7	4	15.4	1	3.8	3	11.5	2	7.7	2	7.7	26
無回答	2	9.5	4	19.0	4	19.0	2	9.5	0	0.0	6	28.6	0	0.0	3	14.3	21

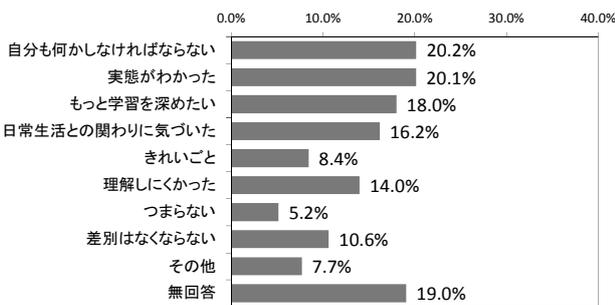
1. 格差も差別意識も解消



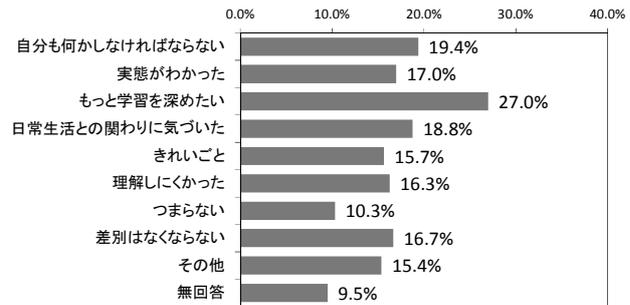
2. 格差は解消、差別意識は未解消



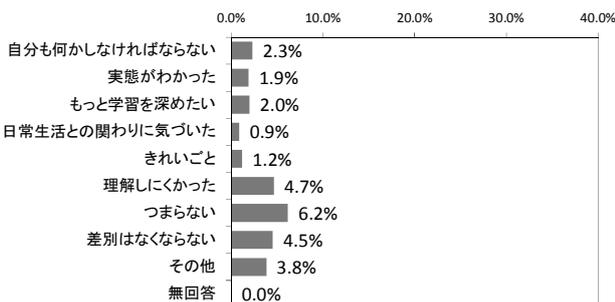
3. 環境は改善、就労・教育の格差、差別意識は未解消



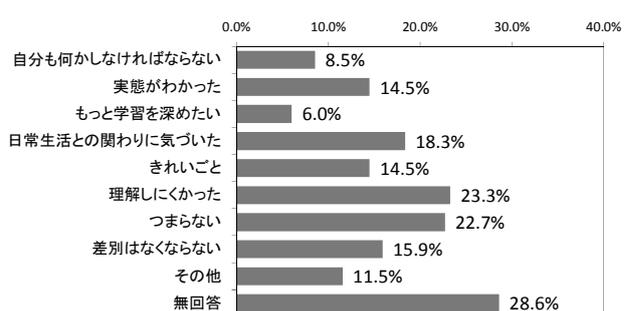
4. 多くの分野で現存



5. もともと存在しない



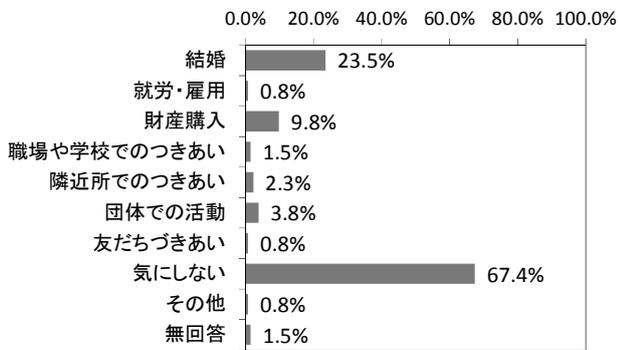
6. わからない



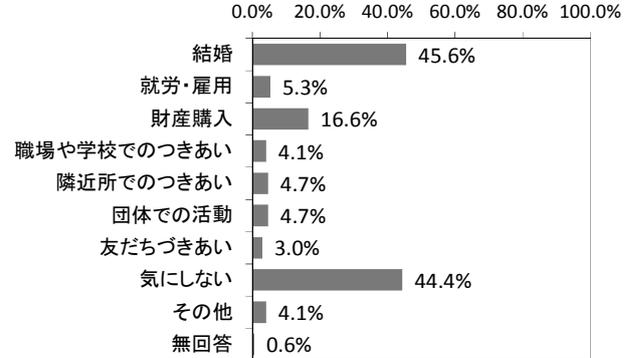
【質問14（部落差別の現状）と質問13（部落問題をどんな時に気にするか）の関連】

質問14 \ 質問13	1. 結婚		2. 就労・雇用		3. 財産購入		4. 職場や学校でのつきあい		5. 隣近所でのつきあい		6. 団体での活動		7. 友だちづきあい		8. 気にしない		9. その他		無回答		質問14回答者数
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
1. 格差も差別意識も解消	31	23.5	1	0.8	13	9.8	2	1.5	3	2.3	5	3.8	1	0.8	89	67.4	1	0.8	2	1.5	132
2. 格差は解消、差別意識は未解消	77	45.6	9	5.3	28	16.6	7	4.1	8	4.7	8	4.7	5	3.0	75	44.4	7	4.1	1	0.6	169
3. 環境は改善、就労・教育の格差、差別意識は未解消	34	45.9	6	8.1	9	12.2	3	4.1	6	8.1	5	6.8	3	4.1	37	50.0	0	0.0	2	2.7	74
4. 多くの分野で現存	46	47.4	11	11.3	20	20.6	9	9.3	7	7.2	8	8.2	10	10.3	39	40.2	3	3.1	1	1.0	97
5. もともと存在しない	4	15.4	1	3.8	1	3.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	22	84.6	0	0.0	0	0.0	26
6. わからない	51	27.1	1	0.5	14	7.4	2	1.1	6	3.2	3	1.6	3	1.6	125	66.5	5	2.7	4	2.1	188
7. その他	4	12.9	2	6.5	1	3.2	0	0.0	1	3.2	2	6.5	1	3.2	18	58.1	6	19.4	1	3.2	31
無回答	13	35.1	1	2.7	3	8.1	2	5.4	4	10.8	2	5.4	2	5.4	11	29.7	2	5.4	9	24.3	37

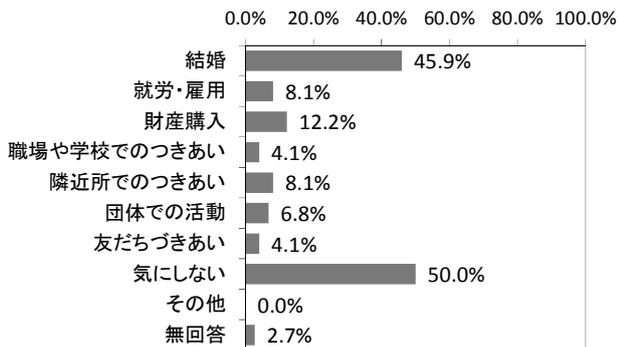
1. 格差も差別意識も解消



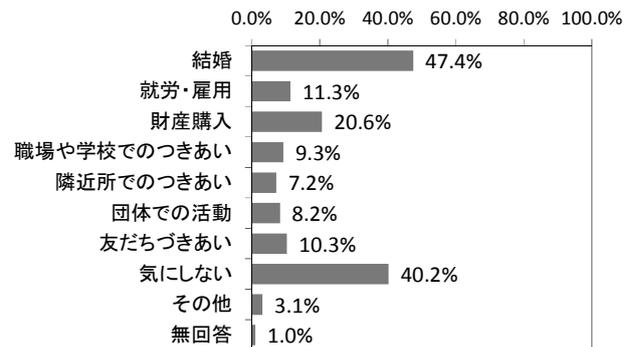
2. 格差は解消、差別意識は未解消



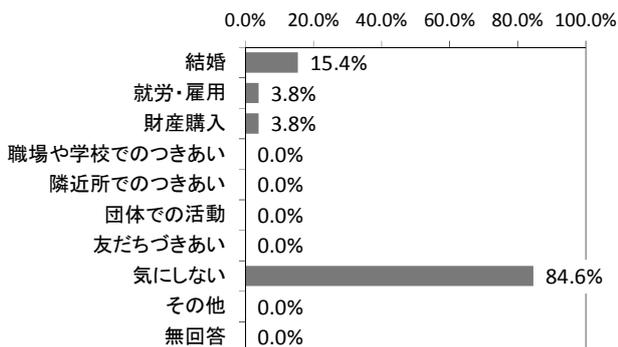
3. 環境は改善、就労・教育の格差、差別意識は未解消



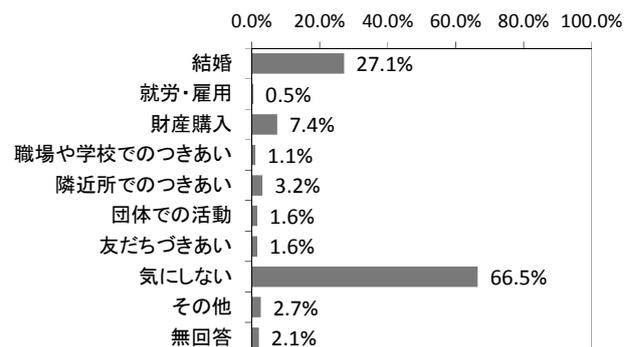
4. 多くの分野で現存



5. もともと存在しない



6. わからない



【質問14と質問6-1】

「格差も差別意識も解消」は0～9回の参加ではほとんど差はないが、「10回以上」になると11ポイント以上低くなる。「環境は改善、就労・教育の格差、差別意識は未解消」、「多くの分野で現存」は参加回数が多いほど高くなる。「わからない」は参加回数が少ないほど高くなる。

【質問14と質問6-4】

〔質問6-4〕で「つまらない」と答えた人は、「格差も差別意識も解消」が3割で最も高い。「きれいごと」、「理解しにくかった」と答えた人も約2割に上る。

【質問14と質問13】

〔質問14〕で「差別意識は未解消」と答えている人（「格差は解消、差別意識は未解消」、「環境は改善、就労・教育の格差、差別意識は未解消」、「多くの分野で現存」）は、「結婚」が5割近くに上る。また、〔質問14〕で「格差も差別意識も解消」、「もともと存在しない」と答えている人も、それぞれ「結婚」が23.5%、15.4%ある。また、「財産購入」を気にしている人も0%ではない。

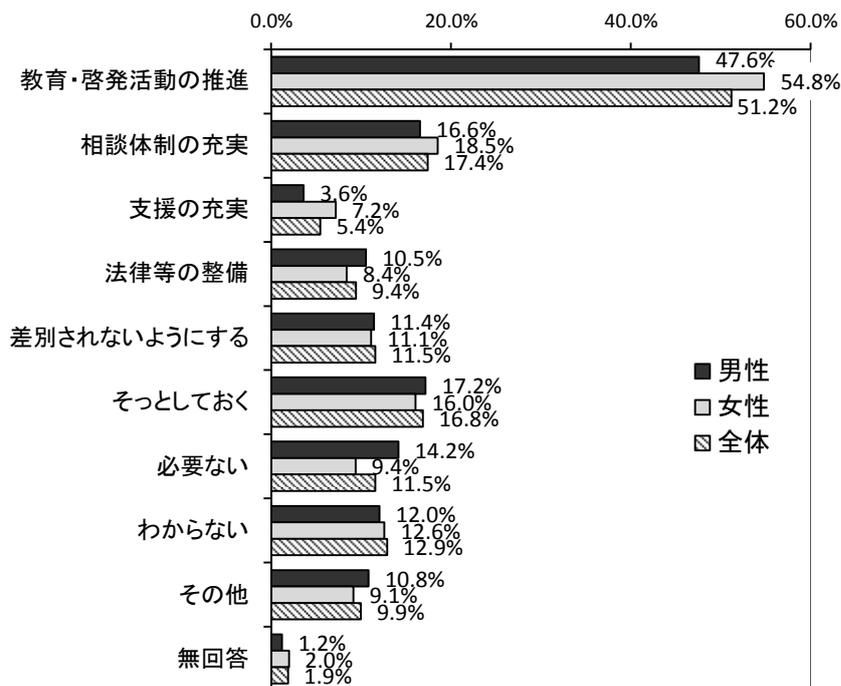
「もともと存在しない」と答えている人は、「職場や学校でのつきあい」、「隣近所でのつきあい」、「団体での活動」、「友だちづきあい」といった「日頃のつきあい」は0.0%だが、「結婚」や「財産購入」など、「自分事」になると、気にしていることがわかる。「建前」と「本音」の二重構造が見て取れる。

質問15 あなたは、部落問題を解決するために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 差別意識をなくし人権を大切にする教育・啓発活動を推進する
- 2 相談体制を充実する
- 3 被差別部落の人々に対する支援を充実する
- 4 差別禁止など差別をなくすために必要な法律等を整備する
- 5 被差別部落の人々自身が、差別されないようにする
- 6 そっとしておけば、差別は自然になくなる
- 7 部落問題は解決しており、特に必要ない
- 8 わからない
- 9 その他

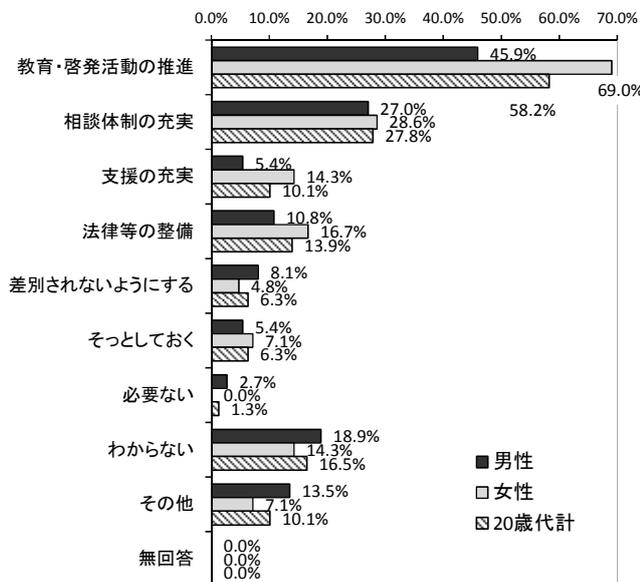
質問15		1. 教育・啓発活動の推進		2. 相談体制の充実		3. 支援の充実		4. 法律等の整備		5. 差別されないようにする		6. そっとしておく		7. 必要ない		8. わからない		9. その他		無回答		回答者数
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
20歳代	男性	17	45.9	10	27.0	2	5.4	4	10.8	3	8.1	2	5.4	1	2.7	7	18.9	5	13.5	0	0.0	37
	女性	29	69.0	12	28.6	6	14.3	7	16.7	2	4.8	3	7.1	0	0.0	6	14.3	3	7.1	0	0.0	42
	計	46	58.2	22	27.8	8	10.1	11	13.9	5	6.3	5	6.3	1	1.3	13	16.5	8	10.1	0	0.0	79
30歳代	男性	17	43.6	5	12.8	0	0.0	4	10.3	2	5.1	6	15.4	4	10.3	6	15.4	9	23.1	0	0.0	39
	女性	26	48.1	8	14.8	3	5.6	5	9.3	4	7.4	7	13.0	6	11.1	7	13.0	9	16.7	0	0.0	54
	計	43	46.2	13	14.0	3	3.2	9	9.7	6	6.5	13	14.0	10	10.8	13	14.0	18	19.4	0	0.0	93
40歳代	男性	28	50.0	9	16.1	1	1.8	9	16.1	6	10.7	7	12.5	4	7.1	7	12.5	7	12.5	0	0.0	56
	女性	40	65.6	16	26.2	2	3.3	4	6.6	1	1.6	6	9.8	2	3.3	8	13.1	8	13.1	0	0.0	61
	無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	100.0	1	100.0	0	0.0	1
計	68	57.6	25	21.2	3	2.5	13	11.0	7	5.9	13	11.0	6	5.1	16	13.6	16	13.6	0	0.0	118	
50歳代	男性	33	50.0	11	16.7	2	3.0	6	9.1	1	1.5	8	12.1	3	4.5	11	16.7	10	15.2	1	1.5	66
	女性	51	61.4	21	25.3	7	8.4	8	9.6	7	8.4	6	7.2	6	7.2	10	12.0	10	12.0	3	3.6	83
	計	84	56.4	32	21.5	9	6.0	14	9.4	8	5.4	14	9.4	9	6.0	21	14.1	20	13.4	4	2.7	149
60歳代	男性	36	48.6	18	24.3	6	8.1	10	13.5	14	18.9	16	21.6	19	25.7	4	5.4	3	4.1	1	1.4	74
	女性	52	52.5	13	13.1	6	6.1	7	7.1	19	19.2	22	22.2	15	15.2	8	8.1	5	5.1	2	2.0	99
	無回答	1	33.3	1	33.3	0	0.0	1	33.3	1	33.3	1	33.3	0	0.0	2	66.7	1	33.3	0	0.0	3
計	89	50.6	32	18.2	12	6.8	18	10.2	34	19.3	39	22.2	34	19.3	14	8.0	9	5.1	3	1.7	176	
70歳以上	男性	27	45.0	2	3.3	1	1.7	2	3.3	12	20.0	18	30.0	16	26.7	5	8.3	2	3.3	2	3.3	60
	女性	24	36.9	5	7.7	5	7.7	3	4.6	12	18.5	20	30.8	9	13.8	12	18.5	1	1.5	3	4.6	65
	無回答	1	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	33.3	0	0.0	0	0.0	2	66.7	0	0.0	0	0.0	3
計	52	40.6	7	5.5	6	4.7	5	3.9	25	19.5	38	29.7	25	19.5	19	14.8	3	2.3	5	3.9	128	
無回答	女性	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	1	100.0	0	0.0	1
	無回答	4	40.0	0	0.0	0	0.0	1	10.0	2	20.0	4	40.0	2	20.0	1	10.0	0	0.0	2	20.0	10
	計	4	36.4	0	0.0	0	0.0	1	9.1	2	18.2	5	45.5	2	18.2	1	9.1	1	9.1	2	18.2	11
全体	男性	158	47.6	55	16.6	12	3.6	35	10.5	38	11.4	57	17.2	47	14.2	40	12.0	36	10.8	4	1.2	332
	女性	222	54.8	75	18.5	29	7.2	34	8.4	45	11.1	65	16.0	38	9.4	51	12.6	37	9.1	8	2.0	405
	無回答	6	35.3	1	5.9	0	0.0	2	11.8	4	23.5	5	29.4	2	11.8	6	35.3	2	11.8	2	11.8	17
計	386	51.2	131	17.4	41	5.4	71	9.4	87	11.5	127	16.8	87	11.5	97	12.9	75	9.9	14	1.9	754	

【全体男女別】

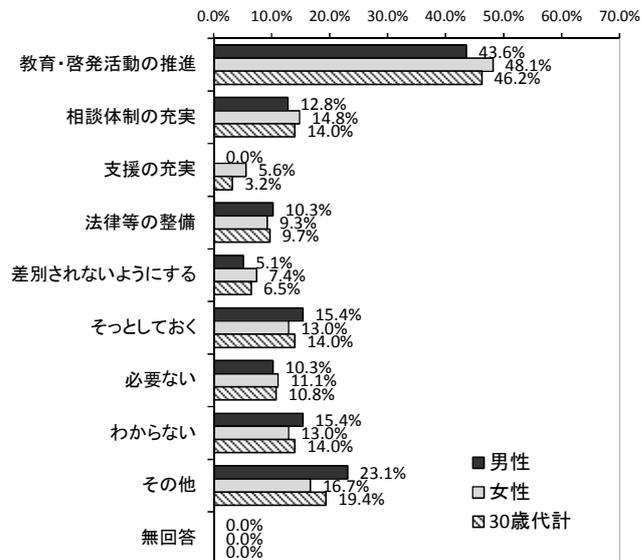


【年代男女別】

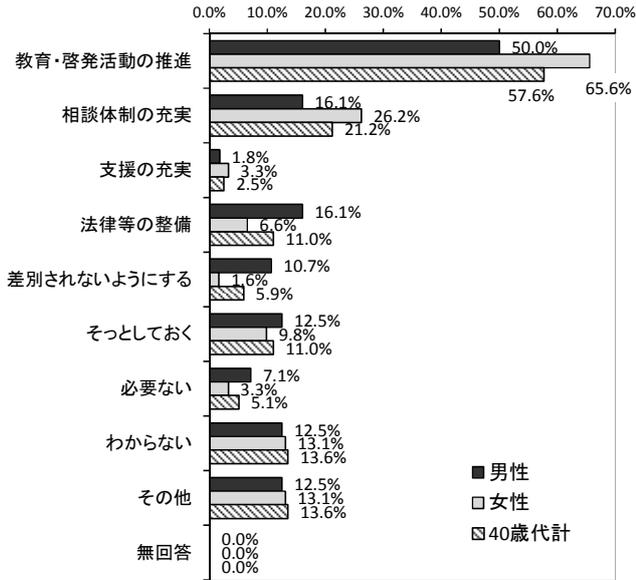
20歳代



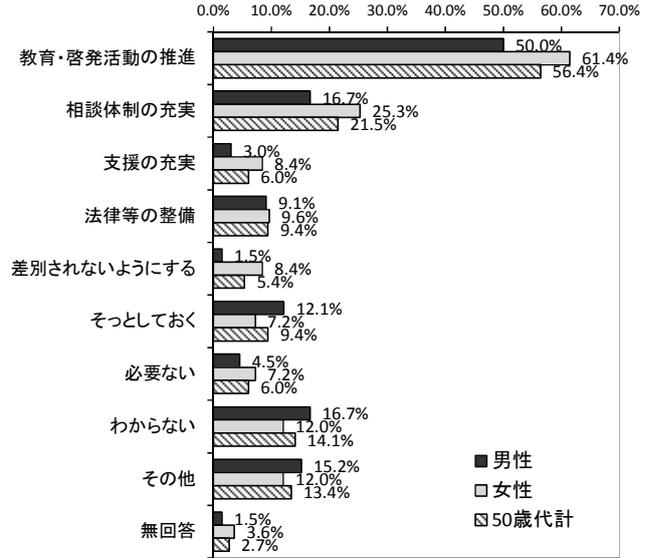
30歳代



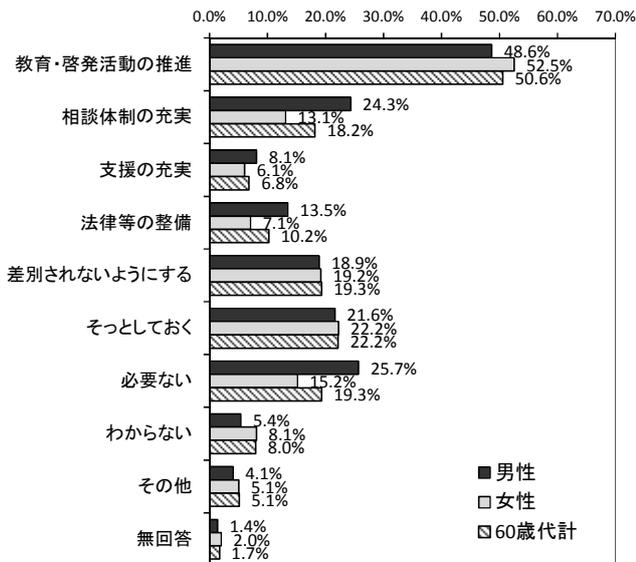
40歳代



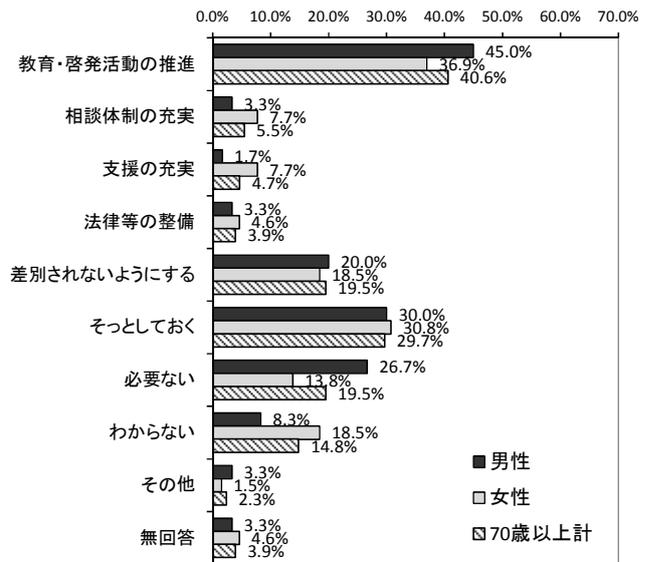
50歳代



60歳代

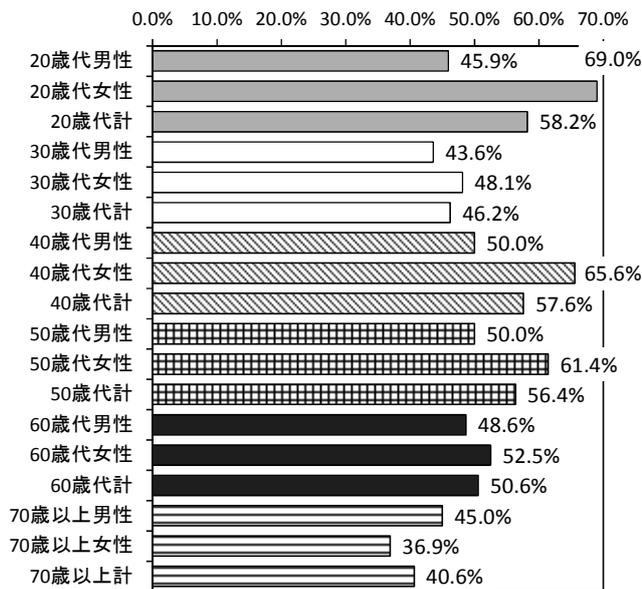


70歳以上

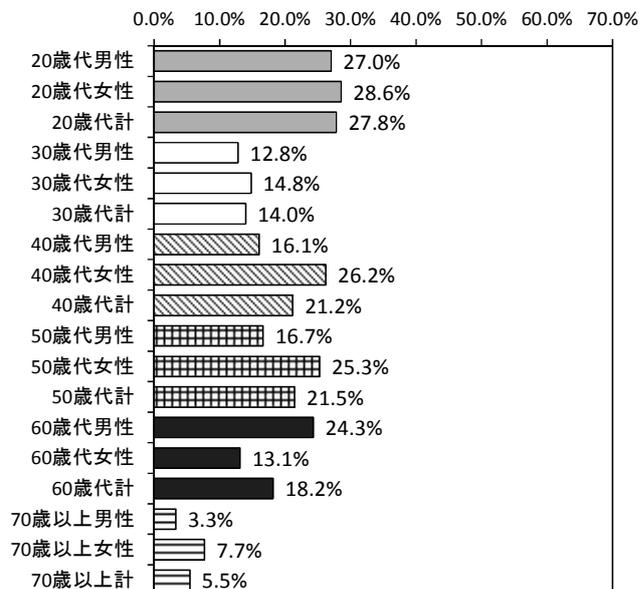


【選択肢・年代男女別】

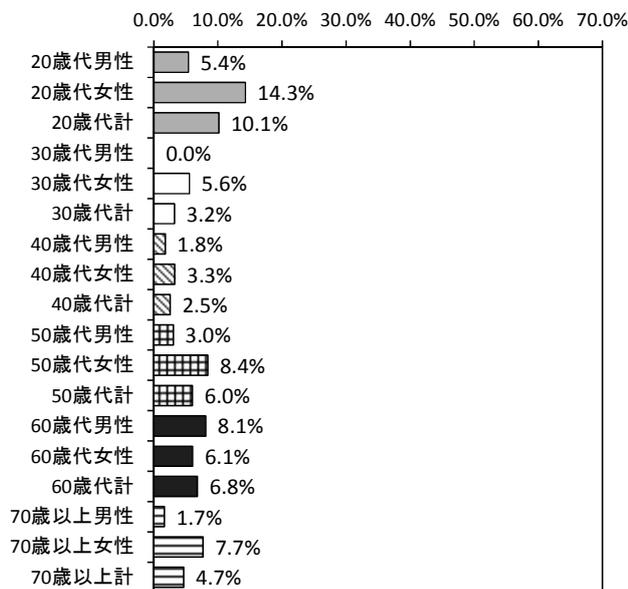
1. 教育・啓発活動の推進



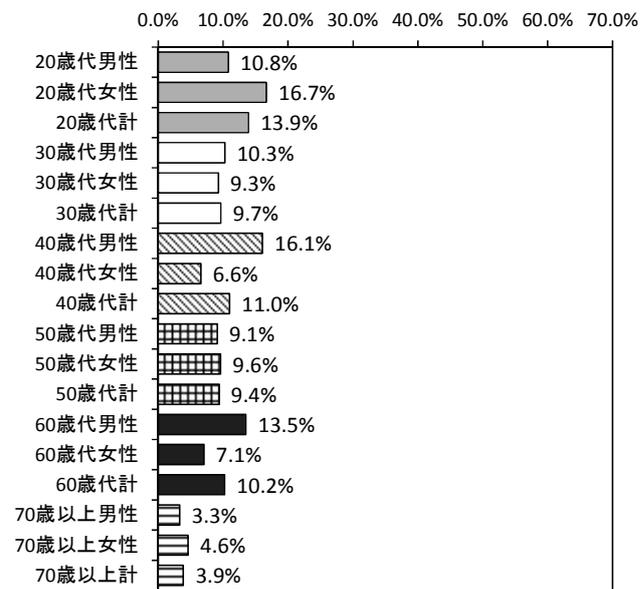
2. 相談体制の充実



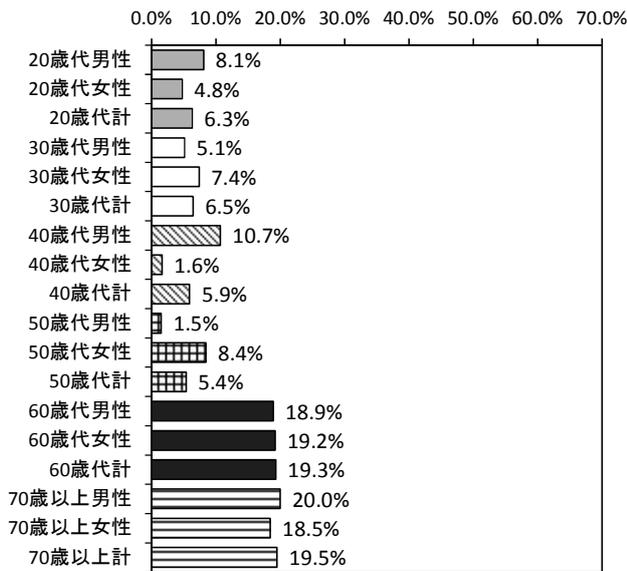
3. 支援の充実



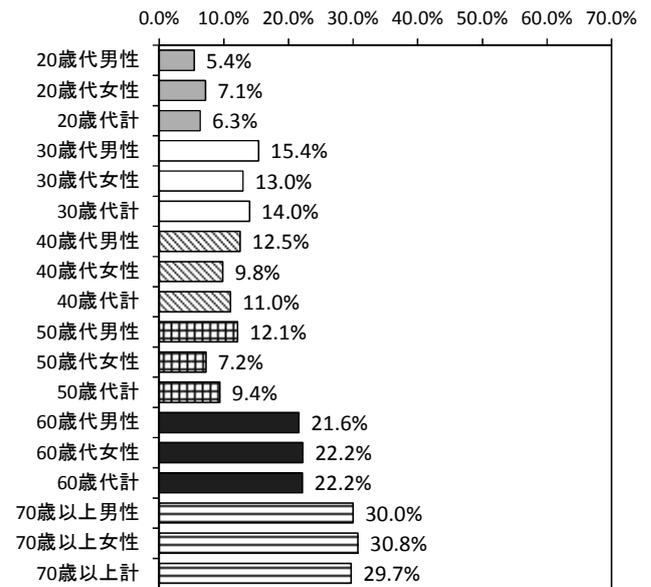
4. 法律等の整備



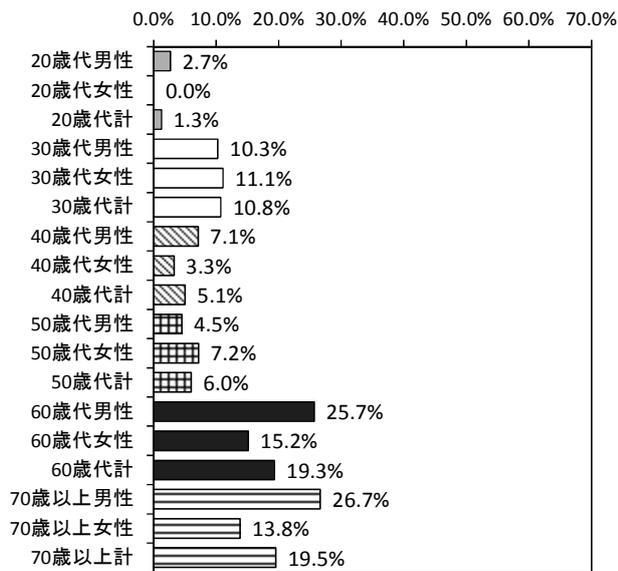
5. 差別されないようにする



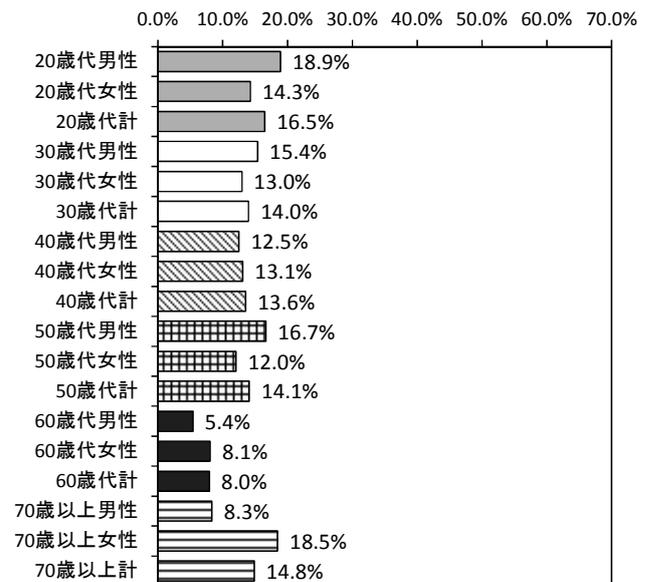
6. そっとしておく



7. 必要ない



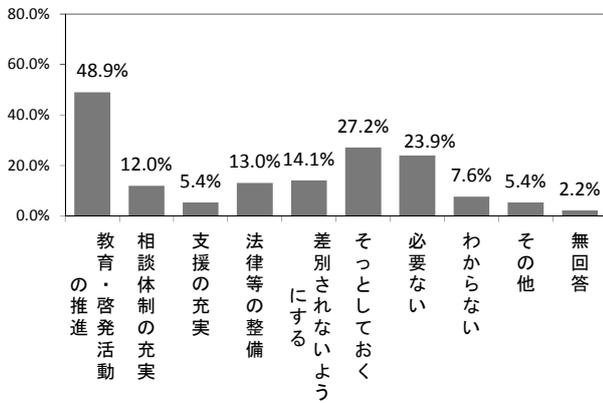
8. わからない



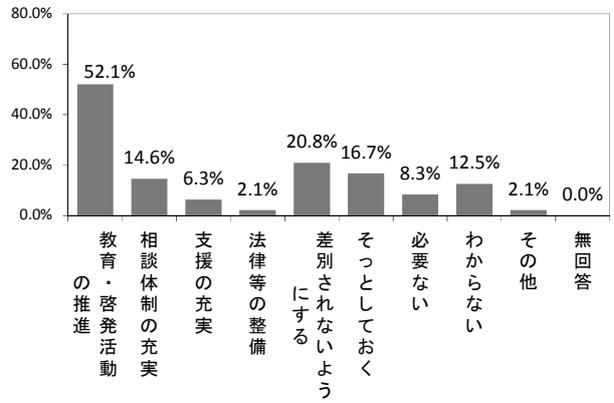
【職業別】

質問 1 5 職業別	1. 教育・啓発活動の推進		2. 相談体制の充実		3. 支援の充実		4. 法律等の整備		5. 差別されないようにする		6. そっとしておく		7. 必要ない		8. わからない		9. その他		無回答		回答者数
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
農林漁業者	45	48.9	11	12.0	5	5.4	12	13.0	13	14.1	25	27.2	22	23.9	7	7.6	5	5.4	2	2.2	92
自営業者	25	52.1	7	14.6	3	6.3	1	2.1	10	20.8	8	16.7	4	8.3	6	12.5	1	2.1	0	0.0	48
企業・団体職員	89	50.0	34	19.1	3	1.7	11	6.2	10	5.6	24	13.5	14	7.9	26	14.6	27	15.2	0	0.0	178
保育士・教員	16	80.0	8	40.0	1	5.0	7	35.0	1	5.0	0	0.0	0	0.0	1	5.0	2	10.0	0	0.0	20
医療・福祉等関係者	27	56.3	10	20.8	4	8.3	6	12.5	2	4.2	5	10.4	4	8.3	6	12.5	10	20.8	0	0.0	48
公務員	13	59.1	4	18.2	1	4.5	2	9.1	2	9.1	1	4.5	2	9.1	3	13.6	1	4.5	0	0.0	22
家事従事者	48	64.0	11	14.7	5	6.7	4	5.3	14	18.7	17	22.7	5	6.7	4	5.3	4	5.3	2	2.7	75
パート・アルバイト等	44	53.0	14	16.9	4	4.8	6	7.2	5	6.0	11	13.3	6	7.2	14	16.9	11	13.3	2	2.4	83
学生	16	66.7	10	41.7	7	29.2	5	20.8	2	8.3	0	0.0	0	0.0	3	12.5	3	12.5	0	0.0	24
無職	53	39.6	17	12.7	8	6.0	13	9.7	24	17.9	27	20.1	25	18.7	23	17.2	6	4.5	5	3.7	134
その他	4	28.6	4	28.6	0	0.0	2	14.3	1	7.1	3	21.4	2	14.3	3	21.4	2	14.3	0	0.0	14
無回答	6	37.5	1	6.3	0	0.0	2	12.5	3	18.8	6	37.5	3	18.8	1	6.3	3	18.8	3	18.8	16
全体	386	51.2	131	17.4	41	5.4	71	9.4	87	11.5	127	16.8	87	11.5	97	12.9	75	9.9	14	1.9	754

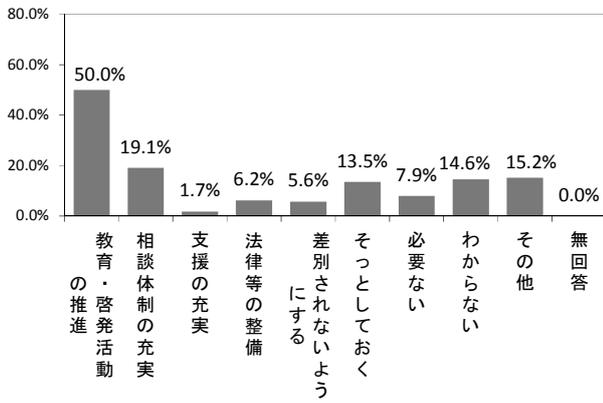
農林漁業者



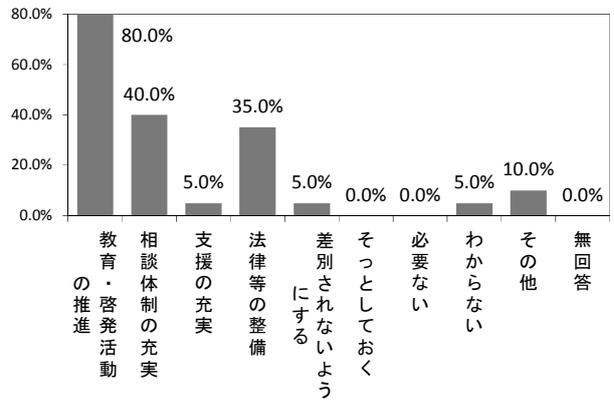
自営業者



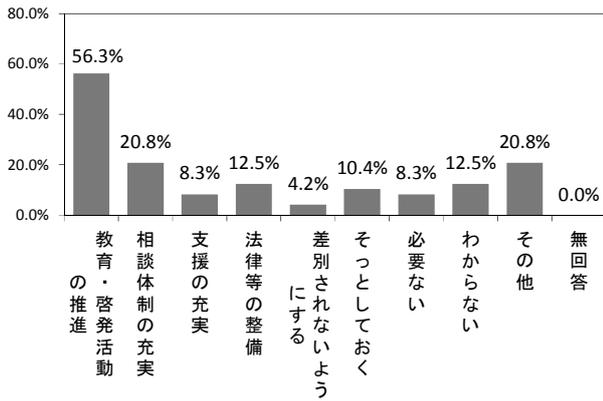
企業・団体職員



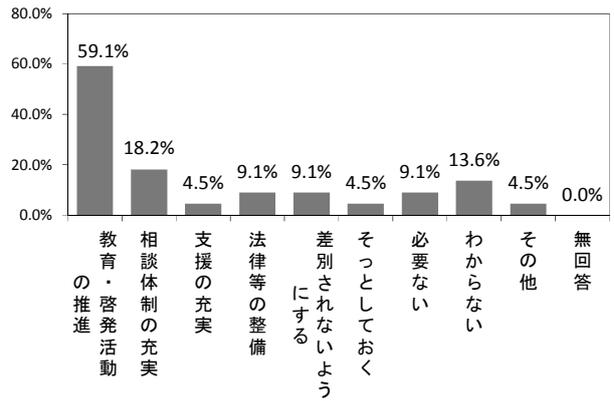
保育士・教員



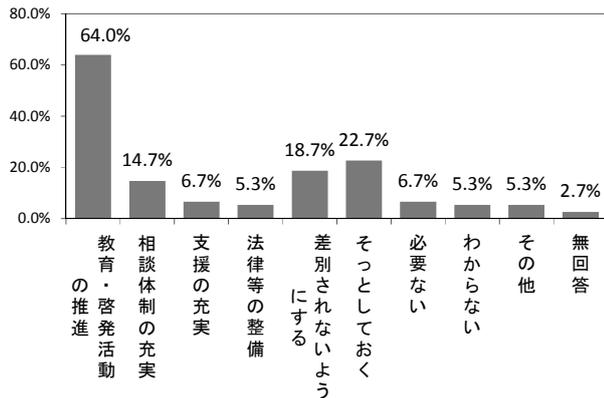
医療・福祉等関係者



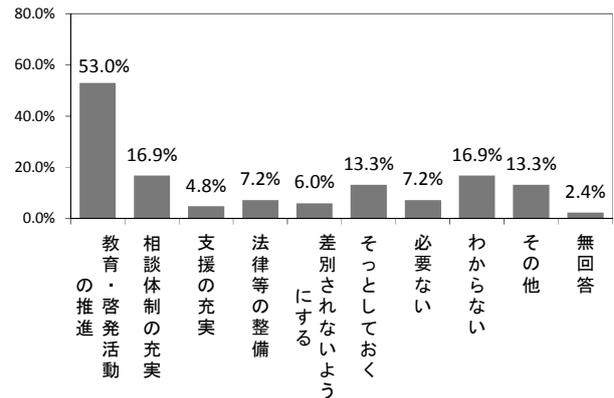
公務員



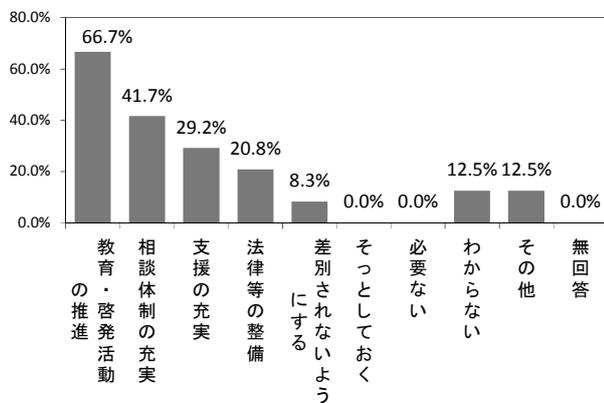
家事従事者



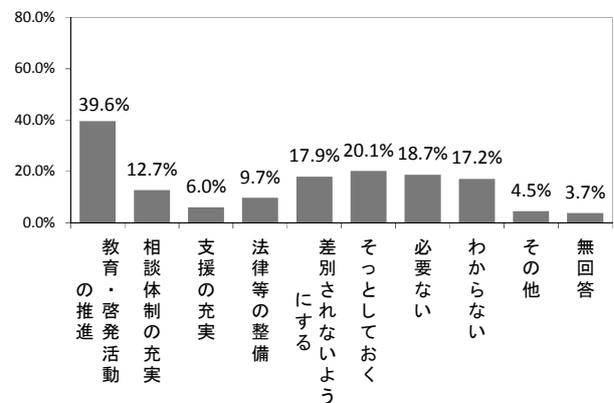
パート・アルバイト等



学生

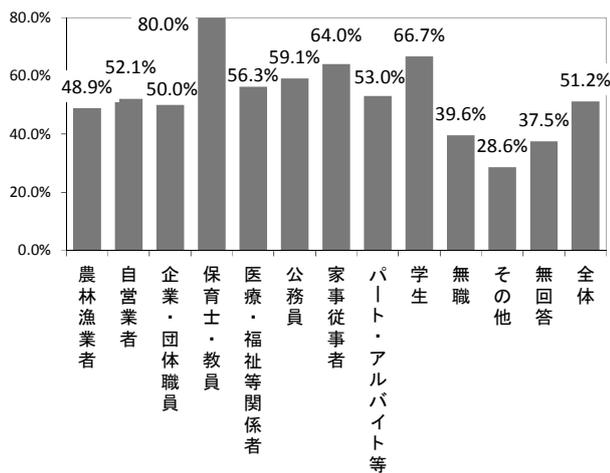


無職

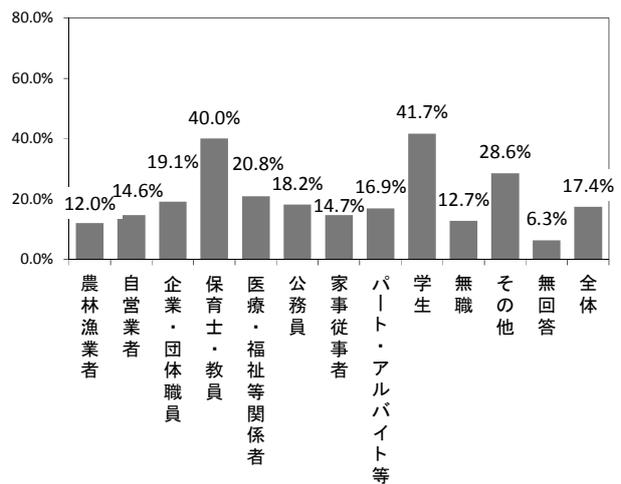


【選択肢別・職業】

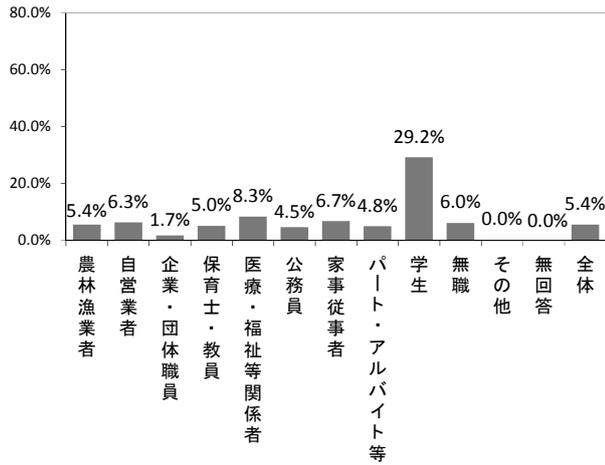
1. 教育・啓発活動の推進



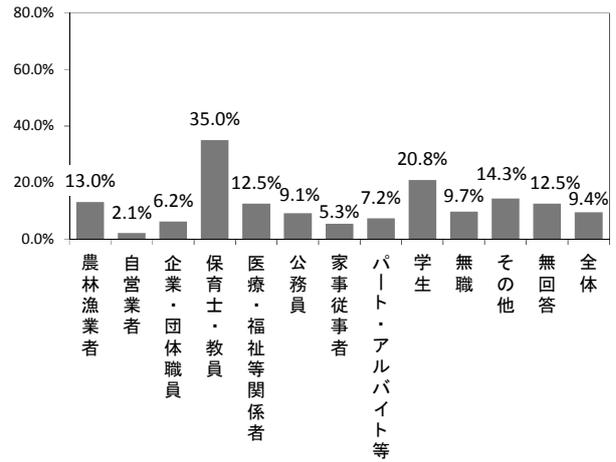
2. 相談体制の充実



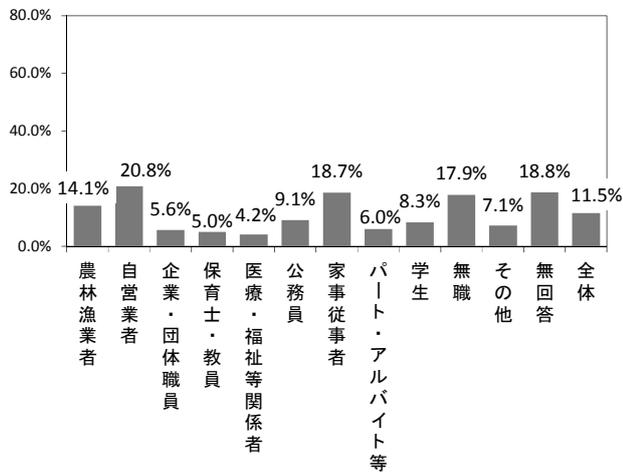
3. 支援の充実



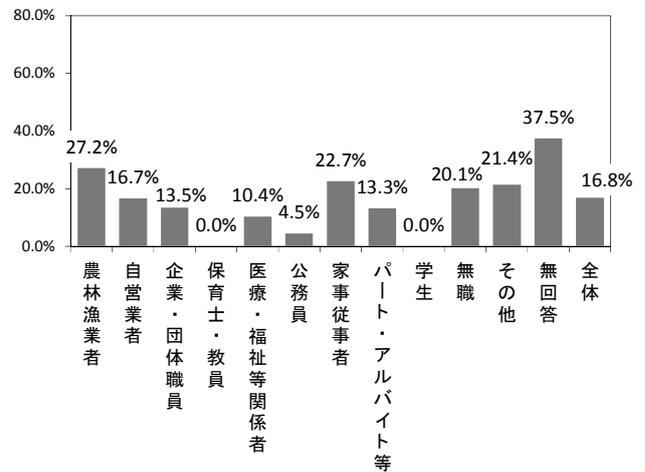
4. 法律等の整備



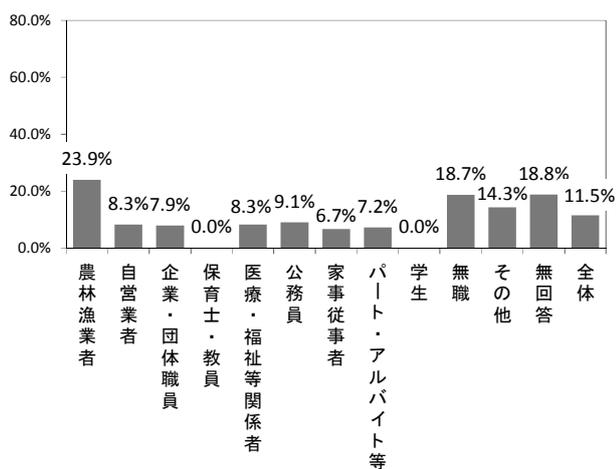
5. 差別されないようにする



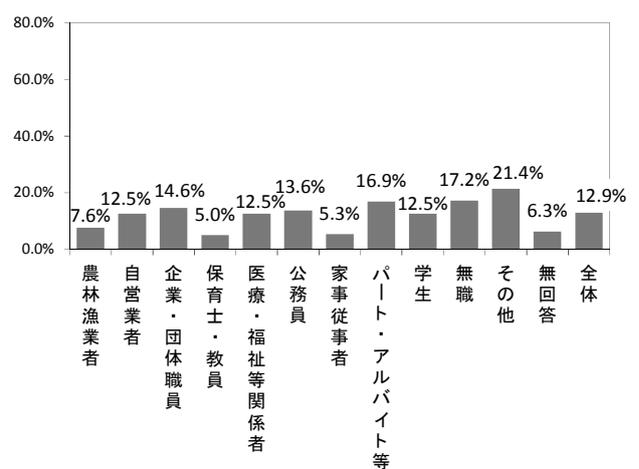
6. そっとしておく



7. 必要ない



8. わからない



- 全体では、「教育・啓発活動の推進」51.1%が突出している。それ以外は2割に届かない。「相談体制の充実」と「そっとしておく」が17%前後で続き、「わからない」、「差別されないようにする」、「必要ない」が12%前後、「その他」、「法律等の整備」が10%程度、「支援の充実」が5.4%で最も低い。
- 年代では、次のような傾向、特徴がみられる。
 - ・ 20歳代は「教育・啓発活動の推進」が58.2%で年代中最も高い。続く「相談体制の充実」27.8%も年代中最も高い。「わからない」16.5%、「法律等の整備」13.9%、「支援の充実」10.1%も他の年代より高い。「そっとしておく」6.3%、「必要ない」1.3%は、年代中最も低い。
 - ・ 30歳代は「教育・啓発活動の推進」46.2%が最も高いが、20歳代や40歳代より10ポイント以上低い。また、20歳代や40歳代、50歳代と違い、「その他」が19.4%で2番目に高く、「そっとしておく」も14.0%で「相談体制の充実」と同率だが3番目に高い。また、「必要ない」10.8%も20歳代、40歳代、50歳代と比べて高い。
 - ・ 40歳代と50歳代は同じような結果になっている。「教育・啓発活動の推進」が57%前後で高い。「相談体制の充実」が21%程度で続き、「わからない」と「その他」が13%~14%程度、「法律等の整備」と「そっとしておく」が10%前後になっている。
 - ・ 60歳代も「教育・啓発活動の推進」50.0%が最も高いが、「そっとしておく」、「差別されないようにする」、「必要ない」が20%前後で、20歳代~50歳代より高くなる。
 - ・ 70歳以上は「教育・啓発活動の推進」が最も高いが、40.6%で年代中最も低い。「そっとしておく」が29.7%で他の年代より高く、「差別されないようにする」、「必要ない」も19.5%で年代中最も高い。全体では2番目に高い「相談体制の充実」は、5.5%で年代中最も低い。
- 年代男女別では、次のような傾向、特徴がみられる。
 - ・ 20歳代は「教育・啓発活動の推進」が男性45.9%、女性69.0%で、女性の方が23.1ポイント高い。「支援の充実」も女性の方が8.9ポイント高い。女性は「教育・啓発活動の推進」、「支援の充実」、「相談体制の充実」(28.6%)、「法律等の整備」(16.7%)が年代男女中最も高い。また、20歳代女性のみ「必要ない」が0.0%である。
 - ・ 30歳代は男女であり大きな差はみられないが、男性の「その他」23.1%は年代男女中最も高く、女性の16.7%もその次に高い。また、30歳代男性のみ「支援の充実」が0.0%である。
 - ・ 40歳代は男女とも「教育・啓発活動の推進」が高いが、特に女性は65.5%と高く、男性と15.6ポイントの差がある。女性は「相談体制の充実」も26.2%と高く、男性と10.1ポイントの差がある。「法律等の整備」は男性の16.1%が他の年代より高く、女性と9.5ポイントの差がある。また、女性は「差別されないようにする」が1.6%で、他の年代男女より低い。
 - ・ 50歳代も男女ともに「教育・啓発活動の推進」が高いが、特に女性は61.4%と高く、男性と11.4ポイントの差がある。女性は「相談体制の充実」も25.3%と高く、男性と8.6ポイントの差がある。また、男性は「差別されないようにする」が1.5%で年代男女中最も低く、女性と6.9ポイントの差がある。
 - ・ 60歳代は、「相談体制の充実」が男性24.3%、女性13.1%で、11.2ポイントの差がある。60歳代と70歳以上は、男女とも「差別されないようにする」、「そっとしておく」、「必要ない」が急激に高くなるが、「必要ない」は特に男性の方が高く、60歳代は男性25.7%、女性15.2%で、男性の方が10.5ポイント高い。男性は「わからない」が5.4%で年代男女中最も低い。
 - ・ 70歳以上のみ「教育・啓発活動の推進」は男性の方が高い。男性は45.0%、女性は年代男女中最も低い36.9%で、8.1ポイントの差がある。「必要ない」は、男性が年代男女中最も高い26.7%で、女性と12.9ポイントの差。女性は「わからない」が18.5%と高く、男性と10.2ポイントの差がある。
 - ・ 「教育・啓発活動の推進」は、男性は年代による差はあまりみられない。女性は20歳代、40歳代、50歳代は60%以上と高いが、30歳代は48.1%で、20歳代、40歳代と比べ17.5ポイント~20.9ポイ

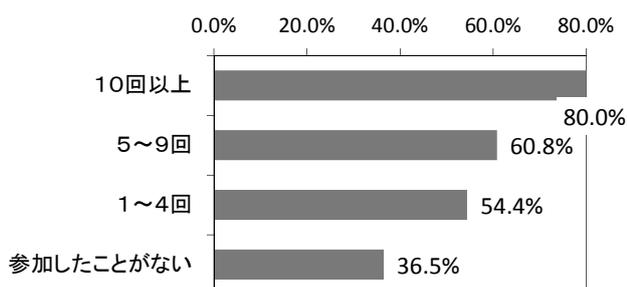
ント低い。また、最も高い20歳代女性と最も低い70歳以上女性は32.1ポイントの差がある。

- 職業等では、次のような傾向、特徴がみられる。
 - ・ どの職業等も「教育・啓発活動の推進」が最も高い。特に、保育士・教員は80.0%と非常に高い。学生、家事従事者も63%以上、他の職業等も5割～6割程度である。無職は39.6%で他の職業等より低い。
 - ・ 保育士・教員と学生は「相談体制の充実」が4割で他の職業等より20ポイント程度高い。また、学生は「支援の充実」が29.2%で他の職業等より高く、次に高い医療・福祉等関係者8.3%と20.9ポイント、最も低い企業・団体職員1.7%と27.5ポイントの差がある。保育士・教員は「法律等の整備」35.0%が他の職業等より高く、次に高い学生20.8%と14.2ポイント、最も低い自営業者2.1%と32.9ポイントの差がある。保育士・教員と学生は、「そっとしておく」と「必要ない」が0.0%である。
 - ・ 「差別されないようにする」は自営業者21.3%が最も高く、家事従事者19.2%、無職17.9%、農林漁業者14.1%が続く。それ以外の職業等も10%以下だが、ある。
 - ・ 「そっとしておく」は農林漁業者27.2%が最も高く、家事従事者21.9%、無職20.1%、自営業者17.0%が続く。農林漁業者と無職は「必要ない」もそれぞれ23.9%、18.7%で、他の職業等より高い。
 - ・ 医療・福祉等関係者は「その他」が20.8%で、他の職業等より高い。

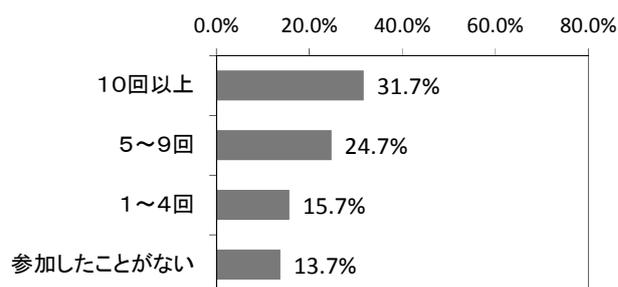
【質問15（部落問題を解決するために必要なこと）と質問6-1（研修等への参加回数）の関連】

質問6-1 \ 質問15	1. 教育・啓発活動の推進		2. 相談体制の充実		3. 支援の充実		4. 法律等の整備		5. 差別されないようにする		6. そっとしておく		7. 必要ない		8. わからない		9. その他		無回答		6-1回答者数
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
1. 10回以上	48	80.0	19	31.7	7	11.7	12	20.0	5	8.3	2	3.3	4	6.7	3	5.0	7	11.7	0	0.0	60
2. 5～9回	59	60.8	24	24.7	7	7.2	14	14.4	11	11.3	14	14.4	11	11.3	7	7.2	8	8.2	1	1.0	97
3. 1～4回	184	54.4	53	15.7	15	4.4	25	7.4	40	11.8	55	16.3	36	10.7	38	11.2	29	8.6	8	2.4	338
4. 参加したことがない	93	36.5	35	13.7	12	4.7	20	7.8	31	12.2	54	21.2	35	13.7	49	19.2	31	12.2	5	2.0	255
無回答	2	50.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	50.0	1	25.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4

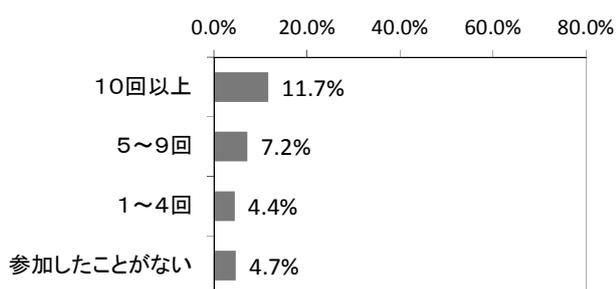
1. 教育・啓発活動の推進



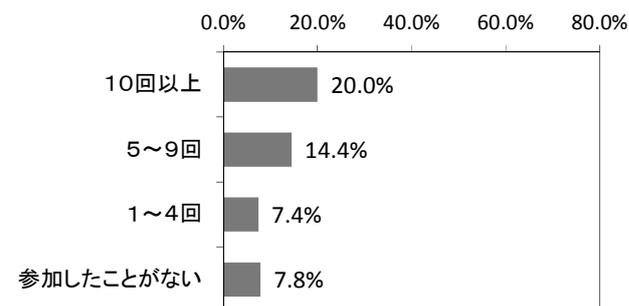
2. 相談体制の充実



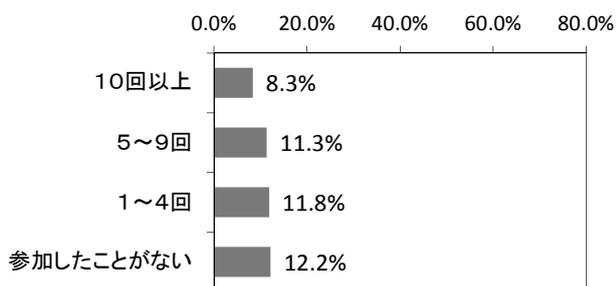
3. 支援の充実



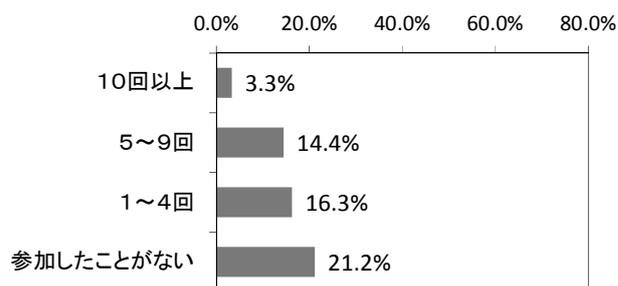
4. 法律等の整備



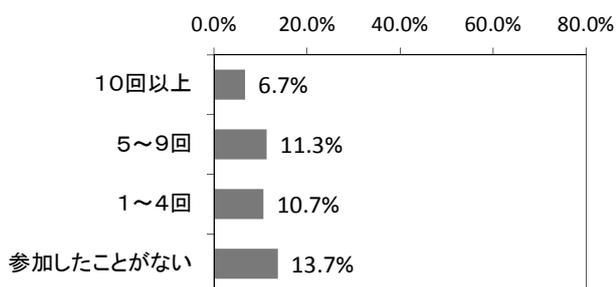
5. 差別されないようにする



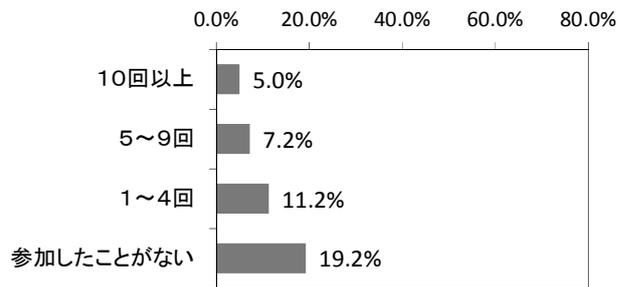
6. そっとしておく



7. 必要ない



8. わからない

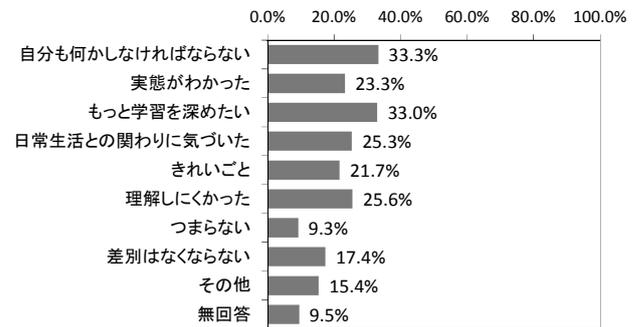
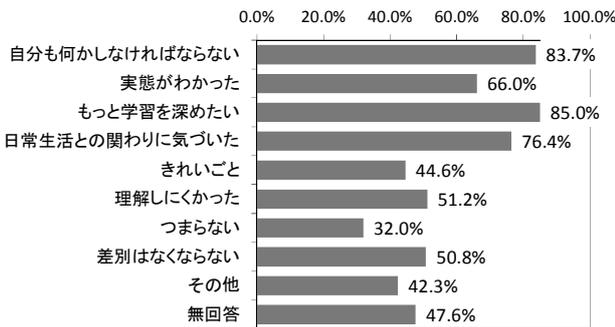


【質問15（部落問題を解決するために必要なこと）と質問6-4（研修等へ参加した感想）の関連】

質問15 質問6-4	1. 教育・啓発活動の推進		2. 相談体制の充実		3. 支援の充実		4. 法律等の整備		5. 差別されないようにする		6. そつとしておく		7. 必要ない		8. わからない		9. その他		無回答		回答者数
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
1. 自分も何かしなければならぬ	108	83.7	43	33.3	19	14.7	25	19.4	13	10.1	9	7.0	6	4.7	5	3.9	9	7.0	3	2.3	129
2. 実態がわかった	105	66.0	37	23.3	11	6.9	21	13.2	22	13.8	18	11.3	8	5.0	12	7.5	18	11.3	3	1.9	159
3. もっと学習を深めたい	85	85.0	33	33.0	12	12.0	20	20.0	10	10.0	6	6.0	3	3.0	4	4.0	10	10.0	2	2.0	100
4. 日常生活との関わりに気づいた	175	76.4	58	25.3	17	7.4	30	13.1	26	11.4	14	6.1	12	5.2	20	8.7	11	4.8	3	1.3	229
5. きれいごと	37	44.6	18	21.7	4	4.8	8	9.6	12	14.5	15	18.1	15	18.1	12	14.5	7	8.4	1	1.2	83
6. 理解しにくかった	22	51.2	11	25.6	1	2.3	3	7.0	5	11.6	6	14.0	4	9.3	6	14.0	6	14.0	0	0.0	43
7. つまらない	31	32.0	9	9.3	0	0.0	4	4.1	16	16.5	25	25.8	22	22.7	10	10.3	13	13.4	0	0.0	97
8. 差別はなくなる	67	50.8	23	17.4	8	6.1	16	12.1	21	15.9	20	15.2	13	9.8	19	14.4	13	9.8	3	2.3	132
9. その他	11	42.3	4	15.4	1	3.8	3	11.5	1	3.8	8	30.8	2	7.7	1	3.8	8	30.8	1	3.8	26
無回答	10	47.6	2	9.5	1	4.8	1	4.8	2	9.5	7	33.3	3	14.3	3	14.3	0	0.0	1	4.8	21

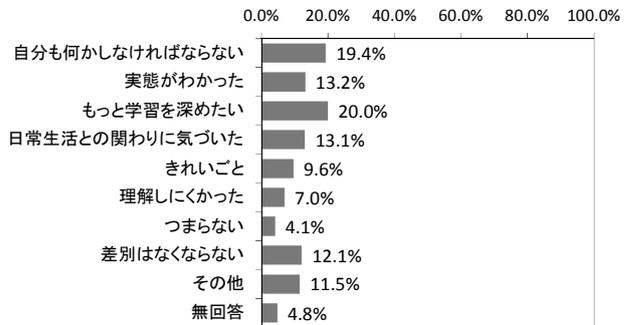
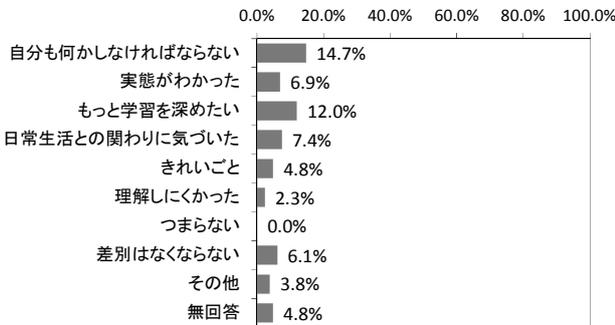
1. 教育・啓発活動の推進

2. 相談体制の充実

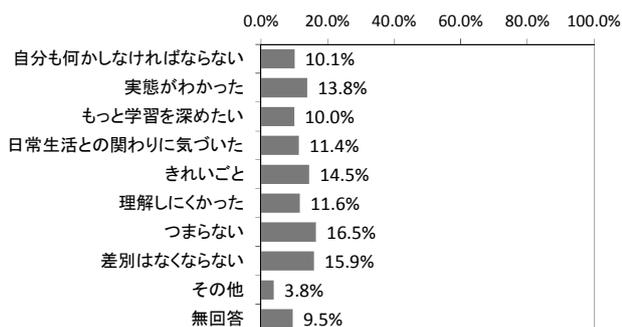


3. 支援の充実

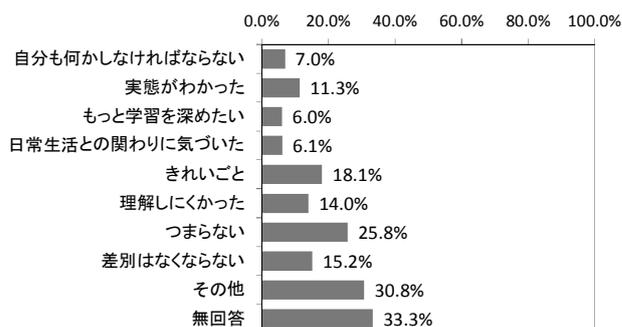
4. 法律等の整備



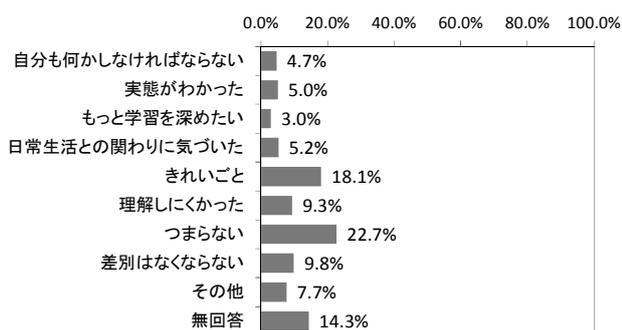
5. 差別されないようにする



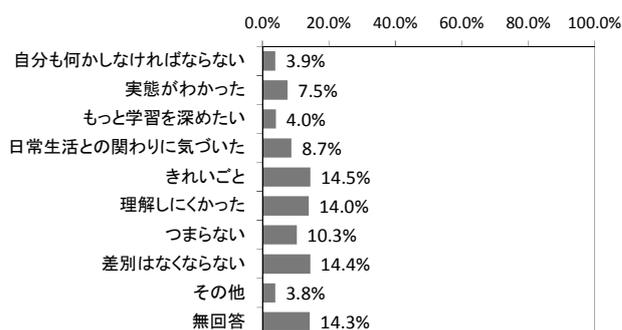
6. そっとしておく



7. 必要ない



8. わからない



【質問15と質問6-1】

「教育・啓発活動の推進」、「相談体制の充実」は、参加回数の増加に伴って割合が高くなっており、明確に傾向が出ている。「10回以上」の人は「法律等の整備」も0～9回参加の人より高い。また、「そっとしておく」、「わからない」は、参加回数が少なくなるにつれ高くなってきている。「差別されないようにする」もそうではあるが、参加回数による差はあまりない。また、「必要ない」は、0～9回の参加ではほとんど差がない。

【質問15と質問6-4】

〔質問6-4〕で、積極的・肯定的な感想（「自分も何かしなければならぬ」、「実態がわかった」、「もっと学習を深めたい」、「日常生活との関わりに気づいた」）の人と、消極的・否定的な感想（「きれいごと」、「理解しにくかった」、「つまらない」、「差別はなくなる」）の人とでは、「教育・啓発活動の推進」で大きな差がある。また、〔質問6-4〕で「つまらない」、「きれいごと」と答えている人は、「そっとしておく」と「必要ない」が他の感想の人より高い。「つまらない」という感想の人は、教育・啓発の推進や施策の充実等の割合が低く、「そっとしておく」（「自然解消論」、「寝た子を起すな論」）、「差別されないようにする」（「部落責任論」）、「必要ない」の割合が高い。しかし、「部落責任論」については、感想による差はあまりない。「自分も何かしなければならぬ」や「もっと学習を深めたい」という感想の人でも、「部落責任論」が1割ある。

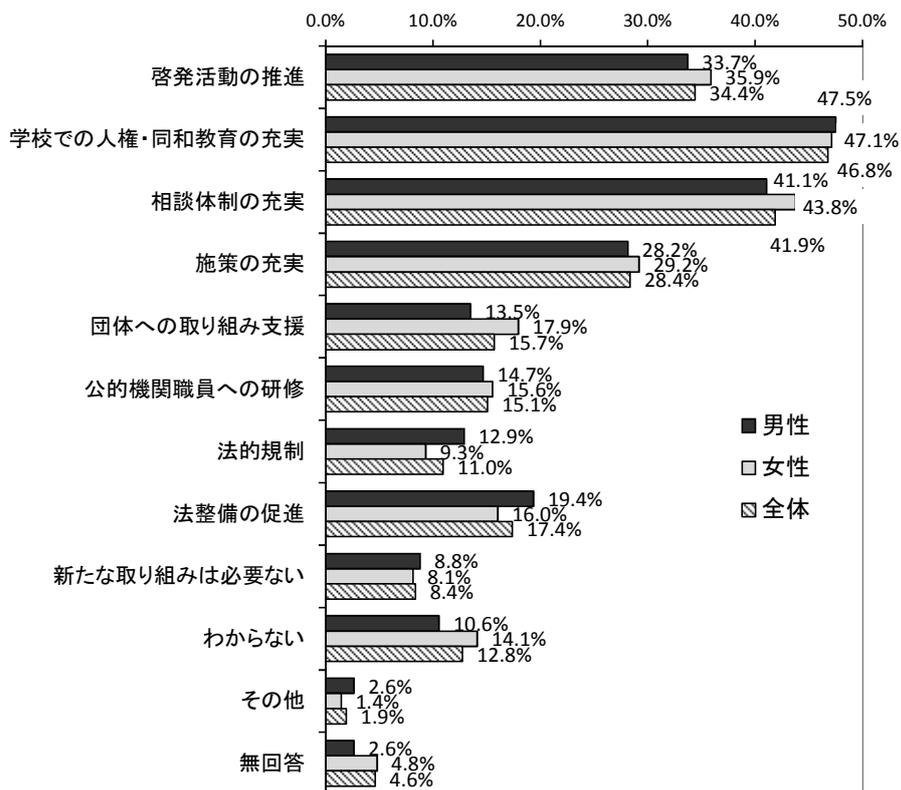
4 その他

質問16 あなたは、人権が尊重される社会を実現するためには、行政の施策としてどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 町民の人権意識を高めるために啓発活動などを積極的に推進する
- 2 学校において人権・同和教育を充実する
- 3 人権が侵害された人や社会的に弱い立場にある人のための相談体制を充実する
- 4 社会にみられる不合理な格差を解消するための施策を充実する
- 5 企業・NPOなどの団体による人権尊重に向けた取り組みを支援する
- 6 公務員など公的機関に勤める職員に対して、人権意識を高める研修を充実する
- 7 人権侵害を行った人などに対し法的な規制をする
- 8 人権が侵害された人の救済・支援を充実するための法整備を促進する
- 9 人権は十分に尊重されており、新たな取り組みは必要ない
- 10 わからない
- 11 その他

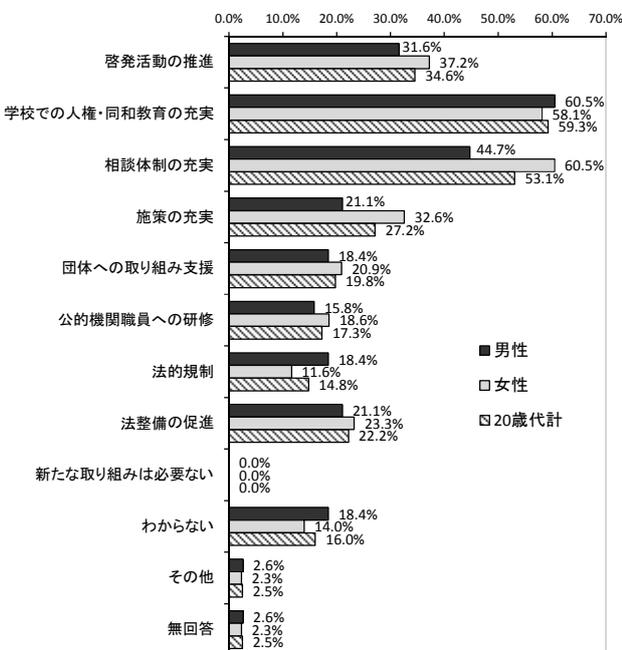
質問16		1. 啓発活動の推進		2. 学校での人権・同和教育の充実		3. 相談体制の充実		4. 施策の充実		5. 団体への取り組み支援		6. 公的機関職員への研修		7. 法的規制		8. 法整備の促進		9. 新たな取り組みは必要ない		10. わからない		11. その他		無回答	回答者数	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%			
20歳代	男性	12	31.6	23	60.5	17	44.7	8	21.1	7	18.4	6	15.8	7	18.4	8	21.1	0	0.0	7	18.4	1	2.6	1	2.6	38
	女性	16	37.2	25	58.1	26	60.5	14	32.6	9	20.9	8	18.6	5	11.6	10	23.3	0	0.0	6	14.0	1	2.3	1	2.3	43
	計	28	34.6	48	59.3	43	53.1	22	27.2	16	19.8	14	17.3	12	14.8	18	22.2	0	0.0	13	16.0	2	2.5	2	2.5	81
30歳代	男性	5	12.5	19	47.5	13	32.5	7	17.5	8	20.0	4	10.0	5	12.5	2	5.0	0	0.0	5	12.5	4	10.0	2	5.0	40
	女性	16	27.1	34	57.6	26	44.1	17	28.8	16	27.1	13	22.0	11	18.6	15	25.4	2	3.4	8	13.6	1	1.7	1	1.7	59
	計	21	21.2	53	53.5	39	39.4	24	24.2	24	24.2	17	17.2	16	16.2	17	17.2	2	2.0	13	13.1	5	5.1	3	3.0	99
40歳代	男性	21	37.5	28	50.0	26	46.4	19	33.9	11	19.6	10	17.9	12	21.4	14	25.0	2	3.6	4	7.1	1	1.8	0	0.0	56
	女性	24	39.3	33	54.1	31	50.8	23	37.7	12	19.7	8	13.1	4	6.6	5	8.2	1	1.6	9	14.8	1	1.6	2	3.3	61
	無回答	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1
計	45	38.1	62	52.5	57	48.3	42	35.6	23	19.5	18	15.3	16	13.6	19	16.1	3	2.5	13	11.0	2	1.7	2	1.7	118	
50歳代	男性	26	38.2	31	45.6	28	41.2	26	38.2	5	7.4	11	16.2	6	8.8	14	20.6	3	4.4	6	8.8	3	4.4	3	4.4	68
	女性	34	41.0	44	53.0	44	53.0	27	32.5	15	18.1	16	19.3	8	9.6	12	14.5	6	7.2	5	6.0	1	1.2	7	8.4	83
	計	60	39.7	75	49.7	72	47.7	53	35.1	20	13.2	27	17.9	14	9.3	26	17.2	9	6.0	11	7.3	4	2.6	10	6.6	151
60歳代	男性	26	33.3	41	52.6	33	42.3	22	28.2	10	12.8	10	12.8	10	12.8	20	25.6	11	14.1	7	9.0	0	0.0	1	1.3	78
	女性	41	41.0	47	47.0	39	39.0	33	33.0	20	20.0	15	15.0	11	11.0	21	21.0	8	8.0	14	14.0	2	2.0	2	2.0	100
	無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	33.3	0	0.0	1	33.3	1	33.3	1	33.3	0	0.0	2	66.7	0	0.0	0	0.0	3
計	67	37.0	88	48.6	72	39.8	56	30.9	30	16.6	26	14.4	22	12.2	42	23.2	19	10.5	23	12.7	2	1.1	3	1.7	181	
70歳以上	男性	25	41.0	20	32.8	23	37.7	14	23.0	5	8.2	9	14.8	4	6.6	8	13.1	14	23.0	7	11.5	0	0.0	2	3.3	61
	女性	19	27.1	14	20.0	16	22.9	8	11.4	3	4.3	5	7.1	0	0.0	3	4.3	17	24.3	16	22.9	0	0.0	7	10.0	70
	無回答	1	33.3	1	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	33.3	0	0.0	1	33.3	3
計	45	33.6	35	26.1	39	29.1	22	16.4	8	6.0	14	10.4	4	3.0	11	8.2	31	23.1	24	17.9	0	0.0	10	7.5	134	
無回答	女性	0	0.0	0	0.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	50.0	0	0.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	2
	無回答	1	10.0	2	20.0	2	20.0	1	10.0	1	10.0	1	10.0	1	10.0	1	10.0	1	10.0	1	10.0	0	0.0	6	60.0	10
	計	1	8.3	2	16.7	3	25.0	1	8.3	1	8.3	1	8.3	1	8.3	2	16.7	1	8.3	2	16.7	0	0.0	6	50.0	12
全体	男性	115	33.7	162	47.5	140	41.1	96	28.2	46	13.5	50	14.7	44	12.9	66	19.4	30	8.8	36	10.6	9	2.6	9	2.6	341
	女性	150	35.9	197	47.1	183	43.8	122	29.2	75	17.9	65	15.6	39	9.3	67	16.0	34	8.1	59	14.1	6	1.4	20	4.8	418
	無回答	2	11.8	4	23.5	2	11.8	2	11.8	1	5.9	2	11.8	2	11.8	2	11.8	1	5.9	4	23.5	0	0.0	7	41.2	17
計	267	34.4	363	46.8	325	41.9	220	28.4	122	15.7	117	15.1	85	11.0	135	17.4	65	8.4	99	12.8	15	1.9	36	4.6	776	

【全体男女別】

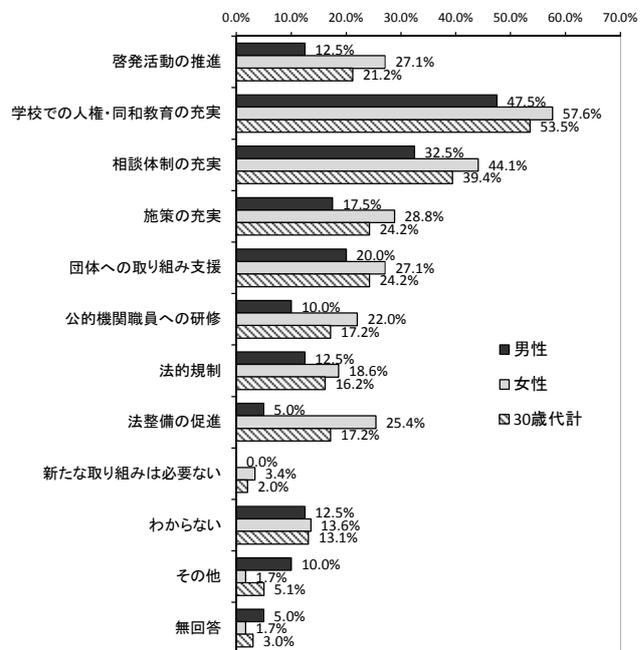


【年代男女別】

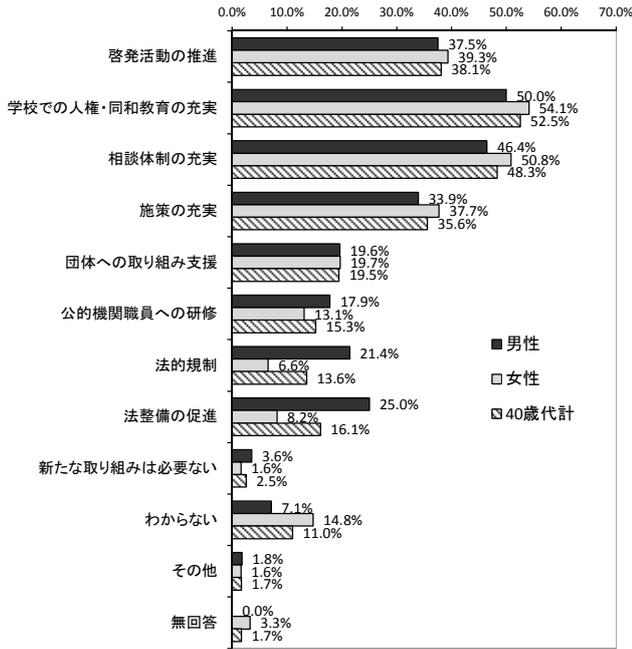
20歳代



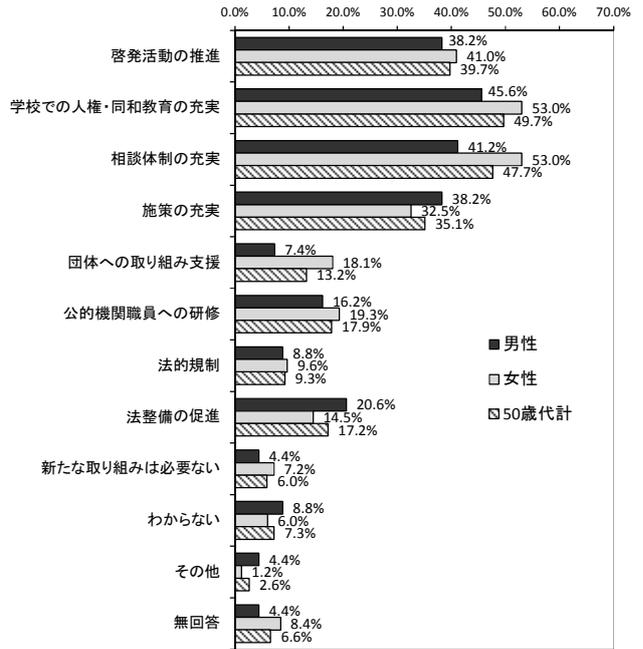
30歳代



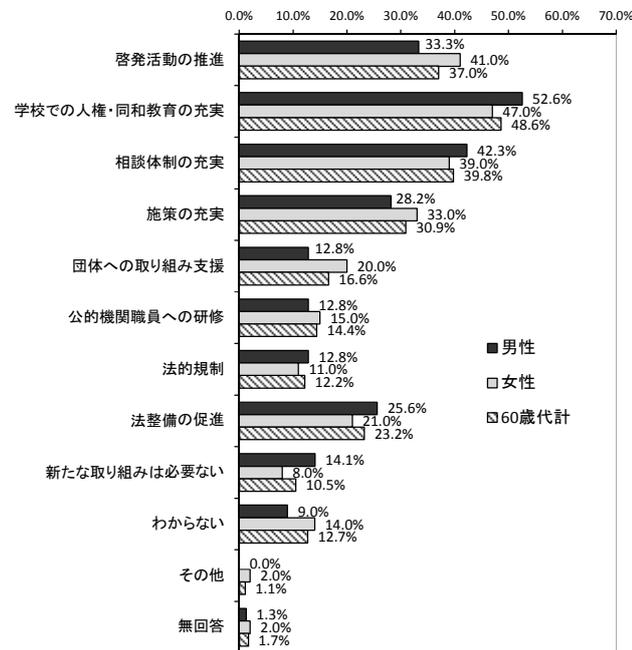
40歳代



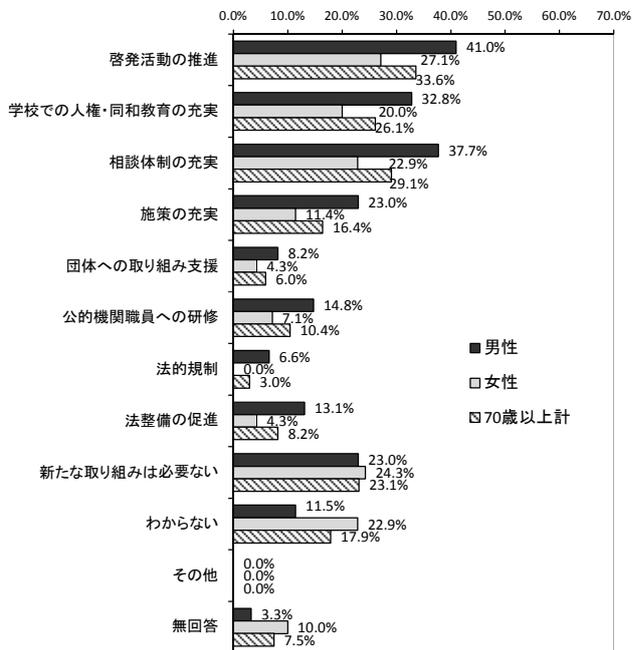
50歳代



60歳代

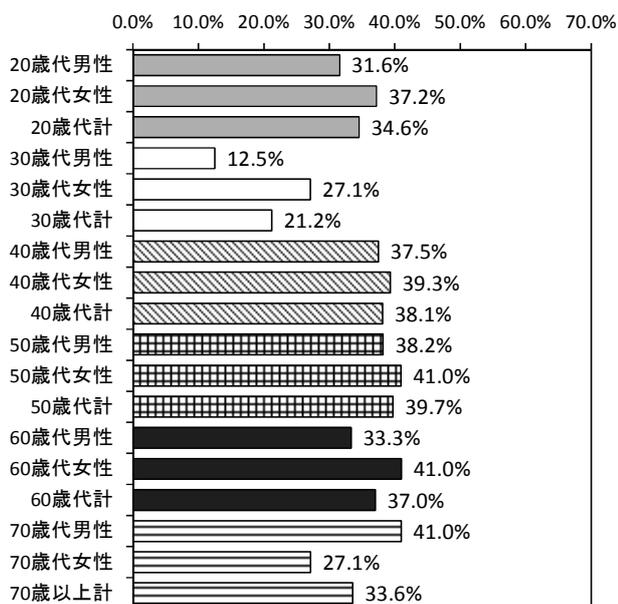


70歳以上

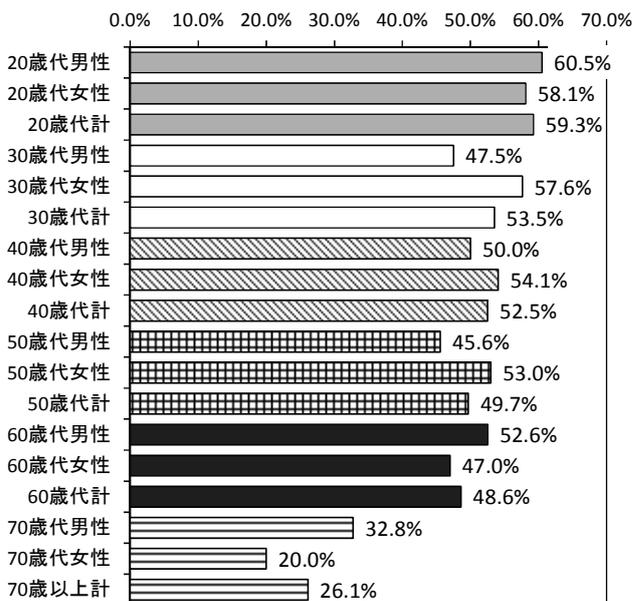


【選択肢・年代男女別】

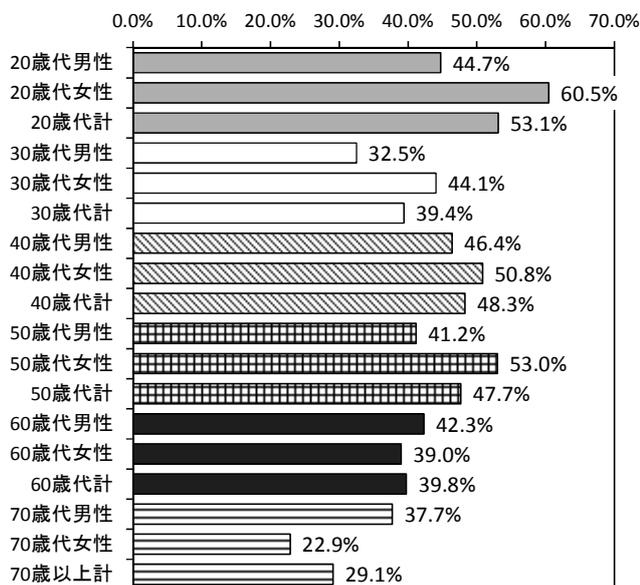
1. 啓発活動の推進



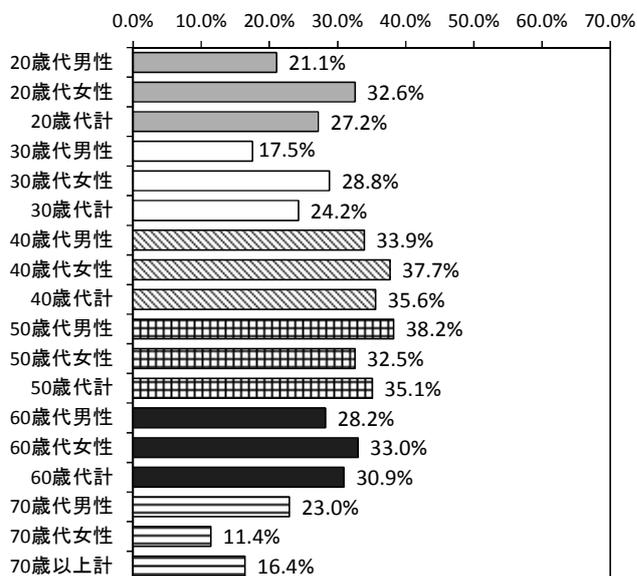
2. 学校での人権・同和教育の充実



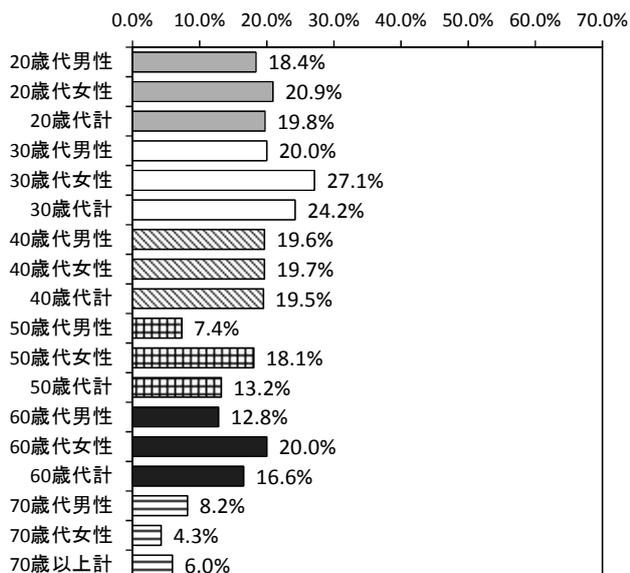
3. 相談体制の充実



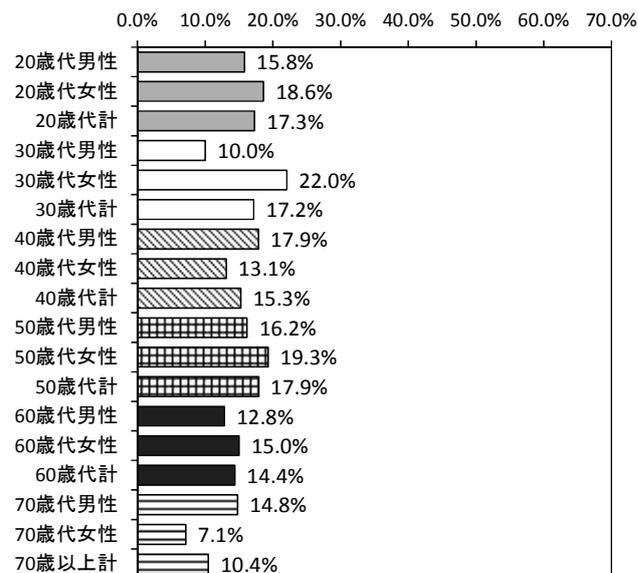
4. 施策の充実



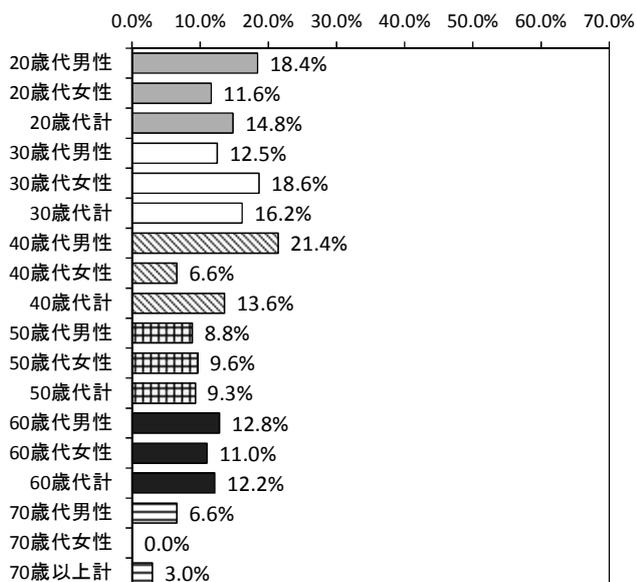
5. 団体への取り組み支援



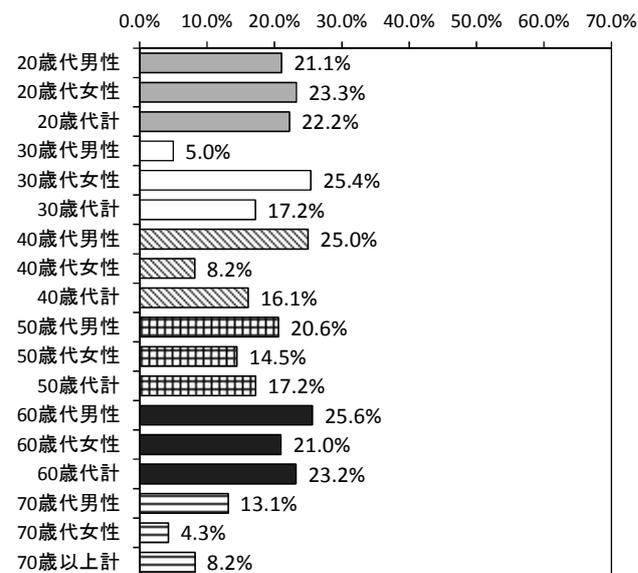
6. 公的機関職員への研修



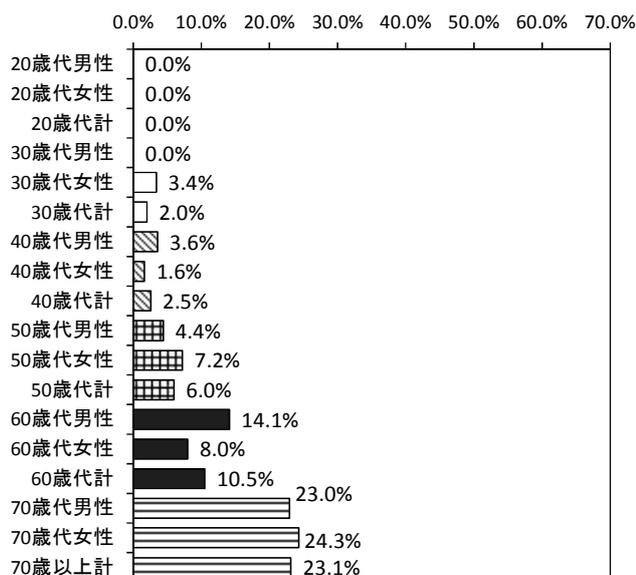
7. 法的規制



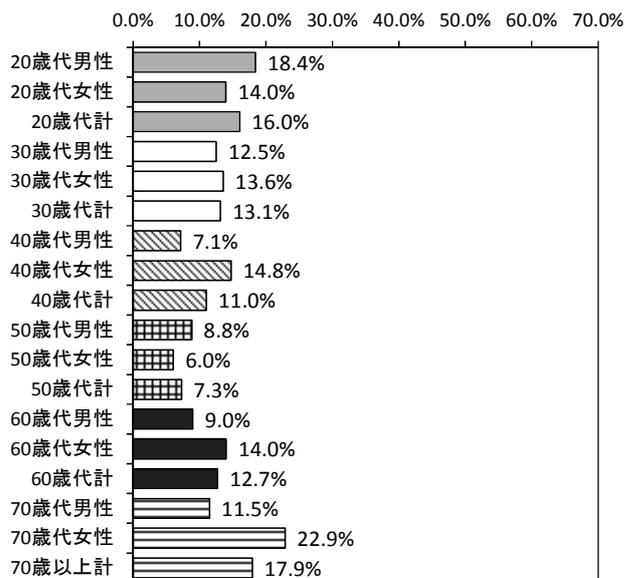
8. 法整備の促進



9. 新たな取り組みは必要ない



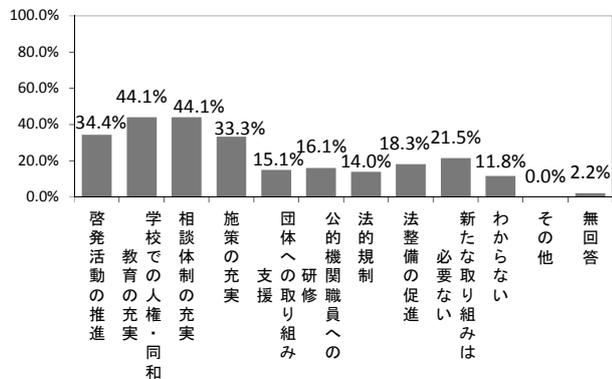
10. わからない



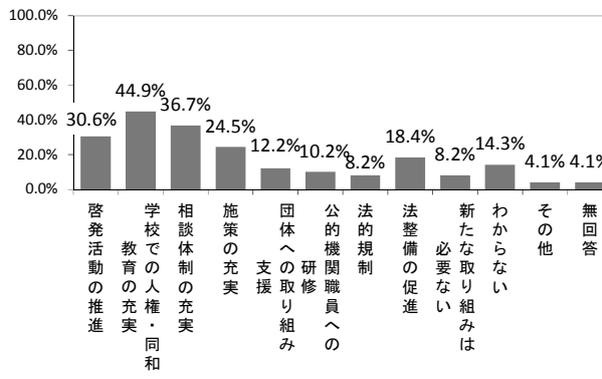
【職業別】

質問16 職業別	1. 啓発活動の推進		2. 学校での人権・同和教育の充実		3. 相談体制の充実		4. 施策の充実		5. 団体への取り組み支援		6. 公的機関職員への研修		7. 法的規制		8. 法整備の促進		9. 新たな取り組みは必要ない		10. わからない		11. その他		無回答	回答者数	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%			
農林漁業者	32	34.4	41	44.1	41	44.1	31	33.3	14	15.1	15	16.1	13	14.0	17	18.3	20	21.5	11	11.8	0	0.0	2	2.2	93
自営業者	15	30.6	22	44.9	18	36.7	12	24.5	6	12.2	5	10.2	4	8.2	9	18.4	4	8.2	7	14.3	2	4.1	2	4.1	49
企業・団体職員	59	32.4	83	45.6	77	42.3	52	28.6	22	12.1	22	12.1	12	6.6	31	17.0	7	3.8	21	11.5	4	2.2	3	1.6	182
保育士・教員	12	60.0	17	85.0	11	55.0	9	45.0	9	45.0	5	25.0	3	15.0	6	30.0	0	0.0	1	5.0	0	0.0	0	0.0	20
医療・福祉等関係者	18	37.5	32	66.7	24	50.0	18	37.5	16	33.3	14	29.2	4	8.3	12	25.0	2	4.2	0	0.0	1	2.1	2	4.2	48
公務員	10	45.5	13	59.1	8	36.4	7	31.8	2	9.1	2	9.1	4	18.2	2	9.1	1	4.5	2	9.1	1	4.5	2	9.1	22
家事従事者	38	48.7	45	57.7	32	41.0	23	29.5	18	23.1	15	19.2	10	12.8	17	21.8	3	3.8	8	10.3	2	2.6	1	1.3	78
パート・アルバイト等	24	28.2	35	41.2	36	42.4	24	28.2	7	8.2	9	10.6	14	16.5	12	14.1	4	4.7	13	15.3	2	2.4	3	3.5	85
学生	11	45.8	21	87.5	17	70.8	7	29.2	8	33.3	9	37.5	4	16.7	8	33.3	0	0.0	2	8.3	0	0.0	0	0.0	24
無職	44	30.8	46	32.2	50	35.0	33	23.1	15	10.5	17	11.9	13	9.1	18	12.6	21	14.7	28	19.6	1	0.7	13	9.1	143
その他	2	12.5	5	31.3	5	31.3	1	6.3	4	25.0	2	12.5	1	6.3	0	0.0	2	12.5	5	31.3	2	12.5	2	12.5	16
無回答	2	12.5	3	18.8	6	37.5	3	18.8	1	6.3	2	12.5	3	18.8	3	18.8	1	6.3	1	6.3	0	0.0	6	37.5	16
全体	267	34.4	363	46.8	325	41.9	220	28.4	122	15.7	117	15.1	85	11.0	135	17.4	65	8.4	99	12.8	15	1.9	36	4.6	776

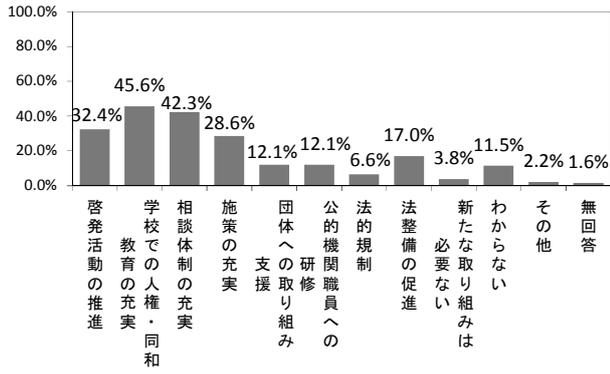
農林漁業者



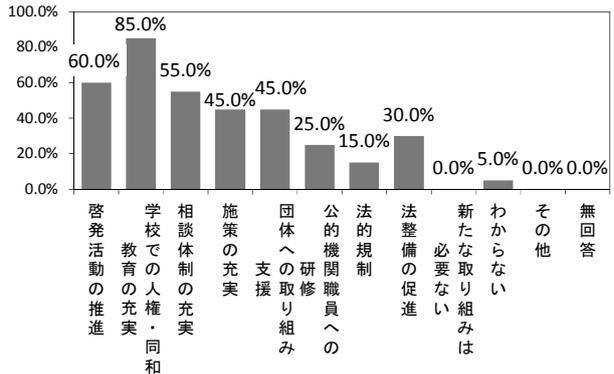
自営業者



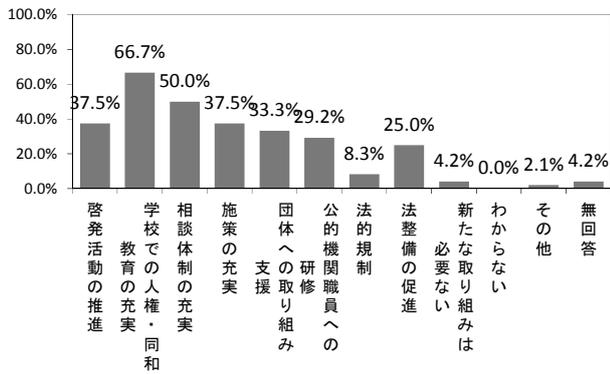
企業・団体職員



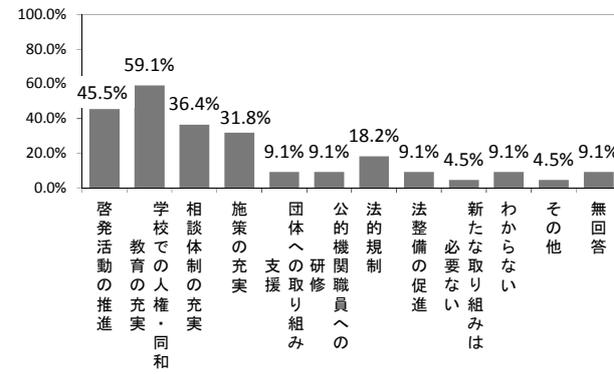
保育士・教員



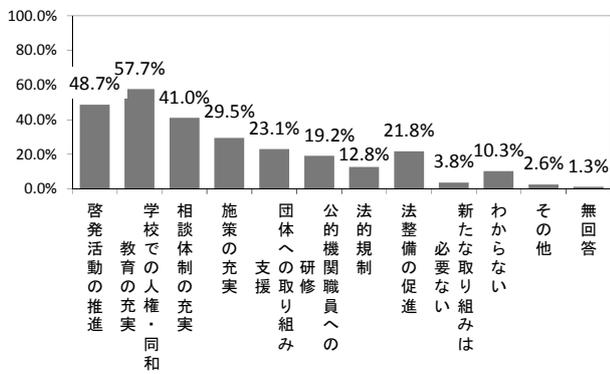
医療・福祉等関係者



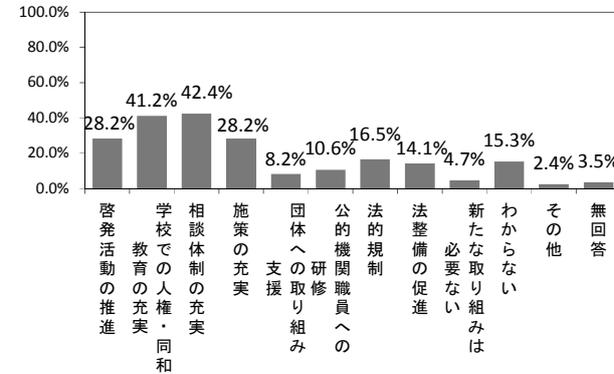
公務員



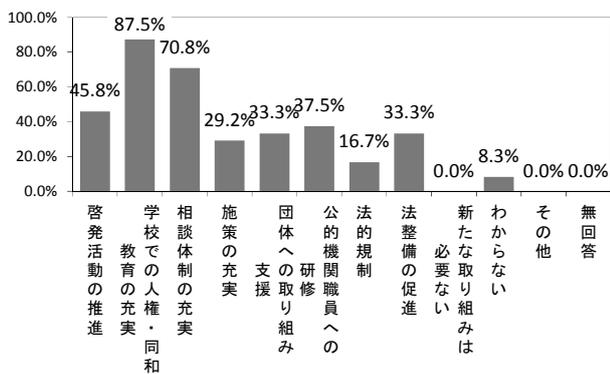
家事従事者



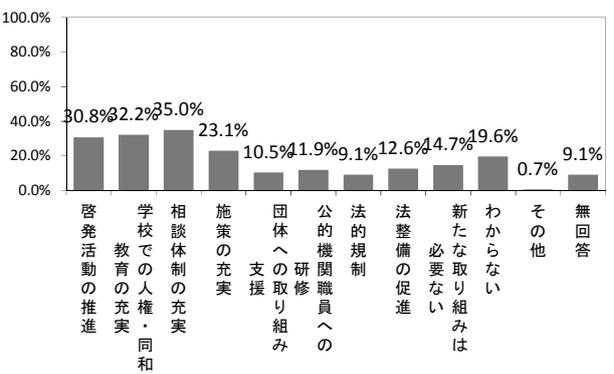
パート・アルバイト等



学生

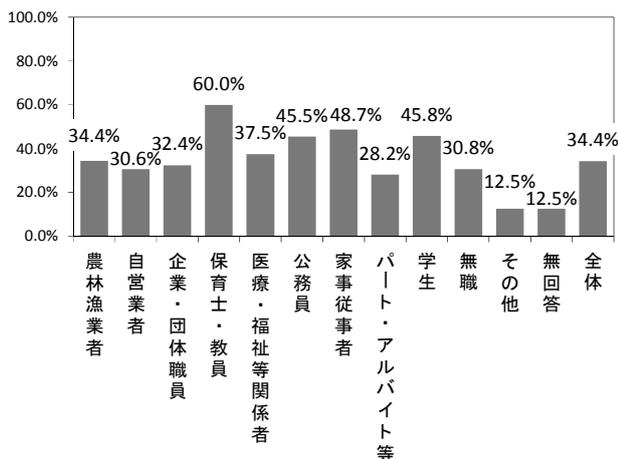


無職

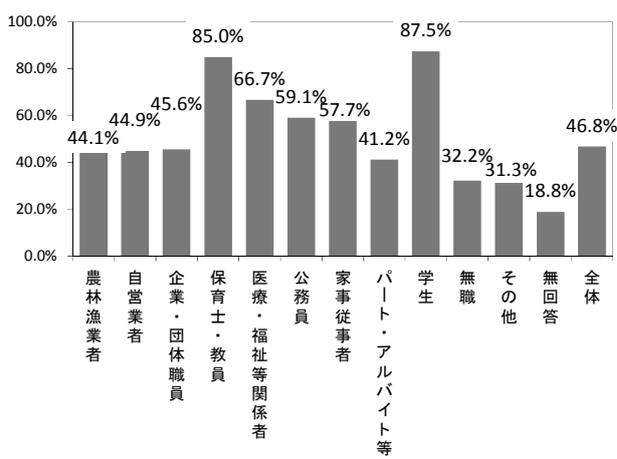


【選択肢別（職業）】

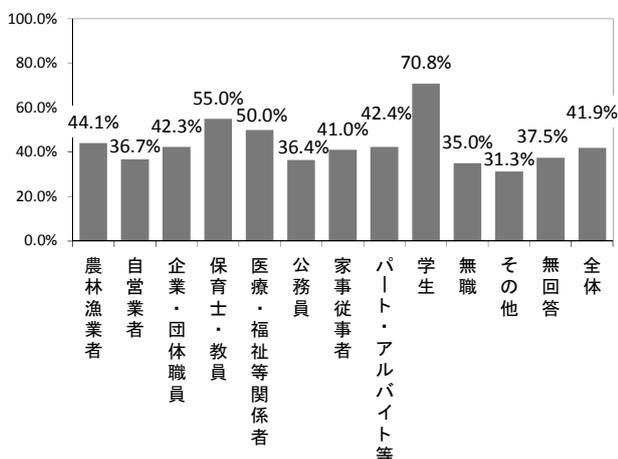
1. 啓発活動の推進



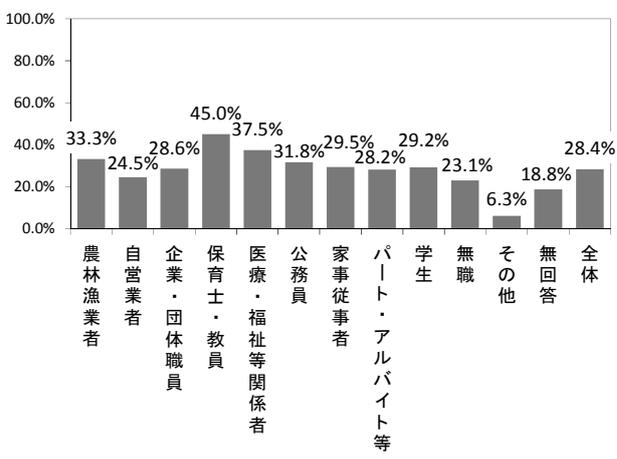
2. 学校での人権・同和教育の充実



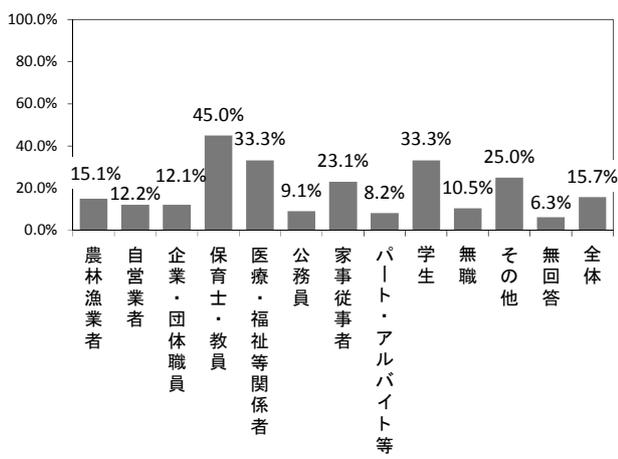
3. 相談体制の充実



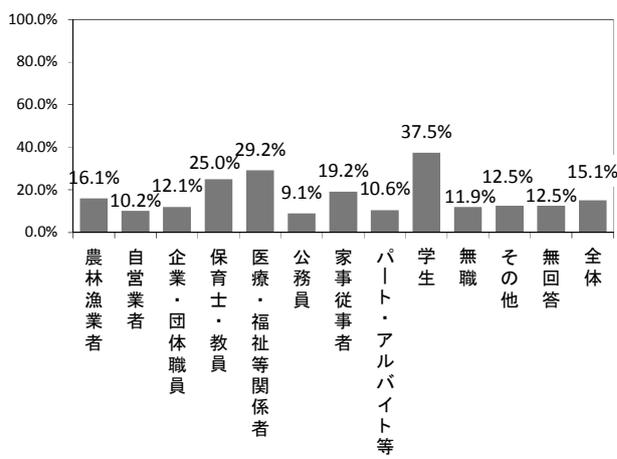
4. 施策の充実



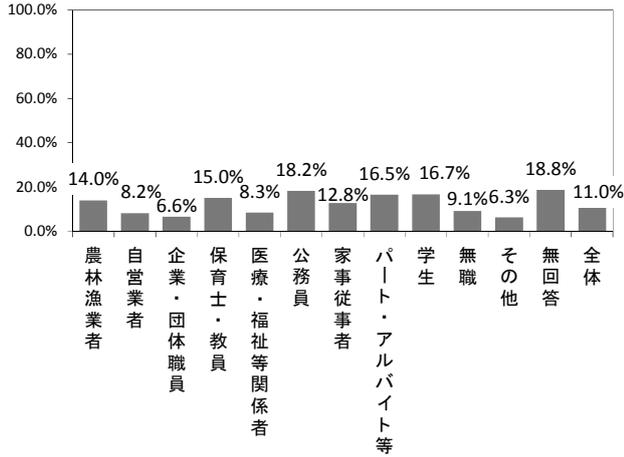
5. 団体への取り組み支援



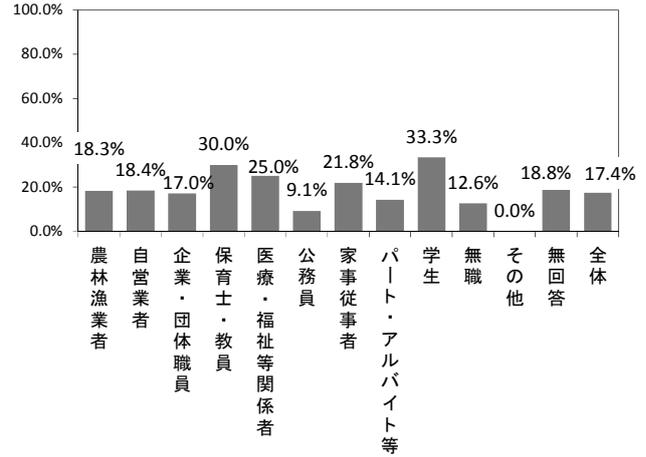
6. 公的機関職員への研修



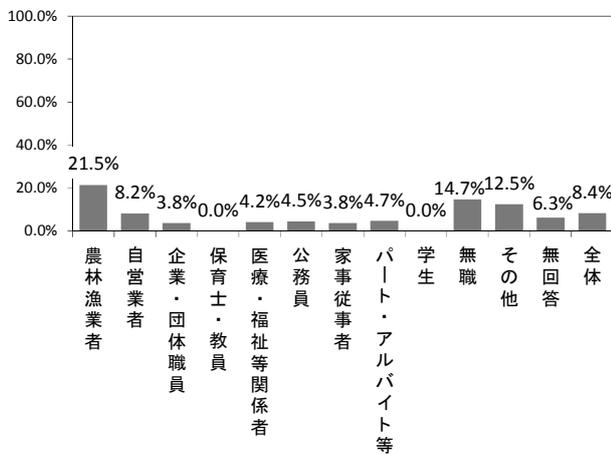
7. 法的規制



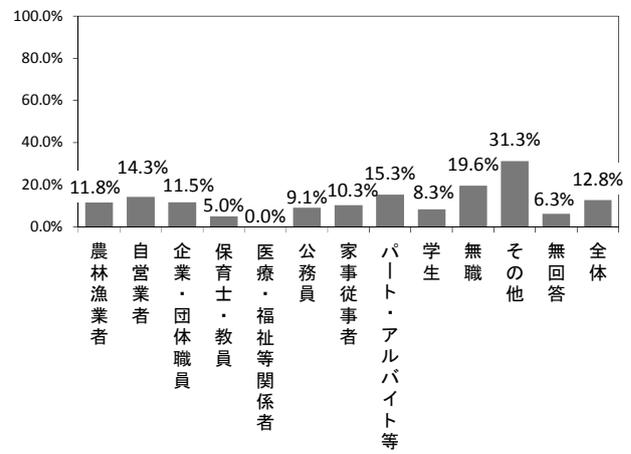
8. 法整備の促進



9. 新たな取り組みは必要ない



10. わからない



○ 全体では、50%を超えるものはない。「学校での人権・同和教育の充実」と「相談体制の充実」のみ40%台で、「啓発活動の推進」、「施策の充実」が30%前後、「法整備の促進」、「団体への取り組み支援」、「公的機関職員への研修」が16%前後、「わからない」、「法的規制」、「新しい取り組みは必要ない」が10%前後。

○ 年代では、次のような傾向、特徴がみられる。

- ・ 「啓発活動の推進」は、30歳代以外は35%前後であり大きな差はない。30歳代は21.2%で、最も高い50歳代39.7%より18.5ポイント低い。
- ・ 70歳以上は「学校での人権・同和教育の充実」26.1%、「相談体制の充実」29.1%、「施策の充実」16.4%、「団体への取り組み支援」6.0%、「公的機関職員への研修」10.4%、「法的規制」3.0%、「法整備の促進」8.2%が、年代中最も低い。「新しい取り組みは必要ない」23.1%と「わからない」17.9%は年代中最も高い。
- ・ 「学校での人権・同和教育の充実」は20歳代59.3%が最も高く、年代が上がるにつれて割合が下がるが、60歳代も50%近い。60歳代と70歳以上は22.5ポイント、20歳代と70歳以上は33.2ポイントの差がある。20歳代は「相談体制の充実」も53.1%で年代中最も高く、70歳以上と24.0ポイントの差がある。また、20歳代のみ「新しい取り組みは必要ない」が0.0%である。

○ 年代男女別では、次のような傾向、特徴がみられる。

- ・ 20歳代は「相談体制の充実」が男性44.7%、女性は年代男女中最も高い60.5%で、15.8ポイントの差がある。「施策の充実」は男性21.1%、女性32.6%で、11.5ポイントの差。「学校での人権・同

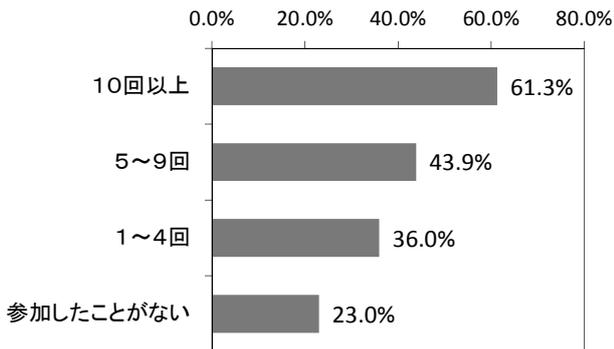
和教育の充実」は男性 60.5%が年代男女中最も高く、女性 58.1%が続く。

- ・ 30 歳代は男女でいくつも差がみられる。男性は「啓発活動の推進」12.5%が年代男女中最も低く、女性も男性に次いで低い 27.1%だが、14.6 ポイントの差がある。「学校での人権・同和教育の充実」も 10.1 ポイント女性の方が高い。男性は「相談体制の充実」32.5%、「施策の充実」17.5%、「公的機関職員への研修」10.0%、「法整備の促進」5.0%が、70 歳以上女性に次いで低く、特に、「法整備の促進」は同年代女性と 20.4 ポイントの差がある。しかし、30 歳代男性は「新しい取り組みは必要ない」が 0.0%である。
 - ・ 40 歳代は、「法的規制」が男性は年代男女中最も高い 21.4%、女性は 70 歳以上女性に次いで低い 6.6%で、14.8 ポイントの差がある。また、「法整備の促進」も男性 25.0%、女性 8.2%で、16.8 ポイントの差がある。
 - ・ 50 歳代女性は「相談体制の充実」が年代男女中 2 番目に高い 53.0%で、男性と 11.8 ポイントの差がある。「団体への取り組み支援」は、女性は 18.1%だが、男性は 70 歳以上女性に次いで低い 7.4%で、10.7 ポイントの差がある。
 - ・ 60 歳代は男女で大きな差はみられない。
 - ・ 70 歳以上女性は「学校での人権・同和教育の充実」20.0%、「相談体制の充実」22.9%、「施策の充実」11.4%、「団体への取り組み支援」4.3%、「公的機関職員への研修」7.1%、「法的規制」0.0%、「法整備の促進」4.3%が年代男女中最も低い。「必要ない」24.3%と「わからない」22.9%は年代男女中最も高い。70 歳以上男女で差がみられるのは、「啓発活動の推進」13.9 ポイント、「学校での人権・同和教育の充実」12.8 ポイント、「相談体制の充実」14.8 ポイント、「施策の充実」11.6 ポイントで、いずれも男性の方が高い。また、「わからない」は女性 22.9%が年代男女中最も高く、男性と 11.4 ポイントの差がある。
- 職業等では、次のような傾向、特徴がみられる。
- ・ パート・アルバイト等と無職以外、どの職業も「学校での人権・同和教育の充実」が最も高い。特に、学生と保育士・教員は 85%を超える。医療・福祉等関係者が 7 割近く、公務員と家事従事者が 6 割、自営業者、企業・団体職員、農林漁業者が 45%前後、パート・アルバイト等と無職が 30%台である。パート・アルバイト等と無職は全体的に低い。
 - ・ 学生と保育士・教員は、他の職業等より大幅に高いものがいくつかある。学生は「相談体制の充実」70.8%、「公的機関職員への研修」37.5%、「法整備の促進」33.3%が職業等の中で最も高い。保育士・教員は「啓発活動の推進」60.0%、「施策の充実」45.0%、「団体への取り組み支援」45.0%が職業等の中で最も高い。ただ、「公的機関職員への研修」25.0%、「法的規制」15.0%、「法整備の促進」30.0%は、他の職業等よりは高くても、保育士・教員の中では低い。学生と保育士・教員だけが「新しい取り組みは必要ない」が 0.0%である。
 - ・ 公務員は、「法的規制」18.2%は職業等の中では最も高いが、「公的機関職員への研修」と「法整備の促進」は 9.1%で、職業等の中で最も低い。「相談体制の充実」36.4%、「団体等への取り組み支援」9.1%も他の職業等より低い。
 - ・ 「新しい取り組みは必要ない」は農林漁業者 21.5%が最も高い。無職も 14.7%で、他の職業等より高い。

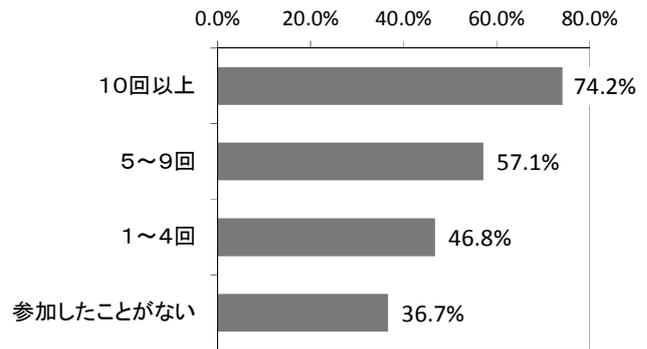
【質問16（行政の施策として必要なこと）と質問6-1（研修等への参加回数）の関連】

質問16 質問6-1	1. 啓発活動の推進		2. 学校での人権・同和教育の充実		3. 相談体制の充実		4. 施策の充実		5. 団体への取り組み支援		6. 公的機関職員への研修		7. 法的規制		8. 法整備の促進		9. 新たな取り組みは必要ない		10. わからない		11. その他		無回答		6-1 回答者数
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
1. 10回以上	38	61.3	46	74.2	39	62.9	31	50.0	20	32.3	14	22.6	8	12.9	16	25.8	2	3.2	2	3.2	1	1.6	2	3.2	62
2. 5～9回	43	43.9	56	57.1	44	44.9	33	33.7	19	19.4	15	15.3	11	11.2	18	18.4	5	5.1	5	5.1	1	1.0	5	5.1	98
3. 1～4回	123	36.0	160	46.8	140	40.9	103	30.1	53	15.5	54	15.8	33	9.6	51	14.9	25	7.3	33	9.6	5	1.5	13	3.8	342
4. 参加したことがない	62	23.0	99	36.7	102	37.8	53	19.6	30	11.1	34	12.6	33	12.2	50	18.5	32	11.9	58	21.5	8	3.0	16	5.9	270
無回答	1	25.0	2	50.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	25.0	1	25.0	0	0.0	0	0.0	4

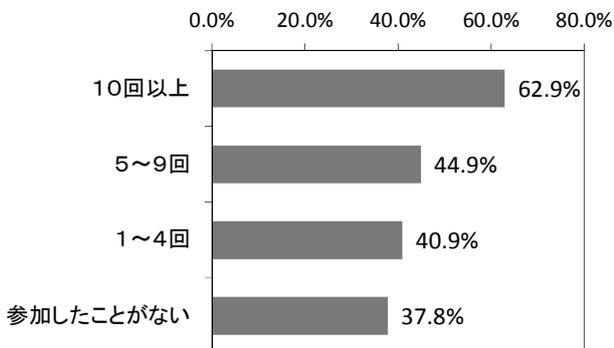
1. 啓発活動の推進



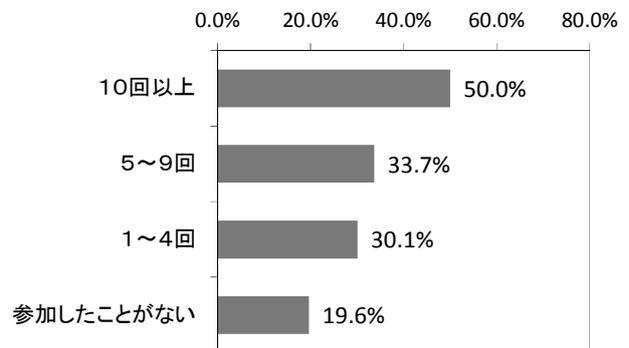
2. 学校での人権・同和教育の充実



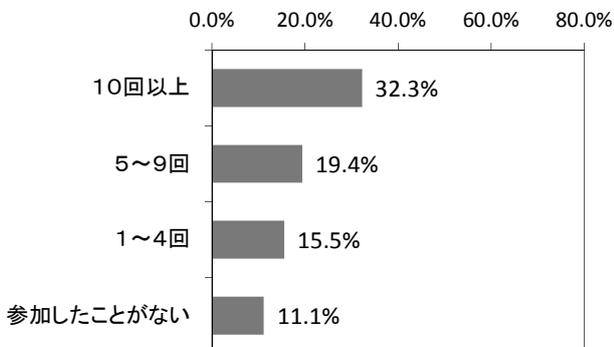
3. 相談体制の充実



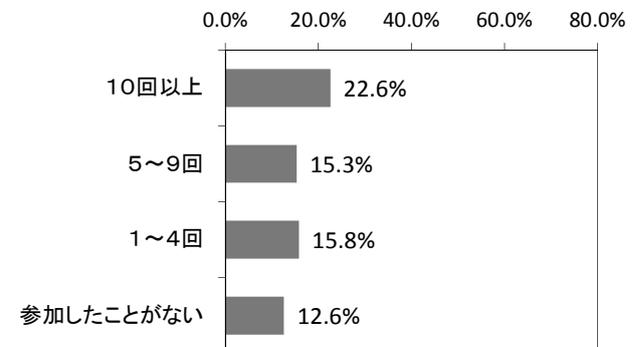
4. 施策の充実



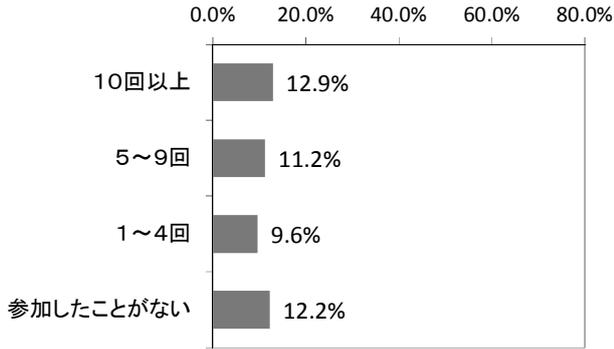
5. 団体への取り組み支援



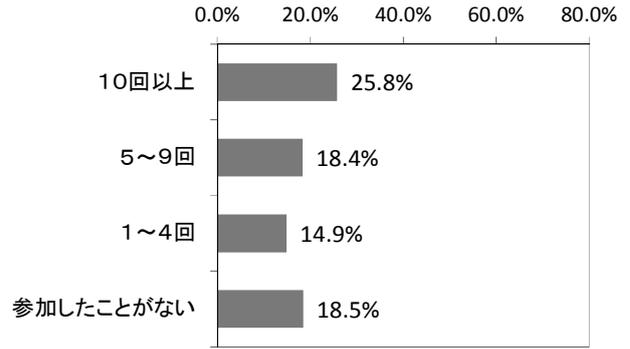
6. 公的機関職員への研修



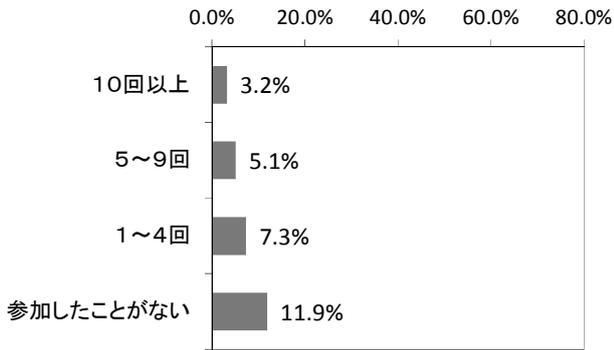
7. 法的規制



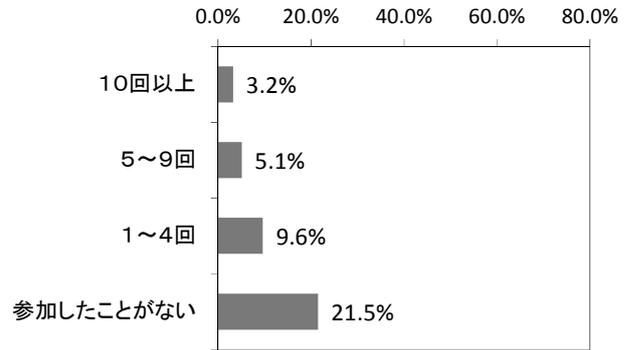
8. 法整備の促進



9. 新たな取り組みは必要ない



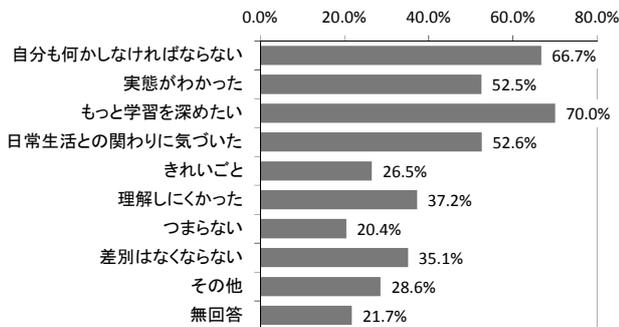
10. わからない



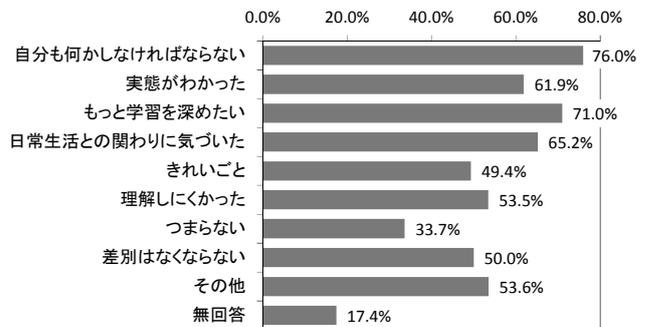
【質問16（行政の施策として必要なこと）と質問6-4（研修等へ参加した感想）の関連】

質問6-4	1. 啓発活動の推進		2. 学校での人権・同和教育の充実		3. 相談体制の充実		4. 施策の充実		5. 団体への取り組み支援		6. 公的機関職員への研修		7. 法的規制		8. 法整備の促進		9. 新たな取り組みは必要ない		10. わからない		11. その他		無回答	回答者数	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%			
1. 自分も何かしなければならぬ	86	66.7	98	76.0	78	60.5	61	47.3	41	31.8	34	26.4	18	14.0	34	26.4	1	0.8	1	0.8	1	0.8	4	3.1	129
2. 実態がわかった	84	52.5	99	61.9	86	53.8	66	41.3	41	25.6	36	22.5	19	11.9	30	18.8	3	1.9	5	3.1	2	1.3	5	3.1	160
3. もっと学習を深めたい	70	70.0	71	71.0	63	63.0	51	51.0	36	36.0	28	28.0	15	15.0	29	29.0	1	1.0	1	1.0	1	1.0	2	2.0	100
4. 日常生活との関わりに気づいた	121	52.6	150	65.2	121	52.6	98	42.6	59	25.7	52	22.6	25	10.9	48	20.9	5	2.2	6	2.6	3	1.3	9	3.9	230
5. きれいごと	22	26.5	41	49.4	37	44.6	23	27.7	10	12.0	19	22.9	14	16.9	15	18.1	5	6.0	8	9.6	3	3.6	6	7.2	83
6. 理解しにくかった	16	37.2	23	53.5	17	39.5	9	20.9	7	16.3	8	18.6	5	11.6	4	9.3	1	2.3	8	18.6	1	2.3	3	7.0	43
7. つまらない	20	20.4	33	33.7	33	33.7	25	25.5	4	4.1	10	10.2	10	10.2	14	14.3	19	19.4	12	12.2	1	1.0	3	3.1	98
8. 差別はなくならない	47	35.1	67	50.0	60	44.8	39	29.1	24	17.9	18	13.4	21	15.7	22	16.4	10	7.5	12	9.0	3	2.2	4	3.0	134
9. その他	8	28.6	15	53.6	12	42.9	7	25.0	2	7.1	4	14.3	4	14.3	6	21.4	2	7.1	2	7.1	1	3.6	2	7.1	28
無回答	5	21.7	4	17.4	5	21.7	5	21.7	4	17.4	4	17.4	0	0.0	2	8.7	2	8.7	7	30.4	0	0.0	4	17.4	23

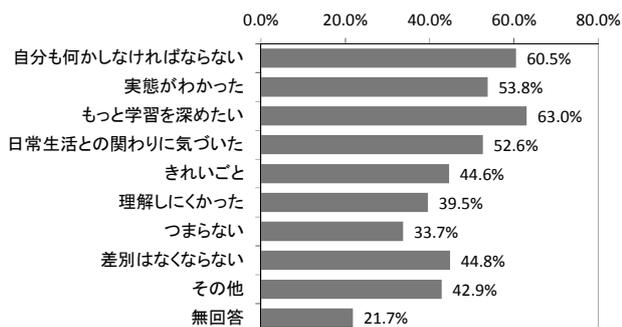
1. 啓発活動の推進



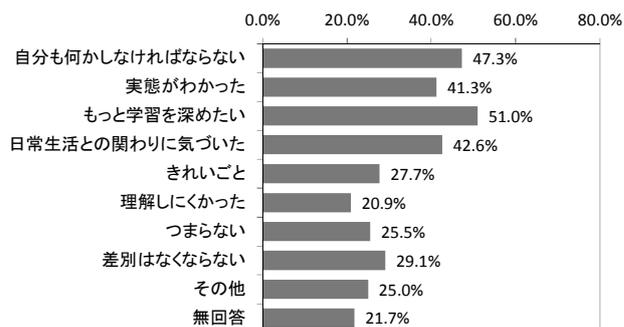
2. 学校での人権・同和教育の充実



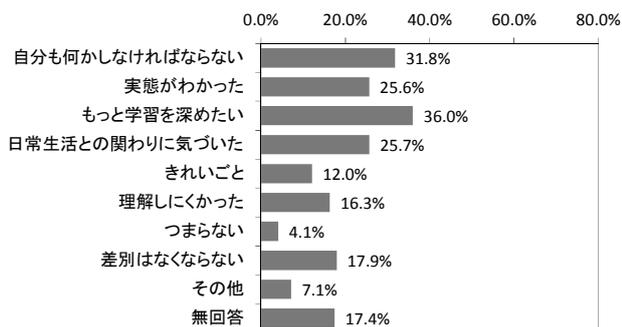
3. 相談体制の充実



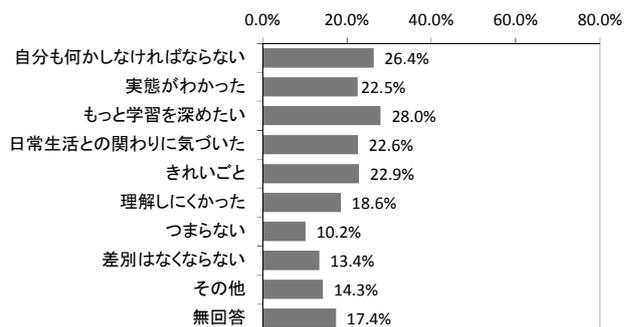
4. 施策の充実



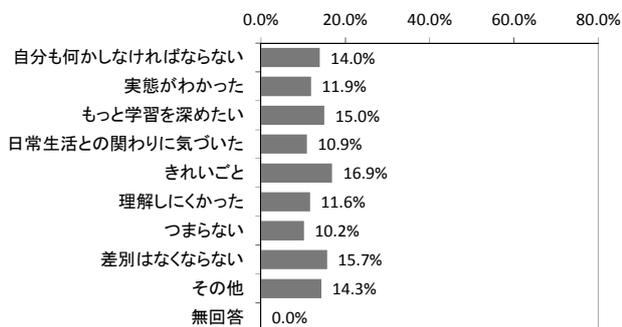
5. 団体への取り組み支援



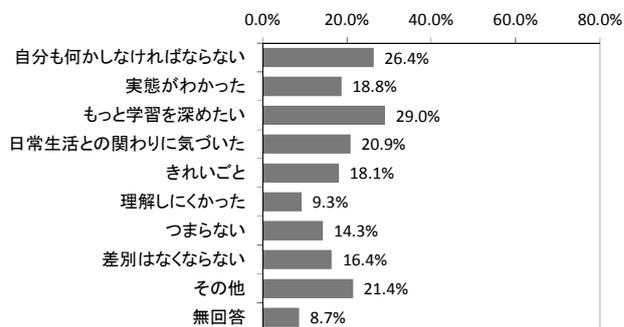
6. 公的機関職員への研修



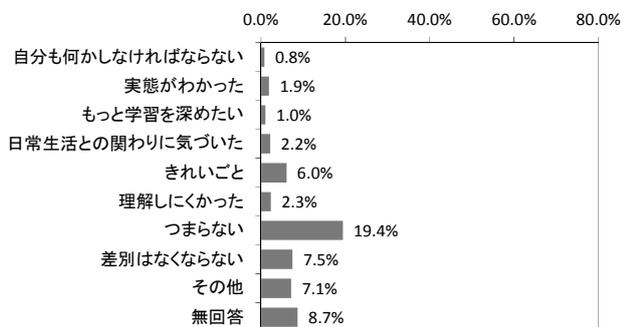
7. 法的規制



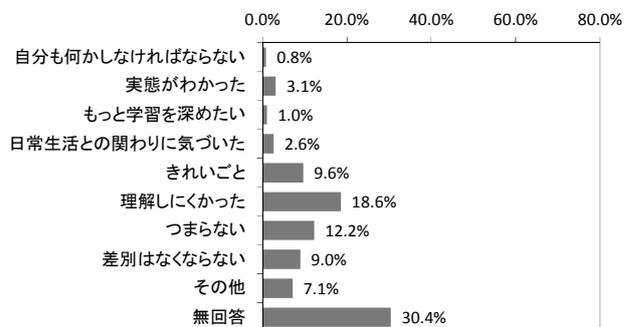
8. 法整備の促進



9. 新たな取り組みは必要ない



10. わからない



【質問6-1と質問16】

「啓発活動の推進」、「学校での人権・同和教育の充実」、「相談体制の充実」、「施策の充実」、「団体への取り組み支援」は、参加回数の増加に伴って割合が高くなっている。「公的機関職員への研修」、「法的規制」、「法整備の促進」も「10回以上」の人が最も高いが、0～9回の参加の人とあまり大きな差はない。「新たな取り組みは必要ない」と「わからない」は、参加回数が少なくなるにつれ高くなっている。

【質問6-4と質問16】

〔質問6-4〕で、積極的・肯定的な感想（「自分も何かしなければならぬ」、「実態がわかった」、「もっと学習を深めたい」、「日常生活との関わりに気づいた」）の人と、消極的・否定的な感想（「きれいごと」、「理解しにくかった」、「つまらない」、「差別はなくなるらない」）の人とでは、「啓発活動の推進」、「学校での人権・同和教育の充実」、「相談体制の充実」、「施策の充実」、「団体への取り組み支援」で差が開いた。また、〔質問6-4〕で「つまらない」と答えている人は「新たな取り組みは必要ない」が、「理解しにくかった」と答えている人は「わからない」が、他の感想の人より高い。

質問17 人権・同和教育に関して、ご意見ご感想があればお聞かせください。

調査票の最後に自由に意見を記入する欄を設けた。記入者は155人あり、全体の20.0%の人が記入した。

1. 人権・同和教育及び啓発に対する意見

(1) 教育・啓発、施策の継続、今後を期待している

- ① 人権・同和教育は何歳になっても人々が平等に生きていく社会にしていくために重要なことだと思います。これからの施策の充実を期待しています。〈20歳代女性／学生〉
- ② うまく伝わらないかもしれませんが、一歩ずつコツコツと啓発したり、話をする場を設けたりして、今までしてきたことを大切にしていくといいと思っています。今まで通りではなく、プラスアルファして。〈30歳代女性／保育士・教員〉
- ③ 「家庭の中での人権」をまず守れることが一番大切なのでは？（家庭でできなければ、外では絶対ムリ！）子どもの意見も認めてやる、きちんと聞く、とか。夫婦間で夫が妻に対して「女はこうするもの」ということを押し付けたりして、人権を奪っていないかとか、高齢者への思いやりなど人権が守られているかなど、一番身近なところからきちんと実践していくことが大切！今、一つでも二つでも変えていけば、連鎖も少しずつ減っていくと思います。期待しています。がんばってください。〈40歳代女性／家事従事者〉
- ④ 難しいことだけど、取り組みをやめてしまえば、今までの努力が無駄になってしまうと思う。差別は部落のことだけでなく、あらゆる人たちに関り、絶対に関ったことのない人なんていない、そう思います。誰にでもある差別意識（そんなつもりじゃなくても人を傷つけてしまうこともある）に気づき、正していける人になりたいと思います。それには、知ること・学ぶことが大切。だから研修には積極的に参加して、力をつけることが必要だと思います。そして、自分も正していけるような素直さを持ちたいです。〈40歳代女性／医療・福祉等関係者〉

(2) 子どもの頃からの教育が必要

- ① 一番はやはり小～高校生に対しての教育だと思います。〈20歳代女性／学生〉
(※どの年代にも同様の意見が複数あり)
- ② 同和教育は小さい頃からしっかり学んでいくことが大事だと思う。子どもにも、子どもを取り巻く大人にも、人として幸せに生きるために必要な学びだと思う。どんな環境にある人にも、学ぶべき教育だと思う。誰かのためでなく、自分のために知っておくべき学びであると思う。
自分が大事な存在であることをしっかり刻み、だからこそ自分以外の誰もが大切な存在であることに気づいたり思いをはせたり行動に移していけたり。人として一番のおおもとになる教育が同和教育だと私は感じているし、子どもにも伝えている。〈40歳代女性／企業・団体職員〉
- ③ 小さい頃からの教育がいいと思います。中学、高校になってくると周りの目に流されてしまうこともあるので。根気のいることで、先生方への負担も増えますが、繰り返し、繰り返しお願いしたいです。〈50歳代女性／パート・アルバイト等〉

(3) 教育・啓発に否定的ではないが、改善策など問題提起がなされているもの

- ① 学校では人権・同和教育の機会があったが、社会人になってからはそんな機会もなくなってしまった。研修などは開かれているかもしれないが、仕事が忙しくなかなか行けないので、そんな自分みたいな人がどう参加していくのかがこれからの問題なのかなと思います。〈20歳代男性／企業・団体職員〉

- ② 小・中学校などで差別について学んだことは、今、活かされているのでこれからも続けていってほしい。差別意識はもちろんよいことではないが、差別意識をなぜどんな時に持ったのか、その差別意識をどう自分の中で整理すべきなのかを学ぶようなこともなければ、ただ、ダメだと言われても根本的な解決にはならないのではないかと思う。〈20 歳代女性／学生〉
- ③ 就労面で差別があるとすれば、その企業のトップの方針だと思うが、そこへは教育・指導しているのか？そこをクリアしなければこの問題は解決しない。そもそも学生に教育するより、中高年に教育すべきだと思う。〈30 歳代男性／医療・福祉等関係者〉
- ④ 人権・同和教育の研修会などに参加して思ったことは、あまりにも広い範囲で人権問題に入っているように思えた。普段あまり考えていないようなことまで、差別的に取り扱っているくらいがあるのでは？どこから、どこら辺までが人権にかかわってくるのか？すごく難しい問題だと思います。〈50 歳代男性／企業・団体職員〉
- ⑤ 人権は学校での教育が必要であり、指導者も育成すべきだ。〈60 歳代男性／無職〉
- ⑥ 高齢者向けの部落問題学習もあるといいです。各部落での高齢者の会の時などに少し時間をもらって。人権問題、部落問題に対しての考えに個人差があると思います。個人差を縮める方策があるといいのですが。〈60 歳代女性／家事従事者〉
- ⑦ 人権・同和教育は、皆わかっているようでわかっていないのが現状だと思います。周りに差別が発生していても、自分にかかわりなければ正すこともなく見逃している、または、何が人権にかかわる問題かもわからず、害を受けたものだけが腹を立てるのみで、人権を尊重する・しないではなく「人権」という意味を十分理解させることが大切に思う。〈70 歳以上女性／家事従事者〉

(4) 若い世代は理解している（差別はしない）が、高齢者の意識改革は困難

- ① 部落差別に関して言えば、若い世代は子どもの頃からある程度の学習を受けることで、差別的な考えや発言をする人間がいたとしてもそれはごく一部に限られると思う。しかし、そのような教育を受けてこなかった上の世代の人で、凝り固まった差別意識を持っている人たちの意識を変えていくのはかなり難しいことのように思う。また、講演会や啓発活動はとても重要であるが、前述のような人たちがこのような活動に自ら参加するとは思えず、差別を完全になくすのは不可能ではないかとジレンマにかられる。時が経ち、その世代の人たちがいなくなることで、相対的に差別をする者も減るとは思うが、やはりゼロにするとなると難しいと思う。法整備の強化など抜本的な改革が必要であると思う。〈20 歳代男性／保育士・教員〉
- ② 若い者は、知らない者、知っていても過去の実態までは知らず、他人事のような感じであり重要なこととして考えていない。それはそれでいいのだと思う。（差別ということがあった事実をきちんと知識として持っていれば）しかし、高齢者は昔の「差別」が根強く残っており、そして体験している。そう簡単にはぬぐいされるものではないように感じている。被差別部落のイメージが脳裏に焼き付いているようだ。現在は人権意識を高める研修活動がされているので、正しい知識を持ち、整った環境そして人的環境で育っていく子どもたちは大丈夫だろうと信じている。〈50 歳代女性／医療・福祉等関係者〉
- ③ 若い人たちが被差別部落出身というようなことをものともせず、どんどん結婚しておられる姿に頼もしさを感じています。この若い人のエネルギーこそが、部落差別撤廃の原動力になると考えます。残念ながら、中高年層にはこのエネルギーはないように感じます。だから、現在まで差別がダラダラと続いてきてしまったわけです。私は高齢者ですが、微力ながら人権尊重の精神を持ち続けながら差別撤廃の方向に向かって取り組んでいきたいと考えています。〈70 歳以上男性／無職〉

(5) 研修への参加の仕方・させ方、行政職員等の姿勢に対する意見

- ① 議員の方、町職員、先生、おそらく一般の方よりもたくさん勉強なさっているとは思いますが、ノルマで来られている方もたくさんいます。そういう気持ちになることもやはり、人権のイメージ、面倒・関係ないと思われてしまう一つの理由だと思います。〈30歳代女性／家事従事者〉
- ② 会を開催する側の人、会の時はいいことを言うけど、一人の人になると差別をしている人がたくさんいるので、そんな人の話をいくら聞いても説得力も何もないと思う。会の回数でなく、中身の濃い会をすることが重要だと思う。〈40歳代無回答／パート・アルバイト等〉
- ③ ただ出席すべきだから出席しているだけなので、もっと主催者側が本当に人権問題を大切に思うなら改革できる方法を考えて私たちを参加させてください。多くの人が貴重な時間を割いて参加しているので考えてください。ただ割り当て程度なら、ない方がいいです。〈40歳代女性／農林漁業者〉
- ④ 人権・同和教育に対して若い親も興味はあると思うが、町でやる研修、学校でやる研修は的を外した人が多いと思う。案外、町役場などの対応や考え方も当人を思いやるものではない。真剣に考えているとは思えないし、役場は役場とし、当人の立場に立とうとする姿もない。役場の人間の教育をちゃんとすべき。町民のことを救うこともできないで、ただ見ているだけが多すぎる。決まりごとだが人間としてどう対応すべきかもっと考えるべき。このままだと若い世代はこの町から出ていく人が増えるばかりだと思う。〈40歳代女性／自営業〉
- ⑤ 年何回も同じような教育を半強制的に行っても逆に反感を買うことになるのでは？何回教育を行って、何人が参加してという実績を作るためにように思える。多額の税金を有効に使ってほしい。援助・補助だけでは無駄遣い。〈60歳代男性／農林漁業者〉
- ⑥ 職場、地域において30年以上も前から同じような研修をやっており、参加者も増えてこない。公務員の方に差別を見抜く目が養えていない。残念でならない。職員も真剣さがなくて感じている。しっかり勉強してほしい。〈60歳代男性／無職〉
- ⑦ 公務員また、あらゆる行政職員（特に役場の職員）の方の一般町民に対する上から目線での見方、考え方はやめてほしい。あくまで同じ目の高さで、言葉を発してほしいし、また接してほしい。誰も命の重みは同じ。そのことを頭に入れて自死者、孤独死者のない琴浦町、皆が一つの心、輪になって生活できる琴浦町になることを願っております。そのために、職員また、いろいろな企業の中での人権教育・研修の場に、特に、経営者・トップに立つ人への人権教育の徹底をお願いします。〈60歳代女性／家事従事者〉

(6) 部落問題学習に重点を置くべき

- ① 同和教育をきちっと教育に入れなければ、今後の人権教育もおろそかになると考えます。同和教育が学習から薄れて人権と合わせた学習のやり方には疑問を感じています。基本は同和教育をやるべきだと思う。〈60歳代男性／無職〉
- ② 人権問題の原点であり、中核であるのは部落差別の問題である。ところが最近の取り組みは、あまりにも人権問題の取り組みに傾きすぎていて部落差別の観点が忘れ去られている。特にワークショップの取り組みでは、その傾向が強いと思う。ワークショップにはそれなりの効果や狙いがあるであろうが、今一つ現存する部落問題の解消という視点にも重きを置いた取り組みがなされることを期待する。〈70歳以上男性／無職〉

(7) 部落問題に偏らず、幅広く人権や人権問題の学習や施策に取り組むべき

- ① 人権教育はとても重要であり、必要と考えますが、人権教育＝部落問題という考えが浸透しているのがどうかと思う。特に、琴浦町では小学校・中学校（自分の時代）での人権教育の時間がほぼ部落問題に使われている。部落問題で飯を食っている人間がいるのではないかと、思いながら受けていま

した。中学校の文化祭で部落問題の舞台劇を見せられても、その土地の方々の自己満足じゃないの？
とっていました。このグローバル社会の中で、自分たちだけが差別を受けているという教育をされても困ります。＜30歳代男性／企業・団体職員＞

② 琴浦町は人権学習＝同和教育＝部落差別…。人権学習は他にもたくさんあるので、他の人権についてももっと勉強するべきだと思う。被差別部落の方に手厚すぎると思う。逆に差別だと思う。部落問題は勉強しないといけないと思うが、学習方法に問題があると思う。＜30歳代女性／企業・団体職員＞

③ 人権と同和教育（被差別部落）問題は分けて取り組むべき。＜50歳代男性／企業・団体職員＞
（※60歳代、70歳以上に、同様の意見が複数あり）

④ 人権、同和教育という言葉自体難しい。同和教育と同和教育とは内容が違っていると聞いた。同和教育はいつも本音の話ができない。このアンケートが集計だけにとどまらず、行動に移してほしい。＜50歳代女性／農林漁業関係者＞

⑤ 今までの人権・同和教育はイコール部落問題と理解されてきている面が強いのではないかと。いろいろな差別を同等のレベルで学習していく時期に来てはいないか。今、実際どういう立場の人が生き辛さを本人・家族とも抱えているのか見直していく時期に来ていると思うが。＜60歳代女性／農林漁業者＞

（※60歳代女性に、同様の意見が複数あり）

⑥ 現在、差別問題は部落のことだけでなく、さまざまな人間関係の中で起こっている大きな課題である。今や都会では“部落出身者”などわかるはずもなく、鳥取県の長年のこだわりのように異常を感じるほどである。老いも若きも男性も女性もどんな人も、一人ひとり相手を尊重できるような地域づくり、人づくりにもっともっと学習することが大切なのではなかろうか。権利ばかりを主張するのではなく、自分はどうしたらいいのか？＜60歳代女性／農林漁業者＞

⑦ この調査が人権・同和教育とされながら、部落問題が大きな割合を占めています。もちろん大きな問題ですが、個別具体的問題としてではなく、人権という立場で教育していただきたい。人権教育は、差別があってもなくても行うものです。

同和教育として経済的支援がありますが、それでは差別の代償を経済で補っていることになります。経済支援は生まれにかかわらず必要な人を対象にすべきだと思います。被差別部落の方で経済支援の必要のない方まで行っては失礼なことだと思います。琴浦町だけが古いままの同和教育・行政のようです。新しい時代の人権教育に進んでいただきたい。＜60歳代男性／無職＞

⑧ 人権意識を高める教育は必要だが、同和教育は時代遅れであり、現在は必要がなくなっている。＜70歳以上男性／無職＞

⑨ 人権は大切である。その人権学習に必ず同和教育の話が話され、うんざりする。もう一般論であるが、同和教育はなくなっている。それを、担当者の立場なのか、あえて掘り出して学習しようとしている。これらの同和教育問題は結構です。うんざりです。要は人権差別問題と同和教育（消えてきたかと思う）と一緒に進め方は、そろそろやめて切り離してもいいと思います。＜70歳以上男性／企業・団体職員＞

2. 教育・啓発活動に関する記述はあるが、同和対策との混同や、否定的・消極的な意見

(1) 同和対策等への理解不足や不信感が、教育・啓発への反発につながっているもの

- ① わざわざ被差別部落を意識させ、なおかつその地域だけの勉強会、特権だけを残す同和教育・施策に疑問を持つ。また、その部落の者が「被差別部落だから…」という理由をつけて他者の利益を損なう行動をすることに、町はどう対応しているのか？定期的に講演会・研修会を開かれているようだが、それは社会人の大切な時間を使ってでも行くべきものになっているだろうか。〈20歳代男性／医療・福祉等関係者〉
- ② 部落差別がクローズアップされすぎているように感じる。部落差別に対する支援策が十分に理解できないため、逆差別を生み出している。本音を言えないきれいごとの教育となっている。〈30歳代男性／企業・団体職員〉
- ③ 自分たちが学校で教わったことは、苦労しているということだけしか教えてもらってない。実際はどういう優遇を受けているかは、社会に出てから知ることになる。そうすると「なんで？」と、当然なりますよ。きれいごとばかりを教えては前に進まないし、逆になぜそれを隠すのか？行政に質問したいです。皆が同じ条件になって初めて議論になると思います。この意見が違うと言われれば、自分の人権はないんだなと思います。〈30歳代男性／企業・団体職員〉
- ④ 中部地区各市町村をみても、同和地区に対する奨学金は琴浦町だけ残っているのでは？そもそこの奨学金の意義は？逆に優遇されているように見える。“人権・同和教育”と見るとどうしても難しい話では？と思ってしまう。「住みよいまちにするために～」ということが、前面にでるような研修会のようなことを考えてもらえたら…〈30歳代女性／公務員〉
- ⑤ 今の同和教育では進展が期待できないと思う。意見が分かれぬ議論で会議が終わる。部落の人々に対する支援とは何なのか。周知されていない特別な支援は逆効果だと思う。〈40歳代男性／無回答〉
- ⑥ いちいち知らない人もいるのに、差別問題を言う必要なし。差別部落のひいきもする必要なし。こういう手紙も必要なし。しつこく差別問題を取り入れる必要なし。差別部落の税金を安くする必要なし。〈40歳代女性／企業・団体職員〉
- ⑦ 人権問題＝同和問題として重点に取り上げられているような気がする。部落差別の現状は被差別部落の生活環境・就労面・教育面も差別意識は解消されていると思うが、部落の生活環境の優遇措置、支援の充実など改めて人権格差になるのではないのでしょうか。
子どものイジメ（生命にかかわる）、虐待、引きこもり等、学校教育においていろいろな人権問題の教育を充実してください。〈60歳代男性／企業・団体職員〉
- ⑧ 部落問題に関しては、仕事・税等で優遇されていると思う。個々の心の中にある差別意識まではわからないが（多分あると思っている）生活面ではないと認識している。逆に声高に差別・差別と言っている人の中には自分の利害が絡んでいるように思っています。長年の同和問題は改善されていると思う。〈60歳代女性／無職〉
- ⑨ 部落差別はずいぶんほとんどと言っていいほどなくなってきたように感じる。ただ部落問題（解放運動）は利権をむさぼり、そこにしがみつこうという人がいる限り、永久になくならないと思っている。（部落差別はある、あると言いつつ）そんなことを思うと人権・同和教育の講演会をいくら聞いてもしらけてしまうのです。〈60歳代女性／無職〉
- ⑩ 特定の団体（解放同盟）の思想に、行政が偏りすぎである。これが人権・同和啓発を阻害している大きな原因。あらゆる社会的弱者の思想を取り入れるべき。〈70歳以上男性／無職〉
- ⑪ 時代の流れが大きく変わっていく中で、いつまでも同和問題を行政の中に予算を使っていることは、一般の人はこのことを伝えれば問題が大きくなる恐れを感じていて、関わりたくないので知らんぷりをしている。部落の集まりでも、人権・同和のことは集まらない。欠席が多い。〈70歳以上男性／無職〉

職>

(2) 「差別はもうない」、「自分の周りで差別を感じたことはない」

- ① 町が重要視しなければいけないほど、同和問題は未だ残っているのかと感じた。(身の周りでは感じたことがないので) 時代に合わせてさまざまな人権問題に取り組んでほしい。<20 歳代女性／無職>
- ② 現在は、家族のこと、自分のことで、一人称で人権問題まで考えが及びません。それに、同和教育のおかげで差別は現実には表れていない、または、差別はないのではないのでしょうか。<60 歳代女性／家事従事者>
- ③ 人権・同和教育の研修会が多すぎると思う。私の周りでは近年、差別的なことを言う人はいない。<70 歳以上男性／無職>

(3) 「寝た子を起こすな論」、「自然解消論」

- ① 学校で初めて聞いてから被差別部落があるのだと知り、それを学ばなかったら知らずにいたので、「伝える」のは悪いことではないけれど、伝えて、そんな部落がある＝被差別部落を作り続けているように感じて、なくなるのもその一つなんだと思います。何時間も授業を受けると、影響を受けて、だんだん地区差別が広がってくると思います。知らずにいたら、地区のことも気にせずいれたし。伝えるのはいいことですが、教える＝部落差別につながることもあります。<20 歳代女性／パート・アルバイト等>
- ② 人権に対しては、守られて生活しやすい環境があればそれを作ればよいと思う。同和教育に対しては、勉強しなくても良い。するからなくなる。そっとしておけば自然となくなる。<40 歳代女性／パート・アルバイト等>
- ③ 親が子へ、知らない子どもが学校から教わってくることで、部落のこと、差別が生まれると思う。この数十年で当時差別のあった頃の親・祖父母が亡くなられて、いずれ平成生まれが主を占める頃には、また違った人権問題で地域を巻き込んだ施策が必要となってくるのでは？部落差別はゼロではないと思うが、いずれ噂と同じで忘れ去られたらいいと個人的には思います。<50 歳代男性／企業・団体職員>
- ④ 私が思うに同和教育ですが、今の若い人たちはそんなに思っていないと考えます。あまりに周りがいろいろ言うと、逆によくないと思います。だいたい同和部落という名前があること自体が差別ではありませんか？よく考えたら、町や国が差別しているのではありませんか？<50 歳代女性／パート・アルバイト等>
- ⑤ そろそろ同和教育は終わりにしたらどうですか？若い人たちの結婚も多く目にします。これから先、差別も自然となくなると思います。<60 歳代女性／農林漁業者>
(※60 歳代女性に、同様の意見が複数あり)
- ⑥ 大人が思っているほど、今の子どもたちは考えていないのではないか？あまり騒ぎ出さずにそっとしておき、寝た子どもを起こすようなことはしない方がよいのではないか？<70 歳以上男性／無職>

3. 同和対策等への反感（教育・啓発に関する記述なし）

- ① 人権・同和に充てられた予算、決算内容を明確に示すこと。その中でも同和地区に割り当てられた予算と決算内容を他の部落にわかるように公示すること。そろそろ同和地区の住民の意識、姿勢を変えるとき。本当に変わらなくてはいけないのは外ではなく中。同和地区の住民が決心し自立することで次の時代が始まる。10 だろうと、1 だろうと他と待遇が違えば差別です。政府の行う助成は差別で

- す。同和地区の住民と他部落の住民の意識格差を調べる必要がある。〈30歳代男性／自営業者〉
- ② 部落差別を受けていると言い続けることにより、その部落の人々は行政から利権を得ている。なくなつては困るのは被差別部落の人たちであろう。差別がある限り、特別扱い、金銭や就職面で都合がよいので、今後も差別があつてもなくても大げさに騒ぎ立て、行政は振り回されるのである。ばかげたことだと思つるので、今後もかかわる気はない。〈30歳代女性／医療・福祉等関係職員〉
- ③ 以前の研修会で被差別部落出身の方から、「私たちとあなたたちは（差別される側・する側）立場が違う。だから納得はできないかもしれないけど、了承してほしい」との発言があつた。解放学習会についての質問に対しての答えではあつたが、本当に差別をなくしていくと考えるのであれば、歩み寄りも必要なのではないかと思う。この発言を聞いたとき、差別の根の深さといったものを感じたが、熱心に学習している方の言葉としては、がっかりしたのが本心だつた。〈40歳代女性／公務員〉
- ④ 学習会のあり方が少し変わりつつある気がする。学校の先生方が宿題を教えたり個人授業のようになってはおかしい。「〇〇ちゃんは学習会で先生に答えを教えてもらっているよ」と子どもから聞くと、「なぜ？」と思つてしまう。学力向上はわかるが、何かずれてきている気がする。〈40歳代男性／企業・団体職員〉
- ⑤ 生活環境は変わらない、または被差別部落の方がいい場合であっても、被差別部落ということで補助や減免があるのはおかしい。もっと困っている人がたくさんいるのにそこに本当に目を向けているのか？官公庁が差別を増長しているように感じる。〈40歳代女性／パート・アルバイト等〉
- ⑥ 同和、同和と騒ぐことをいいことにし、同和の人が保護されすぎる行政が行われていると見受けられる。一般の人と同じに扱うべきであると思ふし、そうすることで同和問題もなくなる。〈50歳代男性／無職〉
- ⑦ 全体的に格差・貧困の問題は顕在化しており、部落問題だけに援助の手を差し伸べることはやめ全体を見渡した支援体制を取るべきと考える。特に年金受給前の世帯の困窮者が多くみられます。〈60歳代男性／農林漁業者〉
- ⑧ 被差別部落の人たちの中にも「甘え」が多少なりともあるように思われる。〈70歳以上無回答／無職〉

4. 現状の評価と今後の課題

1. 人権全般について

(1)

高齢者と若年層では、「人権の捉え」、「人権の理解」が違うことが見て取れる。

【質問1-2】と【質問1-3】を見ると、70歳以上は人権を「わかりやすい」と思っているが、「自分に関係が深い」とはあまり思っていない。その他の質問に対する回答からも、高齢者は、人権を「人権問題」や「差別」と混同している人が多いと思われる。

若年層は、高齢者よりも人権を幅広く、複雑に考えているのではないか。人権や人権侵害に対して、感覚的には豊かな部分もあるが、その一方、メディアやインターネット等の影響も大きく、知識や関心に偏りがあることも考えられる。

ただ、世代に関わらず共通することとして、「義務を果たさない者に人権と言う資格はない」、「権利ばかり主張して、義務を果たさない者がいる」など、「人権と義務」をセットにした考え方が根強く存在している。人権は、生まれながらにすべての人が持っているものであり、「義務を果たしたらついてくる」、「義務を果たさなければ奪ってもよい」というものではない。人権と義務をセットで考えること自体、人権侵害につながる危険性があることを理解しなければならない。

【質問2】を見ると、70歳以上、特に男性が「自分の人権は守られている」と思っている。また、20歳代も「守られていない」という人が少なく、特に女性は1人しかいない。高齢者や女性に対する差別や人権侵害が現存している社会で、差別される立場に置かれやすい人自身が現実感を持ち得ていない。また、「差別や人権侵害をされている」のではなく、不合理な状況でさえ「自己責任」と捉えてしまっているという課題も考えられる。

近年、生活保護の受給者数が増加するなど、厳しい社会状況が続いているにもかかわらず、「自分の人権は守られている」と思っている人の方が多いということは、日常生活での困りごとや不安、生き辛さなどが、自らの人権や社会構造とどのように関係しているのか、十分理解されていないからではないか。

【質問3】、【質問4】を見ると、30歳代男性の回答がいずれも低い。他の質問に対する回答からも、30歳代男性は、同年代女性や20歳代、40歳代と異なった傾向が見られる。1つには、結婚しているか、していないかによるライフスタイルの違いが影響しているものと思われる。

70歳以上女性も、人権や人権問題に関する理解や関心が高いとは言えないが、【質問6-1】からわかるように、これまで各種研修に参加する機会に恵まれていなかったことも一因だと思われる。

また、男女、年代男女で差がある回答を見ると、性別による役割分担意識が強いことが見て取れる。

【質問4】を見ると、「アイヌ」、「日本で暮らす外国人」、「東日本大震災被災者」、「子ども」、「性的マイノリティ」、「刑を終えて出所した人」、「在日韓国・朝鮮人」が低い。在日韓国・朝鮮人に対する「ヘイト・スピーチ」や、子どもの虐待やいじめ、「福島差別」など、昨今、メディアで取り上げられる機会が多い問題についても、「人権問題」としての認識が弱く、これまで教育・啓発活動の中で取り上げてきた人権問題であっても、あまり認識や理解が深まっているとは言えない。

年代や性別、ライフスタイル等を考慮したテーマ設定や学習のあり方を検討する必要がある。

(2)

結婚のときに身元調査をすることについて、「当然」と「やむをえない」を合計すると、全体では45.0%で、半数近くが身元調査を肯定、容認している結果となった。年代で見ると、20歳代は25.9%だが、年代とともに高くなり、70歳以上は6割以上になる。

また、身元調査を肯定、容認する理由としては、「本人に重要な関連がある」が約6割だが、「常識」も2割近くある。特に、70歳以上女性は5割近くが身元調査を常識だと思っている。

自分が結婚するとき、親になり子どもの結婚を考えると、孫が生まれたときなど、年齢を重ねたり、立場が変わったりすると、考え方に変化が生じる可能性は高い。現在の若年層が、数年後、数十年後、どのような結果になるか、今後は、経年変化を調査する必要もある。

偏見や差別意識はなくしていかなければならないが、「偏見や差別意識を持っている」ということと、「差別行動をする」ということは、イコールではない。差別意識を持っている人が皆、差別的な行動をするわけではない。「差別意識を持つのはダメだ」とひとくくりにするのではなく、「差別行動をしない（身元調査をしない）人」と「差別行動をする（身元調査をする）人」の差を重視し、教育・啓発活動のあり方を考えていく必要があるのではないかと。

2 教育・啓発活動について

【質問6-1】と【質問6-2】、【質問6-3】から、地域で中心となって活動しているのは40歳代以上であることがわかる。年代層と学ぶ場所（参加している研修）は概ね確定している。

また、【質問6-2】の「学校・保育園関係」、【質問6-3】の「PTAの研修」では、30歳代・40歳代の男女、【質問6-3】の「町内会等の役員」では、40歳代以上の男女で大きな差が開いた。ここでも性別による役割分担意識が根強いことが見て取れる。さらに【質問6-4】を見ると、「人権問題は日常生活や仕事と深く関わっていることに気づいた」という感想が多いが、特に女性の方が高いのは、日常生活において女性の方がより切実な状況にあることを反映しているのではないかと。

研修への参加理由として、70歳以上、特に女性は「正しい理解を持ちたい」は高いが、「自分の問題として学習したい」は低い。「自分事」としての捉えが弱く、高齢者が「人権」と「人権問題」や「差別」を混同し、「自分とは関係ない」という意識が強いことがわかる。

また、全体では「町内会等の役員」と「動員」を合計すると約5割で、2人に1人は立場上参加せざるを得ないなど、自発的な参加理由にはなっていない。動員による参加は、琴浦町だけでなく鳥取県全体の特徴と言える。

ただ、消極的な理由がある一方で、30歳代と40歳代の女性を中心に、「講師やテーマに興味があった」も確実にある。30歳代と40歳代の女性は、「職場の研修」や「PTAの研修」に参加することが多く、参加した感想を見ると、「もっといろいろな人権問題について学習を深めたいと思った」が他の年代男女より高い。仕事や子育てに関すること等、「自分事」として、ニーズと研修テーマが合い、学習意欲の向上につながったのではないかと。年代や性別などに応じて、学習の「入り口（テーマや手法）」を工夫することにより、その後の学習意欲の向上、興味・関心の広がりが期待できる。

保育士・教員は、自発的・積極的な参加理由が高いが、業務に関係する部分や、職場での研修機会が多いことを考えると、単に積極性が高いというよりも、「職業柄」、「義務感」という面が強いと思われる。鳥取県の場合、安定的に研修を受けるのは公務員と保育士・教員であり、だからこそ、行政職員や保育・教育に携わる人が重要な役割を担っていると言える。

一方、自営業者は、「きれいごと」、「理解しにくかった」、「つまらない」、「なくなる」という感想が多い。自営業者は50歳代と60歳代が6割で、研修への参加率はあまり高くなく、また、参加した人の理由は「町内会等の役員」が最も高い。【質問1-3】では、人権を「自分に関係が深い」と思っている人は、

パート・アルバイト等と同様、他の職業等より低い。しかし、【質問2】の「あなたの人権は守られていると思うか」という問いに対しては、こちらもパート・アルバイト等と同様、「そう思う」が他の職業等より高く、【質問3】の「日常生活での悩みや不安」も、パート・アルバイト等と同様「安定収入」が他の職業より高い。つまり、自営業者の切実な生活実態が、自分の人権や、人権問題に関わることとして十分理解されておらず、また、そのような学習内容を提供できていないという課題がある。

【質問7】を見ると、70歳以上女性は「特にない」や「無回答」が高い。これは、単に積極性の問題ではなく、時代背景や社会状況などによって、これまで学習に参加する機会に恵まれてこなかったという問題が大きいのではないかと考えられる。

年代や性別、職業等による生活実態やニーズ、興味・関心、「人権」や「人権問題」の理解に関する課題などを考慮し、テーマや手法、研修の組み方など、効果的な学習になるよう創意工夫する必要がある。

3 部落問題について

(1)

部落差別や部落問題のことを知っている人の割合は97.2%で、その内、約8割が小・中学生の頃に初めて知ったと答えている。

しかし、年代によって、「家族や近所の人、友だちから知ったパターン」と、「学校の授業で知ったパターン」に分かれる。高齢世代は概ね「差別的な経験」として、若年世代は「人権・同和教育」として学んでおり、この差は非常に大きい。

転換点となっているのは50歳代であり、学校教育の中で同和教育が取り込まれるようになった時期と一致している。【質問10】の結果は、同和教育が学校教育の中で位置づけられた意義が大きかったことを示す重要なデータと言える。

(2)

過去5年間で部落問題に関する差別的な発言や行動を見聞きしたことがある人は、全体では23.2%、175人である。「ない」の方が多いということではなく、「ある」ことを問題にしなければならない。また、差別だと認識していない人がいることも十分考えられるので、実際にはもっと高い数字であり、氷山の一角と捉えるべきだろう。

「ある」と答えた割合が最も高いのは30歳代女性で、「地域や職場、家庭内などでの差別的な言動」が85.0%である。30歳代女性は、【質問4】の「現在どのような人権問題があると思うか」に対し、ほとんど全ての項目で年代男女中最も高い割合を示している。また、職業では、保育士・教員が「ある」の割合が高い。30歳代女性、職業的に問題関心を持たざるを得ない保育士・教員は、差別や人権侵害に対する感度が高いと言える。

見聞きした差別的な言動としては、身近な人によるものが約8割に上る。【質問11-3】を見ると、「間違っていることを説明した」人は26.2%で、これまでの教育・啓発の成果と言うこともできるが、相手と言い方によっては、問題解決につながらなかったり、さらなる問題を引き起こしたりする場合もある。さらに、差別的な言動に気づいてはいても、「説明できなかった」、「何もできなかった」、「そのままにした」という人が5割以上である。「間違いを説明したかったが、できなかった」のはなぜなのか、「どうしたらよいかわからなかった」人に対してどのような教育・啓発をしていくのか、もう一歩踏み込んで考える必要がある。知識詰め込み型の啓発ではなく、問題を建設的に解決するための態度やスキルを、具体的、体

験的に学べるような機会が必要である。

【質問12】では、自分の周りや親しい人の中で部落差別が発生した場合、どのような行動をとると思うかを聞いた。「相手によって考える」が3割で最も高いが、日本社会の現実と人間心理からすれば、これが高いのは当然とも言える。ややもすれば「誰に対しても考えを正すよう努力」がよいと思われがちだが、これは要注意と言える。先にも述べたように、相手や言い方などによっては、根本的な問題解決につながらない場合がある。差別をした人にも、その人なりの背景があり、人権がある。差別を生み出し、それを温存、助長する社会構造があるということを理解しておかなければ、人間関係が悪化したり、弱者が弱者を攻撃してしまったりする危険性もある。

また、「後で関係機関に相談する」は2.0%で非常に低い。しかし、実際、家族や親戚、隣近所の人等身近な人の差別的な言動を関係機関に相談するのは難しいケースが多いだろう。関係機関の介入の仕方によっては、「わかり合う」という形にならない場合や、「大事になってしまふから相談したくない」という事例もある。結果、さらなる不利益を被らないよう、「泣き寝入り」するケースも多いのではないか。ここに、部落差別の根深さが表れている。どのような解決を目指して行動するのがよいか、十分検討する必要がある。

(3)

【質問13】の、どのようなときに部落問題を気にするかという問いに対して、55.2%の人が「気にしない」と答えている。また、職場や学校、隣近所、友だちなどとのつきあいについても、「気にする」と答えている人は少ない。しかし、「結婚を考えると」は、全体では34.5%、50歳代女性は50.6%と非常に高い。また、「土地や家などの財産購入」も30歳代女性は2割を超える。

つまり、日常的な人間関係の中ではあまり気にしないが、自分が住むところや財産、我が子の結婚など、自分や自分の子、孫の属性に関わる問題を現実的に考える状況や年代になった途端、差別意識が表に出てくる。表層では差別感はないが、根本には強い差別意識があり、そのような人権意識の建前と本音が同じ人物の中にあることがわかる。

(4)

【質問14】では、部落差別の現状を「あなたはどのように考えているか」ということを聞いた。つまり、きちんと実態を把握した上での回答とは言えない。

今回の調査では、部落差別の現状について、「4人に1人はわからない」という結果になった。「わからない」以外の選択をした人も、「よくわからないけど」、「なんとなく」など、感覚で答えた人も多いだろう。現在の部落差別の実態について、環境面、就労面、教育面の格差や差別意識を細かく聞かれても、自分事として考えたり、分析したりする力が養われていないと思われる。これは、学校教育や社会教育において、部落問題学習をどのように進めてきたのかということにも関わっている。

また、職業によって考えがさまざまであり、立場を変えると見え方が変わるということが見て取れる。

【質問14】では、「わからない」の次に、「被差別部落の人々に対する差別意識はあるが、格差は解消されている」と思っている人が多い。そのような意識を反映してか、【質問15】では、「教育・啓発活動の推進」が51.1%で最も高く、「被差別部落の人々に対する支援の充実」が5.4%で最も低い。「その他」を選んだ75人の意見の中で最も多かったものも、同和地区に対する支援への反感である。どの年代にもそのような意見が見られ、「優遇」、「特別扱い」、「逆差別」といった表現が使われている。さらに、被差別部落住民に対して、「被害者意識が強い」、「支援があるから、自分たちが差別をなくそうとしていない」、「昔と今は違うのだから、被差別部落の若い人々も考え方を改善すべき」、「被差別部落の人への教育が必要」などの意見もある。社会全体に、経済的に厳しい状況が広がっていることを背景に、同和対策や被差別部

落住民に対する誤解や曲解、また、一部の人の言動や態度を捉えて、まるで被差別部落の人すべてがそうであるかのような不当な一般化や、偏見が見受けられる。

現在、被差別部落と被差別部落外の格差はどれくらいあるのか、解決すべきどのような課題があるのかなど、実態調査等によって明らかにする必要がある。

また、【質問15】では、「そっとしておけば、差別は自然になくなる」、「被差別部落の人々自身が、差別されないようにする」といった、いわゆる「寝た子を起こす論」や「自然解消論」、「部落責任論」、また、「部落問題は解決しており、特に必要ない」も1割～1.5割程度ある。若年層にも見られるが、特に、60歳代から急激に高くなり、50歳代と線引きができる。50歳代と60歳代では、学校での同和教育の有無と、職場やPTA研修への参加割合に違いが見られる。

高齢者層、研修に参加する機会が少ない若年層や職業等の人に対して、どのような方法で部落問題への正しい理解を進めていくか、大きな課題である。

4 その他

(1)

【質問16】の「人権尊重社会実現のため、行政施策としてどのようなことが必要か」という問いに対し、70歳以上は「人権は十分に尊重されており、新たな取組みは必要ない」が23%を超える結果となった。

【質問15】の「部落問題は解決しており、特に必要ない」の19.5%を上回っており、やはり、高齢者の「人権の捉え」が大きな課題であることがわかる。

「人権の捉え」については、高齢者だけに課題があるわけではない。どの年代、職業等も「啓発活動の推進」に比べ、「法的規制」や「法整備の促進」が低く、人権を、憲法や法律と関連づけて理解しているとは言い難い。

人権は、「差別」や「人権問題」でも、また、「思いやり」や「やさしさ」といった抽象的な価値でもない。人権は、正義に基づく大切な権利として、社会の共通ルールである「法」に記されている。「人権教育・啓発に関する基本計画」では、「人間の尊厳に基づいて、各人が持っている固有の権利であり、社会を構成するすべての人々が個人としての生存と自由を確保し、社会において幸福な生活を営むために欠かすことのできない権利である」と定義されている。人権は、憲法や法律、条約に定式化された「具体的な権利」である。

これまでの人権教育・啓発が、「思いやり」や「心」を強調する傾向にあり、人権を「法的権利」、また、自らの権利として学ぶ機会が少なかったのではないかと。「思いやり」や「心」を強調する教育では、人権問題が個人の心の問題であるかのように捉えられ、その解決も個人の心のもちようによると済まされてしまいかねない。自分、そして他者は、どのような権利を有しているのか、それを実現するためには何が 필요한のか、人権を守るためにどのような法や制度があるのかなど、人権を法的権利として学んでいくことも必要である。

(2)

【質問17】では、人権・同和教育に関する意見や感想を求めた。現在の教育・啓発に対する肯定的な意見や建設的な問題提起もあるが、それ以上に、これまでの教育・啓発、施策等に対する否定的・消極的、厳しい意見が多い。特に、同和対策や行政施策、解放運動等への理解不足や不信感等が、教育・啓発への反感につながっており、同和対策と人権・同和教育が混同されているのが見て取れる。

一つには、特別措置法時代の同和対策事業や、現在も同和地区を対象に継続されている事業について、その根拠や必要性などを行政等がきちんと説明できていないという問題が考えられる。「まだ部落差別はあるから」と言うだけの説明や「これまで通りにやればよい」という考えでは、【質問15】からもわかるよ

うに、住民の理解が得られるはずもない。特に、現状の同和対策等に不満や不信感を抱いている住民にとって、人権・同和教育部落懇談会等で「昔はこうだった」「解放運動をした結果、勝ち取った権利だ」という話では、理解が進むどころか、「いつまで昔話をしているのか」「特権意識だ」等、さらなる反感を生み出している事例が多々ある。事業の説明は、それはそれでその担当者が理路整然と行うべきであり、教育や啓発にその説明を任せるべきではない。そして、現状把握と事業の評価を怠らず、目的と手段を混同しないよう肝に銘じておかななくてはならない。

また、根本的な問題として、人権とは何か、同和教育や人権教育とはどのような教育でどこが違うのか、なぜ琴浦町では人権教育を「人権・同和教育」と呼称するのか等、行政職員等が認識を新たにし、共通理解を図る必要がある。肯定的・積極的な意見であれ、否定的・消極的な意見であれ、教育・啓発に対して「これまで通りでよい」という意見は少ない。今後の教育・啓発の推進にあたっては、改めて目的を明確にし、学習内容や手法を常に模索することが重要であり、そのためには推進する立場になる人の知識・スキル・態度の向上、力量アップが不可欠である。

琴浦町における人権意識の現状と課題

—「第2回琴浦町人権・同和教育に関する意識調査」からわかったこと—

一盛 真（鳥取大学）

はじめに

本稿の課題は、「第2回琴浦町人権・同和教育に関する意識調査」の結果から、琴浦町における人権意識の特徴と今後の人権教育・啓発の課題を明らかにすることにある。ここでは網羅的な分析ではなく、本調査で明らかになった特徴を中心に述べることとする。

1. 人権理解

1-1. 人権は「わかりやすい」ものか？

今回の調査で、まず興味深い結果がでてるのが、質問1人権ということについてのイメージである。全体では「わかりやすい」30.4%（前回25.9%）、「そうは思わない」33.4%（前回33.9%）、「どちらともいえない」30.8%（前回34.8%）と3つに分かれた。これを年代別にみたとき、例えば20歳代は「わかりやすい」と答えた人が12.3%（前回16.8%）、70歳代以上が44.0%（前回38.9%）というように若年者ほど「わかりにくい」と考え、高齢者ほど「わかりやすい」と理解している傾向がある。

この数字は、年代によって「人権」のイメージ、「人権」の概念が異なるのではないかと推測される。具体的には若年者ほど感覚的に人が大切にされているのかというイメージで「人権」を理解しているのではないかと推測している。また、高齢者ほど社会的差別をイメージしているのではないかと推測している。高齢者が「わかりやすい」と答えていることについて、「人権」理解の質が問われており、今後の啓発の課題である。

1-2 あなたの人権は守られていますか？

質問2「あなたの人権は守られていると思いますか」という問いについて、「そう思う」43.6%（前回36.7%）、「そうは思わない」19.2%（前回21.3%）、「わからない」35.2%（前回37.3%）という結果になっている。ここでは年代では30歳代、40歳代が、性別では女性の方が男性より「そうは思わない」と答えている。もっとも働き盛りの世代や、労働条件や家事・育児の負担が強られる年代や性に人権が守られていないという意識が多いという現状がある。

さらに、このことは質問3「現在、日常生活の中であなたが悩みや不安、疑問に感じていることはどのようなことですか」という問いについて、全体的に困り感が高く男女の格差が著しいのが30歳代女性であることが今回明確に出ている。30歳代女性に対する、相談、支援が急務であると言える。

1-3 想像できる人権問題

質問4「あなたは、現在どのような人権問題があると思いますか。」という問いについては、①これまでの啓発の内容を反映して社会的差別への偏り（質問紙が誘導しているともいえる）、②女性差別が典型的であるが、人権侵害そのものを見抜く力が社会全体で育っておらず、人権問題が身近に発生している現実への想像力が弱い傾向にある。

しかしながら、年代と性において厳しい状況を強いられている30歳代女性は、同世代男性と比べ際立って人権問題を想像する力が豊かであることも今回の調査でわかった。

1-4. 結婚時の身元調査を考える

質問5-1「結婚のときに身元調査をすることを、あなたはどのように思いますか」という問いについて、「当然である」9.4%（前回6.6%）、「やむをえない」35.6%（前回28.0%）と45%（前回34.6%）が身元調査は必

要であると考えている。一方で「すべきでない」は32.3%（前回44.8%）にとどまっている。年代別に見ると「やむをえない」は年代が上がるにつれて高くなる傾向がある。ただし、70歳代以上は「当然である」が23.1%（前回17.9%）と高く、「やむをえない」を含めると61.9%（前回50.4%）になる。人権感覚をささえる大切な人間観・社会観の課題と現実がここに出てきている。「差別はいけない」と言いつつも、「身元調査は必要」であるという問題を、個人の問題としてではなく、社会の問題として考えていく必要がある。

2. 「部落差別」

2-1. 「部落差別」との出会い

質問9「被差別部落や部落問題について初めて知ったのはいつ頃ですか」という問いについて、小学生の頃53.2%、中学生の頃26.5%であった。年代別に見ると50歳代が小学生の頃45.0%、中学生の頃36.9%で過渡期である。40歳代は小学生の頃69.5%、中学生の頃24.6%となっている。さらに問10「被差別部落や部落問題について初めて知ったのは、どのようにしてですか」という問いに対し、40歳代は「授業」が79.7%を占めている。50歳代は、「授業」が32.3%に対し、「家族」41.6%、「友人」10.1%となっている。これは同和教育の学校への導入を前後して、子どもと「部落差別」との出会いはおおきく変わったことを意味している貴重なデータである。差別的言動として出会った「部落問題」が、「人権教育」として出会う大きな転換が40歳代の人々にあった。この下の年代の「人権」理解についての詳細な調査も現在必要であろう。

2-2. 身近な部落差別に対する対応

質問11-1「過去5年間に、部落問題に関する差別的言動を直接見聞きしたことがありますか」という問いに23.2%の人が「ある」と答えている。その具体的な内容を問11-2が質問している。「地域や職場、学校、家庭内などでの差別的な言動」82.9%と圧倒的であり、部落差別が日常的に、身近な人の言動として行われているという厳しい数字が出ている。

質問11-3で、身近な場所や人による差別的な言動に直面したとき「その時あなたはどうしましたか」という問いに対して、「説明できなかった」「どうしてよいかわからなかった」「当人の問題なので何もなかった」という答えが50%を超えており、問題を建設的に解決していくことが出来る経験と関係づくりが必要である。啓発にそのような観点が欠かせない。

2-3. 部落差別意識の現代の特徴

質問13「部落問題をどんなときに気にしますか」という問いには、55.2%（前回51.0%）の人が「気にしない」としている。しかし、「結婚を考えると」に気にする人が全体で34.5%（前回30.5%）、50歳代女性は50.6%（前回37.7%）が気にすると答えている。普段は「気にしない」が、子の結婚、不動産購入時になると差別的な言動が表にでる、現代的な部落差別のあり方が読み取れる。

2-4. どのように解決するのか？

質問15「部落問題の解決について」、「教育・啓発」が51.2%と高い一方で、「そっとしておく」16.8%、「差別されないようにする」11.5%という意見もある。全体で若い世代は「わからない」が多く、40歳代・50歳代は「教育・啓発」、高齢者は「そっとしておく」「差別されないようにする」の回答比率がそれぞれ高い。また、部落差別が「教育・啓発」で本当に解決するのかという問いも考えていくべき課題である。すなわち、なぜ部落差別が存在するのかという問題を突き詰めておく必要がある。

3. 研修・講演会

3-1. 講演会・研修会

質問6-3、「講演会・研修会の参加理由」については、「動員」が20.7%（前回39.8%）と高い数字になっている。「動員」による「人権講演会・研修会」の成立・維持は鳥取県全体の特徴とも言える問題である。「人権」の研修を「動員」で成立させることの矛盾をどのように考えるのかという重要な課題が問われ続けている。

3-2. 参加回数と人権理解

参加回数と人権の理解についてみると、参加回数が多い人ほど「人権は重要である」、「自分に関係が深い」、さらに身元調査について否定的な回答をしていることが分かる。これらの数字を見る限りは、研修・講演会のこれまでの成果は町民の「人権」意識に反映していると考えられる。ただし、参加できていない人、年代、性、職業などによって関心や理解が大きく異なる現状があり、地域、職域や属性単位での多様な教育・啓発が必要になっている。

まとめにかえて

以上、特徴的な問題を指摘してみた。人権理解については、①「人権」理解の世代的違い、②30歳代女性の厳しい状況意識と孤立感、③人権侵害を見抜く力が社会に育っていない現状、④身元調査を否定できない現状を特徴として指摘した。人権侵害は今後、日本の社会において、より厳しい状況になっていくと予想される。そのような状況に抗することの出来る人権意識の教育・啓発が迫られている。

部落差別問題においては、⑤日常的な場で、身近な人による言動として行われている現実と、⑥それに対し、どうしてよいかわからず立ちすくんでいる現状、⑦結婚、不動産購入などで差別的な行動と判断が行われる現代的な特徴がこの調査においても特徴として見られた。部落差別を根本的に解決するために、今われわれに欠けていることを、真剣に考えなければならない。

研修・講演会については、⑧動員の問題性、⑨地域、職域や属性単位での多様な教育・啓発の必要性を指摘しておいた。

今回、部落差別の現状やこれまでの取り組みの特徴が、意識調査の結果に特徴的に現れていた。次回は、「女性差別」「障がい者差別」「高齢者差別」などの項目も積極的に調査することを期待する。

第2回 琴浦町人権・同和教育に関する意識調査報告書

平成28年（2016年）3月発行

発行：琴浦町

事務局：琴浦町教育委員会事務局 人権・同和教育課

〒689-2303

鳥取県東伯郡琴浦町徳万266-5

琴浦町生涯学習センター まなびタウンとうはく内

電話（0858）52-1162

FAX（0858）52-1122
